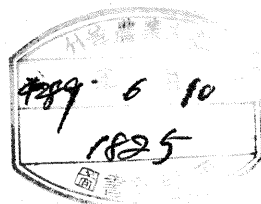
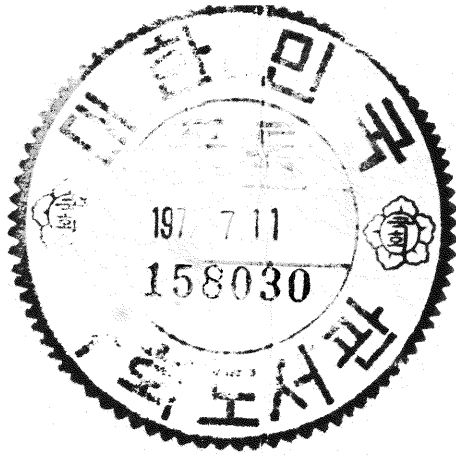


勸業模範場報告

第八號

朝鮮總督府勸業模範場



朝鮮總督府勸業模範場報告第八號

凡 例

- 一、朝鮮の度量衡法は、明治四十二年九月改正以來内地度量衡に同じ。
- 一、本書中畚は内地の田と、また田は内地の畑と同一の意義なり。
- 一、氣温は、蠶業に關しては華氏を、其の他に於ては悉く攝氏を用ふ。

大正三年三月

朝鮮總督府勸業模範場

PI

緒言

本書は、昨年中本場支場及出張所に於て、施行したる試験の成績を、収録したるものなり、今之を刊行廣く世に頒つ、當業者之を參考せば、裨益するところ尠なからざるを信す。

大正三年三月

朝鮮總督府勸業模範場長 農學博士 本田 幸介

91
1
12

朝鮮總督府勸業模範場報告第八號

目次

位置及氣候	一頁
種藝概說	三頁
水稻作成蹟	六頁
直營畝	六頁
普通栽培畝	九頁
原種畝	九頁
普通畝	九頁
特種栽培畝	一一頁
品種比較	一一頁
肥料用量比較	一六頁
肥料大豆用法比較	一七頁
追肥期比較	一八頁
株數比較	二〇頁
耕鋤季比較	二一頁

耕鋤法比較

小作畚

立毛品評會

農業水利

田作成蹟

大 麥

秋 蒔

品種比較

種子覆土比較

畦の方向比較

作畦法比較

移植期比較

春 蒔

品種比較

畦の方向比較

小 麥

品種比較

種子覆土比較

二二頁

二三頁

二四頁

二五頁

二五頁

二六頁

二六頁

二六頁

二九頁

三〇頁

三二頁

三三頁

三五頁

三五頁

三八頁

三九頁

三九頁

四二頁

窒素質肥料比較	四三頁
陸稻	四七頁
品種比較	四七頁
窒素質肥料比較	五〇頁
雨水利用栽培	五三頁
大豆	五五頁
品種比較	五五頁
落花生	五八頁
品種比較	五八頁
甘藷	六〇頁
普通栽培	六一頁
株間比較	六二頁
移植法比較	六四頁
馬鈴薯	六七頁
品種比較	六七頁
覆土深淺比較	七〇頁
牧草	七二頁
見本園牧草生育調查	七二頁

青刈大豆

七七頁

大麻

七七頁

品種比較

七九頁

施肥期比較

八〇頁

棉

八一頁

品種比較

八二頁

煙草

八四頁

品種比較

八六頁

直播移植比較

九〇頁

薄荷

九二頁

品種比較兼連作栽培

九三頁

獎勵成績

麗達組合

九八頁

餘業貯金

一〇〇頁

調査成績

水稻苗の發根に關する調査

一〇一頁

水稻に對する天然養分供給量調査

一〇二頁

水稻に對する窒素肥料の肥効

一一〇頁

エビ米に關する調査

甜菜分析成績

病蟲害

病害

甜菜の病害

人蔘の病害

棉の炭疽病

殺菌劑

各道に於ける果樹の病害

稻熱病と肥料との關係

害蟲

飼育成蹟

苹果の葉蜂

苹果の綿蟲

驅除成績

一、餌料誘殺

稻の根喰葉蟲

二、害蟲驅除用品

一二三頁

一三二頁

一六四頁

一六四頁

一六四頁

一六五頁

一六五頁

一六五頁

一六六頁

一六六頁

一六六頁

一六七頁

一六七頁

一六九頁

一七三頁

一七三頁

一七三頁

一七四頁

輕便注油器

一七五頁

受蟲器

一七六頁

塗抹用刷毛

一七七頁

青酸瓦斯燻蒸用漏斗框

一七七頁

蠶

業

種類試驗

一七八頁

春蠶種類試驗

一七八頁

秋蠶種類試驗

二〇七頁

原蠶種製造事業

二二三頁

春蠶

二二四頁

夏蠶

二二六頁

秋蠶

二四三頁

附永山及金烏山風穴

二四八頁

畜

產

二五二頁

牛

二五二頁

豚

二六一頁

羊

二六一頁

山羊

二六二頁

家禽及水禽

二六二頁

疾病

二六四頁

豚の寄生性氣管枝肺炎

二六五頁

洗浦牧羊場

二六七頁

勸業模範場支場

大邱支場

種藝

二六九頁

水稻

二六九頁

品種比較

二七一頁

肥料大豆用法比較

二七二頁

三要素比較

二七四頁

莞草

二七五頁

ルーサン

二七六頁

畜産

二七六頁

種牡牛種付成績

二七七頁

産犢成績

二七七頁

牡牛青草消費量調査

二七八頁

牝牛乾草消費量調査

南鮮牛の調査

平壤支場

種 藝

水 稻

品種比較

各種肥料の効驗比較

直播移植比較

小 麥

品種比較

窒素質肥料比較

大 麥

品種比較

播種期比較

高 粱

品種比較

大 豆

品種比較

二八五頁

二八八頁

二九八頁

二九八頁

二九八頁

二九八頁

三〇一頁

三〇二頁

三〇三頁

三〇四頁

三〇五頁

三〇六頁

三〇七頁

三〇七頁

三〇八頁

三〇九頁

三〇九頁

三一〇頁

品種に關する事項

三一 一頁

耕種栽培に關する事項

三一 三頁

龍山支場

三一 四頁

蠶室里桑園

三一 四頁

木浦支場

三一 六頁

棉作

三一 六頁

蠶島支場

三一 〇頁

果樹

三一 〇頁

蔬菜

三一 二頁

元山出張所

三一 五頁

果樹

三一 五頁

蔬菜

三一 六頁

朝鮮總督府勸業模範場報告第八號

位置及氣候

當場は京畿道水原郡西屯里に在り北、麗妓山を負ひ東北、西湖に臨み北緯三十七度十八分、東經百二十七度に位し海拔百七十五尺餘とす而して大正二年一月より同十二月に至る氣候は左の氣象觀測表に示すか如し

目次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年	累年
平均氣壓	七六、六	七六、四	七六、四	七六、一	七五、六	七五、四	七五、七	七五、四	七五、八	七六、二	七六、七	七六、三	七六、〇	七五、九
平均氣温	(一) 五、〇	四、一	一、六	一〇、四	一五、六	二〇、六	二五、五	二五、〇	一九、七	一三、九	五、〇	一、六	一〇、三	一一、一
最高温度	五、七	一一、六	一八、〇	二四、五	二七、四	二九、一	三〇、五	三二、三	二八、六	二七、八	一七、五	一〇、三	三三、七	三三、七
最低温度	(一) 二〇、五	(一) 二〇、七	二二、三	〇、〇	五、四	一三、〇	一四、〇	一三、〇	七、五	(一) 二、三	(一) 九、〇	(一) 一四、二	(一) 二〇、七	(一) 二〇、七
平均湿度	七三、六	七〇、〇	六二、〇	七三、七	六八、三	七四、〇	八一、〇	七〇、〇	八二、三	八七、〇	七六、八	七五、一	七四、七	七六、二
最少湿度	五五	三九	三三	四九	五〇	四四	六〇	五七	六五	七二	四四	五〇	三六	二一、〇
最多風向	北	北西	北西	北西	南西	南	東	東	東	西	西	北西	北西	東
最大風力	二九日 一〇	七日 七	二五日 八	二五日 一〇	七日 七	九日 九	三日 六	五日 五	二日 二	十一日 三	十二日 二	十三日 三	二十九日 一〇	三、四
雨雪日數	二二	四	二	七	九	九	一五	五	四	四	四	九	八	一一〇
降水量	二、二	六、一	二、五	九、六	六、一	二九、四	三〇、一	七、三	三五、九	二五、九	二、八	一六、三	六九、三	九六、五

位置及氣候

霜 雪 季 節	蒸發量			日照時數		
	五分の米	三分の米	二分の米	度	溫	中
初 霜	0.1	0.8	1.9	三米	六米	一、九
	0.4	0.7	1.1	二米	四、一	一、一
終 霜	3.4	3.2	2.9	二米	四、三	二、九
	1.0	0.6	1.0	一米	八、〇	一〇、〇
初 雪	1.4	1.4	1.4	三米	一〇、三	一四、四
	2.0	2.0	1.9	二米	一〇、三	一四、四
終 雪	3.2	3.4	3.5	三米	一六、九	二〇、四
	2.5	2.5	2.5	二米	一八、九	二二、四
初 霜	2.3	2.3	2.3	三米	二〇、三	二二、三
	1.6	1.7	1.8	二米	二〇、三	二二、三
終 霜	2.3	2.3	2.3	三米	一九、六	二〇、三
	1.6	1.7	1.8	二米	一九、六	二〇、三
初 雪	2.3	2.3	2.3	三米	一七、一	一八、〇
	1.6	1.7	1.8	二米	一七、一	一八、〇
終 雪	2.9	2.9	2.9	三米	一五、一	一五、一
	2.3	2.3	2.3	二米	一三、五	一三、五

備考 前表は當場の觀測に係り觀測時刻は午前十時とす降水量及蒸發量は耗を以て表はし一耗は一坪に一升八合三勺一反歩に五石四斗九升八合の積量となる風力は秒米突を以て表はし一秒米突は一時間三十三町の速力なり

前表に依れば當年中溫度の最も低かりしは二月九日の零下二十度七、最も高かりしは八月十五日の三十一度二、濕度の最も少かりしは三月二十二日の三十六度、風向の最も多かりしは北西風力の最も強かりしは一月二十九日及四月二十五日の十米突、降水量の最も多かりしは六月二十七日の六十五耗とす

種藝概說

技師 向坂幾三郎
技師 野木傳三

當場に於ける作物の栽培は年を重ねること、茲に七回其間模範栽培を行ふと共に比較栽培をなし其成績の確實なりと認むべきものは既に逐次之を公にせり本年亦之を繼續し更に新に多少の事項を加へたり然れども作物は氣候其の他自然力の影響を受くること多くして比較栽培の如きは數年の試作を以てするも尙其成績の判じ易からざるものあり故に其疑ふべきものは之を公にせず其の信すべきものみに就き累年の成績を参照記述し以て當業者の參考に供せんとす今先づ氣候其の他一般作物を通じて關係ある事項を摘敘すれば左の如し

氣候

一、冬季の嚴寒 前年十月中旬以後は寒氣頓にかわり結霜強く之か爲め秋季播種せし麥は其生育甚だ進まず十一月に入りては多少溫暖なりしも時に或は零下八度内外の低温を示し麥の生育を助長するに足らざりき十二月亦最低零下十度乃至零下十六度半に下ること八回更に一月二月に亘りては稀有の寒威を現し最低零下廿度内外を示すこと實に五回に及び爲に冬作物の寒傷甚しく又桃梅杏及吉野櫻等は殆んど其花蕾を枯死落花せしむるに至り其被害は去る明治四十三年よりも遙かに大なりき

二、春季の低温及適濕 三月中の温度は依然として低く平均氣温僅に一度六分にして前五年平均に比し一度九分低く其中旬以後初めて氣温漸く加はり地上の結氷漸次融解し來りし

も四月に入り温度上昇せざるのみならず却つて屢々氷點近く下降して結霜あり草木の發芽及生育を著しく遅緩ならしめたり而して五月中旬に至る迄低温續き此際移植せし甘藷及蔬菜類の苗は根の發育を妨げられ多少生育に影響を及ぼすに至りしと雖も幸に雨量は例年に比して遙かに多く時期亦宜しきを得たりしかば植生に益し低温の害を緩和することを得たり

三、夏季の低温 夏季の霖雨は七月中旬に始まり多少病害の發生を助長せりと雖も雨量は例年に比すれば甚だ少くして寧ろ適度と認むるを得たりしも氣温は夏季を通じて頗る低く最低氣温は七月中屢々十一二度に下り最高温度の如きも七八兩月を通じ三十度に達せしこと僅かに八回其高極三十一度二分に過ぎずして實に近年稀有の低温を示し冷涼なる氣候に適すべき馬鈴薯甘藍の如き之が爲め好成績を收め又葱頭の如きは頗る良品を産し甜菜は病害の發生期間短く被害比較的輕かりき然れども他の作物は一般に生育及成熟を遅延し殊に高温を要する稻棉落花生甘藷煙草等の如きは著しく生育繁茂を不良ならしめたり

四、秋季の乾燥及温暖 八月中旬以後一ヶ月間晴天連續し氣温低からざりしも乾燥過度なりしかば陸稻及蔬菜の如きは屢々灌水を要し大豆は處に依り多少旱害を被むれり而して過度の乾燥は蚜蟲の發生を促し秋蒔蔬菜に於て其被害殊に甚しく屢々驅蟲劑の撒布を要したりしが其後天候恢復秋日和良好にして十月下旬に至るまで温度高く一般作物の成熟を完全ならしめたり

之を要するに冬季の嚴寒は越冬作物の寒傷を甚しからしめ春季は雨濕適度なりしも氣溫常に低かりしを以て作物の生育充分ならず殊に夏季の低溫と初秋の乾燥は夏作物の生育を害すること甚しかりしが秋分後天候回復高温連續せしを以て從來不作の慮ありし作物は成熟完全となりて成績良好なるを得たり

害 蟲

本年發生せる作物害蟲中主要なるは黒金龜子黃筋蚤蟲杞柳の五倍子蠅粟の螟蟲大麻の鋸蜂大豆の葉捲蟲及果樹蔬菜を害する各種の蚜蟲にして時には繁殖猖獗を極め蘿蔔白菜等は其被害甚しかりき

病 害

甜菜の褐斑病棉の炭疽病甘藍の腐敗病瓜類の露菌病葡萄の炭疽病等多少發生せしも夏季の氣溫低かりしが故に例年の如き蔓延を見るに至らざりき

肥 料

當場に於て使用せし肥料の種類及價格を表記すれば左の如し

品 名	採收及購入先	當場着十貫匁に付價格	備 考	
			購 入 期	購 入 量
堆 肥 當 場	當場	0.110		
人 糞 尿 當 場 及 附 近	同	0.150		
草 木 灰 同	同	0.110		

水稻作成蹟

直營畚

技師 向坂幾三郎

干	鯨	大	米	大	荏	硫	石	硫	智	過	消	醬	糞
鱈	粕	豆	糠	豆	油	酸	灰	酸	利	燐	石	油	灰
同	釜	水	龍	粕	粕	加	窒	アン	硝	酸	灰	粕	水
				京	水	里	素	モニ	石	石	灰	仁	水
				城	原	山	東	ア	同	釜	原	川	原
		山	山	原						山			
四、〇〇〇	八、〇〇〇	二、二七三	〇、五七〇	二、四八〇	二、二五〇	四、九〇〇	五、五二五	七、五〇〇	四、八〇〇	二、二三	〇、七三〇	〇、四八八	〇、一五〇
同	本年十月	本年五月	本年二月	本年四月	本年四月	前年八月	一昨年四月	前年五月	前年八月	前年六月	本年六月	前年四月	本年五月
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一五、〇〇〇	六四、〇〇〇	—	五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	六四、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	一五、〇〇〇 ^實	—	少 量

直營畚は當場自ら栽培する畚區にして普通栽培畚特種栽培畚の二種とす

水稻作耕種の梗概を擧ぐれば左の如し

一、苗代 苗代は十月中旬に荒耕を行ひ四月二十四日に鋤き返し同二十八日に灌水して四圍

の畦畔を塗り馬鋤にて縦横に耕耙し四月三十一日に幅四尺の短冊形に整地し一坪につ

き堆肥一貫目、人糞尿一升、油粕三十五匁、木灰一升を施し五月一日に一坪五合(浸種)の割合

にて播種し常に淺水を湛へ同九日に芽乾を行ひ後時々排水をなし十八日より二十日に

亘り稗馬鹿苗を抜き取り二十二日水を落し補肥として人糞尿を一坪二升の割合にて施

用し六月十三日より移植に着手す

一、生育狀況 五月六日即ち播種後五日目に至り一齊に發芽す苗代期中の氣候は初め晴天な

りしも五月八日より同十九日に至る十一日間は曇天多く溫度低く就中同十、十一日の兩日

は氣温遽かに下り最低五度四を示したり故に苗の伸長稍遲緩なりしが其の後晴天連續し

て溫度次第に昇りしかば生育進み苗質剛く移植當時に於ける苗の長さは十二種平均八寸

九分を計れり

一、本畚 本畚は五月二十三日より鋤返しを始め六月四日より肥料を撒布し同十日より灌水

し四圍の畦畔を塗り耕耙を行ひ十三日より挿秧に着手し同十八日に結了せり其一坪の株

數は特種栽培畚は四十九株其他は五十六株一株の本數は八九本とす

一、肥料 肥料は總べて原肥として施用す其種類及一反歩の施用量は左の如し

堆 肥 大 豆 油 粕 過 磷 酸 石 灰

特種栽培畝 (肥料比較 苗を除く)	原種畝	普通栽培畝	普通畝
二八、〇〇〇	一五、〇〇〇	二五、〇〇〇	
八、七五〇			
	七、〇〇〇		
			五、〇〇〇

備考 一反歩の施用量は全窒素一貫二百匁を標準とす

一、管理 除草は特種栽培畝にありては七月上旬蟹爪打を行ひ同中旬八反摺(除草器)を用ひ同下旬手取を行ひ八月上旬に再び八反摺を用ひ同中旬に入り止除草をなす又普通栽培畝にありては七月上旬鉏打を行ひ同中旬八反摺を以て縦に掻き同下旬更に横に摺り八月上旬手取を行ひ止除草とせり

一、病蟲害 螟蟲及浮塵子は發生極めて少なく稻熱病亦殆んど之れが被害を認めざりき

一、生育狀況 移植當時は氣候適順にして苗の生育良好なりしも夏至後天候順を失し降雨繁かりしかば肥料の分解遅く生育を不良ならしめたり七月に入り天候回復し稻の勢力頓に加りしが其の中旬より雨季となり陰曇連続し溫度低く殊に八月二十七日以降朝冷へ甚だしかりしを以て晩稻は抽穗悪しく概ね午後に開花するの異狀を呈したり然るに九月十九日の二十三耗の降雨後氣候温和となり成熟作用完全に行はれ之か爲め米粒豊充して青米の混在極めて少きを得たり之れを要するに本年の稻作は移植より出穗期に至るの間氣候概ね不順にして氣温常に低く九月上旬中に於ける溫度の劇變は晩稻の出穗を妨げ成熟を不良ならしめんとするの虞ありしも幸に秋分後氣候温暖となりしを以て實入り宜しく品

質良好なるを得たり

一收穫 收穫は九月二十七日に始め十月二十八日に終り前年に比し五日、前五ヶ年平均に比し三日の遅延を來せり而して種子用のものは稻架に掛け其他は畝面に簀乾となし四日間陽乾の後之れを取入れたり

普通栽培畝

原種畝

原種畝は其種固有の特性を有する純良なる種子を選び配付用種子の原種に供するを目的とす所要の種子は總べて選穗を行へり供用品種及作付反別は左の如し

早神力 一反二畝歩
石白 一反歩

挿秧は六月十六日に行ふ生育は順當にして病蟲の被害なく直營畝中最良の成績を得たり今成熟期及一反歩當の收量を擧ぐれば左の如し

品	種	名	成熟期	籾收量	葉長	葉量	量	累年平均籾收量
石	白	十月十八日	三、九〇 <small>石</small>	二、九〇 <small>尺</small>	九五 <small>貫</small>	四、〇八〇 <small>石</small>	(前二年)	
早	神	力	十月二十二日	四、四五〇	二、七五	一三〇、	(前五年)	

本區の稻は總べて選穗を行ひ次年の原種用種子を採取せり

普通畝

普通畝は朝鮮の現狀に適應せる改良法により優良と認むる水稻を栽培し模範を示すを目的とす今改良法の要點を認むべきものを擧ぐれば左の如し

- 一、品種の改良 早神力
- 一、種子の精選 水選を行ふ
- 一、播種量の減少 一坪五合播とす
- 一、苗代の改良 短冊形とす
- 一、插秧株數の増加 一坪五十六株とす
- 一、灌水の節減 二寸内外の深さとす
- 一、除草回數の増加 四回とす

普通畝の作付反別は七反五畝十二歩にして普通區及苗代跡區の二種に分ち六月十五日より十八日に亘りて移植を終了す普通畝の生育狀況は梗概の部に記したるが如し今一反歩當收量を擧ぐれば左の如し

區名	收量		藥量	前五年平均玄米收量
	米	玄米		
普通甲區	四、四五〇 <small>石</small>	二、三五八 <small>石</small>	一、三〇 <small>貫</small>	二、二九六 <small>石</small>
普通乙區	三、三五〇	一、七七五	八〇 <small>貫</small>	一、七五〇
苗代跡區	三、三四〇	一、八三七	九〇 <small>貫</small>	一、六七六

備考 普通甲區は普通畝中最も良好なる畝區の成績にして普通乙區は普通區全部を平均

したるものなり

特種栽培畚

品種比較

本比較の目的は内地稻の良種を栽培して朝鮮の風土に適するや否やを判定し併せて在來種と收量の多寡品質の優劣を比較せんとするにあり其作付反別は五畝歩宛にして品種及び種子取寄地名は左の如し

區名	品種名	種子取寄先
第一區	早神力	熊本縣
第二區	穀良都	山口縣
第三區	多々租	水原
第四區	加賀早生	滋賀縣
第五區	豐後	宮城縣
第六區	出雲	高知縣
第七區	高宮	新潟縣
第八區	農場の光	同
第九區	石白	富山縣
第十區	多摩錦	栃木縣
第十一區	白糯	秋田縣

第十二區 粘 租 水 原

播種は五月二日にして同六日に至り一齊に發芽し苗質は粘租多々租出雲の三種稍軟弱なりしも其の他は強剛にして何れも六月十三日に移植せり

移植當日は晴天乾燥なりしも根の保濕に勉めしを以て植傷み輕かりしが夏至後の天候不良なりしかば生着遅れ植付後十七八日を経て初めて綠色を現はせり二番除草後は天候の回復と共に苗の勢力頓に加はり病蟲の被害なく生育大に進みしが八月二十七日より九月中旬に亘り晴天續き朝冷へ強く當時恰も抽穂中にありし早神力は受胎作用不良ならんとするの虞ありき然れども同十九日に膏雨あり氣候亦大に和らぎ殊に秋分後の温度高かりしが故に幸に登熟をして充分ならしむるを得たり今收穫當時に於ける各品種の狀況及特性を擧ぐれば左の如し

品 種 名	收穫當時の分蘖	程の剛柔	莖長	穂長	一穗の粒數	粒付の疎密	芒の有無	脱粒の難易	粒の大小
早 神 力	二、五 <small>本</small>	剛	二、五 <small>尺</small>	六、二 <small>寸</small>	八、二 <small>粒</small>	密	微芒	難	小
穀 良 都	二、三	稍剛	三、〇五	六、九	九	同	同	同	大
多 々 租	一、五、四	柔	二、八五	六、二	八	同	長芒	易	中
加 賀 早 生	一、四、五	剛	二、八五	六、一	八	稍密	微芒	難	同
豐 後	一、四、六	稍剛	二、八七	五、九	八	密	無芒	同	同
出 雲	一、五、三	同	二、八五	五、八	八	稍密	同	同	同

高宮	一三、六	同	三、一八	六、〇	八五	密	同	同	同
農場ノ光	一四、三	剛	二、八〇	六、八	八七	稍密	微芒	同	大
石白	一八、七	剛	二、五七	六、三	七	密	同	同	中
多摩錦	二三、五	剛	二、九五	六、二	一〇五	同	長芒	同	同
白糯	二三、五	剛	二、九五	六、九	一〇八	同	無芒	同	同
粘租	一八、五	柔	二、七三	六、二	五	疎	同	易	同

備考 表中穂の長さ及一穂の粒数は各種五株の平均にして粒の大小は玄米一升の粒數六萬以下を大、六萬五千以上を小、其中間を中とす

各區の成績左の如し(一反歩改算量)

種類	出穂期	成熟期	收量		一升の重量		糶	藁量	糶摺合歩	精白合歩
			玄米	糶米	玄米	糶米				
穀良都	八月二十一日	十月十八日	一、九七九	三、七二〇	三九一	二五四	一、九〇	一一〇	五、三三	八、七六
早神力	九月三日	十月二十四日	一、九七六	三、二六四	三九八	二五九	一、八〇	一〇九	五、四三	八、八二
多摩錦	九月二日	十月二十七日	一、八五九	三、八六〇	三九九	二三五	一、四〇	一〇四	四、八二	八、八二
農場ノ光	八月廿一日	十月二十日	一、七九九	三、四〇〇	三八八	二五七	一、六〇	七六	五、一〇	九、一七
石白	九月二日	十月十八日	一、七九二	三、一〇六	四〇一	二七〇	一、三〇	九六	五、六〇	九、三三
豊後	八月二十日	九月二十八日	一、六五五	三、〇〇九	三九六	二六九	一、二〇	七六	五、五〇	九、〇三
加賀早生	八月二十三日	九月二十八日	一、六二七	二、九四〇	三九四	二六四	一、〇〇	七九	五、五三	九、一七

水稻作成蹟 特種栽培畝

多々租	八月三十日	十月十二日	一、五二七	三、三三八	三九五	二三四	一、四〇〇	一〇五、	四、七〇	九、〇〇
高宮	八月二十七日	十月九日	一、四三三	二、六四〇	三九七	二六七	一、〇〇〇	七、	五、五〇	九、三三
出雲	八月二十五日	十月四日	一、二七八	二、五〇六	三九七	二五五	一、六〇〇	七、六、	五、一〇	九、〇〇
白糯	九月三日	十月十七日	一、六四〇	三、〇七〇	三九七	二五九	一、三〇〇	九、	五、三五	八、八二
粘租	八月二十七日	十月十日	一、四二四	二、七〇〇	三八一	二五四	一、二六	八、七、	五、二〇	八、六二
平均	八月二十九日	十月十三日	一、六六四	三、一三三	三九四	二六五	一、三九	九〇、	五、二六	八、九九

前表によれば收量の多きは穀良郡、早神力にして多摩錦之に次ぎ農場の光石白、豊後、加賀、早生等相順次し白糯は遙に粘租を凌げり今前四ヶ年の平均收量により其位次を示せば左の如し

次	位	品	種	名	平均玄米收量	早神力を百として比例
第一	位	早	神	力	二、二二三	100.0
第二	位	農	場	の	二、一九二	九九.九
第三	位	多	摩	錦	二、二七九	九九.五
第四	位	石		白	二、二五二	九七.三
第五	位	穀	良	都	二、〇六九	九三.五
第六	位	高		宮	一、七〇六	七七.一
第七	位	加	賀	早	一、一七〇	七五.五
第八	位	豊		後	一、六〇五	七三.六

第九位	第十位	第十一位
多々々	出	粘
租	雲	租
一、五〇九 (三年)	一、五〇三	一、二六五
六、三	六、七、九	五、七、二

前表によれば平均收量の最も多きは早神力、農場の光にして多摩錦、石白之に次ぎ多々租は遙に下位に屬し品質亦劣れり要するに早神力は水掛り良き畝にありては其成績常に優良にして其良性美質は既に廣く世の知る處なるを以て本年京畿道以南の地に栽培せられし早神力の作付總面積は六萬五千〇七十三町三反一畝歩にして前年の栽培面積二萬二千四百七十九町六反六畝歩に比すれば四萬二千五百九十三町歩餘の増加を示せり今此の作付面積を各道別にて示せば左の如し

- 京 畿 道 一、二、四六〇、〇〇町
- 忠 清 北 道 二五九、八〇
- 忠 清 南 道 二九、一七四、九〇
- 全 羅 北 道 一一、一七三、八一
- 全 羅 南 道 三、二二四、七〇
- 慶 尙 北 道 六、三三四、四〇
- 慶 尙 南 道 二、四四五、七〇
- 計 六五、〇七三、三一

多々租の如き在來種の栽培に代ふるに早神力種の栽培を以てせば其利益は一反歩に對し平均十圓を算するを得べきが故に本年の作付面積を以てするも朝鮮農家を利すること六百五十萬圓の多きに及びたりと云ふを得べし

早神力は早害に對し抵抗力弱く水掛り良き畝にあらざれば成績良好ならざるも多摩錦は耐旱力強く水掛り不良の畝にも適し本年の早魃に際し各地とも成績特に優良なるを示したるを以て本種の特性を認知し種籾の要望著しく増加せり故に本種も亦將來良種として廣く普及すべきは疑を容れざるなり

肥料用量比較

本比較の目的は肥料用量の増加が成熟及收量に如何なる關係を有するかを査定し經濟上適當なる施用量を知らんとするにあり作付反別は五畝歩宛にして供試品種は早神力とす

區名	堆肥	油粕	價格
最多量區	一五〇 <small>貫</small>	三二 <small>貫</small>	五、二四
多量區	一五〇	一四	四、五六
普通區	一五〇	七	二、八六
少量區	一五〇	〇	一、三〇

一、插秧及生育 六月十四日に插秧す各區植傷み少く其の後の生育は最多量區最も旺盛にして葉色濃く大暑前後に至り出來過ぎの徴を呈し稻熱病誘發の虞ありしを以て豫防艾除を

行ひ幸に被害甚だしきに至らずして止みしが同下旬より胡麻葉枯病の發生稍甚だしきものあり多量區亦幾分の害を被り少量區は養分缺乏の爲め生育劣り出穂後れ普通區は常に生育中庸にして無事成熟を遂げたり今其成績を擧ぐれば左の如し(一反歩改算量)

區名	出穂期	成熟期	收量 支米 粃米	糶	藁量	糶摺歩合	前五ヶ年平均 支米收量
最多量區	九月五日	十月二十七日	一、六六八 三、三六三	二、八〇	一、三〇	四、九〇	一、六六八
多量區	九月二日	十月二十四日	一、六四四 三、一八〇	二、六〇	二、二	五、一七	一、六三三
普通區	九月三日	同	一、六三九 三、〇四五	一、六〇	九四	五、三五	一、五九八
少量區	九月六日	同	一、二六〇 二、三三〇	二、三〇	七四	五、四四	一、三三二

前表によれば肥料用量の増加するに従ひ收量亦遞加す然れども最多量區は往々出來過ぎの虞れあり多量區と普通區とは其の收量伯仲の間にありて其の差僅かに三升四合に過ぎず故に天候不順の場合にも稻熱病發生の虞なき普通量即堆肥百五十貫油粕七貫位を以て安全且有利なる施用量と認め得べきが如し

肥料大豆用法比較

本比較は肥料大豆の用法が稻の成熟及收量に如何なる關係を及ぼすかを知らんとするにあり各區作付反別は五畝歩宛にして供試品種は早神力とす

區名	肥料及用量	摘要
大豆堆肥		

腐熟區	新鮮甲區	新鮮乙區
一五、 _貫	一五、	一五、
整地前撒布	同	整地後撒布

但腐熟區は大豆を堆肥に混じ腐熟せしめたるものなり

一、挿秧及生育 六月十五日に挿秧す各區植傷少なく腐熟區先づ綠色を現はし新鮮區は之に後るゝこと數日其の後各區とも生育次第に良好となれり今其の成績を擧ぐれば左の如し

區名	出穂期	成熟期	收量			批	藁量	摺合	前四ヶ年平均
			玄米	粳米	一升の重量				
腐熟區	九月三日	十月二十二日	一、四三四 _石	二、六八〇 _石	三九八 _匁	一、七〇 _斗	九六 _貫	五、三五 _斗	一、五七 _石
新鮮甲區	同	同	一、三八六	二、六一六	三九七	一、九〇	同	五、三〇	一、四八七
新鮮乙區	同	同	一、五七三	二、九四三	三九八	一、七〇	九二	五、三五	一、七八〇 _(前二年)

前表によれば新鮮乙區の收量最も多く腐熟區之れに次ぎ新鮮甲區最も劣り従來の成績と相一致せるを見る、左れば大豆を肥料として用ふる場合には新鮮の儘整地後地表淺く一面に撒布するに利ありとす

追肥期比較

本比較の目的は荏油粕分施の得失を判定し併せて適當なる施用量を知らんとするにあり供試品種は早神力とし各區の作付反別を二畝十五歩宛とす

區名	六月		七月一日		七月十一日		七月二十一日	
	堆肥	油	箱	箱	油	箱	油	箱
標準區	一〇〇 _頁		三、六〇〇	一		一		
第一期追肥區	一〇〇		三、六〇〇	七、二〇〇 _頁				
第二期追肥區	一〇〇		三、六〇〇	一	七、二〇〇 _頁			
第三期追肥區	一〇〇		三、六〇〇	一		七、二〇〇 _頁		七、二〇〇 _頁

一、插秧及生育 插秧は六月十六日にして各區植傷少なく生育狀況は七月上旬頃には標準區最も佳良にして他の各區は養分不足の爲め充分に生育せざりしが其の後追肥の施用と共に生育の狀況一變し標準區は七月中旬頃より葉頭稍黄ばみ八月に入り幾分回復せしも他に比し常に稍劣れり而して生育の最も良好なりしは第三期區にして第二期區之に次ぎ第一期區は標準區に比し僅かに優れり蓋し追肥施用當時の天候により肥料の分解に遲速を生じ生育の良否を來したるが如し今其の成績を示せば左の如し(一反歩改算量)

區名	出穂期	成熟期	收量		一升の重量		糞量	歩糶	前年收量	
			玄米	一級米	玄米	一級米				
標準區	九月五日	十月二十六日	一、九三三 _石	三、七〇〇 _石	三九五 _匁	二六二 _匁	一、六〇〇 _斗	二二六 _頁	五、一七	一、九五二 _石
第一期追肥區	同	同	一、八〇三	三、六八〇	三九六	二五七	一、六〇〇	二二六	四、九〇	一、八八二
第二期追肥區	九月七日	同	一、九七〇	三、八四八	三九三	二五七	二、〇〇	二二六	五、二	一、八五六
第三期追肥區	同	同	二、二六	四、三〇〇	三九四	二六一	二、二〇	二三四	五、一五	一、八二七

前表によれば收量最も多きは第三期區にして第二期區之れに次ぎ第一期區最も劣り前年に反する成績を現はせり是れ主として成熟期の天候によるものにして前年は秋期の早寒により實入り悪しく殊に秋分後氣温の低下著しかりしにより充實充分ならざりしも本年は抽穗期より青熟期迄は温度低かりしも秋分後氣温上り秋日和良好なりしかば遅く追肥を施用せしものは養分の循環長く續き子實の豊充良好なるを得たるによるものゝ如し尙試験を重ねて確むる處あるべし

株●數●比●較●

本比較の目的は一坪の株數及株間距離の廣狹縦株と横株との比により生育及收量に如何なる關係を有するかを知らんとするにあり各區の作付反別は二畝十五歩宛にして供用品種は早神力とす

標準區	五十六株(縱七株横八株)
正方形區	六十四株(縱八株横八株)
長方植區	六十株(縱六株横十株)
偏長方植區	七十二株(縱六株横十二株)

一、插秧及生育 插秧は六月十四日にして各區植傷少なく七月下旬迄は各區の生育相同じかりしも八月に入り胡麻葉枯病を發生し長方植及偏長方植の二區被害最も甚しく出穂の状態甚だ不整となり成績確ならざるの嫌あり今其の優劣を比較すれば左の如し(一反歩改算量)

區名	出穂期	成熟期	收量		一升の重量		糶量	糶量	糶歩合
			支米	糶米	支米	糶米			
標準區	九月五日	十月二十四日	一、九五〇	三、三六	三九三 ^分	二六〇 ^分	三六〇 ^分	二四 ^分	五、三 ^割
正方形植區	同	同	一、七六〇	三、四	同	二五九	二八〇	同	五、二
長方形植區	同	同	一、六〇〇	三、二〇	三九四	二六六	二、一〇	二二	五、三
偏長方形植區	同	同	一、七〇〇	三、三〇	三九二	二五七	二、一〇	二六	同

右表によれば標準區の成績最も良好にして正方形植區之に次ぎ長方形植區最も劣り縦横植株數の差多きは結果不良なるを示すものゝ如し尙試験を重ねて確報する處あるべし
 耕・鋤・季・比較

本比較の目的は稻畚耕鋤の時期が稻の生育及收量に如何なる關係を及ぼすかを知らんとするにあり各區の作付反別は百坪宛にして供試品種は早神力とす

第一 秋 耕 區 秋季稻刈取後耕鋤す

第二 分 耕 區 春秋二季に分耕す

第三 春 耕 區 春季解氷後耕鋤す

一、插秧及生育 六月十六日に插秧す各區共植傷少なく殊に秋耕區は土質年を趨ふて膨軟となり生育常に秀でたるを見る今其の成績を表示すれば左の如し(一反歩改算量)

區名	出穂期	成熟期	收量		糶量	糶量	糶摺歩合	前四ヶ年平均均支米收量		
			支米	糶米						
標準區	九月五日	十月二十四日	一、九五〇	三、三六	三九三 ^分	二六〇 ^分	三六〇 ^分	二四 ^分	五、三 ^割	同
正方形植區	同	同	一、七六〇	三、四	同	二五九	二八〇	同	五、二	同
長方形植區	同	同	一、六〇〇	三、二〇	三九四	二六六	二、一〇	二二	五、三	同
偏長方形植區	同	同	一、七〇〇	三、三〇	三九二	二五七	二、一〇	二六	同	同

秋耕區	九月五日	十月二十六日	二、二三六 ^石	三、九九六 ^石	三、六〇〇 ^斗	一四四 ^貫	五、三五 ^割	二、〇六三 ^石
分耕區	同	同	一、九七〇	三、八二六	二、四〇〇	一三四	五、一五	一、九七八
春耕區	同	同	一、六三七	三、〇六〇	一、五〇〇	一〇五	五、三五	一、八三〇

前表によれば秋耕區は收量最も多く分耕區之れに次ぎ春耕區最少く前四ヶ年平均收量亦秋耕の利益大なるを示せり

耕・鋤・法・比較

本比較の目的は畚の整地をなすに當り灌水の後犁耕を加ふるの利害を判定せんと欲するにあり供試品種は早神力にして各區の作付反別は五畝歩宛とす

一、乾耕區 灌水をなさずして犁耕を行ふ

一、水耕區 十日間灌水して犁耕を行ふ

一、插秧及生育 六月十七日に移植す水耕區は移植後十日にして綠色を顯し乾耕區よりも四日間早く爾後の生育又常に優り草丈稍高く出穂整ひ成熟亦佳良なり今其の成績を擧ぐれば左の如し(一反歩改算量)

區名	出穂期	成熟期	收量		一升の重量	糶	藁量	歩糶摺合	前年玄米收量
			玄米一畝	米一畝					
水耕區	九月四日	十月二十七日	二、五〇六 ^石	四、七七〇 ^石	三九六 ^匁	一八〇 ^斗	一四〇 ^貫	五、三〇 ^割	二、〇〇〇 ^石
乾耕區	同	同	二、三九〇	四、四九〇	三九七	一六〇	一一〇	五、三四	二、一一五

前表によれば水耕區の成績は乾耕區に優り前年の結果と相一致するを見る故に灌水の便ある處は犁耕十日前位より水を灌き置きて耕鋤を行ふを利ありとす

小作 畚

小作畚は普通小作畚と監督小作畚の二種とす普通小作畚は舊來の慣行により小作人をして任意に耕作せしむるものにして監督小作畚は彼等をして稻作改良の利益を知らしめんが爲め實地指導の目的を以て當場監督の下に耕作せしむるものなり監督畚小作人は當場指定の品種を栽培し苗代は一定の場所に設置し本畚は全部肥後犁を用ひて秋耕を行ひ除草は三回以上施行し稗草を抜き畦畔の雜草は二回以上芟除し水路は隨時之れを修築し收穫物調製には蓆を敷き稻扱器を用ふべきものとなしたり

監督小作畚總反別は十八町二反七畝步にして小作人三十九人に配當し最多を一町二反步最少を二反步とす稻の品種は早神力石白多摩錦の三種にして插秧は六月十二日に初め同二十四日に終る本年は移植期より出穂期に至る間氣候概ね不順なりしも成熟期に入りて氣温昇り暖氣續きしを以て實入り宜しく品質は前年に比し一般に良好にして收量は一反步當最多早神力粳四石六斗八升石白四石一斗五升多摩錦二石九斗四合に達したり

備考 多摩錦栽培用の畚は地味一般に劣等なりしにより收量大に少なかりき

普通小作畚總反別は十一町七反四畝步にして小作人二十六人に割り當て最多を一町三反八畝十八步最少を八畝二十步とす苗代は一ヶ所に集合設置せしめたり栽培品種は早神力多摩錦の二種にして其成績一反步當最多早神力は粳四石八升多摩錦は三石三斗一升を量りたり

立毛品評會

小作人耕作獎勵の爲め立毛品評會を設け稻の生育狀況管理の精粗調製の良否等に就き充分の審査を加へ十一月十六日褒狀授與式を舉行せり
立毛品評會審査番總反別は三十町歩餘耕作人員六十五名にして監督小作番より七名普通小作番より六名を選出擬賞せり小作人等は一 generally 其業に奮勵し就中乾燥調製に於て一層進歩の實蹟あるを認めたり今受賞者の氏名を擧ぐれば左の如し

等級	賞品	挺數	番別	住所	氏名
一等	肥後犁	一	監督番	堀村	張道敬
二等	彎形稻扱器	一	普通番	同 西屯村	劉成日
三等	松原鎌	二	監督番	堀村	姜敬仲
同	同	二	同	同	咸德運
同	同	二	同	同	孔治賢
同	同	二	普通番	同	姜春先
同	同	二	同	同	劉奉允
同	同	二	同	同	丁士元
同	同	二	同	同	元京化

同	同	同
同	同	同
二 同	二 同	二 同
西 屯 村	高 等 村	西 屯 村
劉	金	劉
善	興	彦
京	釋	昌

農業水利

當場は前年度に繼續し水利に關し左記事項の調査を行へりと雖調査未了の點あるを以て其成績は他日之を發表することとせり

一、普通畝に於ける灌溉水量調査

右の調査資料として左の事項を査定せり

- (一) 蒸發量
- (二) 滲透量
- (三) 有用雨量

二、瀦水量調査

右の調査資料として左記の事項を調査せり

- (一) 降水量と瀦水量との關係
- (二) 受水區域内畝と瀦水量との關係

田作成蹟

大 麥

技 師 向 坂 幾 三 郎
技 師 野 木 傳 三

大麥作耕種の梗概左の如し

播種 秋蒔は十月五日に春蒔は三月廿日に幅二尺の平畦を設け一反歩に付五舛(小粒)乃至六舛(大粒)の割合にて條播せり

但 排水不良の粘土地にありては幅四尺五寸の高壟を設け二條の播條を作りて之に條播せり

肥料 一反歩に付き秋蒔は堆肥二百五十貫過磷酸石灰五貫木灰十貫春蒔は堆肥百五十貫人糞尿百貫過磷酸石灰五貫木灰十貫とし凡て播種の際原肥として一回に施す

中耕 秋蒔は第一回を十一月十一日に行ひ麥條の西側に土を寄せ第二回を四月廿八日に第三回を五月八日に行ひ以て畦の兩側に培土し春蒔は四月廿八日五月九日の二回に之を行ふ

一秋 蒔

品 種 比 較

在來種に二三の品種ありと雖も何れも品質劣等にして市價亦廉なり故に之に優るの良種を發見せんと欲し前年來外國大麥數種を繼續栽培して之が優劣を比較せり

一、供用品種及其取寄先

品	種	種子	取寄先	當場栽培年次
在來	白	京畿道	水原	六年
在來	青色	同	逸	七年
クラインツンツレーベナー	獨	同	同	四年
エツケンドルフアー	同	同	同	同
マンムート	同	同	同	同

備考 圃地は砂質壤土排水佳良前作は煙草播種期は十月五日栽培面積は各區一畝歩
 二生育狀況

品種	發芽	出穂	穂	摘	收	穫	草丈(平均)	分蘗(一尺間莖數)
在來白色	十月十五日	五月十九日	五月卅一日	六月卅日	八月十一日	十一月八日	一七〇、一五〇、一五〇、一五〇、一五〇、一五〇、一五〇、一五〇、一五〇、一五〇	二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本
在來青色	同	五月十六日	五月廿九日	六月卅日	八月十一日	十一月八日	一八〇、一四一、一三三、一三五	二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本
クラインツンツレーベナー	同	五月廿二日	六月八日	七月五日	八月十一日	十一月八日	二〇〇、二〇〇、一〇〇、七三、六〇	二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本
エツケンドルフアー	同	五月廿一日	六月七日	七月五日	八月十一日	十一月八日	〇、五〇、二八〇、三〇八、三〇九	二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本
マンムート	同	五月十九日	六月三日	七月五日	八月十一日	十一月八日	〇、三〇〇、三〇〇、一五二、〇五四、一〇〇	二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本、二〇本

播種當時は前月來の乾燥の爲に發芽稍遅れ生長悪しく其後寒氣頓に加はりたる爲め分蘗少

く十一月には發育停止し葉頭凍傷を被り十二月には最低溫度屢々零下十度を超へ其の下旬には零下十六度半を示したりしかば凍傷愈々加はり爾來溫度の降下甚しく一月中旬に於て最低溫度零下廿度五を示し二月上旬更に零下廿度七を測り近年稀有の低極を現はしたりしも幸に當時恰も多少の積雪ありて麥を庇護したるを以て被害比較的少なきを得たり然れども早春の氣候は低温に加ふるに乾燥を以てせしかば生育を恢復すること遅かりき次で四月に至り氣溫漸やく加はり且屢降雨ありしを以て一時は繁茂の勢を示せしも氣溫の昇騰例年の如くならず從て草丈分蘖共に少なく成熟期亦例年に比し十餘日の遅延を來せり要するに播種期の乾燥及低温は著しく發芽を妨げ幼苗の生育を害し春季の低温は其後の生育を不良ならしめたりしも春季の雨濕適度なりしかば成熟比較的良好にして幸に平年に劣らざる成績を收むるを得たり

三收穫量一反歩改算量)

品 種	子 實 量	糶 量	稈 量	一 升 重 量	收 量 比 例	優 劣 比 較		收 累 年 平 均 量
						收 量 順	品 質 順	
在 來 白 色	二、四 ^行 七	〇、一 ^五 六三	一〇三、七〇〇	二六 ^九 六	八五、八	三	五	一、九 ^五 一七 (五年)
在 來 青 色	二、七 ^五 五	〇、一 ^五 五	九一、〇三〇	二七 ^五 五	九五、五	二	四	二、一 ^九 九 (五年)
カラインカン ツレーベナー	二、一 ^五 五	〇、一 ^三 五	六四、六五〇	二六 ^九	七五、二	五	三	二、二 ^三 (四年)
エツケンドルファー	二、三 ^八 八	〇、一 ^六	七、三〇〇	二七 ^九	八三、四	四	二	二、一 ^三 (四年)
マンムート	二、八 ^四	〇、一 ^五 八	九二、五〇〇	二八 ^二	一〇〇、〇	一	一	二、四 ^八 四 (四年)

本年の成績に依れば収量に於ては「マンムート」最も多く在來青色在來白色及「エッケンドルン
 ア」順次に次ぎ「クラインワントレーベナー」最も少なし而して累年の平均収量を見るに「マ
 ンムート」最も優り在來種最も劣れり本年度に於て在來種の比較的好成绩を示したるは寒威
 に耐ふる力強きに依るものゝ如し然れども其の品質に關しては外國種の良好なるに及ばざ
 ること遠しとす要するに「マンムート」は収量品質共に首位を占め朝鮮に適する良種なるを確
 めたり

種子覆土比較

本比較の目的は播種の際に於ける覆土の適度を知らんとするにあり其の方法左の如し

一、方法

番號

覆土の深さ

- 一 五分
- 二 一寸
- 三 二寸
- 四 三寸

備考 圃地は砂質壤土品種は「マンムート」栽培面積は各區五步播種期は十月五日

二、生育狀況

番號	區別	發芽	出穗	穗摘	收穫	草	丈(平均)	分蘗(一尺間の莖數)
						十二月七日	四月六日	十二月七日
						四月七日	五月六日	四月七日
						收穫期	收穫期	收穫期
						十二月七日	五月六日	四月七日
						收穫期	收穫期	收穫期

一	五分區	十月十五日	五月廿二日	六月四日	七月六日	〇、 ^尺 二六	〇、 ^尺 〇八	〇、 ^尺 四五	三、 ^尺 二〇	三、 ^本 三	一、 ^本 八	一、 ^本 五	二、 ^本 四
二	一寸區	同	同	同	同	〇、 ^尺 二四	〇、 ^尺 〇七	〇、 ^尺 四〇	三、 ^尺 一八	二、 ^本 二	一、 ^本 五	二、 ^本 三	二、 ^本 二
三	二寸區	同	同	同	同	〇、 ^尺 二八	〇、 ^尺 〇六	〇、 ^尺 三八	三、 ^尺 〇五	二、 ^本 五	一、 ^本 〇	一、 ^本 〇	一、 ^本 八
四	三寸區	同	五月廿四日	六月五日	同	〇、 ^尺 三〇	—	〇、 ^尺 四五	三、 ^尺 〇〇	二、 ^本 三	—	九	一、 ^本 五

覆土三寸區は寒傷最も甚しく二寸區之に次ぎ春季の繁茂亦甚だ劣り勢力常に他の區に及ばざるを認めたり

三、收穫量一反歩改算量

番 號	區 別	子 實 量	糶 量 秤	量 一 升 重 量	收 量 比 例	
一	五 分 區	一、 ^石 七〇	〇、 ^石 九二〇	五、 ^貫 七〇〇	二、 ^石 七五	八八、一
二	一 寸 區	二、〇一〇	〇、〇六五	六、〇〇〇	二、 ^石 六〇	一〇〇、〇
三	二 寸 區	一、 ^石 五〇	〇、〇六〇	四、 ^貫 九〇〇	二、 ^石 七五	七、七、六
四	三 寸 區	一、〇一〇	〇、〇六〇	四、〇、五〇〇	二、 ^石 七〇	五〇、七

右の成績に依れば覆土一寸區の收量最も多く五分區之に次ぎ三寸區最も少なし即ち覆土は五分乃至一寸を以て適度となすものゝ如し尙試験を重ねて之を確むべし

畦の方向比較

本比較の目的は畦の方向により收量に及ぼす影響を知らんとするにあり其の方法左の如し

一方法

番號

畦の方向

一

東西に亘るもの

二

南北に亘るもの

三

東北より西南に亘るもの

四

西北より東南に亘るもの

備考 圃地は砂質壤土供用品種は「マンムート」栽培面積は各區十歩播種期は十月五日

二生育狀況

番號	區別	發芽	出穂	穂揃	收穫	草丈 (平均)							
						十二月 七日	四月 七日	五月 六日	收穫期 七月	十二月 七日	四月 七日	五月 六日	收穫期 七月
一	東西に亘るもの	十月十五日	五月廿二日	六月四日	七月七日	〇、二七 ^尺	〇、〇七 ^尺	〇、五五 ^尺	三、五〇 ^尺	二四 ^本	二六 ^本	二四 ^本	二九 ^本
二	南北に亘るもの	同	五月廿一日	同	同	〇、二九 ^尺	〇、一八 ^尺	〇、八一 ^尺	三、六〇 ^尺	二〇 ^本	二五 ^本	二三 ^本	三三 ^本
三	東北より西南に亘るもの	同	五月廿二日	同	同	〇、二五 ^尺	〇、一〇 ^尺	〇、七三 ^尺	三、三〇 ^尺	二三 ^本	二六 ^本	二五 ^本	三〇 ^本
四	西北より東南に亘るもの	同	五月廿二日	同	同	〇、二五 ^尺	〇、〇八 ^尺	〇、五九 ^尺	三、三〇 ^尺	二〇 ^本	二三 ^本	一七 ^本	二四 ^本

畦の方向西北より東南に亘るもの寒傷を被ること最も甚しく春季の生育亦他の三區に及ばざりし

三收穫量(一反歩改算量)

番號	區	別	子	實	量	糶	量	秤	量	一	秤	重量	收	量	比	例	前	年	收	量
一	東西に亘るもの		一、八六三				〇、〇七五		五四、六〇〇			二六〇		九四、五					一、九三〇	
二	南北に亘るもの		一、九七二				〇、〇五五		五三、八五〇			二六四		一〇〇、〇					一、九七三	
三	東北より西南に亘るもの		一、八九六				〇、〇六〇		六一、八六〇			二八五		九六、二					一、六六〇	
四	西北より東南に亘るもの		一、六五九				〇、〇五五		五〇、六一〇			二六五		八四、二					一、六三〇	

右の成績に依れば畦の方向南北に亘るもの收量最も多くして西北より東南に亘るもの收量最も少なし蓋し此方向は冬季寒風を受け易く従て寒傷に罹ること甚しきによるもの如し尙試験を重ねてこれを確かむべし

作畦法比較

本比較の目的は排水不良なる粘質地に於ては如何なる作畦法を以て最も適當となすやを知らんとするにあり其の方法左の如し

一、方法

番號

作畦法

一

平畦

二

幅一間の高壟上二尺の横畦

三

幅四尺五寸の高壟上二條の縦畦

備考 圃地は粘質壤土供用品種は「マンムート」栽培面積は各區六歩播種期は十月七日

ふ場合に於ては其播種及移植の時期により收量に如何なる關係を及ぼすやを知らんとするにあり其の方法左の如し

一、方法

番号 方法

一 直播(十月上旬)

二 九月中旬下種十月中旬移植

三 九月中旬下種十月下旬移植

四 九月下旬下種十月下旬移植

五 九月下旬下種三月下旬移植

備考 圃地は砂質壤土供用品種は「マナムー」栽培面積は各區五步移植區の苗は苗床一坪に付五合蒔とし本圃一反歩に對し約十三坪を要したり

二、生育狀況

番	播種	發芽	移植	出穂	穂	摘收	穫	草丈(平均)	分蘖(一尺間莖數)
一	十一月五日	十月十五日	直	播五月廿四日	六月四日	七月五日	〇、二四〇、〇八〇、五二、八四	七、四、五、二、八	三、三、三、三
二	九月十五日	九月廿五日	十月十五日	五月廿日	同	同	〇、四六〇、二〇〇、六三、四四	七、四、五、二、八	二、〇、二、〇、二、〇
三	同	同	十月廿五日	五月廿三日	同	同	〇、五〇〇、〇八〇、四六三、二五	七、四、五、二、八	一、八、一、四、一、七
四	九月廿六日	十月八日	同	五月廿六日	六月六日	同	〇、二九〇、一四〇、九二三、六五	七、四、五、二、八	二、四、三、九、五、四、四〇

五同	同	三月卅日五月廿日六月二日同	一〇、二四〇、七六三、四〇〇	一	三六四	九
----	---	---------------	----------------	---	-----	---

第二區及第三區は秋季の伸長過度なりしが爲め寒傷を被ること甚しく第五區春季移植のものは例年に比し發育頗る良好なりき此の如く第五區の生育狀況例年に異りて佳良なりしは春季雨濕多くして乾燥の害を免れたるに依るならん

三收穫量一反歩改算量

番號	區	別	子實量	糶	量	程	量	一升重量	收量比例	年收	平均
一	直	播	1,250 ^石	0.071 ^石	49,150 ^貫	275 ^匁	80.0	1,862 ^石	(三年)	1,862	
二	九月月中旬下	移種	1,693	0.130	55,380	287	94.4	2,013 ^石	(二年)	2,013	
三	九月月中旬下	移種	1,680	0.090	55,760	294	93.3	2,040 ^石	(二年)	2,040	
四	九月月下旬下	移種	1,800	0.096	62,640	285	100.0	2,100 ^石	(三年)	2,100	
五	九月月下旬下	移種	1,800	0.071	58,860	281	100.0	1,538 ^石	(三年)	1,538	

本年の成績によれば九月下種十月下旬移植區及春植區最も優り九月中旬下種秋期移植の二區之に次ぎ直播區最も劣れり之を累年成績に比較するに春植區を除きては其の成績殆ど一致す要するに九月下旬に下種し十月中下旬に移植するを以て最も適當なりとす

二、春蒔

品種比較

秋蒔に於けると同一の目的を以て數年來繼續栽培を行ひ之が優劣を比較せり

一、品 種

品 種	種 子 取 寄 先	當 場 栽 培 年 次
在 來 種 ゴ ー ル デ ン メ ロ ン	京 畿 道 水 原	六 年
シ ユ バ リ エ ー	慶 尙 南 道 三 浪 津 逸	六 年
ハ ン	獨 逸	五 年
ク ラ イ ン ゼ ッ ク ス ザ イ リ ー ゲ	同	同
ゴ ー ル ド ソ ン ル ペ	同	同
ゴ ー ル ド ソ ン ル ペ	同	三 年

備考 圃地は砂質壤土播種期は三月廿日栽培面積は各區一畝歩

二、生 育 狀 況

品 種	發 芽 出 穂	穂 穂 揃 收 穫	草 丈(平均)		分 蘗(一尺間莖數)	
			四月 七月	五月 六月	四月 七月	五月 六月
在 來 種	四月三日	五月廿五日	〇、〇七尺	〇、〇八五尺	二〇本	六五本
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン	同	六月四日	〇、〇九尺	二、二〇三、一〇尺	二〇本	六六本
シ ユ バ リ エ ー	同	六月五日	〇、一一〇、七二尺	二、二〇〇、二、一六〇尺	二〇本	九二本
ハ ン	同	五月卅一日	〇、二三、〇、七九尺	三、一〇三、一〇四尺	二〇本	六六本

クラインゼツクス ザイリーゲ	同	五月廿八日	六月六日	七月一日	〇、三〇七六	三、九〇三、七〇〇	二〇	四二	四二	三八
ゴールドソルベ	同	六月五日	六月十三日	七月十二日	〇、二〇七〇	二、二〇二、五〇〇	二〇	七	七	五

發芽齊一なりしも其後の氣温常に低かりしを以て在來種の外何れも生育不良にして「クラインゼツクスザイリーゲ」種の如きは五月中旬多少斑葉病の發生を見たり

三、收穫量(一反歩改算量)

品 種	子質量	糶量	稈量	一升重量	收量比例	優劣比較		前年收量	收量五年平均
						收量噸	品質噸		
在 來 種	二、二六八	〇、〇六七	八五、三〇〇	二六六	一〇〇、〇	一	二	二、五三〇	一、八五二
ゴールドデンメロン	一、〇六七	〇、〇七	八九、八〇〇	三〇三	四九、二	四	一	二、四二六	一、五〇〇
シユバリエー	〇、八六八	〇、〇四〇	九七、九七〇	二九七	四〇、〇	五	四	一、六七七	一、三〇三
ハ ン ナ	一、六六三	〇、〇三	九四、〇二〇	三三三	七六、七	二	六	一、八二八	一、六六九
クラインゼツクスザイリーゲ	一、五七八	〇、〇七三	八三、一六〇	二九〇	七二、八	三	三	一、九五三	一、五七六
ゴールドソルベ	〇、六二六	〇、〇三三	一〇〇、七五〇	三〇三	二八、四	六	五	一、一九〇	一、三五二 (四年)

本年の成績に依れば收量に於ては在來種最も秀で其他は何れも遙かに之れに及ばず累年成績に於ても亦然り思ふに在來種の性質強健能く不順の氣候に耐へ豊凶の差少なく早熟にして雨害を免れ收穫多きに依るものゝ如し而して品質は「ゴールドデンメロン」首位を占め在來種之に次ぎ「シユバリエー」「ゴールドソルベ」「ハンナ」は腐粒を有すること多くして最も劣れり

畦の方向比較

本比較の目的は畦の方向により其收量に如何なる影響を及ぼすやを知らんとするにあり其の方法は左の如し

一、方法

畦の方向

一 東西に亘るもの

二 南北に亘るもの

三 東南より西北に亘るもの

四 東北より西南に亘るもの

備考 圃地は砂質壤土供用品種「ゴールデンメロン」栽培面積は各區十歩播種期は三月廿日

二、生育状況

番號	區別	發芽	出穂	穂揃	摘收	草丈(平均)		分蘗(一尺間莖數)	
						四月七日	五月六日	四月七日	五月六日
一	東西に亘るもの	四月三日	六月四日	六月十三日	七月十日	〇〇九〇 _尺	〇〇六二 _尺	二〇 _本	八五 _本
二	南北に亘るもの	同	同	同	同	〇〇八〇 _尺	〇〇二二 _尺	二〇 _本	八七 _本
三	東南より西北に亘るもの	同	同	同	同	〇一〇〇 _尺	〇〇二二 _尺	二〇 _本	七四 _本
四	東北より西南に亘るもの	同	同	同	同	〇〇九〇 _尺	〇〇三二 _尺	二〇 _本	五五 _本

三、收獲量(一反歩改算量)

番號	區	別	子實量	秕量	稈量	量	一升重量	收量比例	前年收量
一	東西に亘るもの		1,310 ^石	0.017 ^石		106,950 ^貫	304,5 ^匁	90.7	1,144 ^石
二	南北に亘るもの		1,356	0.010		110,260	307,0	100.0	1,141
三	東南より西北に亘るもの		1,155	0.015		97,950	304,0	85.2	1,041
四	東北より西南に亘るもの		1,100	0.009		97,200	304,0	86.5	1,043

右の成績に依れば各區の差異著しからずと雖も南北に亘るもの稍優れるが如し尙年を重ねて之を驗すべし

小 麥

小麥作耕種の梗概は一反歩の種子量を四升(小粒)乃至五升(大粒)となしたる外總て秋蒔大麥に準じたり

品 種 比 較

朝鮮在來の小麥は品質優良ならざるが故に新に良品種を選びて之を栽培するの必要あり故に輸入種と在來種との優劣を確めんが爲めに前年に繼續して之が比較を行へり

一、供用品種及び其取寄先

品	種	種	子	取	寄	先	當	場	栽	培	年	次
在	來	種	京	畿	道	水	原	六			年	年

レ	ハ	ス	グ	カ	フ	マ
ツ	ル	ク	リ	リ	ル	ー
ド	レ	エ	ー	フ	ス	チ
フ	ツ	ア	ヴ	オ	ア	ン
イ	ト	ヘ	エ	ル	ム	ス
フ		ツ	ナ	ニ	バ	ア
		ド	ー	ア	ー	ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー
						ス
						ア
						ム
						バ
						ー</

ハルレット同	六月十三日	六月卅日	同	〇、三二	〇、八〇	四、〇五	三七	四三	五三	三
レットファイフ同	六月三日	六月十七日	同	〇、三〇	〇、八六	四、三五	四	七五	八三	五七

播種當時に於ける氣候の乾燥に依り發芽齊一を缺ぎ加ふるに寒氣の早來に依り生育亦進まず就中「グリーンヴェナー」「スクエアヘッド」「ハルレット」の三種は冬季の嚴寒により凍傷稍強かりき次で春季に入りても氣温依然として低かりしかば生育遅緩し且つ「レットファイフ」及「カリフォルニア」を除きては何れも多少の葉銹病に侵されたり而して收穫當時は未だ完熟に達せざりしも霖雨來らんとするの兆ありしが故に完熟前收穫するの止むを得ざるに至れり

三、收穫量(一反歩改算量)

品 種	子實量	糶 量	程 量	一升重量	收量比例	優劣比較		收量累平均
						收量順	品質順	
在 來 種	一、四一〇 ^石	〇、〇五 ^石	一〇四、〇〇〇 ^實	三六五 ^匁	一〇〇〇	一	二	一、四二二 ^石 (五年)
マーチンスアムバー	〇、八四二	〇、〇五	一〇三、〇〇〇	三四二	五九、七	五	四	一、四八五 ^石 (同)
フ ル ツ	一、〇三六	〇、〇八〇	一〇八、〇〇〇	三六〇	七三、五	三	五	一、三五四 ^石 (同)
カリフォルニア	一、三八四	〇、〇三〇	二六、〇〇〇	三七九	九八、二	二	一	一、三九三 ^石 (同)
グリーンヴェナー	〇、三三〇	〇、〇四〇	八四、二〇〇	二四二	二四、八	八	八	〇、九二八 ^石 (三年)
スクエアヘッド	〇、四三八	〇、〇六〇	一〇二、四〇〇	二八〇	三一、一	七	六	一、〇五七 ^石 (同)
ハ ル レ ッ ト	〇、二七〇	〇、〇六二	一〇四、〇〇〇	二九二	三三、三	六	七	〇、九〇三 ^石 (同)

一	五分區	十月十六日	五月十八日	六月三日	七月五日	0.27 ^尺	0.25 ^尺	1.06 ^尺	3.55 ^尺	2.2 ^本	5.2 ^本	3.8 ^本	2.9 ^本
二	一寸區	十月十五日	同	同	同	0.30 ^尺	0.16 ^尺	1.03 ^尺	3.40 ^尺	2.0 ^本	3.4 ^本	2.9 ^本	2.7 ^本
三	二寸區	十月十二日	同	同	同	0.26 ^尺	0.18 ^尺	0.94 ^尺	3.20 ^尺	2.0 ^本	2.6 ^本	2.6 ^本	2.4 ^本
四	三寸區	十月十日	同	同	同	0.34 ^尺	0.17 ^尺	1.00 ^尺	3.10 ^尺	2.3 ^本	3.5 ^本	3.2 ^本	2.4 ^本

覆土三寸及二寸の兩區は凍傷を被ること他の二區に比し甚しく春季の生育亦覆土の深きに從ひ劣れること大麥に同じ

三、收穫量(一反歩改算量)

番號	區別	子實量	秕量	量秤	量	一畝重量	收穫量比例
一	五分區	0.61 ^石	0.011 ^石	六〇、三〇〇	三七 ^石	100.0	
二	一寸區	0.56	0.011	五二、三〇〇	三七 ^石	93.2	
三	二寸區	0.56	0.009	四九、六二〇	三八〇	95.1	
四	三寸區	0.55	0.018	五〇、五八〇	三七〇	90.3	

右の成績によれば覆土五分區の收量最も多く二寸區一寸區之に次ぎ三寸區最も劣れり即ち覆土は五分内外を以て適當となすものゝ如し尙試験を重ねて之を確むべし

窒素質肥料比較

本比較の目的は如何なる肥料に含有する窒素養分最有効なるやを験せんとするにあり其の

方法左の如し

一、方法

番 號	肥 料	用 量	補助肥料及其用量		
			過 磷 酸	石 灰	硫 酸 加 里
一	無窒素	—	—	五、〇〇〇 ^四	七、六六
二	堆肥	二六、〇〇〇 ^五	—	—	—
三	荏油	二六、五五五	—	—	六、七七
四	大豆粕	二六、五五五	—	—	四、七六
五	糠酸アンモニア	三三、八四二	—	—	三、五三
六	人糞尿	二六、二一五	—	—	二、二〇
七	醬油粕	六一、一五〇	—	—	五、三四〇
八	智利硝石	九、三三四	—	—	七、六二六
九	硫酸アンモニア	七、八二〇	—	—	七、六二六
一〇	石灰窒素	八、四八五	—	—	七、六一六
一一	鯨粕	一四、五四四	—	—	六、八三
一二	干鰯	一九、六七五	—	—	四、七六
一三	糞灰	五〇、五〇〇	—	—	—

備考 肥料成分は一反歩量窒素一貫五百匁磷酸及加里各一貫匁を標準とし施用前現品

を分析して其量を算定せり但し堆肥區は窒素一貫五百匁磷酸二貫四百十三匁加里二貫三百六十匁糞灰區は窒素一貫五百匁磷酸四百匁加里十貫十五匁とす

圃地は砂質壤土供用品種は「カリフォルニア」栽培面積は各區十歩播種期は九月廿八日

二、生育狀況

番號	區別	發芽	出穂	穂	揃收	草丈(平均)		分蘗(一尺間莖數)	
						收穫期	收穫	收穫期	收穫
一	無窒素	十月十五日	五月十八日	六月三日	七月五日	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
二	堆肥	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
三	荏油粕	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
四	大豆粕	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
五	硫酸アンモニア	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
六	人糞尿	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
七	醬油粕	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
八	智利硝石	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
九	硫酸アンモニア	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
一〇	石灰窒素	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
一一	鯨粕	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日
一二	干鰯	同	同	同	同	七月七日	七月七日	七月七日	七月七日

一三	糞	灰	同	同	同	同	同	0.27	0.30	1.39	4.35	20.71	68.44
----	---	---	---	---	---	---	---	------	------	------	------	-------	-------

秋季に於ける生育状況は各區殆んど同一なりしも春來成長に伴ひ漸やく差異を生じ硫酸アンモニア區及智利硝石區は最も旺盛なる生育を遂げ人糞尿區、糠粕區、大豆粕區、荏油粕區、干鰯區、糠及硫酸アンモニア區等順次之に次ぎ石灰窒素區、糞灰區、醬油粕區等稍不良にして堆肥區及無窒素區の繁茂最も劣れり

三、收穫量(一反歩改算量)

番號	區別	子實量	糶	量	程	量	一畝重量	收量比例	年收量平均
一	無窒素	0.444	石	0.033	石	48,450	380.0	31.4	1,003
二	堆肥	0.611		0.012		58,050	377.0	43.9	1,172
三	荏油粕	1.133		0.015		128,550	374.5	78.8	1,513
四	大豆粕	1.366		0.018		136,500	373.0	85.4	1,489
五	糠 硫酸アンモニア	1.182		0.011		116,100	371.0	83.7	1,474
六	人糞尿	1.146		0.011		150,450	372.0	81.1	1,479
七	醬油粕	1.133		0.016		95,700	373.0	78.8	—
八	智利硝石	1.182		0.010		156,750	377.0	83.7	1,446
九	硫酸アンモニア	1.413		0.017		168,600	377.0	100.0	1,561
一〇	石灰窒素	0.900		0.018		104,150	373.0	63.7	1,146 (二年)

一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三	一二	一	一	一	一	一	一	一
糞	干	糶	糶	糶	糶	糶	糶	糶
灰	糶	糶	糶	糶	糶	糶	糶	糶
0.96	1.14	1.10	0.011	125.100	375.5	6.6	1.103	
0.011	0.015	0.011	131.110	373.0	8.8	1.347		
97.350	377.0	377.0	377.0	377.0	377.0	377.0	377.0	377.0

右の成績に依れば硫酸アンモニア區の收量最も多く大豆粕區之に次ぎ智利硝石區糠及硫酸アンモニア區干鰯區人糞尿區荏油粕區醬油粕區鰯粕區等相順次し糞灰區及石灰窒素區は遙かに劣り堆肥區及無窒素區は最も劣れり之を累年の成績に觀るに硫酸アンモニア區の成績常に優秀にして石灰窒素區堆肥區及び無窒素區は毎に劣等なるを示し其他の肥料は順位一定せず尙年を重ねてこれを確むべし

陸 稻

陸稻作耕種の梗概左の如し

播種 種子は一反歩に付四舛(小粒或は無芒種)乃至五舛(大粒或は有芒種)の割合を以て五月

上旬畦幅二尺に條播し薄く覆土し後踏壓す

肥料 一反歩量堆肥三百貫、木灰十貫、過磷酸石灰五貫を播種の際播條の傍に埋施す

除草 五月二十九日、六月十五日、七月七日、八月十七日の四回に之を行ふ

中耕 六月二十二日、七月二十八日の二回に之を行ふ

灌水 八月八日及九月一日の二回乾燥過度の場合に之を行へり

品種比較

朝鮮には陸稻の栽培に充つべき土地尠からざるを以て之が良種を選定し其の普及を圖らんが爲め前年に繼續して左の品種を栽培し以て其優劣を比較せり

一、供用品種及其取寄先

品	種	種	別	種子	取寄先	當場栽培	年次
尾張	糯	糯	東	京	府	五	年
黒鬚	同	同	長	野	縣	七	年
仙臺	同	同	同	同	同	同	年
金子	同	同	同	同	同	同	年
信州	同	同	同	同	同	同	年
早知	同	同	同	同	同	同	年
オイラシ	同	同	東	京	府	同	年
フンデーチャンゴミー	粳	粳	京	畿道	水原	七	年

備考 圃地は粘質壤土播種期は五月五日栽培面積は各區一畝歩

二、生育狀況

品	種	發芽	出穂	穂摘	收穫	草丈(平均)	分蘖(一尺間莖數)
フンデーチャンゴミー	五月十八日	八月十五日	八月廿七日	十月十四日	〇.三〇四	六月六日 〇.七〇二 七月六日 〇.七〇二 八月六日 〇.五三三 九月六日 〇.四八三 收穫期 〇.六五五	六月六日 二〇本 七月六日 三六本 八月六日 三三本 九月六日 三三本 收穫期 三〇本

オイラン	五月廿一日	八月十四日	同	同	〇、三六〇、七五一、九〇三、七二二、七五	同	五二	四七	四二	三六
早不知	五月二十日	同	同	同	〇、四二〇、八〇一、九五二、七二二、八〇	同	四四	四三	三七	三二
信州早生	五月廿一日	八月十五日	八月廿八日	同	〇、三八〇、七三二、二五二、二九三、三〇	同	五九	五四	五四	五四
金子	同	八月十一日	八月廿四日	十月十五日	〇、三七一、〇五二、五五三、七五三、八〇	同	五五	四七	四三	四三
仙臺	五月十九日	八月十四日	八月廿七日	十月十四日	〇、三三〇、八二二、三五三、七〇三、七〇	同	四〇	四〇	三六	三六
黒鬚	五月廿二日	八月廿七日	九月九日	十月三十日	〇、三六〇、八五二、一五二、七九三、二〇	同	四〇	三七	三三	三三
尾張糯	同	八月十九日	八月卅一日	十月廿三日	〇、二九〇、七五一、九五二、八六三、〇五	同	五〇	四七	四六	四六

播種の際適度の雨濕ありて發芽齊一稚苗の發育亦良好なりしも夏季中の氣温例年に比し甚だ低くして生育進まず出穂穂揃等昨年比し遅ること約一週間に及べり然れども成熟期の天候比較的高溫乾燥なりしを以て能く登熟せり

三、收穫量一反歩改算量

品種	玄米收量	粳收量	糶量	藁量	一畝米重	一畝米量	歩摺	品質順	收量比例	五ヶ年平均收量
フンター チャンゴミー	一、五八二 <small>石</small>	二、五七〇 <small>石</small>	〇、〇五七 <small>石</small>	八三、〇七〇 <small>畝</small>	二九〇 <small>畝</small>	三八二 <small>畝</small>	六一五 <small>畝</small>	二	八六、二	一、五二〇 <small>石</small> (四年)
オイラン	一、五二三	二、六五三	〇、〇七二	八九、三八〇	二七〇	三七五	五、七〇	五	八二、四	一、七四八
早不知	一、四九九	二、五六〇	〇、〇六七	九三、三三〇	二七五	三七九	五、七〇	三	七九、五	一、六八〇
信州早生	一、六六一	二、九一五	〇、〇九二	七二、二九〇	二七五	三七八	五、七〇	四	九〇、六	一、七六四

金子	一、八四三	三、一〇八	〇、一九〇	九九、六五〇	二七三	三七三	五、九〇	六	一〇〇、〇	一、九〇五〇
仙臺	一、五四六	二、四七四	〇、〇八七	九六、三五〇	二九〇	三八二	六、二五	一	八四、三	一、二三〇〇 (三年)
黒鬚	一、一八九	二、〇二五	〇、〇七六	一一二、〇〇〇	二六九	三六六	五、九〇	七	六四、八	一、一八五八
尾張糯	一、四三三	二、六三〇	〇、〇九三	八九、四〇〇	二五三	三六四	五、四五	一	七六、一	一、九八九三

本年の成績に依れば收量に於ては金子最も多く信州早生、フンデーチャンゴミー、仙臺、オイラ
 ン、早不知、尾張糯等順次に次ぎ黒鬚最も劣り品質は仙臺、フンデーチャンゴミー、尾張糯最も
 良好にして早不知、信州早生、オイラン等之に次ぎ金子稍劣り黒鬚最も劣れり而して之を累年
 の成績に依れば尾張糯及金子は收量最も多く就中尾張糯は品質亦優良にして朝鮮に適する
 糯陸稻の良種たるを示し、オイラン、信州早生及早不知等成績良好、フンデーチャンゴミー及仙
 臺は品質最も優良なれども收量は較や劣り黒鬚は水原地方にては好成绩を挙げ難きを示せ
 り

窒素質肥料比較

本比較の目的は如何なる肥料に含有する窒素養分最も有効なるやを験せんと欲するにあり
 其方法左の如し

一、方法

番 號	肥 料	反 當 用 量	補 助 肥 料 及 其 用 量 (反 當)	
			過 磷 酸 石 灰	硫 酸 加 里
一	無 窒 素	—	五、〇〇〇 ^世	七、六二六 ^世

二	堆肥	三六、〇〇〇	—	—
三	荏油粕	二六、五五五	二、三七〇	七、七七七
四	大豆粕	二六、五五五	三、四一五	四、七六六
五	糖酸アンモニア	二五、八四二 三五、二一五	—	三、五三三
六	人糞尿	二六、二一五七	三、二九〇	二、三二〇
七	智利硝石	九、三三四	五、〇〇〇	七、六六六
八	硫酸アンモニア	七、八二〇	五、〇〇〇	七、六六六
九	石灰窒素	八、四八五	五、〇〇〇	七、六六六
一〇	鯨粕	一四、五四四	二、三九〇	六、八三三
一一	干鰯	一九、六七五	一、六四五	四、七二六
一二	糞灰	五五、〇九〇	—	—

備考 肥料成分は一反歩量窒素一貫五百匁、磷酸及加里を各一貫匁を標準とし、施用前現品を分析して其量を算定せり。但し堆肥區は窒素一貫五百匁、磷酸二貫四百十三匁、加里二貫三百六十匁、糞灰區は窒素一貫五百匁、磷酸四百匁、加里十貫十五匁とす。

圃地は壤土、供用品種は「オイラン」、播種期は四月三十日、栽培面積は各區十歩。

二、生育狀況

番號	區別	發芽	出穂	穂穂揃	收穫	草丈(平均)	分蘖(二尺間莖數)
六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
無窒素	堆肥	荏油粕	大豆粕	糠 硫酸アンモ ニア	人糞尿	智利硝石	硫酸アンモ ニア	石灰窒素	鯨粕	干鰯	糞灰
五月十八日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八月十四日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八月二十七日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十月十四日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇、四四〇、六五二、二〇二、九五三、一〇	〇、三七〇、七五三、三二二、九三、一〇	〇、四二〇、九五二、七五三、五五三、七〇	〇、三九〇、七〇二、五五三、四〇三、四〇	〇、四二〇、八二二、四五三、三五三、三五	〇、三九〇、八五二、七〇三、六五三、七〇	〇、四三〇、八二二、五〇三、三五三、四五	〇、四一〇、〇〇三、〇〇三、六三三、七〇	〇、四三〇、九〇二、八〇三、五五三、五五	〇、四六〇、九五二、八〇三、五五三、六〇	〇、四〇〇、七〇二、四〇三、六五三、六〇	〇、四八〇、九〇二、六五三、五三三、八〇
二〇 <small>本</small>	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四五 <small>本</small>	四六	六八	五〇	六七	五七	五七	五三	四八	六九	四七	四九
四四 <small>本</small>	四六	六四	四六	五七	五五	四七	四二	四五	六二	四三	四七
四四 <small>本</small>	四六	六四	四五	五七	五四	四六	四一	四五	六〇	四〇	四七
四四 <small>本</small>	四六	六四	四四	五七	五四	四六	四一	四五	五八	四〇	四四

幼苗の間は生育の状況に差異を認めざりしも日を経るに従ひ硫酸アンモニア區の繁茂最も佳良にして干鰯區、人糞尿區、荏油粕區の生育之に亞ぎ堆肥區及無窒素區は著しく劣り其他の六區は互に大なる優劣なく何れも中庸の生育を遂げたり

三、收穫量(一反歩改算量)

番 號 區 別 糶 收 量 糶 量 藥 量 一 升 重 量 收 量 比 例 收 四ヶ年平均量

一	無窒素	石 二、二六五	石 〇、〇五四	貫 七三、〇〇〇	匁 二六六	石 六九、九	石 二、八七七
二	堆肥	二、三四〇	〇、〇六三	七五、〇〇〇	二六三	七二、二	三、二五三
三	荏油粕	二、八九五	〇、〇八四	一〇八、〇〇〇	二六九	八九、四	三、七三七
四	大豆粕	二、七五〇	〇、〇九三	九一、五〇〇	二六三	八四、三	三、八五〇
五	糠 硫酸アンモニア	二、七二五	〇、〇七五	一〇三、二〇〇	二六六	八三、八	三、五二九
六	人糞 尿	三、二四〇	〇、〇九三	一一三、四〇〇	二六一	一〇〇、〇	三、八三六
七	智利硝石	三、〇六〇	〇、〇八四	九八、四〇〇	二六二	九四、四	三、七二三
八	硫酸アンモニア	三、一五〇	〇、〇九六	一三三、八〇〇	二六七	九七、二	三、八七七
九	石灰窒素	二、六七〇	〇、〇八四	九四、五〇〇	二六八	八二、四	三、七八六 (三年)
一〇	鯨粕	二、七九〇	〇、〇九〇	九九、〇〇〇	二六五	八六、一	三、七八九
一一	干鰯	二、九一〇	〇、〇七二	一一六、一〇〇	二六三	八九、八	三、六三五
一二	糞灰	二、七六六	〇、〇五七	九四、五〇〇	二六三	八五、四	三、三六三 (三年)

本年の成績に依れば人糞尿區の收量最も多く硫酸アンモニア區及智利硝石區之に亞ぎ干鰯區荏油粕區鯨粕區糞灰區大豆粕區糠及硫酸アンモニア區石灰窒素區等順次相次ぎ堆肥區遙かに下り無窒素區最も劣れり而して累年の成績にありても人糞尿區及硫酸アンモニア區は概して優良の成績を示し堆肥區及無窒素區は常に劣等の成績を示せり

雨水利用栽培

本栽培の目的は田地に雨水を溜溜すると之を排除することに依り陸稻の栽培に及ぼす得失を研究せんとするにあり其方法左の如し

一、方法

番號

區別

摘要

一

普通栽培區

田地に同じ

二

雨水溜溜區

畦畔を設けて雨水を溜溜す

備考 圃地は壤土供用品種は「オイラン」播種期は五月四日栽培面積は各區五歩

二、生育狀況

番號	區別	發芽	出穂	穂	揃	草丈(平均)	分蘗(一尺間莖數)
一	普通栽培區	五月二十一日	八月十七日	八月二十九日	十月十四日	六月六日 七月六日 八月六日 九月六日 收穫日期	六月六日 七月六日 八月六日 九月六日 收穫日期
二	雨水溜溜區	同	同	同	同	同	同

雨水溜溜區の生育は普通栽培區に比し常に優れり

三、收穫量(一反歩改算量)

番號	區別	籾收量	糶量	藁量	一畝重量	收量比例	籾三年平均量
一	普通栽培區	1,080 ^石	0,060 ^石	41,200 ^貫	266 ^匁	八五、七	1,666 ^石
二	雨水溜溜區	1,260	0,108	57,000	270	100,0	1,976

本年の成績に依れば雨水溜溜區は普通栽培區に比して收量品質ともに優り累年の成績亦其揆を一にす故に灌溉水に乏しき畚に於ては雨水を利用して陸稻を栽培するの得策なるを見る

大豆

大豆作耕種の梗概左の如し

播種 五月中旬畦幅二尺株間七寸五分の距離に種子三粒宛を點播す種子は收穫後粒選を行ひたるものにして一反歩の用量四舁(小粒)乃至五舁(大粒)とし排水不良なる地に於ては高壟を設け二尺の横畦を立てたり

肥料 一反歩の施用量過磷酸石灰四貫木灰二十貫とし過磷酸石灰は播種の際種子の傍らに埋め木灰は種子の上に施せり

間引 六月五日に一株二本となす

除草 六月十二日、六月二十三日、七月二十六日の三回に之を行ふ

中耕 六月十二日、七月二日の二回に之を行ふ

品種比較

大豆は朝鮮主要の田作物にして古來到る處に栽培せられ各地特有の品種を産するが故に其の善良と認むべきもの數種を選択し内地の良種と共に其の優劣を比較せんが爲め前年に繼續して之を栽培せり其成績左の如し

一、供用品種及其取寄先

番 號	品 種	種 子 取 寄 先	當 場 栽 培 年 次
一	端川	咸鏡南道端川	七 年
二	黃州	黃海道黃州	同 年
三	赤穀	秋田縣	六 年
四	鶴子	咸鏡南道咸興	三 年
五	益山	全羅北道益山	同 年
六	長湍	京畿道長湍	初 年

備考 圃地は砂質壤土栽培面積は各區一畝歩播種期は五月十八日

二、生育狀況

番 號	品 種	發 芽 開 花 收 穫	草 丈 (平均)					枝 條 數 (平均)			
			六月 六日	七月 六日	八月 六日	九月 六日	收 穫 時	七月 六日	八月 六日	九月 六日	收 穫 時
一	端川	五月二十四日七月二十四日十月五日	〇、二〇〇 _尺	〇、七〇〇 _尺	二、一五〇 _尺	二、五〇〇 _尺	二、五五〇 _尺	六本	一三本	一三本	一四本
二	黃州	八月一日十月十五日	〇、三〇〇	〇、八〇〇	二、七〇〇	三、一五〇	三、三〇〇	六本	一五本	一五本	一六本
三	赤穀	八月八日同	〇、三〇〇	〇、六五〇	二、三〇〇	二、九五〇	二、九五〇	五本	一四本	一四本	一四本
四	鶴子の同	七月二十七日十月十二日	〇、二〇〇	〇、七五〇	二、五〇〇	二、四三〇	二、四四五	六本	一三本	一三本	一四本
五	益山の同	五月二十五日七月三十日同	〇、三〇〇	〇、六〇〇	二、三〇〇	二、五五〇	二、七五〇	六本	一五本	一五本	一五本

六	長	湍	同	七月二十九日十月十五日	〇、二五〇、七〇	二、五〇二、五七〇	六	二四	一五
---	---	---	---	-------------	----------	-----------	---	----	----

播種當時恰かも降雨ありて發芽良好なるを得其後も雨濕は潤澤なりしも氣温は例年に比し低かりしを以て生育遅々として進まず開花の如きも前年に遅るゝこと一週間乃至二週間に及びたり加ふるに八月中旬以後早天約一ヶ月に亘り圃地の乾燥過度なりしかば充分なる發育を見る能はざりき且七月下旬より葉卷蟲の發生を見たるも被害甚しきに至らざりき

三、收穫量一反歩改算量

番號	品種	特		徵		子實收量一升粒數	一升重量	收量比例	前年收量	累年平均收量	品質順
		花色	粒形	色澤	臍着色						
一	端川	紫	大	黃光澤あり色	無	一、四七〇 ^石	四、四八三 ^粒	三五七 ^々	九〇、七	一、三三六 ^石	一、三八七 ^石 (七年)
二	黃州	同	小	黃光澤あり色	灰褐	一、六〇〇	五、五四三	三五九	一〇〇、〇	一、五八五	一、三九二 ^石 (七年)
三	赤殼	同	小	黃光澤なし色	黒褐	一、四三〇	六、二一五	三五九	八八、三	一、三〇二	一、五二八 ^石 (六年)
四	鶴の子	同	大	淡黃光澤なし色	無	一、三七五	三、九三二	三六〇	八四、九	一、二九二	一、八八九 ^石 (三年)
五	益山	同	中	黃光澤あり色	無	一、六〇〇	四、七二一	三五六	九八、八	一、二四二	一、四四四 ^石 (三年)
六	長湍	白	中	黃光澤あり色	淡褐	一、四六七	五、四四五	三六五	九〇、六	—	—

本年の成績に依れば收量は黃州最も多く益山之に亞ぎ端川、長湍、赤殼等順次之に亞ぎ鶴の子最も少し又品質は端川及鶴の子最も優良にして長湍之に亞ぎ益山及黃州更に之に次ぎ赤殼最も劣れり今之を累年の成績に對照するに端川は依然として優良なるを失はず鶴の子は品

質佳良なるも收量劣り貴州及赤殻は收量多しと雖も品質劣り殊に赤殻は年を逐ふて小粒となるの傾向あり而して長湍は其粒大ならずと雖も豊満にして光澤鮮麗當地方に於ける有望なる良種なるが如し

落花生

落花生作耕種の梗概左の如し

播種 種子は鳥蟲害豫防の爲めに「コールター」二十倍液を塗付し五月下旬畦幅二尺株間一尺二寸の距離を以て一株に二粒を點播す種子用量は一反歩に付四舛(小粒)乃至七舛(大粒)とす

肥料 一反歩に付過磷酸石灰四貫木灰十貫を株の兩側に埋施す

手入 除草は六月二十二日、七月二十四日、八月二十日の三回に之を行ひ中耕は立莖種に限
り七月二十六日一回之を行ひ株の兩側に培土せり

品種比較

落花生は能く朝鮮南部の風土に適し肥料を要すること尠く殊に他作物に適せざる砂地に適し農家に奨励するの價値あり乃ち其良品種を選定せんと欲し前年に繼續して左の四種を比較栽培せり

一、品種

品	種	種子	取寄先	當場	栽培	年次

立	伏
莖	莖
東 神 奈 川 京 縣	東 慶 尚 南 道 三 浪 津 京
三	七
六	三
年	年

備考 圃地は砂質壤土、播種期は五月二十四日栽培面積は各區十歩

二、生育狀況

品	種	種子取寄先	發	芽	開	花	收	穫
立	伏	莖	莖	東 神 奈 川 京	東 津 浪	六 月 七 日	六 月 七 日	十月二十三日
東 京	東 京	東 京	東 京	六 月 九 日	六 月 八 日	七 月 十七日	七 月 二十日	同
六 月 九 日	六 月 七 日	六 月 七 日	六 月 七 日	七 月 十六日	七 月 十八日	同	同	同

發芽は齊一なりしも生育中の氣溫低くして繁茂及成熟充分ならず加ふるに九月中に於ける早害及金龜子幼蟲の發生に依りて著しく收量を減せり

三、收穫量(一反歩改算量)

品	種	種子取寄先	熟	實	量	總量に對する熟實歩合	前年收量	累年平均收量
---	---	-------	---	---	---	------------	------	--------

伏 莖		立 莖	
三浪	東京	神奈川	東京
一、四四〇	一、一四〇	一、二九〇	一、二〇〇
五、四、五%	五、五、九	五、一、八	五、一、三
四、五、二〇	二、三、七六	四、三、三九	一、四、七六
三、六〇五 (七年)	三、三、八四 (三年)	二、七、七 (六年)	一、九〇八 (三年)

更に脱莢調製の成績を擧ぐれば次の如し。

品 種	種子取寄先	上等莢實一斗中子實量		一反歩當 上等子實	上等莢實一升 電 量	上等子實一升 粒 數	上等子實一斗 電 量	上等子實一斗 粒 數
		上 等	下 等					
伏 莖	三浪	一、七〇	〇、五〇	〇、二四五	一〇三	二〇〇	二七五	一、五七〇
	東京	一、八〇	〇、三五	〇、二〇五	一〇四	一七四	二六〇	一、四三〇
立 莖	神奈川	一、九〇	〇、三〇	〇、二四五	一〇八	一八五	二六〇	一、四六〇
	東京	二、六〇	〇、三〇	〇、三三三	一三六	四六八	二七〇	二、七五〇

右の成績に依れば本年は各種とも成熟甚だ不良にして收量及熟實歩合少く唯僅かに東京立莖種に於て子實の歩合比較的良好なるを見るのみ是れ氣候の不順に對し抵抗力幾分強きによるものゝ如し然れども未だ何れの品種を以て朝鮮に適當すべきやを明らかにせざるを以て尙試験を重ねて確むべし

甘 藷

甘藷作耕種の梗概左の如し

苗床 種蒔は三月廿八日に之を苗床に移し馬鹿糠麥の稈皮を戶外に堆積して半ば腐朽せしめしもの(を)を覆ひ尙藁及菰を以て周圍を被覆し四月十日に至り諸の發芽したる後は溫暖なる時被覆を去りて日光を受けしめ且數回稀釋せる人糞尿を施し霜害無き頃に至りて全く被覆を撤去せり苗床一坪の種蒔用量は十貫本圃一反歩に付き苗床三坪を要し發熱材料は屑藁廿五貫、厩肥卅貫、藁十貫、米糠四百匁、人糞尿二十貫を用ゆ、

移植 五月上旬苗生長して八寸乃至一尺に至るに従ひ順次採苗移植せり其法豫め整地し置ける本圃小高壟線の中央に一尺二寸宛の株間を存じて(一反當四千五百本)苗の下部三四節を約一寸の深さに稍や彎曲して鈞針形に埋め上より踏壓し且乾燥を防かんが爲めに其兩側に藁を布けり

肥料 一反歩量堆肥百五十貫過磷酸石灰五貫を整地の際に埋施す

手入 除草は六月十日、六月廿六日の二回中耕は七月一日之を行ひ蔓返しは七月廿二日、八月十四日、八月廿五日の三回に之を行へり

普通栽培

甘藷は性質強健にして早害少く栽培容易にして收量多く將來農家の食料として之が栽培を奨励するの價値あるを以て之が栽培を行ひ模範を示さんとす

一、品 種

元	品	種	種子取寄先	當場栽培年次	特	徵
氣	長	崎	七	年	表皮淡紅色、橢圓形肉粉質甘味に富み品質優良なり	

備考 圃地砂質壤土、移植は五月六日より五月九日に至る

二、生育状況

品	種	收穫期	蔓				(平均)
			七月六日	八月六日	九月六日	十月八日	
元	氣	十月廿六日	〇、六六 ^尺	五、五〇 ^尺	八、五〇 ^尺	九、〇〇 ^尺	

移植の前後適度の雨濕ありて苗の生育良好且つ八月中旬に至る迄時々降雨ありて發育順調なるを得しも夏季の氣溫比較的低く加ふるに八月中旬以後一ヶ月に亘る旱天は莖葉の繁茂を妨げたり然れ共是却つて根塊の發育を良好ならしめたり

三、收穫量(一反歩改算量)

品	種	諸	收	量	前	年	收	量	前六ヶ年平均收量
元	氣			四三八、〇〇〇 ^匁			四三五、〇〇〇 ^匁		三六〇、〇四六 ^匁

右の成績によれば本年の收量は前年と大差なく累年の平均に比し約五十八貫の増收を得たり

株間比較

本比較の目的は株間の廣狹によりて甘藷の收量、品質に如何なる影響を及ぼすやを知らんとするにあり其方法左の如し

一、方法

番號 株間

- 一 一尺
- 二 一尺二寸
- 三 一尺五寸
- 四 二尺

備考 圃地は砂質壤土、供用品種は元氣栽培面積は各區十歩移植期は五月九日

二、生育狀況

番號	區	別	收穫期	蔓長 (平均)
一	一尺區	同	十月廿四日	七月六日 〇、六四 八月六日 三、五〇 九月六日 五、五〇 十月八日 七、〇〇
二	一尺二寸區	同	同	七月六日 〇、五三 八月六日 四、〇〇 九月六日 七、一五 十月八日 七、二〇
三	一尺五寸區	同	同	七月六日 〇、八三 八月六日 四、四〇 九月六日 六、九〇 十月八日 八、二〇
四	二尺區	同	同	七月六日 〇、七五 八月六日 四、二〇 九月六日 九、六五 十月八日 九、七〇

莖葉の繁茂最も旺盛なりしは二尺區にして株間の狭きに従ひ成育次第に劣れり

三、收穫量(反歩改算量)

番號	區	別	諸	收	量	收	量	比	例	前	年	收	量
一	一尺區	區	諸	收	量	收	量	比	例	前	年	收	量
					四、五三、〇〇〇 ^實				八、八、七				五、〇〇、九三〇 ^實

二	一尺二寸區	五〇・六〇〇	一〇〇・〇	三八七・九〇七
三	一尺五寸區	四三、八〇〇	八五・〇	三六、三七九
四	二尺區	三〇・六〇〇	六四・七	三四三・二五六

右の成績に依れば收量に於ては一尺二寸區最も多く一尺區及一尺五寸區之に次ぎ二尺區最も少く諸の形狀は一尺區は小さく二尺區は往々甚だ大なるものありて不齊となり一尺二寸區及一尺五寸區は其の大小中庸にして齊一なること前年に同じく従つて甘藷の株間は一尺二寸乃至一尺五寸となすを以て適當となすが如し

移植法比較

本比較の目的は甘藷を移植するには如何なる方式及處理法により採苗及挿苗するを可とするやを知らんとするにより其方法左の如し

一、方法

番號	區別	摘	要	挿植期
一	釣針挿區	普通の標準方法にて苗を船底形に挿植す		五月九日
二	水平挿區	苗を水平に挿植す		同
三	蛸挿區	苗を種藷と共に方一間の高壟上に移植す		同
四	斜挿區	苗を斜に挿植す		同
五	三日間貯苗區	苗を移植前三日間客室に貯ふ		五月十二日

六	一週間貯苗區	苗を移植前一週間密室に貯ふ	五月十五日
七	假植區	苗を濕地に假植し置き本圃に雨濕あるを俟つて移植す	五月九日假植 六月三日移植
八	切蔓區	長く成長せしめたる苗を約八寸の長さに切截して苗となす	五月九日
九	搔蔓區	苗を種薯より搔き取る	五月九日

備考 圃地は砂質壤土、供用品種は元氣、栽培面積は各區十歩

二、生育狀況

番號	區別	收穫期	蔓長 (平均)			
			七月六日	八月六日	九月六日	十月八日
一	釣針插區	十月廿四日	〇、九二 ^尺	三、七〇 ^尺	七、四五 ^尺	七、八〇 ^尺
二	水平插區	同	〇、八七	三、七〇	六、一五	七、〇〇
三	蛸插區	同	一、五五	五、二〇	七、六五	一〇、二〇
四	斜插區	同	〇、九五	三、八〇	八、五〇	八、五五
五	三日間貯苗區	同	〇、九二	三、六〇	六、六五	九、二〇
六	一週間貯苗區	同	一、〇三	四、〇〇	七、一〇	九、三〇
七	假植區	同	〇、七二	三、五〇	六、九〇	七、五五
八	切蔓區	同	〇、六七	四、一〇	六、五〇	九、一五
九	搔蔓區	同	一、二三	三、六〇	八、六〇	九、〇〇

三、收穫量一反步改算量

番號	區別	諸收量	收量比例	前年收量
一	釣針插區	五〇,四〇〇 ^實	100.0	—
二	水平插區	四五七,二〇〇	八二.六	三五,二〇〇 ^實
三	蛸插區	三三,二〇〇	五五.九	—
四	斜插區	四七五,五〇〇	八四.九	四四四,六〇〇
五	三日間貯苗區	四八三,三〇〇	八六.二	三七三,四〇〇
六	一週間貯苗區	四四六,七〇〇	七九.七	三八三,六〇〇
七	假植區	四二,七〇〇	七五.四	二九八,〇〇〇
八	切蔓區	三八五,八〇〇	六八.八	三六四,〇〇〇
九	搔蔓區	五〇,一九〇〇	八九.六	四二〇,四〇〇

備考 蛸插區は其親諸も著しく生長したれば其量も收量中に加へたり但し親諸の品質は甚劣等なり

本年の成績によれば插方の形式に於ては標準なる釣針插區の收量最も多く斜插區水平插區之に次ぎ蛸插區は最も少くして釣針插區の五割五分餘に過ぎず又移植前に於ける苗の處理法に於ては三日間貯苗區最も多く一週間貯苗區之に次ぎ假植區最も少し而して何れも釣針插區の採苗後直ちに挿植したるものに及はず又採苗の方法としては搔蔓區は切蔓區に優れ

りと雖も是亦普通の方法に依れる釣針挿區に及ばざること遠し故に甘藷は釣針挿を最も有利なりとなすものゝ如し

馬鈴薯

馬鈴薯作耕種の梗概左の如し

播種 種薯は特に採種用として晚播(六月下旬下種 十月下旬收穫)したるものを用ひ四月下旬乃至五月上旬

一反歩約二十五貫の割にて粘土地にありては一間幅の高壟上に二尺の横畦を作り砂質地にありては畦幅二尺の平畦とし株間一尺二寸として原肥の傍らに下種す

肥料 原肥として一反歩に付堆肥三百貫、木灰十貫の割合にて播條内一尺二寸を隔て、之を施し尙補肥として五月廿六日に人糞尿百貫を稀薄液として根邊に埋施せり

間引 發芽後五月廿六日莖數の過多なるものは間引きて一株二本とす

除草 五月卅一日、六月五日の二回に之を行ふ

中耕 五月卅一日、六月五日の二回に之を行ふ

摘花 六月中旬より發蕾するに従ひ隨時之を摘除す

收穫 八月上旬莖葉老熟土地乾燥の際に於て之を行ふ

品種比較

馬鈴薯は比較的土を選び、殊に能く寒地に適し栽培容易且豊産にして人畜の食料に適するのみならず農産製造用として用途甚だ廣く必要且有利なる作物なるが故に數年來之が優劣を比較せり

一品種栽培面積各區一畝歩

品	種	種子取寄先	當場栽培年次
長崎赤	長崎赤	長崎縣	七年
長崎白	長崎白	長崎縣	七年
アールローズ	東京府	同	同
グリーンマウンテンオブシカゴマーケット	同	同	同
アールビーユーチイオアヘアロン	京畿道 蕪島	同	五年
スノーフレキ	同	同	同
ルラルニユーヨーク	北海道	二	年
アメリカンウオンダー	京畿道 蕪島	一	年
ホワイトシチ	北海道	同	同
在來淡紅	咸鏡南道 元山	同	同
在來淡黃	同	同	同

二、生育狀況

品	種	下種發芽開花收穫
長崎赤	赤	四月二十九日 五月十五日 六月十二日 八月四日

ア	ー	リ	ー	ロ	ー	ズ	四八二、〇〇〇	八三、五	三四五、八〇〇	四四八、二〇〇										
グ	リ	ン	マ	ウ	ン	テ	ン	オ	ア	シ	カ	ゴ	マ	ー	ケ	ツ	四〇三、〇〇〇	六九、八	三二五、〇〇〇	四二一、〇〇〇
ア	ー	リ	ー	ビ	ユ	ー	チ	イ	オ	ア	ヘ	ア	ロ	ン	五七二、〇〇〇	一〇〇、〇	二二九、二六九	四四七、五四		
ス	ノ	ー	フ	レ	ー	キ	三三二、〇〇〇	五四、一	二六六、二〇〇	三五八、八〇〇										
ル	ー	ラ	ル	ニ	ユ	ー	ヨ	ー	カ	三六〇、〇〇〇	六二、四	二二一、六七	三九八、八〇〇							
ア	メ	リ	カ	ン	ウ	オ	ン	ダ	ー	二六二、〇〇〇	四五、二	一	一							
ホ	ワ	イ	ト	シ	チ	ー	三三七、〇〇〇	六七、一	一	一	一	一	一							
在	來	淡	紅	四一、〇〇〇	三七八、〇〇〇	五五、五	六、四	一	一	一	一	一	一							
在	來	淡	黃	四一、〇〇〇	六、四	一	一	一	一	一	一	一	一							

本年の成績に依れば「アーリービューチイオブヘブロン」の收量最も多く長崎赤「アーリーローズ」に次ぎ在來淡黄「グリーシマウンテン」「ホワイトシチー」在來淡紅「ルーラルニューヨーカ」長崎白等相順次し「スノーフレーキ」「アメリカンウオンダー」等の收量は甚少し而して之を累年の成績に見るに長崎赤「アーリーローズ」「アーリービューチイ」及「グリーンマウンテン」は收量多く「スノーフレーキ」は品質比較的良好なりとす

覆土深淺比較

本比較の目的は馬鈴薯下種の際種子に對する覆土の深淺は其發育の良否及收量の多寡に如何なる關係あるやを知らんとするにあり

寸區に比し一、二日間早く、收量は三寸區最も多く四寸區及二寸區順次之に次ぎ一寸區は最も少し之を前年の成蹟と對照するに畧一致せり故に馬鈴薯種子の覆土は三寸乃至四寸を以て適當となすものゝ如し

牧 草

家畜の改良は牧草の良否と密接の關係あり故に當場に於ては朝鮮の風土に適せる牧草を選擇せんと欲し創立以來種子を内外の各地に求め數十種を試作せり本年に於ける成蹟左の如し

一、栽培及生育狀況

圃地は壤土にして肥沃且排水及灌漑の便を計り幅一間の高壟とし其一區面積を五歩とす

肥料 一反歩量、禾本科にあつては堆肥二百貫、人糞尿約二百五十貫、豆科にあつては堆肥二百貫及木灰約十貫を冬季に施せり

手入 發芽後秋季に至る迄數回の除草を行ひたり

收穫 一部分は花盛りに刈取りて乾草量を秤量し他は種子を成熟せしめて之を採取せり冬季中寒害を被むりしと春季低溫なりしとにより發芽遅延し前年に比し遅るゝこと十餘日に及び其後の生育亦低溫の爲に進まず收穫期の遅るゝこと亦前年に比し十數日なりき今年年の生育狀況を表示すれば左の如し

見本園牧草生育調査

品	種	發	芽	出穂又は 開花始め	開花盛	種子成熟	草	丈	(平均)
							五月	六月	六月
							六日	六日	六日

オールチャードグラス(禾本科)	三、二五	五、一九	六、二二	七、七	〇、八七	二、九〇
チモシーグラス(同)	三、二六	六、四	七、三	七、二六	〇、九八	三、〇〇
レッドトツブグラス(同)	三、二八	六、一	七、三	八、二	〇、七〇	二、〇〇
トールフェスキューグラス(同)	三、二六	五、二五	六、三	六、三〇	一、四五	三、五五
トールオートグラス(同)	三、二七	五、二二	六、三	六、二九	〇、九七	三、六五
ケンタッキーアリエーグラス(同)	三、二三	五、七	五、二七	六、一九	〇、六四	二、六〇
カナダブリューグラス(同)	三、二六	五、七	六、三	六、二三	〇、八六	二、一五
コンモンライグラス(同)	三、二七	五、一八	六、二九	八、八	〇、五五	一、六〇
ウエスタンライグラス(同)	三、二五	六、二	七、三	八、一	〇、六九	一、五〇
メドーフォックステールグラス(同)	三、二五	四、二五	五、二二	六、一九	〇、六五	三、〇〇
ウエアローゼトレスバ(同)	三、二七	五、一八	六、七	七、二〇	〇、五七	二、六〇
レッドホアクレツピング ルーテツドフェスキューグラス(同)	三、二七	五、一四	六、四	六、二四	〇、七〇	二、四五
スウィートベアチルグラス(同)	三、二七	五、九	五、二七	六、二四	〇、三四	一、二〇
フイーンレアベツトシーグラス フェスキューグラス(同)	三、二五	四、二六	五、二七	六、一九	〇、九〇	一、八〇
チエウイングスフェスキューグラス(同)	三、二六	五、三	六、三	六、二九	〇、六三	二、二〇
クリーピングベンダグラス(同)	三、二七	六、五	七、三	八、二	〇、五七	二、三〇
トールメドーフェスキューグラス(同)	三、二六	五、二六	六、二九	七、二〇	一、〇九	三、〇五
コツクスフートグラス(同)	三、一九	五、一九	六、二二	七、七	〇、八五	二、九〇

田作成蹟 牧草

ロースタルケツトメドーグラス(同)	四、一六	五、七	五、二七	六、一九	〇、七六	二、四〇
エリームスグイアギニクス	三、一五	七、九	七、三〇	八、二七	一、一六	三、〇〇
ツアーサレムチクス(同)	三、一七	五、二八	六、三〇	—	〇、九二	二、九五
クウキツクグラス(同)	三、一三	五、一	五、二七	六、一九	〇、四五	一、〇〇
麝香 牧草(同)	三、一四	五、二八	六、一三	七、二〇	〇、五五	一、二〇
赤ツメグサ(荳科)	三、一三	五、二四	六、一三	六、二三	〇、四六	一、六〇
アルサイクロヅア(同)	三、二二	五、二〇	六、一七	六、二三	〇、三〇	一、一五
白ツメグサ(同)	四、一八	八、五	九、一〇	一〇、二六	〇、三五	二、三〇
胡枝子(同)	五、一四	七、二七	八、一三	九、二〇	—	〇、一三
カワラケツメイ(同)	四、一六	六、二九	七、一五	—	〇、五三	二、二三
カラスノエンドウ(同)	三、一六	六、二	六、二〇	—	一、一〇	二、七五
アルファアルファ(同)	三、一六	六、六	六、一九	八、一	二、三〇	三、三五
白色スキートクロバー(同)	三、一七	五、一三	六、二一	七、二〇	〇、四五	二、〇〇
ヘラオホバコ						

二、收穫量

品名	刈取期	刈取當時		刈		一反歩	乾草	前年乾草收量	累年平均乾草收量
		草丈平均	坪	生草量	乾草量				
オールチャードグラス	六、二二 ^日	三七〇 ^尺	三、四六三 ^貫	〇、八三五 ^貫	一、〇三八、九 ^貫	二四七、五 ^貫	二七〇、 ^貫	一七〇、 ^貫	(四年)
チモシーグラス	七、三	四、二〇	二、六二〇	〇、九〇〇	七六六、 ^貫	二七〇、 ^貫	三六〇、 ^貫	二七六、三 ^貫	(同)

レツド トツブ グラス	七、三	三、二一	一、七七〇	〇、六二〇	五三一、	一八六、	三二、	(三三〇、四)
トールフ エスキュー グラス	六、一三	三、七〇	四、一三五	〇、八九二	一、二四〇、五	二六七、六	—	(三三五、)
トール オート グラス	六、一三	三、八〇	二、一三〇	〇、七五八	六三六、	三三七、四	二九七、	(二二二、)
ケンタツキープリユー グラス	五、二七	一、九九	一、六四〇	〇、四六九	四九二、	一四〇、七	一七四、	(一三三、)
カナダ ブリュート グラス	六、一三	二、二〇	一、一五六	〇、四三六	三四六、八	三三一、四	三一九、	(二二二、)
コンモン ライ グラス	六、二九	二、五〇	〇、八九〇	〇、二四〇	二六七、	七三、	二六、	—
ウエスタン ライ グラス	七、三	三、四〇	一、一四〇	〇、三八〇	三四二、	一一四、	一七四、	—
メドーフ オツクス テール グラス	五、二二	二、二五	一、〇七〇	〇、三二〇	三二一、	九六、	九六、	—
ウエア ルロー セト レスベ	六、七	二、六〇	一、五五五	〇、三九五	四六六、五	一一八、五	—	—
レツド オア クレツピン グラス	六、一四	二、五〇	一、八四五	〇、五四七	五五三、五	一六四、一	三三、	—
スウイート ベアネル グラス	六、五	一、四〇	一、〇〇〇	〇、二五〇	三〇〇、	七五、	二四、	—
フイーン レア ペツド	五、二七	一、八四	〇、九五〇	〇、三四八	二八五、	一〇四、四	一一六、	—
シープ スフ エスキュー グラス	六、一三	二、三〇	一、六九三	〇、四八一	五〇七、九	一四四、三	一五三、	—
チエウ インダ スフ エスキュー グラス	七、三	三、一五	二、〇五〇	〇、七五〇	六一五、	二三五、	二九四、	—
クリーピング ベンド グラス	六、二九	四、二〇	一、二六〇	〇、三二五	三七八、	九四、五	二五八、	—
トール メドーフ エスキュー グラス	二、二二	三、九〇	二、三三〇	〇、五九四	六九六、	二七八、二	二九一、	—
コツクス フート グラス	五、二七	一、八五	一、一八七	〇、四〇三	三五六、一	一一〇、九	一六五、	—
ロースタル ケツト メドーフ グラス	六、一四	三、二〇	二、一五五	〇、七九九	六四六、五	二三九、七	五三三、	—
エリム スグアイア								
ギニクス ヴァーサレム チクス								

田作成蹟 牧草

クウキツクグラス	六、三〇	三、二〇	二、九六四	〇、五九〇	八八九、二	一七七、	—	—
麝香牧草	五、二七	一、七〇	一、〇二五	〇、二七五	三〇七、五	八二、五	二七、	—
赤ツメグサ	八、二七	六、二五	六、四五〇	〇、二〇二	二、五九五、	四九四、一	五七、八	四三、八 (四年)
アルサイクロパー	八、二七	六、八五	六、二七八	〇、四八七	一、一三九、四	三三七、一	四八、五	二六、二 (同)
白ツメグサ	八、二七	六、一五	六、二〇〇	〇、二五〇	一、五〇六、	三二四、七	二七九、	—
胡枝子	九、一四	三、七五	〇〇、八九七 〇〇、九五七 〇〇、四三〇	〇〇、二五五 〇〇、三五〇 〇〇、一五〇	六八四、六	二三〇、五	二一九、三	二六四、二 (三年)
カワラケツメイ	八、二三	二、〇〇	一、五五〇	〇、五六三	四六五、	一六八、九	一八三、三	—
カラスノエンドー	七、一五	三、五五	〇〇、九九五 〇〇、五二〇	〇〇、二八一 〇〇、一四一	四五四、五	二七七、八	一七一、	—
アルファルファ	七、一五	三、一〇	三、一五〇	〇〇、二七七	八八五、	二二八、一	四〇五、	—
白色スキートクロパー	五、三〇	二、五七	二、六三五	〇、四八五	七九〇、五	一四五、五	—	—
ヘラオホバコ	六、二二	二、五五	二、七四七	〇、四九〇	八二四、一	一四七、	一七九、四	—

右表に依れば本年の成績も畧前年に同じく禾本科に於て乾草收量最も多きは「チモシー」にして「トールフェスキュー」及「オールチャード」之に亞ぎ「エリームス」「トールオート」「クリーピングベンド」等相順次し品質は「チモシー」「オールチャード」「レッドトツブ」等優良にして又「トールオート」は耐旱力強き點に於て他に優れり

次に荳科牧草は赤「ツメグサ」の收量最も多く品質亦佳良なること前年の如く、白「ツメグサ」及び「アルサイクロヴァー」は之に次ぎ胡枝子は性質強健土地を擇ばずして能く繁茂し青刈として

の收量少からざるが故に朝鮮に於ける牧草として利用の價値あるものと云ふべし

青刈大豆

大豆は能く朝鮮の風土に適し乾濕に耐へて能く繁茂し肥料を要すること少なく之を青刈として牧草に供する時は滋養に富み無比の良飼料となる故に常場に於ては毎年青刈大豆の栽培を試みたり本年の成績左の如し

播種 品種は端川種にして一反歩一斗五升の割にて畦幅二尺に條播す

肥料 一反歩量堆肥百貫木灰二十貫を用ふ發芽後二回の中耕を行ひ花盛期に至りて刈取乾燥す其生育狀況及收量左の如し

圃地	播種期	發芽期	收穫期	一反歩收量	前年收量
砂質壤土	四月十五日	五月一日	八月一日	生草量 四九二〇〇 乾草量 二五五〇〇	八七一五〇

播種後低溫なりしを以て生育遅緩し收穫期恰かも雨季に會せしかば乾燥に困難を感じたり然れども生育期中雨濕潤澤にして繁茂不良ならざりしが爲に收量前年に優れり

大麻

大麻作耕種の梗概左の如し

播種 纖維用は四月二日畦幅六寸に條播す種子量は一反歩に付六升にして採種用は同日

畦幅二尺に條播す其の量は一反歩に付二升とす

肥料 一反歩用量次の如し

採種用區	纖維用區	區別	堆肥	過磷酸石灰	木灰	荏油粕
100,000	100,000			5,000	10,000	20,000
				1		1

手入 間引は五月三日五月十一日の二回に之を行ひ採種用は株間を約五寸とし毎回ホム
 を用ひて地表を膨軟ならしめ纖維用は株間を約二寸となす除草は間引毎に之を兼行し
 採種用にありては八月廿四日尙一回之を行へり中耕は纖維用には間引の際ホムにて表
 土を膨軟ならしめ少しく株邊に培土するに止めしも採種用は更に五月十四日及五月廿七
 日の二回に鋤を以て培土せり又麻莖の傾倒を防がんが爲に六月廿七日周圍に繩を張れり
 除害 五月中旬鋸蜂の發生多く葉身を喰害すること甚しきを以て同下旬六月上旬及中旬
 の三回に捕殺及び除虫菊石鹼合劑の撒布を行ひ又六月上旬より螟虫發生せるを以て被
 害葉は屢摘採燒却して之が驅除に勗めたり
 收穫及調製 纖維用は中部以下の葉漸く凋落し莖部の稍黄色を帶ぶるを度とし纖維の長
 短により上下に區別し引き抜きて葉を拂ひ兩端を截り揃へ小束となし直ちに麻風呂を
 以て浸湯を行ひ後天日に曝乾すること約三日其の間夜間は結束して室内に收め其の乾
 了するを埃ち再び浸湯を行ひ更に曝乾一日にして乾了す斯くして乾莖は九月に入り稍
 や秋冷を催ふすを埃ち農閑に於て隨時製造に着手せり採種用は種子の熟するを待ち稍
 端を刈り後熟乾燥せしめて脱粒調製し本莖より劣等なる纖維を採收せり

品種比較

大麻は朝鮮に於て被服其の他の原料として缺くべからざるものに屬し各地多少の栽培を見
ると雖も品質劣等なるが故に内地の良種を移入し在來種ととも之が比較栽培を繼續せり
本年の成績左の如し

一、品 種

品 種	種 子 取 寄 先	當 場 栽 培 年 次
朽 木	朽 木 縣	六 年
全 州	全 羅 北 道	三 年

備考 圃地は砂質壤土播種期は四月二日栽培面積は各區半畝歩

二、生育狀況

品 種	發 芽 期	收 穫 期	草 丈 (平 均)			
			五月六日	六月六日	七月六日	八月六日
朽 木	四月十日	八月六日	〇、五 ^尺	三、五 ^尺	六、〇 ^尺	八、五 ^尺
全 州	同	同	〇、五	三、五	五、七	八、〇

播種當時晴天多く土地乾燥に失して發芽遅延し加ふるに天鷲絨金龜子及象鼻蟲の爲に幼芽
を蝕害せられたるを以て四月十五日補播を行へり次で五月中旬に鋸蜂の發生夥しく多少生
長を抑制せらるるに至りしも驅除に努めしを以て被害を免れ六月中旬生育頓に旺盛となり

しが當時再び螟虫の發生せるあり麻莖の繁茂とともに蔓延し被害稍重く加ふるに七月下旬より八月上旬に亘りて雨なく乾燥甚だしかりしにより終に充分なる生育を遂ぐるを得ずして成熟せり

三、收穫量(一反歩改算量)

品 種	等 級	收 量				前年精苧收量	累年平均精苧收量
		生 莖	量 乾	莖	量 精 苧		
全 州	下	一四、〇〇〇	一六二、〇〇〇	一〇、五〇〇	一九、八〇〇	一五、二五〇 (二年)	
	上	三九、〇〇〇	二五九、〇〇〇	一〇、八〇〇	一八、一五〇	一六、六六九 (六年)	
朽 木	下	一〇五、〇〇〇	一五九、〇〇〇	一〇、八〇〇	一八、一五〇	一六、六六九 (六年)	
	上	三九五、〇〇〇	二五九、〇〇〇	一〇、八〇〇	一八、一五〇	一六、六六九 (六年)	

右の成績によれば本年は兩種とも收量に大差なく前年に比し八、九貫累年平均に比し五、六貫の減收を示し品質は朽木種遙に優良なり

施肥期比較

本比較の目的は大麻の施肥は其の時期に依り結果に如何なる關係を及すやを知らんとするにあり其の方法左の如し

一、方 法

番 號 區 別

- 一 前年より施肥し置きたるもの

二 播種と同時に施肥したるもの

備考 供用品種は朽木播種期は四月二日栽培面積は各區二十歩

二、生育狀況

番號	區	別	發芽期	收穫期	草丈 (平均)
一	前年より施肥し置きたるもの	同	四月十日	八月六日	六尺 二尺八寸
二	播種と同時に施肥したるもの	同	同	同	五尺五寸 七尺八寸

前年より施肥し置きたるもの繁茂常に優秀なり

三、收穫量(一反歩改算量)

番號	區	別	生莖量	乾莖量	精莖量	前年精莖收穫量
一	前年より施肥し置きたるもの	同	四六、〇〇〇 ^貫	一五、七五〇 ^貫	一三、三〇〇 ^貫	一八、一五〇 ^貫
二	播種と同時に施肥したるもの	同	二二、〇〇〇	九、七二〇	一〇、二〇〇	一〇、二〇〇

右の成績によれば前年より施肥し置きたるもの收量遙に優り品質亦優良にして大麻の施肥は前年に於てするの得策なるを示せり

棉

棉作耕種の梗概左の如し

播種 五月一日に一反歩二百貫の割にて畦幅二尺に條播し薄く土を覆ひ踏壓す
 肥料 一反歩用量過燐酸石灰五貫木灰十貫とし播種に先だちて播條の傍に埋施す
 間引 六月十三日及六月三十日の二回に之を行ひ株間平均五寸とす
 除草 五月二十二日六月十三日及六月三十日の三回に之を行ふ
 中耕 七月十一日及七月十八日の二回に之を行ふ
 摘心及摘芽 陸地棉に限り之を行ふ摘心は八月十五日及二十八日の二回に腋芽の摘除は
 九月九日に之を行ひ更に九月二十八日に至り結果したる枝條のみを残し結果せざる枝
 條は鋏を以て全部剪除して成熟を促せり

品種比較

朝鮮南部に於ける陸地棉の朝鮮在來種に比し遙に優れるは已に明なるも其の栽培區域の果
 して能く京畿道方面に及ぼし得るや否やを確めんとし數年來之を比較栽培せり今其の成績
 を擧ぐれば次の如し

一、品種

番號	品 種	號	名	種子取寄先	當場栽培年次	栽培面積
一	朝鮮在來種	水	原京畿道水原	七	年	〇.二六 <small>歩</small>
二	支那種	通	州支那通州	同	同	〇.一五
三	陸地棉	繼續種	大阪府	同	同	一.〇〇

四 同

シヤインスマアーリー
プロリフィック

北米合衆國 同

1.00

備考 播種期は五月一日

二、生育狀況

番號	品 種	發 芽 開 花	開 絮 始	收 穫 始	草 丈 (平均)			枝 椹 數 (平均)				
					六月六日	七月六日	八月六日	七月六日	八月六日	九月六日		
一	朝鮮在來種	五月十一日	七月三十日	九月二十四日	十月十日	〇、一五	〇、三〇	〇、八〇	一、七五	四本	八本	一四本
二	支 那 種	五月十二日	八月五日	九月二十七日	同	〇、二〇	〇、三〇	〇、七〇	一、六三	五	七	一三
三	陸 地 種 繼續種	五月十四日	八月三日	九月二十五日	同	〇、二〇	〇、三〇	〇、八〇	一、五〇	五	七	一〇
四	同 シヤインスマ種	同	八月四日	同	同	〇、二〇	〇、四〇	〇、八〇	一、四〇	五	七	一〇

播種後雨濕適度を得て發芽良好なりしも其の後の氣温稍低く加ふるに炭疽病の莖葉を侵すあり殊に八月中旬以後約一個月間の早天ありて生育甚だ遅れ繁茂亦不良隨つて開花開絮共に甚だ遅延せり然れども成熟期の天候稍溫暖乾燥なりしを以て總かに酷だしき凶作を免がるるを得たり

三、收穫量(一反歩改算量)

番號	號	名	十 月 中	十 一 月 中	計	收 量 比 例	累 年 平 均 收 量
一	朝鮮在來種		六、九五 ^實	六、三六 ^實	一三、八一 ^實	八五	二、七二六 ^實 (七年)

右の成績によれば收量は繼續種最も多く「シャインス」種朝鮮在來種之に次ぎ支那種最も少し四品質及び繰綿歩合(各百々に付)各種に就き品種を分ち其良綿に付繰綿量を調査せしに其の成績左の如し

番 號	名	良	綿	屑	繰		歩	合
					正	二		
一	朝鮮在來種	九六、五 ^分	三、五 ^分	一五、四 [%]	二五、八 [%]	(七年)		
二	支那種	九七、〇	三、〇	三四、〇	三、五	(五年)		
三	繼續種	九七、五	二、五	三四、四	三、三	(六年)		
四	シャインス種	九六、五	三、五	三四、二	一六、八七五 ^(七年)			
二	支那種	四、一六〇	七、二〇〇	一一、三六〇	七		二、一〇九 (五年)	
三	繼續種	九、八七〇	五、六一〇	一五、四八〇	一〇〇		一六、七五三 (六年)	
四	シャインス種	九、八二〇	四、五六〇	一四、三八〇	九三		一六、八七五 (七年)	

右の成績によれば陸地棉は收量繰綿歩合ともに多しと雖も其の栽培に注意と努力を要すること甚しく水原地方に於ける農家に推奨し難きの憾あり之に反し在來棉は收量繰綿歩合ともに較や少しと雖も性質強健栽培容易にして豊凶の差少しとす

煙 草

煙草作耕種の梗概左の如し

一 苗 床

播種は三月十九日床温適度に發したるを見計ひ之を行ふ苗床の蒸熱材料は一坪に對し藁屑二十貫廐肥三十貫米糠三升及人糞尿半荷(水を加へ二倍して用ゆ)にして播種肥料は苗床一坪に付大豆粕一升荏油粕一升五合腐熟堆肥三斗五升を用ひ本圃一反歩に對し内地種及朝鮮種は四坪土耳其種は五坪其他は三坪を準備し一坪の種子量は朝鮮種及内地種は各四分乃至五分米國種は五分土耳其種は七分と定めたり

管理 播種後は土地の乾濕に注意し給水は午前十一時前後に行ひ發芽するに及び覆藁は漸次數回に取り去り其の後被覆せる寒冷紗も第一回間引後に至り温暖なる日は二三時間之を除き殊に移植前は晝夜無覆とし以て苗を強健ならしめたり間引及除草は第一回は四月十七日第二回は四月廿八日第三回は五月六日に之を行ひ補肥は荏油粕の腐熟液を間引毎に施し尙移植前稀薄の人糞尿を施して新根の發生を促し以て生育の促進を謀れり

二、本 圃

土質 砂質壤土

肥料 肥料は土耳其種の外各種とも一反歩量堆肥二百貫灰二十貫を移植の際に施用す但し土耳其種は其の用量を半減せり

移植 移植は葉數十二枚内外の健苗を選抜し曇天を除くの外午後五時を防がんが爲め苗の傍に藁を被布し時々少量の灌水をなし苗の枯凋を防げり今移植期及移植の距離等を示せば左表の如し

燥

種名	移植期	畦幅	株間	對一反歩苗數	種名	移植期	畦幅	株間	對一反歩苗數
成川	五、 ^月 五、 ^日 三	八尺	八寸	四、五〇〇 ^本	達摩	五、 ^月 四、 ^日 三	一尺二寸	三、〇〇〇 ^本	
龍仁	同	同	同	同	指宿	五、 ^月 六、 ^日 同	八寸	四、五〇〇	
國分	同	同	同	同	バフラ	五、 ^月 一、 ^日 五	五寸	一四、四〇〇	
秦野	五、 ^月 二、 ^日 六	同	九寸	四、〇〇〇	ジンマース	五、 ^月 四、 ^日 三	二尺	一、八〇〇	
國府	五、 ^月 二、 ^日 五	同	八寸	四、五〇〇					

培土 培土は各種共に第一回を六月四日第二回を六月十一日に行へり

害虫 移植後根切蟲及蝶蝸の被害あり又七月下旬に至り蚜蟲を發生せしも何れも甚しきに至らず螟蛉亦極めて少く之が驅除は四日毎に行ひたり

收穫及乾燥 内地種朝鮮種及土耳其種にありては其の土葉及中葉は田に於て黃變したるを採取し直に繩に編みて乾燥し本葉天葉は葉色の淡黄綠色に減褪したるときを以て收穫し聯乾或は幹乾とし葉巻煙草は總て乾燥室内に於て之れが乾燥を行へり

調製 内地種朝鮮種及土耳其種は葉展を行ひ又葉巻種は絞り葉となし適宜に束ねて之を貯藏す但葉展を行ふものは其の際適度の水分を補ふ其の適量は乾葉に對し其の重量一割五分とし而して之を貯藏するに際しては其の水分の半量即ち七分五厘を發散せしむ

品種比較

累年の成績に由り内外の品種に就き將來有望と認め得たるものを選び之が優劣を比較せり

其の成績左の如し
一、品種及栽培面積

品	種	號	名	種子取寄先	當場栽培年次	栽培面積
朝鮮	刻用紙卷用種	成龍	川平 安南道 成川	仁畿道龍仁	六年	0.10 <small>畝少</small>
內地	刻用紙卷用種	秦國	野神 奈川	神奈川	同	同
		達府	府茨城	茨城	六年	同
		指摩	摩枋木	枋木	同	同
		宿鹿	鹿兒島	鹿兒島	三年	0.10
土耳其種	紙卷用	バフ	茨城	茨城	七年	0.075
米國種	葉卷用	ジンマース	同	同	同	0.10

二、生育狀況

號	名	發芽	發蕾	收穫期に於ける生育狀況				葉形	收穫期					
				草丈	葉長	葉幅	葉柄	葉數	上葉	中葉	籾乾本葉	同上	天葉	幹乾刈取
成川	龍仁	三月三日	七月八日	四尺	一尺三	〇尺六	〇尺七	二六五	八月一日	八月七日	八月四日	八月四日	八月九日	
龍仁	同	同	同	四尺〇〇	一尺五六	〇尺六三	〇尺一七	二〇〇	同	同	同	同	同	

田作成蹟煙草

國分	秦野	國府	達摩	指宿	バブラ	ジンマース
四、一	同	三、三	同	同	三、三〇	同
七、五	同	七、八	七、三	七、六	七、一〇	七、八
五、五〇	五、〇〇	五、二〇	四、五五	五、一〇	二、七五	二、三〇
一、二二	一、六〇	一、三二	二、〇七	一、三五	〇、七五	一、七五
〇、九二	一、二七	〇、八四	一、二〇	〇、九六	〇、四一	〇、九〇
〇、二三	〇、二六	〇、二七	—	〇、一七	〇、〇六	—
二、三〇	二、三五	一、八五	二、四〇	二、三〇	三、三〇	一、四〇
心臓	卵	劍尖	尖橢圓	卵	劍尖	披針
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
八、二六	同	八、二四	同	同	八、八	八、一〇
八、二七	同	八、二四	同	同	八、八	八、三
八、二	同	八、九	同	同	—	—

移植當時雨濕多く苗の生着佳良なりしも氣溫甚だ低かりしが故に其の後の生育進まず六月に入り氣溫漸く高く生育初めて旺盛となれり次で七月中旬より霖雨の爲再び生育を妨げられしも同下旬より八月上旬に至る收穫期に際し晴天多く氣溫亦高かりしを以て頗る良好なる成熟を遂げたり然れども八月下旬の乾燥期に於て連日の旱天に加ふるに乾燥なる西北風を以てし爲に作業甚だ困難となり多少品質を損するを免れざりき

三、收穫量一反歩改算量)

號	名	土葉		中葉		本		天		計	前年收量	前六個年 平均收量
		聯	乾	聯	乾	聯	乾	聯	乾			
成	川	二、七〇〇	六、〇〇〇	一五、九〇〇	一〇、八〇〇	二、四〇〇	〇、六六〇	三六、四六〇	三六、八〇〇	三六、八〇〇	三六、八〇〇	三六、六五五 (前五ヶ年)
龍	仁	二、一〇〇	四、八〇〇	一三、八〇〇	一三、四〇〇	一、五〇〇	一、〇五〇	三五、六七〇	三六、七〇〇	三六、七〇〇	三七、三三〇	三七、三三〇
國	分	二、四〇〇	五、二五〇	一三、六〇〇	二、八七〇	一、五〇〇	三、五七〇	四七、一九〇	四六、六五七	四六、六五七	四六、六四三	四六、六四三

四。品質調査

各種の品質を調査せしに左表の如し

秦野	國府	達摩	指宿	バフ	ジンマース
三、六〇〇	二、五五〇	三、一五〇	三、〇〇〇	〇、八〇〇	三、〇〇〇
七、八〇〇	四、九五〇	七、二〇〇	八、五五〇	八、八〇〇	五、一〇〇
一三、五〇〇	一一、七〇〇	一三、三五〇	二、九〇〇	一七、四八〇	一七、一〇〇
二七、二二五	二二、二八〇	二六、七二五	一、五二〇	—	—
一、一五〇	一、〇五〇	一、八〇〇	六、〇〇〇	二、〇八〇	三、三〇〇
三、一五〇	二、五六五	二、五六五	一、四四〇	—	—
五六、六二五	四六、〇九五	五四、七八〇	五五、四五〇	二九、一六〇	二八、五〇〇
五五、七七六	四一、〇四〇	六〇、七〇〇	四七、五〇〇	三一、九二〇	三三、〇〇〇
五七、三五二	三八、四九三 (前五ヶ年)	五六、二五五 (同)	四九、一七八 (前二ヶ年)	三五、四四八	三四、八六七

成川	龍仁	國分	秦野	國府	達摩	指宿	乾燥葉五枚平均		中骨	葉骨葉の	厚薄	弾力	色	澤	香氣	喫	味	灰色	火付	保火	品位	順
							葉部	中骨計														
一八四	一五三	一七七	二、三〇	二、二二	四、三三	一、九八	〇、六二	二、四五	二、五	細	〇、二三	稍乏	淡褐	少	柔にして 較舌に觸る	淡白	良	〇、三五	分	六		
〇、六二	〇、六五	〇、五二	〇、七二	〇、五九	一、八二	〇、六七	二、二七	三、〇	三、〇	剛	〇、二〇	乏	濃褐	無	柔にして微か に喉を刺す	同	稍良	〇、〇六	分	八		
二、二七	二、二六	二、二六	二、二五	二、二二	二、八	二、二五	二、二八	二、二	二、二	同	〇、〇三	稍乏	黄褐	稍有	柔軟にして 佳良	同	同	〇、〇八	分	二		
二、二八	二、二六	二、二五	二、二五	二、二二	二、八	二、二五	二、二七	二、二	二、二	同	〇、〇三	有	黄褐	少	柔軟なれども 後僅に舌を刺す	同	同	〇、〇九	分	五		
二、二七	二、二六	二、二五	二、二二	二、二二	二、八	二、二五	二、二七	二、二	二、二	同	〇、〇三	有	黄褐	有	較強くし て佳良	同	同	〇、〇八	分	一		
二、二五	二、二六	二、二五	二、二二	二、二二	二、八	二、二五	二、二七	二、二	二、二	同	〇、〇三	有	黄褐	少	柔軟にして 佳良	同	同	〇、〇八	分	七		
二、二五	二、二六	二、二五	二、二二	二、二二	二、八	二、二五	二、二七	二、二	二、二	同	〇、〇三	有	黄褐	少	柔軟にして 佳良	同	同	〇、〇八	分	四		

パフ ラ	〇、四九	〇、二二	〇、六〇	一、八最細	同	〇、二三	同	濃褐 裏質良	同	柔軟にし て佳良	同	最良	一、二六	三
ジン マース	三、六三	一、八九	五、五二	三、四太	剛	〇、二五〇	乏	濃褐 裏質稍良	少	稍辛辣 を刺す	同	稍良	〇、〇九	九

右の成績に由れば收量に於ては秦野最も多く指宿達摩國分及國府等順次之に次ぎ「ジンマース」及「パフ
ラ」最も少く品質は國府國分「パフ
ラ」指宿及秦野等良好にして「ジンマース」及龍仁最も劣れり要するに内地種の概して優良なること累年の成績と殆んど一致せり

直播移植比較

本比較の目的は朝鮮の如く初夏の氣候乾燥甚しき所にては煙草は移植よりも直播を利ありとなすやを知らんとするにあり其の方法左の如し

一。方法

番 號	區	別	備 考
一	直 播	區	五月二日本圃下種
二	移 植	區	五月十七日本圃移植

備考 圃地は砂質壤土にして排水佳良供用品種は秦野栽培面積は各區十々

二、生育狀況

區 別	發 蕾 期	摘 心 期	收		稔 期	
			土 葉 中	稔 幹 刈 本 葉		
直 播	區	八月二日	八月十日	八月七日	八月十三日	九月二日

移植區 七月十五日 七月十九日 八月一日 八月七日 八月十二日

收穫當時生育調査

區別	草丈	葉長	幅	柄	葉數	葉色	整否
移植區	五、三	一、三	一、〇	〇、五	二〇同	淡黃綠色	良
直播區	三、三	一、三	一、〇	〇、八	一八 <small>枚</small>	淡黃綠色	不良

移植區は例年乾燥過度の爲め生着困難なるを常とすれども本年は當時屢々降雨あり生着及發育頗る良好なるを得たり然るに直播區は發芽當時象鼻蟲及天鷲絨金龜子等の喰害を被り且氣候例年に比し甚だ低かりしを以て生育亦振はず殊に八月上旬莖葉の柔軟なるに乘じ蚜蟲の被害甚だ多く加ふるに成熟期に方り早天に會ひたる等種々の故障の爲に遂に充分なる生育を見る能はざりき

三、收穫量一反歩改算量

區別	土葉	中葉	幹乾本葉	同上天葉	計
移植區	三、〇〇〇	六、三〇〇	三六、四〇〇	三、三三〇	五二、〇三〇
直播區	〇、二〇〇 <small>實</small>	一、五〇〇 <small>實</small>	二四、九〇〇 <small>實</small>	二、七〇〇 <small>實</small>	二九、四〇〇 <small>實</small>

右の成績によれば移植區は收量品質ともに良好なるに反し直播區は收量少きのみならず收

穫期も甚しく晩れ當時氣温既に低く爲に良好の乾葉を得る能はざりき尙試験を重ねて確むべし

薄 荷

薄荷作耕種の梗概左の如し

移植 苗は前年栽培せし圃地に秋季屑藁を覆ひ越冬せしめたる地下莖を三月下旬乃至四月上旬に掘り採り前秋及移植前各一回の犁耕を行ひて均整したる本圃に畦幅二尺に作條を設け之に三筋並びに併列し約五分の土を被ひ鋤の下面を以て軽く鎮壓し且乾燥を防がん爲めに薄く屑藁を覆ふ其の一反歩に要する苗の量は約廿五貫とす

肥料 原肥として一反歩堆肥三百貫、油粕三十貫を移植の際に施し補肥として四月上旬發芽揃のとき及一番刈取後の二回に人糞尿を二百貫づゝ畦の傍に埋施せり

手入 移植の際被覆せる藁は發芽するに及び徐に二三回に之を除去し中耕は五月下旬に一回除草は五月下旬、六月下旬、七月中旬及八月上旬の四回に之を行へり

收穫及乾燥 收穫は年二回とし晴天の日を擇び朝露の乾くを待ち之を行ふ其の第一回は夏季下葉の稍や黄變し莖質硬化したる時第二回は秋季盛花の際とす收穫物は直ちに約六七尺の長さの繩を以て適宜に編み連ね風雨を避け得る處に懸吊し蔭乾とせり

取卸製造法 蒸餾法により乾燥せる莖葉を蒸熱し水蒸氣とともに其の中に含有せる腦油分を揮發せしめて之を冷却し凝集したる蒸餾液を更らに冷却して腦油と水分とを分離するものとす腦油は更に絹布の類にて濾過し固栓して揮發を防ぎ以て貯藏す是れ即ち

取卸と稱し腦と油とを混じたるものなり

油腦分離法 取卸は一定の器に入れ清掃せる室内に静置し冬季の低温を利用して腦分を結晶せしめ後其の器を傾斜して油分を分離し更に腦分の上下面にある不純部を削り取り油中に溶解せしめ再製するものとす

品種比較兼連作栽培

薄荷は藥劑及工業原料として内外の需要少からず頗る有利の作物なるが故に其の朝鮮風土に對する適否及品種の優劣を驗せんと欲し先年來内地の主要産地より其の苗を取寄せ之を試作し併せて年々新栽するものと連作するもの、得失を知らんと欲し左の比較栽培を行へり

一、品種及栽培區別

品 種	種子取寄先	當場栽培年次	栽 培 繼 續 年 次
岡 山 縣	岡 山 縣	六 年	本年新栽 第二年目 第三年目 第四年目
山 形 縣	山 形 縣	同 年	
北 海 道	北 海 道	五 年	

備考 栽培面積は各區五步連作區の施肥は毎年秋末一反歩に付腐熟堆肥約四百貫、春季發芽前及一番刈後人糞尿約二百貫宛を與ふ

二、生育狀況

區別	移植期	發芽期	一番刈時期	二番刈時期	草丈 (平均)			
					一 番 刈	二 番 刈	一 番 刈	二 番 刈
新栽區 岡山 山形 北海道	本年 四月一日	四月十一日	七月十一日	九月廿三日	〇、六〇	一、一五	〇、九〇	一、七五
二年區 岡山 山形 北海道	明治四十五年 三月廿一日	四月七日	七月十一日	九月廿三日	一、〇〇	一、九〇	〇、四五	一、八〇
三年區 岡山 山形 北海道	明治四十四年 四月八日	四月七日	七月十一日	九月廿三日	〇、五五	〇、八〇	〇、四五	〇、八二
四年區 岡山 山形 北海道	明治四十三年 四月七日	四月六日	七月十一日	九月廿三日	〇、七〇	一、一〇	〇、五五	〇、八五
平均 岡山 山形 北海道	四月二日	四月八日	七月十一日	九月廿三日	〇、五三	一、三〇	〇、五三	一、三〇

備考 三年區は砂質土にして乾燥較や過度なり

生育の状況は品種に於ては山形種常に最も可良にして岡山及北海道は共に稍や劣り年次に於ては一番刈、二番刈共に新栽區最も秀で三年區最も劣り二年區及四年區は常に其の中位にあり病害としては三年區に銹病の發生ありて被害稍や甚し

三、收穫量(一反歩改算量)

區別	第一回			第二回			合計	前年乾草收穫量	累年乾草平均收穫量	
	生草	乾草	乾草歩合	生草	乾草	乾草歩合				
新栽區	岡山	三七〇、五	六七、五	一八、二	三九六、〇	一〇、一	二五、八	一六九、五	二八八、〇	二〇六、五
	山形	七八〇、〇	九三、〇	一三、一	五七〇、〇	一六、〇	二一、一	二九、〇	一八六、〇	二二四、九
	北海道	四九五、〇	八四、〇	一七、〇	五八五、〇	一六、〇	二一、五	二〇、〇	一九八、〇	一八六、一
二年區	岡山	九六、六	三三、五	二、三	二〇四、〇	五、四	二六、五	七六、五	八九、七	三七、九
	山形	三五七、九	六一、五	一七、二	五九四、〇	一六、〇	二一、二	一八七、五	一〇〇、五	一七一、五
	北海道	二五二、六	四二、〇	一六、六	四二六、〇	九六、〇	二二、五	一三八、〇	一七、〇	一四七、一
三年區	岡山	六五、一	二八、五	四、三	一一、〇	二七、〇	二四、三	五五、五	一六八、九	一三、二
	山形	二三五、〇	五一、〇	三、七	二〇二、〇	二七、〇	二六、五	七六、〇	二三〇、〇	一五四、〇
	北海道	九九、三	二七、〇	二、七	七五、〇	一八、〇	二四、〇	四五、〇	一八六、〇	一二五、五
四年區	岡山	三〇〇、〇	六七、五	二、五	四三五、〇	九三、〇	二一、四	一六〇、五	—	—
	山形	七三三、〇	一七、〇	一、六	六五七、〇	一四、〇	一七、四	二三一、〇	—	—
	北海道	二九七、〇	七三、五	二、四	四一〇、〇	九〇、〇	二〇、四	一六三、五	—	—

五、腦の收量

腦油の分離は原料少量なりしが故に新裁區二番刈の取卸のみに就て之を試みしに其の各種の成績左の如し

種別	取卸百分中	
	腦	油
岡山	六〇、	四〇、
山形	五二、	四九、
北海道	三五、	六五、

以上の成績によれば品種に於て岡山種は性質稍や虚弱にして收草量少く殊に本年の如き多少不順の氣候に於ては他種に比し影響最も甚しく随つて取卸量亦多からずと雖も腦の含量に至つては著しく多くして其の品種の優良なるを示し之に反し山形種は性質强健生育最も良好にして收草量多しと雖も取卸歩合少く腦の含量は中位にあり北海道種は取卸歩合甚多しと雖も其の收草量多からず腦の含量亦最も少く品種の劣等なるを表せり

要するに岡山種は性質稍や虚弱なるが故に寒地及不順の氣候に於ては生育不良なるを免がれずと雖も品種最も優良なるが故に氣候温暖なる地方に於て適地を擇び之を栽培せば最も利益あるべく山形種は品種稍や劣ると雖も性質强健にして能く不順の氣候に耐へ繁茂良好なるが故に比較的寒地の栽培に適すべく北海道種は性質强健なりと雖も品種最も劣等なるが故に栽培の價値なしとす

又連作の結果は概して不良にして收草量取卸歩合ともに減少し年々地を換へ新たに栽植するの得策なるを示せり

獎勵成績

技師 向坂幾三郎

麗達組合

麗達組合は當場監督番小作人の組織せる小作人組合にして農事の改良及組合員の利益を増進するを目的とし組合の資本は年々監督番苗代跡地の收穫米を販賣し之れを蓄積したるものを以てし之れにより肥料農具等の共同購入生産物の共同販賣を行ひ家畜耕地等農業の經營上必要なる物件を購入せんとする組合員に低利貸付をなす等農業開發上緊要なる事業を行ふものとす是れ當場小作人をして模範小作人たるの實蹟を挙げしめんとするにあり
當組合資金(共同貯金)現在額は左の如し

- 一金七百十九圓六十二錢八厘 前年迄の積立金
- 一金百七十六圓七十一錢八厘 本年度收入

但粃及藁の代金並に貸金利子

計金八百九十六圓三十四錢六厘

今茲に本年度に於ける事業の主要を擧ぐれば左の如し

一、共同購入 一月中旬在油粕百三十五玉の共同購入を行へり購入當時の價格は一玉二貫四

五百多(あり)五十六錢なりしが苗代時期に至り一玉六十六錢二厘に騰貴したるを以て組合員は一玉十錢二厘を利したり

松原鎌の共同購入を行ふ其數四百挺(組合員以外の分をも含む)に達す

一、共同販賣 組合員生産の粳早神力四十一石を共同販賣に付したり其代價一石八圓にして組合は之れが資金として一時立換金三百六十六圓六十錢を支出せり

組合員の餘業として製造せる繩及蓆の共同販賣を行へり

一、低利貸付 本年度組合員に低利貸付をなしたる金額は百七十一圓にして其内譯左の如し

目	的	擔	保	品	金	額	口	數
耕牛	購入	耕		牛		六〇〇〇		二
田地	購入	同				四〇〇〇		二
肥料	購入	同				二〇〇〇		二
結婚	費用	同				二〇〇〇		一
葬祭	費用	家		屋		一〇〇〇		一
家屋	修理	同				三、〇〇〇		二

一、種子粳の販賣 大正元年度に於ける早神力栽培成績特に良好なりしにより各地方より當組合生産早神力種子購入申込多く組合員所産のものゝみにては到底希望者を満足せしめ得ざるにより勸業模範場より同粳百石の特賣を受け以て希望者に供給せり

餘業貯金

麗達組合員中一部の者互に盟約を定め農閑を利用し毎夜十間以上の製繩又は毎月十枚以上の蓆織をなし其製作品は之れを共同販賣に附し其代金は郵便局に預け入れ冠婚葬祭等人事上避くべからざる費途若くは疾病に罹り勞働に就く能はざる場合の外使用せざるべきを誓ひ數年來之れを實行し來れり今其事業成績を見るに左の如し
 本年度に於ける貯金の總額は九十八圓三十二錢にして創設以來五百六十一圓五十八錢に達し拂戻額三百十六圓二十錢を算したり其費途左の如し

目	的	金	額	口	數
結	婚	費	二五、〇〇〇		一六
親	族	救	一六、二〇〇		一
葬	祭	費	三七、〇〇〇		三
耕	牛	購	一八、〇〇〇		一
計			三六、一〇〇		二

從來子女の結婚又は葬祭の際には多少の負債を起し辨償に苦しむもの多かりしが今や餘業貯金の餘澤により加盟者は此等費用借入の必要なきに至れり

調査成績

水稻苗の發根に關する調査

技師 向坂幾三郎

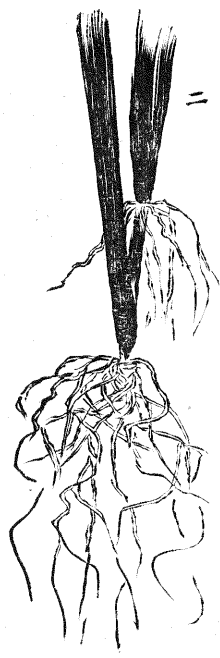
稲苗は五分乃至一寸の深さに挿植するを可とし深く之れを植付くる時は生着遅れ分蘖少なく發育亦悪しきを常とす蓋し稲苗は土中に存する最上節より發根するものにして其の節は既に苗代に於て形成せられ催根の徵を有するを以て挿秧の深淺宜しきを得るときは移植後直ちに其の節より根を出し養分の吸收を始め稲は順調の生育を營むを得べきも深植の場合には其の節の存する處地温低きを以て直ちに發根する能はず其の下に存する節間伸長し其の節をして地下適當の位置を占めしむるに至りて初めて發根するものなりとす然るに從來世人は稻を深植する時は苗は苗代に於て催根の徵ありし節より發根せずして其の上部に位し挿秧の當時恰も地下適當の位置に存する他の節より發根し從て生育遲延すと説くと雖も當場の研究するところに依れば是れ蓋し誤なるべし

抑稲苗は葉數に相當する節(子葉を除く)を有するものにして挿秧の當時七葉を開けるものは七節を具へ其の發根は初め下節に多くして上節に少なく其の最上節は挿秧の後に發根するを常とす故に淺く挿秧する時は其の節は其儘固定し直ちに發根すべきも深く挿秧する時は其の節間の伸長により發根に適する温度を有する地點にまで移動し來り茲に其位置を固定し後ち始めて發根すべきなりされば深植の苗は挿秧より生着までに稍長き時日を要するを免れざるなり之を實驗に徵するに一寸以内の深さに挿秧せし苗は總て其儘最上節より發根し生着速かなりしも二寸以上の深さに挿秧せしものは其の節は地下一寸内外の地點にまで

移動したる後發根し從て生着遅かりき試みに第七葉を開きし苗を一寸以内の深さに植付け
十餘日の後之れを檢するに第七節は第六節に接して相連り兩節共に盛に發根するを認むべ



一、普通植苗



二、深植苗

きも二寸以上の深さに植付けたるものは第
七節と第六節との間に一寸以上の間隔を生
し居るを認むべきなり上圖は根揃ひ不良な
る稻株を地際より切斷し發根の狀況を寫せ
るものにして淺植の莖は其儘發根せるも深
植のものは第六節と第七節との間伸長して
一寸一二分を計り第六節に存する根は全部
凋衰して用をなさざるを示せり

に依る思ふに地下一寸は稻苗發根の限界を示すものにして古來苗は倒れざる限り淺く之を
植へ一寸以上の深植たらしむべからずと稱するは金言たるを失はず
插秧の深淺に基く分蘖の多少生着の遲速並に發根狀況等は苗の熟否に依り大に異なる處あ
り此等は次年を期し更に調査を重ね報道する處あるべし

水稻に對する天然養分供給量調査

農林學校教諭 西村 貞良

本試験の目的は水稻に吸収利用され得べき天然供給の養分を査定し以て施肥上の参考に資せんとするにあり

抑も植物養分の主なる天然給源は風化及微生物等の作用により可給態に變せる土壤成分、雨雪中より來る窒素化合物及灌溉水中に含有する養分なりとす此等天然供給の養分の吸収利用せらるべき量は作物の異なるに従ひ相同じからざるを以て當場は水稻栽培に於て是等養分の幾何量が吸収利用せらるゝやを知らんと欲し之が査定試験を行へり

本試験は當場の地味中等なる畝に於て稻種早神力を用ひ明治四十三年より大正元年に至る三ヶ年間繼續施行せり其試験區別左の如し

區	別	肥料名及百分中の肥料成分	一 反 步 當	方 三 尺 木 框 當
窒	素	硫酸「アンモニア」	一九、二八	四、六九 _五
磷	酸	過磷酸石灰	三、三四〇	三、二三
加	里	炭酸加里	六、二六	三、二三

試験地の土壤は花崗岩の崩解風化したる壤土にして其分析成蹟左の如し

洗滌分析成蹟(風乾物百分中)

石礫合計

原土中細土百分率

一〇〇〇〇〇%

四一三耗

○

三一二"

〇、〇六二

二一一"

〇、五三七

一一〇、五"

一、八九七

〇、五—〇、二五"

二、五六五

〇、二五耗以下

六一、五九一

粗粘土分

三三、三四八

砂分合計

六六、六五二

細土中細微土百分率

九七、五〇四

原土中細微土百分率

九七、五〇四

化學分析成蹟(乾物百分中)

窒素

〇、一二七

磷酸

〇、一一五

加里

〇、二八三

石灰

一、〇七六

苦土

〇、九七九

有機物及化合水分

四、八二〇

養分吸收率—窒素

六八、三九八

一 燐 酸 三六八、三五〇

各區とも方三尺深さ二尺の無底木框二個を用ひ六月中旬一株七本每框十二株宛移植し管理は一般の水稻栽培法に準據したり而して十月中旬乃至同下旬に收穫せしに其結果次の如し(但し完全肥料區は生産物の比率のみを示す)

明治四十三年度(乾物量)

試 驗 區 別	藁		充實したる糶		空		糶		全 收 穫 量	
	框 當	一反步當	框 當	一反步當	框 當	一反步當	框 當	一反步當	框 當	一反步當
無肥料區	三〇、六 _五	九六、五 _實	三二、〇 _五	七、一 _實	三五 _五	一一 _實	五四六、一 _五	一七四、八 _實		
無加里區	五七、一	一八三、七	三六、〇	一一五、二	六、三	二、〇	九四〇、四	一三四、九		
無燐酸區	五七、五	一八一、六	三七、五	一一九、五	五、三	一、七	九四六、三	三〇二、八		
無窒素區	三九、五	一〇二、二	二六、〇	八三、八	四、五	一、四	五八六、〇	一八七、六		

明治四十四年度(乾物量)

無肥料區	二六、二 _五	九〇、二 _實	一七九、 _五	五七、三 _實	九、 _五	二、九 _實	四七〇、 _五	一五〇、 _四		
無加里區	四七、	一三六、六	一五八、	八二、六	九、	二、九	六九四、	二二二、一		
無燐酸區	四二、	一四一、四	二八二、	九〇、二	二、	三、八	七三六、	二三五、 _四		
無窒素區	二二、	九〇、二	一九五、	六二、四	九、	二、九	四八六、	一五五、 _五		

大正元年(乾物量)

無磷酸區收穫物中の磷酸

四、四三三	一、四一九	二、〇九〇	〇、六六九	二、七六三	〇、八八五	三、〇九七	〇、九九〇
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

無加里區收穫物中の加里

七七八四	二、五七〇	四、一七二	一、三五五	四、五五五	一、五二三	五、四三五	一、七三九
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

右の成績によりて之を見るに當場畚に於ける水稻に對する天然養分の一反歩當供給量は次の如し

成分	年次		明治四十三年	明治四十四年	大正元年	三ヶ年平均
	室素	磷酸				
室素	一、四二二	一、〇四〇	一、〇四〇	一、二三六	一、二三六	一、二三六
磷酸	一、四一九	〇、六六九	〇、六六九	〇、八八五	〇、八八五	〇、九九〇
加里	二、四七〇	一、三三五	一、三三五	一、四二三	一、四二三	一、七三九

次に前表中磷酸を一〇〇と假定して窒素及加里を之に比較すれば窒素は一二四加里は一七六なりとす今之を別に行ひたる完全肥料區收穫物中の三要素の比即ち磷酸一〇〇に對し窒素一五六加里一六六に對照すれば天然供給三要素の割合は磷酸に對し窒素は不足し加里は過剰なるを認むるを得べし故に無肥料にて水稻を栽培する場合には天然供給による三要素中磷酸及加里の吸収せらるべき量は最少養分率に従ひ窒素の量により制限せらるべきなり

成分	區別	天然供給の加里全量を 利用するに要する數量	天然養分供給量
窒素		一、六四三 ^貫	一、二二六 ^貫
磷酸		一、〇四八	〇、九九〇

即ち水稻をして天然供給の加里を悉く利用せしめんと欲せば更に一反歩に付窒素四百八匁
 磷酸五十八匁を補給するに足る肥料を施すの必要あり又同様の算法により磷酸の全量を
 利用するには窒素三百十八匁を補給するに足る肥料を施すの必要ありとす今此等天然供給の
 養分を充分利用し得るときは幾何の籾を生産し得べきやを知らん爲め籾一石を生産するに
 要する三要素の量を算出すること左の如し

區	別	藁	稈	充實したる籾	空	批	計
完全肥料區の全生産物百に對する藁稈等 の比率		五九、〇一%	四〇、〇六%	〇、九三%		100、	
完全肥料區の生産物百分中 窒素 磷酸 加里	窒素	〇、五四九四%	一、一三九五%	〇、九八四七%			
	磷酸	〇、三四三二%	〇、七三二七%	〇、四二五〇%			
	加里	〇、九四六五%	〇、七三六三%	〇、四二一七%			
籾一石(乾物量二十三貫)を生産するに要する藁稈及批量		三三、八六〇 ^貫	二三、〇〇〇 ^貫	〇、五三三 ^貫			

空素		磷		加里	
加	空	加	空	加	空
〇、一八六	〇、二六	〇、二六	〇、二六	〇、〇〇五	〇、四九三
〇、二六	〇、二六	〇、二六	〇、二六	〇、〇〇二	〇、二八六
〇、二六	〇、二六	〇、二六	〇、二六	〇、〇〇三	〇、四九三

粃一石を生産するに要する三要素の量は右に示したる如くなるを以て此の量により天然供給の三要素量を除すれば三要素天然供給量に應じたる收穫量を算出するを得べし本表は之を示す

- 窒素 粃二石七斗六合及之が生産に要する糞糶等
- 磷酸 粃三石四斗六升二合同 上
- 加里 粃三石五斗三升五合同 上

農商務省農事試験場畿内支場の行へる同様の試験成績にては水稻の利用したる三要素の天然供給量一反歩當は窒素一、五—四、磷酸一、二—〇、加里一、三—三、五にして之を當場に於て試験せるものと比較するに其の量窒素及磷酸に於て多く加里に於て少なし要するに當場の畝にありては水稻に對する天然養分の供給量は窒素に於て最も少く磷酸及加里は其量比較的豊かなるを以て之と類似せる土地にありては水稻に施用する三要素の割合は常に窒素を多からしめ他は之が増減に伴ひて適宜加減せざるべからず

水稻に對する窒素肥料の肥効

農林學校教諭 西村貞良

從來の成績に據るに當場畚は一般に有効性磷酸及加里には豊なるも窒素は欠乏せるを以て窒素肥料の効果は特に顯著にして之が供給は將來益々必要なるを認めたり故に重要なる各種窒素肥料の効力及吸收率を比較して最も有効なる施肥量を査定せんが爲め本試験を施行せり供試土壤は前年度無肥料にて稻を栽培し地方の略一定したる畚にして各區とも三尺四方の無底木框二個を用ひ其平均成績を調査せり供試肥料は主として從來農家の慣用せるもの及將來廣く施用せらるべきものを撰みたり其種類及含有窒素量左の如し

肥料名	窒素
大豆粕	五、九五
硫酸〔アンモニア〕	二〇、五〇
荳油粕	五、五二
米糠	一、四三
綠肥〔ルーサン〕	〇、七三
堆肥	〇、五六

各區とも供試肥料所含の磷酸及加里の影響なからしむる爲め稍々多量一反步當各三貫の割合の磷酸及加里を併用せり而して磷酸肥料としては過磷酸石灰を加里肥料としては炭酸加里を用ひたり各種肥料は總じて基肥として施し施肥後約一週間を経て六月十三日早神力種の生育一樣なる苗を一株七本宛每框十二株の割合にて移植を行ひ十月十三日收穫して風乾

物の收量を秤りたり其試験區別及成績一框當左の如し

供試肥料及窒素反當用量		收				計	糶の容量
		糶	葉	批	量		
無肥料	無	一三三、〇 _五	一八二、五 _五	五、五 _五	三二一、〇 _五	二〇三、五 _{cc}	
	無窒素	一五二、〇	二〇一、五	四、〇	三五六、五	二五〇、〇	
窒素一貫匁	大豆粕	三〇七、五	四〇四、五	四、五	七二六、五	五〇七、五	
	硫酸「アンモニア」	二六八、〇	三三八、〇	六、〇	六〇二、〇	四四五、〇	
	荏油粕	二七七、〇	三三五、〇	三、五	六〇五、五	四六七、五	
	米糠	二八二、五	三四〇、〇	四、〇	六二六、五	四七二、五	
	綠肥	二六一、〇	三二一、〇	三、五	五七五、五	四五五、〇	
	堆肥	一八六、五	二〇一、五	三、〇	三九二、〇	三〇五、〇	
	大豆粕	三七七、五	四三六、五	五、五	七五九、五	五四五、〇	
	硫酸「アンモニア」	二九〇、〇	三九〇、五	四、〇	六八四、五	四八二、五	
	荏油粕	二六九、五	三三八、五	五、〇	六三三、〇	四六五、〇	
	米糠	二五一、五	三〇八、〇	三、五	五六三、〇	四二七、五	
同上炭酸石灰十五貫加用	綠肥	二四九、五	二九四、〇	四、〇	五四七、五	四二二、五	
	堆肥	二三一、〇	二三一、〇	四、五	四五七、五	三六二、五	

窒素一貫四百匁						同上炭酸石灰 三十貫加用						窒素一貫八百匁						
大	硫	苳	米	綠	堆	大	硫	苳	米	綠	堆	大	硫	苳	米	綠	堆	
豆	酸「アンモニア」	油	糠	肥	肥	豆	酸「アンモニア」	油	糠	肥	肥	豆	酸「アンモニア」	油	糠	肥	肥	
粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕	粕
三、四七、〇	三、三〇、〇	三、三〇、〇	二、九一、〇	二、八一、五	一、六五、〇	三、六五、〇	三、〇五、〇	三、〇三、〇	二、七九、五	二、八〇、〇	二、五六、〇	三、五七、〇	三、二七、五	三、三八、〇	三、二二、五	二、八〇、五	二、八〇、五	
四、八四、五	四、四三、〇	四、〇七、五	三、七六、〇	三、三五、五	一、九〇、五	五、三五、〇	四、一〇、〇	三、九五、〇	三、四六、〇	三、四三、〇	二、八七、五	五、五〇、〇	四、四六、〇	四、三六、〇	四、一九、〇	三、五二、〇	三、五二、〇	
四、五	五、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、五	六、〇	五、五	五、〇	四、五	四、五	四、五	八、〇	三、五	四、〇	四、〇	五、〇	四、五	
八、三六、〇	七、七八、〇	七、三一、五	六、七一、〇	六、一一、〇	三、六〇、〇	九、〇六、〇	七、〇七、五	七、〇三、〇	六、三八、五	五、四八、〇	五、四八、〇	九、一五、〇	七、六七、〇	七、七八、〇	七、三七、〇	六、三七、五	六、三七、五	
五、七七、五	五、六五、〇	五、三五、〇	五、〇〇、〇	四、八〇、〇	二、七二、五	五、七二、五	五、二二、五	五、一〇、〇	四、八二、五	四、七二、五	四、三七、五	五、九五、〇	五、三五、〇	五、五七、五	五、二二、五	四、七五、〇	四、七五、〇	

堆肥		大豆粕	硫酸「アンモニア」	荏油粕	米糠	緑肥	堆肥
191.0	211.0	409.0	373.5	36.0	342.5	287.5	245.5
222.0	559.0	540.5	447.5	426.5	386.0	295.5	295.5
4.0	7.0	5.0	6.5	6.0	3.5	5.0	5.0
202.0	975.0	929.0	780.0	755.0	677.0	546.0	546.0
377.5	695.0	627.5	555.0	522.5	470.0	407.5	407.5

右の成績によれば窒素の効果は各區を通じて大豆粕最も大にして硫酸アンモニア(う)の窒素少量區を除く荏油粕米糠緑肥順次に次ぎ堆肥の効果最も劣れり而して各區の收穫物を分析したる成績は左の如し

供試肥料及窒素反當用量		乾物百分中の窒素量		各區生産物中の窒素量	
無窒素	窒素	籾	藁	籾	藁
1.180%	0.701%	1.551%	1.273%	0.041%	2.857%
大豆粕	硫酸「アンモニア」	荏油粕	米糠	米	荏油粕
1.333	1.261	2.501	2.265	0.066	4.803
0.655	0.871	3.033	2.545	0.058	5.605
0.511	0.563	2.651	1.664	0.068	4.343
0.511	0.511	3.035	1.571	0.031	4.668

調査成績 水稻に對する窒素肥料の肥効

同上炭酸石灰 三十貫加用		窒素一貫四百匁						同上炭酸石灰 十五貫加用							
荏 油 粕	大 豆 粕 硫酸「アンモニア」	堆 肥	綠 肥	米 糠	荏 油 粕	大 豆 粕 硫酸「アンモニア」	堆 肥	綠 肥	米 糠	荏 油 粕	大 豆 粕 硫酸「アンモニア」	堆 肥	綠 肥	堆 肥	綠 肥
一、一四五	一、一四九	一、三三七	一、二三九	一、三三四	一、一六九	一、一九八	一、二九三	一、三〇六	一、一八六	一、二七九	一、〇九九	一、二二三	一、二四〇	一、一九八	一、二四〇
〇、五四九	〇、五二七	〇、六九四	〇、五三三	〇、六〇六	〇、五五八	〇、五九三	〇、五五六	〇、六二二	〇、五三七	〇、六〇三	〇、六三〇	〇、四九三	〇、六五三	〇、五八八	〇、六五三
三、〇四五	三、六八八	一九三	三、〇三九	三、二一七	三、二六四	三、四三九	二、四八〇	二、八八九	二、六〇一	二、七三四	二、六七七	三、〇七七	二、八九九	一、九三八	二、八九九
一、九六七	二、四八二	一、一九一	一、五五六	二、〇五三	二、〇五四	二、三三〇	一、二六一	一、六三三	一、四三八	一、八三六	三、二二〇	一、九三八	一、八一三	一、〇七一	一、八一三
〇、〇三〇	〇、〇四八	〇、〇三六	〇、〇三三	〇、〇三三	〇、〇三一	〇、〇三〇	〇、〇三六	〇、〇三三	〇、〇二八	〇、〇四〇	〇、〇三三	〇、〇四四	〇、〇二八	〇、〇四四	〇、〇二八
五、〇五一	六、一九八	三、一四〇	四、六二七	五、二〇一	五、三五〇	五、八〇九	三、六七八	四、四八三	四、〇六七	四、六五一	五、〇〇九	五、〇五九	四、六〇〇	三、〇三三	四、六〇〇

前表に據りて、窒素施肥區收穫物の所含窒素量より無窒素區收穫物の所含窒素量を減じて供

同 上 炭 酸 石 灰 四 十 五 貫 加 用							窒 素 一 貫 八 百 分									
堆	綠	米	荏	硫 酸「アンモニア」	大	豆	堆	綠	米	荏	硫 酸「アンモニア」	大	豆	堆	綠	米
肥	肥	糠	油	粕	粕	粕	肥	肥	糠	粕	粕	粕	粕	肥	肥	糠
一、二七三	一、二二三	一、一三六	一、一三四	一、一五二	一、一六二	一、一六二	一、三三九	一、二五六	一、〇六五	一、二六五	一、二四二	一、〇六七	一、〇六七	一、三三六	一、二八〇	一、二九五
〇、五三三	〇、六二二	〇、五二四	〇、六三三	〇、四九三	〇、五八九	〇、五八九	〇、六七七	〇、六六〇	〇、六二七	〇、五七一	〇、六六七	〇、五八〇	〇、五八〇	〇、六六六	〇、六五三	〇、六六六
二、七二五	三、〇九七	三、三六四	三、四九一	三、七二四	四、一三三	四、一三三	二、一九七	三、〇六六	二、九二一	三、七二五	三、四三五	三、二九五	三、二九五	二、七五五	三、一三〇	三、一四四
一、五〇四	二、一六二	一、九二〇	二、五六〇	二、三六七	二、九五七	二、九五七	一、二九五	二、一〇一	二、三三七	二、二三三	二、六四九	二、八六六	二、八六六	一、六二〇	二、〇一〇	二、一四五
〇、〇三〇	〇、〇六八	〇、〇四八	〇、〇五二	〇、〇四〇	〇、〇五六	〇、〇五六	〇、〇三二	〇、〇五〇	〇、〇三二	〇、〇三二	〇、〇二八	〇、〇六四	〇、〇六四	〇、〇三六	〇、〇三三	〇、〇三六
四、一五九	五、三六九	五、三五二	六、一〇三	六、一三一	七、一三六	七、一三六	三、五二四	五、二〇七	五、二九〇	五、九七九	六、一三二	六、三三五	六、三三五	四、四〇一	五、一九四	五、三三五

試肥料所含の窒素中水稻に吸収利用されたる量を算出し更に之れを肥料所含の窒素總量に比較し吸収率を算定せるに其成績左表の如し

		供試肥料及窒素反當用量	全收穫物中の窒素量	肥料より吸収したる窒素量	肥料として施給したる窒素量	吸収率	平均
無	窒素	窒素 一貫 匁	二、八五七	—	—	—	—
大豆	粕	窒素 一貫 匁	四、八〇三	一、九四六	三、二二五	六二、二七%	六三、六五%
		同 一貫四百匁	五、八六八	三、〇一一	四、三七九	六八、八二	
		同 一貫八百匁	六、三三五	三、三六八	五、六二五	五九、八七	
硫酸「アンモニア」		窒素 一貫 匁	五、六〇五	二、七四八	三、二二五	八七、九三	七一、六八
		同 一貫四百匁	五、八〇九	二、九五二	四、三七五	六七、四七	
		同 一貫八百匁	六、一二二	三、三五五	五、六二五	五九、六四	
荏油	粕	窒素 一貫 匁	四、三四三	一、四八六	三、二二五	四七、五五	五三、三四
		同 一貫四百匁	五、三五〇	二、四九三	四、三七五	五六、九八	
		同 一貫八百匁	五、九七九	三、二二三	五、六二五	五五、五〇	
米	糠	窒素 一貫 匁	四、六二六	一、七七一	三、二二五	五六、六七	五一、一七
		同 一貫四百匁	五、三三〇	二、三四五	四、三七九	五三、六〇	
		同 一貫八百匁	五、二九〇	二、四三三	五、六二五	四三、二五	

	加炭荏 酸油 石 用灰粕	加炭硫酸 酸「アンモニア」 石 用灰	加炭大 酸豆 石 用灰粕	堆 肥	綠 肥
窒素一貫匁	同 一貫八百匁 同 一貫四百匁 窒素一貫匁	同 一貫八百匁 同 一貫四百匁 窒素一貫匁	同 一貫八百匁 同 一貫四百匁 窒素一貫匁	同 一貫八百匁 同 一貫四百匁 窒素一貫匁	同 一貫八百匁 同 一貫四百匁 窒素一貫匁
四、〇六七	六、一〇三 五、〇五二 四、六五二	六、一三一 五、〇六四 五、〇〇九	七、一三六 六、一九八 五、〇五九	三、五二四 三、一四〇 三、〇三三	五、二〇七 四、六二七 四、六六〇
一、二一〇	三、二四六 二、一九五 一、七九五	三、二七四 二、二〇七 二、二五七	四、二七九 三、三三一 二、二〇一	〇、六六七 〇、二八三 〇、一七六	二、三五〇 一、七〇〇 一、八〇三
三、二二五	五、六二五 四、三七五 三、二二五	五、六二五 四、三七五 三、二二五	五、六二五 四、三七五 三、二二五	五、六二五 四、三七五 三、二二五	五、六二五 四、三七五 三、二二五
三八、七二	五七、七二 五〇、一七 五七、四四	五八、二〇 五〇、四五 六九、〇一	七六、〇七 七六、三七 七〇、四六	一一、八六 六、四七 五、六三	四一、七七 四〇、四六 五七、六九
	五五、一一	五九、二三	七四、三〇	七、九九	四六、六四

米 炭酸石灰 加用糠	同 一貫四百匁		同 一貫八百匁		同 一貫四百匁	同 一貫八百匁		同 一貫四百匁	同 一貫八百匁	
	窒素	一貫匁	窒素	一貫匁		窒素	一貫匁		窒素	一貫匁
炭酸石灰加用	五、三五	二、四六八	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三
綠	二、四六八	二、四九五	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三
炭酸石灰加用	五、三五	二、四六八	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三
同 一貫四百匁	五、三五	二、四六八	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三
同 一貫八百匁	五、三五	二、四六八	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三
同 一貫四百匁	五、三五	二、四六八	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三
同 一貫八百匁	五、三五	二、四六八	四、三七五	五、六二五	五、六二五	四、三八八	五、二九	五、二六九	五、二九	四、四三三

前表に據れば肥料の吸収率は其種類の異なるに従ひ大差あるを認むるを得べし而して炭酸石灰を加用せざる場合にても水稻の吸収したる割合は施給せる窒素百に對し平均に於て大豆粕六十四硫酸アンモニア七十二荏油粕五十三米糠五十一綠肥四十七堆肥八を示したるを以て内地に於ける從來の成績に比すれば吸収率の大なるを示すものと云ふべしされば朝鮮の稲作には窒素の效果特に大にして従て是れが施給の必要大なるを察するに足る次に窒素の用量と吸収率との關係を見るに大豆粕荏油粕米糠綠肥等の有機質肥料は普通施用量の範圍に於ては用量の増減により吸収率に大差なし是れ此種の肥料は施用後流亡するの憂なきを以て夏期に於ける氣温高くして腐熟分解迅速なる限りは比較的完全に吸収利用せらるれ

ばなり特に堆肥に於ては吸収率は其用量の増加に伴ひて寧ろ増進せることを示せり之れに反して硫酸アンモニアは施用量を増加するに従ひ吸収率遞減し其用量最少なる窒素一貫匁の場合に著しく大なるを示せり是れ此の種の肥料は可溶性にして多量に施用せる場合には其幾分は土壤に吸収せられずして流失する虞あればなり故に硫酸アンモニアの如き可溶性速効肥料は之を多量に單用せんよりは其少量を堆肥綠肥或は其他の有機質肥料と混用するを得策なりとす

炭酸石灰加用區にありては其吸収率は平均に於て大豆粕七十四硫酸アンモニア五十九荏油粕五十五米糠四十七綠肥四十九堆肥二十二の割合にして之れを不加用區に比すれば有機質肥料の吸収率は概して増加せり是れ炭酸石灰の爲めに分解を促進せられたるによるものにして殊に堆肥の如き分解比較的遲緩なるものは吸収率著しく増加したり故に普通の土壤に於て有機質窒素肥料を施用するに際して少量の石灰を加用するは養分の吸収上有効なりと云ふべし

各種肥料の吸収率は必ずしも籾の收量と比例すべきものにあらずして水稻の生育中窒素の有効なる時期及び用量に關して籾と藁稈との割合に著しき差異を生じ吸収率の大なるに係らずして籾の收量は却て少き場合なきにあらず然れども本試験に於ては籾と藁稈とは其收量殆んど比例するを以て施給したる窒素は籾の生産に充分利用せられたりと認むを得べし但し硫酸アンモニアの窒素少量區にありては其の吸収率著しく大なるに反し籾の收量比較的少かりしは養分の大半が水稻生長の初期に於て吸収し盡され種實の生産に際して既に其

の不足を告ぐるに至りたるに依るものゝ如し

今各種窒素肥料の効果を明にせんが爲めに粗及び藁稈の増収量と吸収率との割合を指數を以て示せば左の如し(大豆粕區に於けるものを百とす)

供試肥料及窒素反當用量		無窒素區に對する増収割合		吸収率の割合	
		粗	藁		
窒素一貫匁		大豆粕	100	100	100
硫酸「アンモニア」		85	63	100	104
荳油粕		80	62	100	99
米糠		68	66	100	99
綠肥		57	55	100	93
堆肥		33	0	100	9
大豆粕		100	100	100	100
硫酸「アンモニア」		83	80	100	99
荳油粕		72	76	100	99
米糠		60	54	100	95
綠肥		55	53	100	94
堆肥		33	33	100	77

調査成績 水稻に關する窒素肥料の肥効

窒素一貫八百匁					同上炭酸石灰加用					窒素一貫四百匁				
大	硫	荏	米	綠	大	硫	荏	米	綠	大	硫	荏	米	綠
豆	酸	油			豆	酸	油			豆	酸	油		
粕	「ア	粕	糠	肥	粕	「ア	粕	糠	肥	粕	「ア	粕	糠	肥
ニ	モ	ニ			ニ	モ	ニ			ニ	モ	ニ		
ア	ニア	ア			ア	ニア	ア			ア	ニア	ア		
100	82	91	79	33	100	73	77	66	69	100	91	86	72	67
100	70	67	33	33	100	63	59	44	26	100	85	73	43	4
100	100	93	73	7	100	66	64	44	7	100	96	83	66	9

堆肥	大豆粕	大	100	100	100
	硫酸「アンモニア」	七	九	九	七
堆肥	米糠	六	六	六	六
	綠肥	五	五	五	五
堆肥	石灰	三	三	三	三
	同上炭酸	七	七	七	七

エビ米に關する調査

勸業模範場技師 三原新三

全羅南道木浦附近にては産米中に穀粒の内容全部が飴色を帯び悪臭を有するものを混入することあり之をエビ米と稱す鮮人の説によればエビ米は古來存在すと云ふ然れども木浦にて内地人が始めて之か存在を認めしは數年前にして爾來年年之を認めたり而して其の量は年により多少の差あれども明治四十三年に於て最甚しく爲めに一般木浦米の聲價に影響を及ぼしたること甚だしかりき木浦廻送米中にエビ米の混在する量は時期により相違あり毎年十二月及一月に多く又稻の品種に就て云へは在來種及倭租に多しと云ふエビ米混入の木浦米の聲價に及ぼす影響の如何に大なるやは木浦商業會議所か其の月報第十六號に明記せるものあるを以て左に之を摘録せん

此の種の混入米を焚くときはエビ米の周圍は悉く飴色に變し且惡臭を放つを以て需要者の嫌惡すること甚たしく爲に一種の米の中に僅に一粒のエビ米を含むも忽ち一石五十錢以上の値引の請求を受くるのみならず惹いて向後の信用にも關することなれば當業者は常に警戒を怠らざるも往往不測の災厄に陥る事あり云云

右の如くエビ米混在の木浦米の聲價に影響すること大なるを以て之か生成の原因を調査し之を豫防するは同地方農業上極めて肝要なりとす

明治四十四年の調査に依れば該米は靈光郡奉山面及海南郡昆一終面昆二終面に最も多く産し其の他各郡には少量宛を産せり明治四十五年一月上旬法聖浦よりの廻米五十俵中五俵は殆ど該米より成れりと云ふを見れば該地方にもこれを産出するは疑なし要之四十四年に於ける主産地は以上の數個所に過ぎされとも少量は一般に廣く産出するものと思はる

エビ米の成因に就ては二説あり一はエビ米を以て一の品種なりとなすものにして他は醱酵作用の如き他動的原因に歸するものなり此の兩説の何れか是なるやを知らむ爲種種の調査を行ひたり今其の結果の概要を示さむ

該米の果して一品種なりや否を確かめむ爲左の二方法を實行せり

一、立毛の調査

二、エビ米播種試験

予は全羅南道靈光郡奉山面に於て立毛の調査を行へり同面は靈光邑内を距る西北約三里許の地にあり從來エビ米産出の多きを以て知らる予は明治四十四年十一月十三日咸平棉採種

園主任辻技手と共に十七洞里(長水洞孔門洞平地洞伏虎洞兔洞九岩里支岩里挿古里眞泉洞朝陽里西峯里新月里大田里伏在里鳳村里五減里虎谷里)を逐次巡回立毛に就き詳細に調査せるに所謂赤米と稱すべきものを認めたるも一粒のエビ米を發見する能はさりし其の他咸平郡郡西面月岳面海保面等にて行へる調査も亦同一の結果なりし奉山面の如く多量のエビ米を生産する地方に於て立毛中にエビ米の存在するを認めざるはエビ米の稻の一品種にあらざるを明かに示すものなりとす

次に予は明治四十四年靈光郡奉山面産エビ米を木浦商業會議所に得て勸業模範場木浦支場内試験地畝に播種し其の生育狀況及收穫物を調査せしに發育は極めて不良なりしも其の收穫物中には全然エビ米を含まさりき如斯エビ米は遺傳せずとせば稻の一品種にあらざるは疑ひなしとす

エビ米の醱酵作用に依りて生ずるものなるやを確めむ爲め左の調査を行へり

一、エビ米産地に於ける調査

二、エビ米人工的作成

明治四十四年十二月十日昆一終面陽洞夏目某より木浦商業會議所に送付せる中粗米中にエビ米を混せるものあり故に予は同氏に就き該米の昆一終面西邊里夏目農場の小作米にして十一月三日頃收穫せるを十二月七日同氏の許に廻送したる新米なる旨を確め十二月十三日該農場にて調査を行へり

昆一終面西邊里小洞鄭平俊は前記エビ米の生産者なり調査當日尙エビ米二畝を所持せり而

して該エビ米の附着せし藁か尙庭の一隅に堆積せられありしを以て之を検するに黒褐色を呈し軟弱にして全然弾力性を失ひ且臭氣あり扱残しの粃は悉くエビ米なりき同人の語るどころに依れば稻堆の下部より三分一は藁變色せりと故に試みに稻堆の上部に於ける藁を検するに色澤變せず弾力性を有し扱残しの粃にエビ米なかりき更に同人に收穫當時の事情を諮ねたるに「收穫の當時雨を催せしかは束ねて畦上に積むこと五日此の間雨に遭ふこと二回に及へり濕潤の儘庭前に堆積し約三十日を経て取崩せしか其の際溫氣を覺えたり」と答へたり次に同面同里大洞尹士元に就き調査せるに時恰も高約六尺の稻堆を取崩し「ホルテ」にて粃を扱取中なりし故に仔細に調査せるに鄭平俊のものと等しく稻堆上部の藁は異狀なく其の粃には全くエビ米を認めさりしも下部の藁は醱酵腐敗の狀を呈し之に附着する粃は悉くエビ米なりき同人方には稻扱一挺を有するも藁に弾力なく切斷し易かりしを以て止を得ず「ホルテ」を用ひたるなりと云ふ同人亦收穫中雨に會し止むなく其の儘堆積せるなりと

右の調査に依ればエビ米の生成は藁の腐敗と伴ひ藁の腐敗は稻堆の内部に生したる醱酵作用の結果なるものの如く而して此の作用の起れるは收穫當時藁の未だ乾燥せざるに之を堆積したるに原因するに似たり故にエビ米の生成と前記醱酵作用との關係を知るはエビ米豫防上必要なりとす予はエビ米と稻堆中に於ける醱酵作用との關係を知らん事を欲し時間の許す限り多數の稻堆に就き調査せるに醱酵には適度の溫度と濕氣とを要するものなれば雨濕に會せる稻と堆積せるものの凡てか醱酵してエビ米を生するものにあらず水分過多なりしもの却てエビ米を生せさりしの例なきにあらず醱酵溫度の攝氏十二度以上たるへき事及

堆積時間の一箇月以上なる事はエビ米の生成に必要な事項なるを推定せり
 靈巖郡に於ける調査の結果エビ米の成因醱酵にありとの事實略明かなるを得たるを以て更
 に一步を進め人工的に作成するを得るや否を試み以て其の原因を確證せむことを期圖せり
 然れどもエビ米生成の條件としては前記の調査により僅に醱酵温度の攝氏十二度以上なる
 こと及堆積期間の一個月以上なることを推知せるに過ぎざるを以て人工的作成試験には高
 温醱酵装置低温醱酵装置の二種を設けたり

(イ) 高温醱酵装置及其の成績

東南に面せる地を選び幅四尺長六尺深二尺の穴を掘り内に醱酵材料を踏込み即ち約三寸
 の厚さに厩舎の敷糞を置き其の上に一寸の厚さに牛糞を踏込み順次之を繰返して厚さ二尺
 に及はしめ(明治四十四年十二月二十三日作業後一週間を経たる時新糞を薄く掩ひ其の上
 に供試材料倭租を重ね濕氣を與ふる爲め微温湯二斗を灌き更に糞を同筒形に積むこと約七尺
 に及び其の間に吹入土塊七百斤を挿入し壓力を充分ならしめたり(同二十八日)

供試材料附近の温度を測定する爲には寒暖計挿入口を設け置き毎日午後一時檢温せり且十
 日目毎に堆積を取崩し供試材料の變化を檢し其の都度微温湯二斗を灌けり而して試験中に
 於ける氣温及醱酵温度は左の如し(△印零下)

年 月 日

氣温(攝氏)

醱酵温度(攝氏)

明治四十四年十二月二十八日

△ 一九

二〇〇

同 同 二十九日

△ 一六

二五〇

同	同	十七日	△	〇・〇	三七・〇
同	同	十八日	一・九	二〇・〇	二〇・〇
同	同	十九日	一・〇	三三・〇	三三・〇

第一回検査は一月七日之を行へり當時供試粗米中發芽せるものありしも未發芽の粗の内容には變化を認めず藁は少しく醱酵し黃變せり第二回検査は一月十六日之を行へり供試粗米の發芽は其の後停止し下部の粗米は水分を吸収して容積を増し内容少しく黃變す依て之を乾燥したるにエビ米なることを確知せり其の胚は多くは枯死せり藁には一面に白黴を生し褐色を呈し全然彈力を失ひ頗る脆弱となり粗に軽く手を觸るるも脱落す又上部の供試材料は完全にエビ米に變し居たり

(ロ) 低温醱酵装置及其の成績

穴の構造蒸熱物の踏込法等凡て(イ)に同じ只低温を保持せしむる爲上部より重量を以て壓力を加へす木框フレームを以て之を掩ひ蒸熱物の發熱を待ち薄く藁を布き其の上に供試材料を竝列せり試験中の氣温及醱酵温度左の如し

年 月 日

氣温(攝氏)

醱酵温度(攝氏)

明治四十四年十二月二十六日	三・八	二〇・〇
同 同 二十七日	〇・七	二三・五
同 同 二十八日	一・九	二三・〇
同 同 二十九日	一・九	二二・〇

同	同	十七日	〇〇	一八〇
同	同	十八日	一九	一八〇
同	同	十九日	一〇	一八〇

低温装置にありては材料の検査便利なりしを以て毎日其の検査を行へり一月十九日殆ど全部發芽しエビ米を生するに至らざりき

右兩装置の成蹟に依りエビ米の生成には甚高き醱酵溫度を要するものなるを明にせりエビ米の成因か醱酵作用により米質の化學的變化を來すにあること明白となりしを以て其の化學的變化如何を知らむ爲勸業模範場本場に依頼し分析を試みたり其の結果左の如し

(乾物百分中) エビ米 朝鮮産玄米

蛋 白 質	一〇〇・一〇	九三・五三
炭 水 化 物	八四・七二	八三・五六
灰 分	二〇・三三	一〇・二六

(原品百分中)

水 分	一一・五〇〇	三三・〇〇〇
蛋 白 質	八〇・八五九	八二・三一一
炭 水 化 物	七四・九七〇	七三・五三二
灰 分	一〇・八〇〇	一五・一〇〇
比 重	一・七六〇	一・五〇一〇

百粒の重量

一〇六七五^五

二〇二八五^五

百粒の容積

一〇一〇〇^{cc}

一〇五七〇^{cc}

右の成績に依ればエビ米及朝鮮産玄米との間多少成分の差あるに似たりと雖其の差少にして未だ其の化學的變化如何を説明するに足らず故に後日再査の後を待ちて之を闡明せむとす

結 論

一、エビ米は立毛中に其の存在を認めず且エビ米を播種するもエビ米を生せざるによりエビ米は一品種にあらざること明なり

二、エビ米は稻堆中醱酵せる部分に存し其の醱酵せざる部分に存在せざるのみならず高温と濕氣とを與へて醱酵せしむる時は人工的にエビ米を生成し得へきを以て其の成因は醱酵作用に存するや明なり

エビ米の成因醱酵作用にありとせば其の豫防法は左の如く定むるを可とす

- 一、收穫したる稻は稻架に掛けて乾燥する事
- 二、若稻堆となす場合には堆積前充分に乾燥せしむへき事
- 三、堆積中發熱の虞を認めたるときは時時積替を行ふへき事

甜菜分析成績

農林學校教諭 西 村 貞 良

技 手 三 浦 若 明

從來當場にては朝鮮各地に於て甜菜の試作をなし年々其の成績を發表せり本年に於ても前年來の試作を繼續すると共に新に平壤及黃州地方に試作地を増加し平壤支場をして直接之が監督に任せしめたり
試作法の概要左の如し

前作の跡地を犁耕すること二回細かに土塊を碎破したる後東西の方向に幅五尺の高壟を作り其の上に南北の方向に畦幅一尺五寸の作條を設け之れに沿ひ一反歩當腐熟堆肥二百貫智利硝石過燐酸石灰各五貫匁を施し四月中旬播種量一反歩八百匁の割合にて下種せり除草は五月上旬及下旬に於て間引と共に之を行ふこと二回培土は七八月の間に於て二回行ひ而して十月下旬其の收穫を了へたり

本年甜菜栽培期中の氣候は甜菜の栽培に適せるものゝ如し則四五月は甜菜の發芽に十分なる濕氣あり其の後雨量潤澤にして甜菜の生長を旺盛ならしめ成熟期に至りては雨量減少し外氣乾燥したるを以て甜菜の品質を佳良ならしめたり

氣温は概して低かりしも十月は例年に比し温度高かりし爲め是亦糖分の生成を促かしたり
今水原及平壤に於ける平均温度及毎月の雨量を示せば左の如し

月次	水		原		平		壤					
	平均	温度	雨量(耗)	平均	平均	温度	雨量(耗)					
四	10.8	11.57	10.4	84.4	67.3	91.7	8.5	9.5	9.4	33.4	69.6	71.1
	明治四十四年度	大正元年度	同二年度	明治四十四年度	大正元年度	同二年度	明治四十四年度	大正元年度	同二年度	明治四十四年度	大正元年度	同二年度

十	九	八	七	六	五
二二、八	二二、八	二六、一	二四、〇	二二、八	一七、八
二二、三〇	一九、四〇	二五、四〇	二四、一五	二三、三〇	一五、九五
二二、九	一九、七	二五、〇	二三、五	二〇、六	一五、六
四二、二	二七、二	九八、五	二八〇、五	二二、九	六二、三
三六、八	五九、二	二〇、六	三三八、六	七六、五	八二、〇
二五、九	三五、九	七二、三	三三〇、一	二九、四	六六、一
一〇、四	二〇、〇	二四、一	三三、一	二〇、六	一五、四
九、七	一六、八	三三、八	三三、九	二〇、三	一四、三
二一、六	一七、八〇	三三、八〇	二二、四七	一九、〇九	一四、二
二四、八	四五〇、三	二九、四	三〇六、三	五二、五	三七、八
四三、四	五、六	三五五、九	一三八、一	六〇、三	九〇、五
三五、六	三九、八	二二、二	一九八、八	九七、七	二二、七

甜菜試作各地に於ける成績左の如し

勸業模範場本場

四月十日播種せしに一齊によく發芽し其の後の生育も亦良好なり褐斑病及其他病蟲害の被害の程度は例年に比し稍や少し生産品の分析成績左の如し

本場生産品

エウテ種 反當收量七七四貫

採收月日	九月十一日		
	大	中	小
供試箇數	三四	五	六
根一本の重量	三八一 _五	三三六	二六〇
汁液含糖率	一四、九〇%	一三、六四	一三、七五
平均根の含糖歩合		一四、一〇%	
純糖率	九三	—	九五

調查成績 甜菜分析成績

十月十一日			十月六日			十月一日			九月二十六日			九月十八日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	四	二	四	三	二	六	四	三	六	四	三	五	四	四
三三〇	三六六	五二八	二二五	三六八	六〇三	一八五	二九六	五七〇	二〇〇	三三四	五二二	二六七	四〇九	四八二
一四、一五	一三、四一	一四、一五	一三、四七	一四、六一	一四、八三	一三、九二	一四、三三	一五、〇七	一四、六一	一二、三四	一五、〇一	一三、六四	一二、九五	一三、一八
一三、九〇			一四、三〇			一四、四四			一三、九九			一三、二六		
一三、二二			一三、五八			一三、七二			一三、二九			一三、六〇		
五	九	九〇			九五	九五	九六	九五	九六	八五		九六	九二	八九

十月一日			九月二十六日			九月十八日			九月十一日			十月二十一日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大
四	四	二	五	三	二	五	四	三	七	五	三	四	三	二
二六四	二四一	四〇三	二〇〇	二九五	四二三	二四六	三七	四〇二	三三三	二六七	三六八	二〇七	三四〇	四九八
三、四七	二、八九	一三、五八	一五、九三	一四、〇四	一四、六七	一四、七三	一四、二二	一三、八九	一四、一五	一四、三三	一五、八七	一三、九八	一三、九八	一四、六二
	一三、三一			一四、八八			一三、九四			一四、七六%			一四、一九	
	二二、六四			二四、一四			二二、二四			二四、〇四%			二二、四八	
八八	九二	九三	九七		九五		九四		九四			九〇	九〇	九〇

クラインワントレペナー種 反當收量七四八貫

十月六日			十月十一日			十月二十一日		
大	中	小	大	中	小	大	中	小
二	三	四	二	三	四	二	三	四
六八	七〇	二四	五三	三四	二〇	六〇	四三	二五
一三七	一五三	一四〇	一四九	一三七	一五〇	一二八	一四〇	一三七
一四三	一四三		一四六	一四六		一三四	一三四	
一三六	一三六		一三六	一三六		二八六	二八六	
						九四	九四	

勸業模範場平壤支場

四月十五日播種し同二十六日一齊によく發芽せり五月上旬象鼻蟲發生して被害尠からず而して其の後の生育は良好なりしが八月中旬より褐斑病の襲ふところとなり再び生育を阻害せられ其結果甜菜根の含糖歩を減少せしめたるが如し生産品の分析成績左の如し

平壤支場生産品 反當收量七九七貫

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均根の含糖歩	純糖率
大	三	四九	一三、三%		八九

	九月九日			九月七日			九月五日			九月三日			九月一日	
大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中
二	四	三	二	三	三	一	四	二	二	五	五	二	五	三
六〇元	一七四	三三九	六一九	一九七	三四八	一一三七	二二八	五〇二	九四三	二〇〇	三二六	六五四	二三四	三四一
三、三三	一四、一〇	一〇、七二	一〇、六〇	一四、一〇	一一、四六	九、〇〇	一一、一七	一〇、七二	九、五七	一四、九〇	一二、三四	一二、二三	一五、四七	一四、六七
		一一、八一			一一、五二			一〇、四九			一二、二二			一四、五二%
		一一、三三			一〇、九四			九、九六			一二、四六			一三、七八%
九二	八八	八五	八五	九四	八三	八六	八六	八四	七三	九三	八八	八九	九一	九二

調査成績 甜菜分析成績

		九月三十日			九月二十日			九月十五日			九月十三日			九月十一日	
大	中	小	大	大	中	小	大	中	小	大	中	小	中	小	
二	三	五	二	二	三	五	二	三	五	二	三	四	三	五	
八〇四	四八九	二二一	六八三	二二五	三二二	一三九	四六二	三四一	二三四	四六〇	六八一	二三四	一九三	四三五	
一一、一三	一一、七六	一一、四六	一一、七五	一一、二四	一一、一八	一一、七〇	一一、〇三	一一、六三	一一、二一	一一、四〇	一一、七五	一一、二一	一一、四四	一一、二六	
	一一、六六		一一、〇六		一一、〇六		一一、四五			一一、七九				一一、三四	
	一一、〇三		一一、三六		一一、三六		一一、八三			一一、一〇				一一、七一	
八〇	八八	七九	八五	九一	八六	九二	八九	九〇	九三	八七	八七	八三	八	九二	

十月十日			十月二十日			十月二十八日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	三	二	五	三	二	五	三	二
一六二	三六一	七六	二九	三八四	七六	一七九	三九二	六八五
一四、七	一四、七	一三、三	一四、四	一三、六	一三、三	一五、一三	一五、一三	一五、三六
一三、一五	一三、一五	一三、〇一				一五、二		
三、四九	三、四九	二、三六				一四、四五		
七	七	六	七	八	六	八	八	九

平壤府秋乙美面白羊洞

四月二十日播種し五月三日一齊に發芽せしも象鼻蟲に喰害せられしを以て再播せり然るに其の生育は良好ならず加ふるに八月中旬褐斑病亦蔓延せり生産品の分析成績左の如し

平壤府秋乙美面白羊洞生産品 反當收量三〇四貫

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均	根の含糖歩合	純糖率
八月二十二日	中 二 ^個	四七 ^五	一六、一六%	一六、一六%	一五、三五%	—
	大 二	五〇三	一九、〇八			九三

調查成績 甜菜分析成績

平壤府龍淵面巢洞里

十月二十五日			十月二十日			十月十日			九月三十日			九月二十日	
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中
五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三
110K	四七一	七三八	一四三	三四七	五五六	一四〇	三八六	六六三	一七六	三四五	五三六	一四五	三〇K
一七、〇八	一六、九〇	一八、〇五	一七、一九	一六、三三	一七、一九	一七、九六	一四、八八	一四、八八	一六、五六	一三、七五	一六、〇四	一八、七八	一七、七六
	一七、三四			一六、九〇			一五、九二			一五、四五			一八、五四
	一六、四七			一六、〇五			一五、一一			一四、六八			一七、六一
九四	九六	九五	九五	九三	九〇	九四	八七	八七	—	八八	九二	—	—

四月十七日播種し五月一日一齊によく發芽せるも間もなく象鼻蟲の喰害を受け生育良好ならず其後適當の雨濕を得て生育旺盛ならんごせしも八月下旬褐斑病蔓延せしかば其の生育再び衰ふるに至れり生産品の分析成績左の如し

平壤府龍淵面巢洞生産品 反當收量八〇四貫

採取月日	供試箇數	根一本の平均重量			汁液含糖率		平均根の含糖歩合		純糖率
		小	中	大	歩合	平均	歩合		
八月二十一日	一箇				一二、八九%	一三、八九%	一二、二四%	八七	
九月二十日	大			七四	一九、〇二	一〇、〇六	一九、〇六	九五	
	中			三五	一九、六三			九六	
	小			一四五	二一、五二			一	
九月三十日	大			七三七	一五、七六	一八、七二	一七、七六	九二	
	中			三七〇	二〇、六三			一	
	小			一七九	一九、七七			九五	
十月十日	大			八八九	一八、二八	一九、一八	一八、三三	九〇	
	中			四七六	二〇、〇六			九三	
	小			二三五	一九、二九			九四	

順安郡内面

四月十九日播種し發芽不齊加ふるに多少象鼻蟲の發育するありて生育良好ならず八月上旬に至り褐斑病亦發生し多少の被害を蒙れり生産品の分析成績左の如し

順安郡内面生産品 反當收量一〇四九貫

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均根の含糖率	純糖率
八月二十一日	大 一	一九七 _五	一二、六 _二 %	一三、一八%	九〇
	中 一	五七 _二	一三、七 _五		
	大 二	二四 _二	一三、五 _二		
九月二十日	大 二	六四〇	一五、八 _七	一五、二六%	九三
	中 三	二六 _五	一六、三 _九		
	小 五	八五 _四	一六、九 _〇		
九月三十日	大 二	六四 _四	一七、〇 _三	一七、〇 _三 %	九三
	中 三	一六 _一	一七、一 _九		
	小 五	一七、〇 _三	一七、〇 _三		
十月十日	大 二	二二 _一	一五、一 _五	一五、三 _九 %	八九
	中 三	七九 _七	一五、五 _九		
	大 二	一五、三 _九	一四、六 _二		

十月二十七日			十月二十日			.		
小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	三	二	五	三	二	五		
四二六	八二二	一四五九	三二四	六八八	一一六六	二九七		
一七、四八	一九、二〇	一五、三六	一五、〇七	一六、三三	一五、七八	一五、四三		
	一七、三五			一五、六九				
	一六、四八			一四、九〇				
		九〇	九二	九二	九〇	八七		

順安郡龍興面

四月十八日播種し一齊によく發芽す而して象鼻蟲の被害少く其後の生育良好にして褐斑病の發生も亦尠かりき然れども菌核病の被害稍や大なりき生産品の分析成績左の如し

平安南道順安郡龍興面生産品 反當收量四五九貫

八月二十一日			探收月日				
大	中	大	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均根の含糖歩合	純糖率
二	一	一	一箇	九〇 _斤	一〇、八九%	一三、五六%	九〇
五七四	四四四	四四四		一六、三三	一三、五六%	一三、八八%	
一六、二七							

調査成績 甜菜分析成績

前記の生産品分析成績に依り平壤地方に於ける甜菜平均含糖歩合を算出せば左の如し

十月二十七日			十月二十日			十月十日			九月三十日			九月二十日	
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中
五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三
一三四	四一六	八三〇	一三〇	三〇〇	六五〇	一三八	四六九	五六九	一四九	二六三	四八二	一四六	三三四
一五、三六	一五、七〇	一六、七三	一六、六二	一六、三三	一六、六二	一八、一八	一六、八一	一五、四三	一八、九一	一七、七六	一八、三四	一七、七六	一七、〇二
	一五、九三			一六、四九			一六、八一			一八、三四			一七、〇二
	一五、一三			一五、六七			一五、九七			一七、五三			一六、一七
八三	九二	九五	一	九三	九二	九五	九二	八六	一	一	一	九六	一

平壤地方五ヶ所甜菜平均含糖歩合一覽表

採收月日 汁液中平均含糖量

九月中旬 一六、九七%
 九月下旬 一六、四四
 十月上旬 一六、〇元
 十月中旬 一五、五二
 十月下旬 一六、四六

備考 十月中下旬の分は四ヶ所の平均成績を示す

中和郡上道面

四月十九日播種し發芽不齊にして而かも象鼻蟲の發生多かりき故に五月上旬補植を行へり
 其の後は生育良好なりしも八月下旬に至り褐斑病發生し九月中旬最も猖獗を極めたり生産
 品の分析成績左の如し

平安南道中和郡上道面生産品 反當收量六四四貫

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖歩合	平均根の含糖歩合	純糖率
九月二十日	大 二箇 中 三 小 五	五、四五 三、九四 三、二四	一七、一九% 一六、九〇 一六、六三	一六、九〇%	九〇 九一 九二

九月三十日			十月十日			十月二十日			十月二十六日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三	二
一四九	四六	六七三	一三三	三六二	七〇一	二三五	四〇〇	五九九	二三五	四〇〇	五九九
一八、三	一七、一九	一六、七三	一九、〇一	一六、八一	一六、五〇	一六、九三	一七、九九	一六、九二	一六、九三	一七、九九	一六、九二
	一七、三八			一七、二四			一七、二七				
	一六、五二			一六、二八			一六、四二				
九三	八八	九二	九六	九四	九〇	九四	一	八九	九四	一	八九

黄州郡天柱面興業株式會社

四月十九日播種し發芽不良且つ象鼻蟲多少發生せしも其の後の生育良好なるを得たりしが八月下旬褐斑病の襲ふところとなり生育を阻害せられたり生産品の分析成績左の如し

黄州郡天柱面興業株式會社生産品 反當收量五〇八貫

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均	根の含糖歩合	純糖率
八月二十五日	中大 一 二	五三三 二七四	一六、〇五% 一九、四八	一七、七%	一六、八%	—
九月二十日	中大 二 三 五	五九六 二九三 一六四	一五、四一 一八、三三 一六、八四	一六、八六	一六、〇二	九三 九三 九五
九月三十日	中大 二 三 五	八三〇 四二八 二〇六	一三、九八 一七、四八	一五、七三	一四、九四	— 九六 八五
十月十日	中大 二 三 五	一〇二六 四八〇 二二四	一五、八七 一五、九八 一七、一九	一六、三五	一五、五三	— 九〇 八六
十月二十日	中大 二 三	七九五 三八七	二二、三三 一六、九六	一五、四九	一四、七一	八〇 八八

十月三十日		八月二十五日	
小	大	中	大
五	二	三	二
二五七	八二四	三三〇	七〇〇
一七、一九	一六、三三	一七、七六	一五、一九%
	一八、五六	一九、二九	一六、一九%
	一七、六三	一八、三三	一五、三%
九	九	九五	九

黄州郡九林面明治農會

四月十八日播種す一齊によく發芽し象鼻蟲の被害又極めて尠かりしが地勢高燥なりし爲め多少早害を蒙れり九月中旬褐斑病猖獗を極む生産品の分析成績左の如し

黄州九林面和洞里明治農會生産品 反當收量三七九貫

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均	根の含糖歩合	純糖率
八月二十五日	一 二	五七五 二五〇	一五、一九% 一七、一九	一六、一九%	一五、三%	九
九月二十日	二 三 二	七〇〇 三〇七 一八〇	一五、九二 一九、六〇 二三、三五	一九、二九	一八、三三	九
大	二	七〇五	一七、七六			八七

十月中旬

一六、〇

十月下旬

一七、三

義州種苗場

播種當時旱魃の爲め發芽不齊なりしも其の後の生育良好にして褐斑病の被害も亦極めて少かりき生産品の分析成績左の如し

平安北道義州種苗場生産品 反當收量一二九八貫

採收月日	供試箇數	根一本の重量	汁液含糖率	平均	根の含糖歩合	純糖率
九月二十日	大 一	二二五	一〇、六%	一三、八九%	一三、二四%	八三
	中 四	一二六	一三、〇%			
	小 六	六二三	一五、九%			
十月一日	大 一	一九七	一三、一	一六、四六	一五、六四	八三
	中 三	一〇五	一八、四五			
	小 五	五二〇	一七、七六			
十月十一日	大 二	一七九	一五、五八	一五、八九	一五、一〇	八七
	中 三	一〇五	一五、四七			
	小 五	七二三	一六、六三			

咸興種苗場

四月二十六日播種し發芽不齊なりしも其の後の生育は良好にして褐斑病の被害尠かりき生産品の分析成績左の如し

咸鏡南道咸興種苗場生産品 反當收量八六八貫

採取月日	供試箇數			根一本の平均重量	汁液含糖率	平均	根の含糖率	純糖率
	小	中	大					
十月二十三日	五	三	二	八二九	一七、六	一四、六一	一三、八	八九
十月二十三日	五	三	二	二七五	一三、一八	一四、六一	一三、八	八〇
十月二十三日	五	三	二	二九五	一二、九	一四、六一	一三、八	七九
九月二十日	五	三	二	二二三	八、二五%	九、八九%	九、三%	六八
九月二十日	五	三	二	七七七	九、一七	九、八九%	九、三%	七五
九月二十日	五	三	二	六三三	二、二四	九、八九%	九、三%	八二
十月一日	五	三	二	一三〇	二、六一	一三、五六	一三、八	九二
十月一日	五	三	二	一〇七	二四、六七	一三、五六	一三、八	八六
十月一日	五	三	二	六九八	一三、四一	一三、五六	一三、八	九〇
十月十一日	五	三	二	八七〇	一三、〇六	一三、五三	一三、八五	八五
十月十一日	五	三	二	五三〇	一四、〇〇	一三、五三	一三、八五	八六

鏡城種苗場

四月二十七日播種す一齊によく發芽し其の後の生育良好なり八月中旬褐斑病發生したるも被害大ならず生産品の分析成績左の如し

咸鏡北道鏡城種苗場生産品 反當收量一二三〇貫

採收月日	供試箇數			根一本の平均重量	汁液含糖率	平均	根の含糖率	純糖率
	小	中	大					
十月二十一日	五	三	二	五〇 一〇九 三七八	二二、六一 一四、三 八、九六	一一、六	一一、六	七 八五 七〇
九月二十日	五	三	二	一九八 四六七 九五九	一八、三四 一七、八八 一五、五〇%	一七、二四%	一六、三八%	八九 八七 一
九月三十日	五	三	二	二〇八 五六 八八二	二二、〇三 一九、〇三 一八、〇五	一九、三七	一八、四〇	一 一 九七
十月十日	三	二	二	四四二 一〇七六	二〇、〇六 一五、一八	一八、七二	一七、七六	九三 八九

	小	大	中	小
	五	二	三	五
	二三五	一〇三三	四四三	二三五
	二〇、九三	一三、〇一	一八、三四	二〇、三四
		一七、二三		
		一六、三七		
	九五	八四	九六	一

間島日本帝國領事館附屬農園

四月三十日播種し五月十六日に至り發芽す其の後生育良好なりしが八九月の早魃によりて生育を阻害せられ従つて例年の如く繁茂せず然れども褐斑病の被害は極めて尠かりき生産品の分析成績左の如し

間島日本帝國領事館附屬農園生産品 反當收量七一五貫

採收月日	大	中	小	大	中	小
供試箇數	二 ^四	三	五	二 ^四	三	五
根一本の平均重量	九八九 ^五	六六九	三九三	九八九 ^五	六六九	三九三
汁液含糖率	一四、三%	一五、七六	二二、二〇	一四、三%	一五、七六	二二、二〇
平均		一七、〇%			一七、〇%	
根の含糖歩合		一六、二四%			一六、二四%	
純糖率	八二	八三	九五	八二	八三	九五

九月二十日

大 一
中 二
小 二

八四五
六〇〇
二七六

一九七七
一五、〇七
一六、八五

一七、三

一六、三七

九五
七九
八四

九月十日

大 二^四
中 三
小 五

九八九^五
六六九
三九三

一四、三%
一五、七六
二二、二〇

一七、〇%

一六、二四%

八二
八三
九五

九月三十日			十月十日			十月二十日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	三	二	五	三	二	五	三	二
二四五	七二四	一〇一〇	二四五	七九五	一〇〇五	三〇二	六〇五	八九五
一九、四八	一八、五二	二〇、二三	一九、四八	二〇、三四	一六、七三	二〇、三四	二〇、九二	一七、三六
	一九、四一			一八、八五			一九、五四	
	一八、四四			一七、九二			一八、五六	
九四	九〇	九六	八九	八九	八二	九二	九四	九四

備考 原重量不明なりし爲め減水量の改算をなさず
 左に参考として平壤及黄州地方に本年新に設けたる試作地の甜菜根に就き平壤支場の行へ
 る分析成績を掲ぐ

平壤支場生産品

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均根の含糖歩合	純糖率
九月二十日	大 二 中 三	七九、〇 _五 五四、五	一〇、九二% 一、六〇	一一、八三%	一一、二四%

平壤府秋、乙美面試作地生産品

採收月日 供試箇數 平均重量の汁液含糖率 平均根の含糖歩合 純糖率

採收月日	供試箇數			平均重量の汁液含糖率			平均根の含糖歩合			純糖率								
十月二十八日	小	中	大	二〇三、〇	二二、九六	二二、九九	二二、三三	二二、三三	八五	八四	八二							
	五	三	二									二六三、〇	一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二	八一
	五	三	二															
五	三	二	二六三、〇	一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二	八一									
十月二十日	小	中								大	一八六、四	一四、三七	二二、三三	二二、三三	二二、三三	八五	八三	八五
	五	三								二								
	五	三	二	二六三、〇	一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二	八一								
五	三	二	二六三、〇								一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二	八一		
十月十日	小	中															大	一六五、〇
	五	三		二	二六三、〇	一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二							八一	
	五	三	二	二六三、〇							一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二	八一		
五	三	二	二六三、〇															一一、九四
九月三十日	小	中			大	二六六、八	二二、九九	二二、三三	二二、三三	二二、三三							八七	
	五	三		二	二六三、〇						一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二	八一		
	五	三	二	二六三、〇														一一、九四
五	三	二	二六三、〇			一一、九四	二二、四一	二二、七九	八八	八二							八一	

調查成績 甜菜分析成績

十月二十五日			十月二十日			十月十日			九月三十日			九月二十日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三	二
一六、二、八	四三、八、〇	一〇五、五、〇	一六、三、〇	四三、〇、三	五四、二、〇	一六、五、二	三三、〇、七	五七、七、五	二二、二、八	三〇、〇、七	六六、二、〇	一三、三、二	三〇、三、六	六二、一、九
一六、一、〇	一五、七、六	一五、四、一	一六、一、〇	一七、一、四	一六、一、〇	一六、六、二	一五、九、三	一六、七、九	一七、六、六	一五、〇、六	一四、五、四	一五、〇、六	一六、二、八	一三、五、二%
	一五、七、六			一六、四、五			一六、四、五			一五、七、五			一四、九、五%	
	一四、九、七			一五、六、三			一五、六、三			一四、九、六			一四、二、〇%	
八九	八八	八六	八七	九五	九二	九五	九四	九三	一	九二	九二	八九	九〇	八二

平壤府龍淵面試作地生産品

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖	平均	根の含糖歩合	純糖率
九月二十日	大 二箇 中 三	八五、〇 _五 三七五、三	一六、六三% 一九、九二	一九、〇四%	一八、〇九%	九三
九月三十日	大 二 中 三 小 五	八三五、〇 三四六、七 一九五、四	一五、七六 一七、四九 一七、四九	一六、九一	一六、〇六	八五 八七 八七
十月十日	大 二 中 三 小 五	九〇七、五 五四八、〇 二四一、四	一九、七四 一九、三九 一八、七〇	一九、二八	一八、三三	九三 八九

順安郡郡内面試作地生産品

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖	平均	根の含糖歩合	純糖率
九月二十日	大 二箇 中 三	二〇六、五 _五 八四、〇	一五、四四% 一五、五八	一五、五三%	一四、七五%	八八 八四

調査成績 甜菜分析成績

順安郡龍興面試作地生産品

採收月日	供試箇數			根一本の重量	汁液含糖	平均	根の含糖歩合	純糖率
	小	中	大					
九月三十日	小	中	大	一五、六	一五、五八	一五、〇六	一四、三一	八二
	五	三	二	一五、七〇	一三、六四			
	四	五	七	一六、九七	一五、五八			
十月十日	小	中	大	一〇五、三〇	一四、五二	一五、八一	一五、〇二	八二
	五	三	二	一三、六	一六、二八			
	一	二	三	一六、六二	一五、二八			
十月二十日	小	中	大	八九七、五	一五、四一	一五、四七	一四、七〇	八六
	五	三	二	一五、七六	一五、二四			
	三	四	五	一五、七六	一五、二四			
十月二十七日	小	中	大	一三六、〇	一四、七二	一五、五九	一四、八一	八四
	五	三	二	一四、二	一五、七六			
	四	五	七	一六、二八	一五、七六			

十月二十七日			十月二十日			十月十日			九月三十日			九月二十日		
小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大
五	三	二	五	三	二	五	三	二	五	三	二	三	二	二
一五、二、四	三三、三	七二、〇	一八、九、六	二六、二、七	五三、〇	一四、一、二	四〇、六、七	七三、五	一七、〇、四	三〇、四、七	四八、四、五	二二、〇	三三、八、〇	五二、〇
一八、〇、二	一七、三、二	一六、四、五	一六、四、五	一六、二、八	一八、〇、一	一六、九、七	一七、六、六	一三、三、三	一五、九、三	一五、五、八	一四、五、四	一五、二、四	一五、五、八	一五、七、六%
	一七、二、六			一六、九、一			一五、九、九			一五、三、五			一五、五、三%	
	一六、四、〇			一六、〇、六			一五、一、九			一四、五、八			一四、七、五%	
九五			九二	九三		九二	九五	八一	八八	九二	九二	九二	九二	八六

中和郡上道面試作地生産品

採收月日			供試箇數			根一本の平均重量			汁液含糖率			平均根の含糖歩合			純糖率				
九月二十日			小	中	大	三	二	二	一五五、六	三五、七	四八、五	一五、五七%	一六、一〇	一五、五	一五、五%	八七	八二	七八	
九月三十日			小	中	大	五	三	二	二四〇、〇	四二五、〇	七五一、〇	一七、一四	一五、九三	二二、九九	一五、三五	一四、五六	九三	九四	八四
十月十日			小	中	大	五	三	二	一三九、〇	三〇五、七	五四二、五	一八、〇一	一六、一〇	二二、九九	一五、七〇	一四、九二	九五	八九	八一
十月二十日			小	中	大	五	三	二	一六九、六	三六、〇	七二、〇	一七、八三	一六、二八	一五、四一	一六、五二	一五、六八	九一	八六	八六
大			二			九五〇、〇			一四、三七						八七				

調査成績 甜菜分析成績

黄州郡天柱面試作地生産品

採收月日	供試箇數	根一本の平均重量	汁液含糖率	平均根の含糖歩合	純糖率
十月二十日	大 二 中 三	七四、四 七四、九	一六、二七% 一七、四九	一六、四五%	一五、三三
九月二十日	大 二 中 三 小 五	七四、四 三九、八 一三七、二	一六、二七% 一五、五八 一七、四九	一六、四五%	一五、三三
九月三十日	大 二 中 三 小 五	八四、七 五三、八 一九五、九	一五、〇六 一五、五八 一九、三九	一六、六八	一五、八五
十月十日	大 二 中 三 小 五	五三、一七 四四、二四 二七、五	一五、七六 一六、一〇 一七、一四	一六、三三	一五、五一
十月二十日	大 二 中 三	七四、九 四四、九	一四、七二 一七、六六	一六、一六	一五、三五
十月二十六日	中 三 小 五	三八、〇七 二四、一〇	一七、八三 一五、九三	一六、〇五	一五、二四

黄州郡九林面試作地生産品

十月二十六日			小
小	中	大	五
五	三	二	五
一五八、〇	三三三、〇	九九八、五	二四八、二
一六、七九	一六、六三	一四、三七	一六、一〇
	一五、九三		
	一五、一三		
八六	八五	八〇	九五

採收月日			供試箇數			根一本の重量			汁液含糖			平均根の含糖歩合			純糖率				
九月二十日			小	中	大	五	三	二	八六、三	五〇三、七	七九三、一	二〇、二六	一八、一八	一八、八七%	一七、九三%	一	九一	八九	
九月三十日			小	中	大	五	三	二	二七九、七	五二八、七	六八九、九	一八、〇一	一七、二四	一三、八五	一六、三七	一五、五五	九〇	九五	八一
十月十日			小	中	大	五	三	二	一六二、七	二九二、五	六五五、〇	二〇、七八	一八、八七	一四、八九	一八、二八	一七、二七	九七	九四	八八

調査成績 甜菜分析成績

病 蟲 害

十月二十日			十月二十六日		
大	中	小	大	中	小
二	三	五	二	三	五
五八、七	三三、五	二二、二	二二、五	三〇、〇	八三、八
一六、四五	一九、〇五	一八、一八	三三、八五	一四、七三	一六、九七
	一七、八九			一五、一八	
	一七、〇〇			一四、四二	
八七	九五	九二	七九	八二	八九

病 害

技 手 中 田 覺 五 郎

當場は本年度より植物病理に附する調査研究の事業を擴張し諸般の病害に就き病原菌の研究を行ひ適當なる豫防驅除の方法を案出するに努めつゝあり然れども今尙ほ研究中に屬するもの多きを以て詳細なる報告は他日に譲り茲に唯本年度施行せる事業の概要を記述し調査研究の経過を示さんとす

一、甜菜の病害

朝鮮に於ける甜菜の病害中其被害の著しきは褐斑病蛇眼病及菌核病の三種にして其病原菌を検するに前二者は歐米に於て慘害を與ふるものに等しく後者は新種なりと認むるを得べ

きも今後尙一層の研究を行ひ確定するところあらんとす而して此等病原菌傳播の由來を調査せるに褐斑病及蛇眼病は甜菜の種子によりて傳播するものにして褐斑病は甜菜輸入以前已に蒸菜、火焔菜等に發生せることあり蛇眼病は甜菜種子と共に輸入せられたるものなるを知れり而して菌核病は從來在來種蘿蔔に存在し之れより甜菜に傳播せるものなるを明らかにせり

病原菌の空氣、土壤若は動物體內通過後に於ける生活力並に土質及肥料との關係は今尙は試験中に屬す

二、人蔘の病害

朝鮮に於ける人蔘の病害中其の被害の著しきは赤腐病及菌核病にして赤腐病は一種の細菌の寄生によりて發生し菌核病は特種の菌核菌によりて蔓延するものなるを認め今尙ほ研究を重ねつゝあり而して兩種の病害の誘因と認べき土壤の理化學的關係即ち反應乾濕等種々の状態に就き調査せるも未だ明確なる成績を得るに至らず

三、棉の炭疽病

棉の炭疽病々病原菌は種子によりて傳播することを確め種子にバスターール消毒を施せば稍有効なるを認めたり而して空氣、土壤、堆肥、及種子中に於ける病原菌の生活力に就き試験を行ひつゝあるも未だ成績を發表するの域に進まず

四、殺菌劑

石灰[ボルドウ]合劑、亞硫酸鉛加用[ボルドウ]合劑、糖蜜加用[ボルドウ]合劑、炭酸銅[アンモニヤ]液、石

鹼加用「ボルドウ」合劑、札幌合劑、石灰硫黄合劑、酸曹液、「アイゼル」液等の各種殺菌劑に就き各濃度に於ける殺菌力を試験せり其結果豫防劑としては石灰「ボルドウ」液有効にして驅除劑としては石灰硫黄合劑の有効なるを認め且一般に滲透力弱きものは豫防劑に其強きものは驅除劑に適すべく又夜間の撒布は日中に於けるより被害少きを示したり尙ほ試験を重ねて確證するどころあらんとす

五、各道に於ける果樹の病害

當場本年の調査に依るに果樹に對し被害大にして且分布の廣き病害は左の如し

梨 赤星病 葉潜壁蝨 腐爛病

苹果 赤星病 褐斑病

葡萄 黒痘病

桃 縮葉病 穿孔病

右の内梨の赤星病と葡萄の黒痘病とは分布最も廣しとす右の外苹果及葡萄の癌腫病並に梨の黒枯病は漸次各地に蔓延せむとする傾向あり

六、稻熱病と肥料との關係

石灰、過燐酸石灰、大豆粕、荏油粕、米糠等を種々の量に配合して水稻早神力種を栽培せるに大豆粕一反歩當窒素一貫四百目乃至一貫八百目のものは稻熱病發生せるも石灰一反歩當四十五貫添加のものは殆んど被害なかりき今後試験を重ね確むるところあるべし

害 蟲

飼育成績

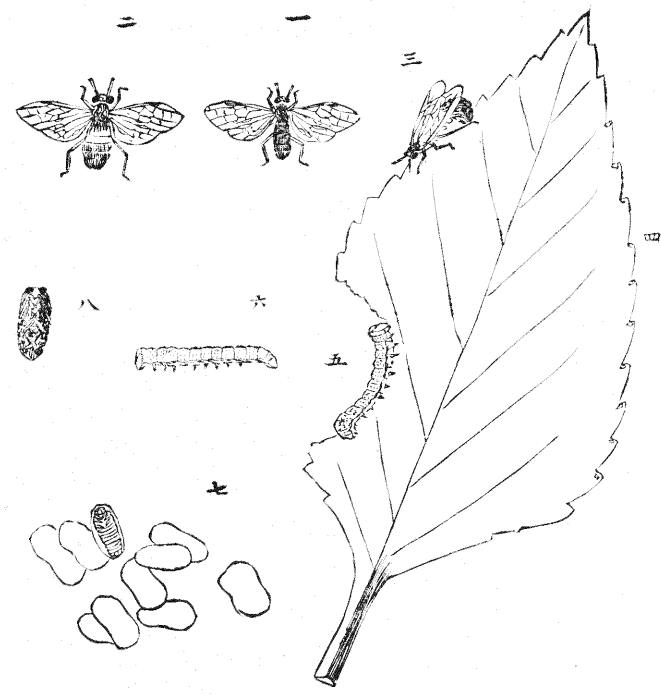
苹果の葉蜂

學名 *Hylotoma Nulle*, Mats.

一、被害作物 苹果樹

形態

苹果の葉蜂



- 一、雄蜂
- 二、雌蜂
- 三、雌蜂の産卵
- 四、卵
- 五、幼蟲の食實
- 六、幼蟲
- 七、繭
- 八、蛹

技師 向坂 幾三郎

成蟲 体長三分(雄)乃至四分

(雌)翅の開張六分(雄)乃至七

分(雌)全体黒色にして雌の

腹部第三四節は黄色を呈

し二對の翅は透明にして

前翅に一個の縁紋を有す

觸角は絲狀にして三節よ

りなり基部の二節は黒褐

色にして短く第三節は褐

色にして長く微毛を生ず

(雄蜂の微毛は黒褐色にし

て稍長し)脚は中央部(脛節)

黄色を呈し産卵器は褐色にして鋸齒状をなす

卵 白色にして扁橢圓形をなし長徑一耗内外あり葉縁の肉内に一粒宛産下す

幼蟲 幼蟲の老熟せるものは体長五分五厘全体綠色にして圓筒状をなし各節に數多の黒點あり短き粗毛を簇生す頭部は割合に大きく一二齡間は黒色なるも三齡より黃綠色となり二個の單眼を有し三對の胸脚五對の腹脚を具へ尾脚を欠き常に胸脚によりて運動し腹部の末端を腹面に曲げ葉縁より蠶食し老熟すれば樹下の土中四五分の處に下り土色の繭を營み其中に蛹化する

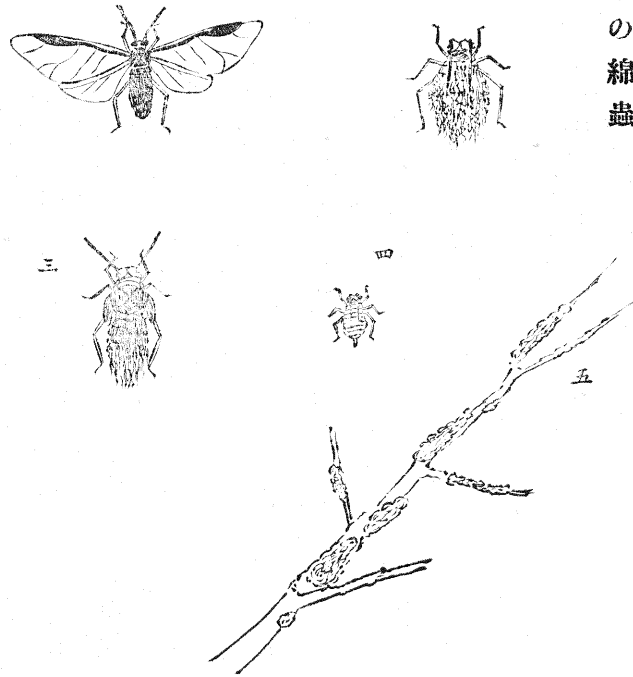
蛹 繭は橢圓形にして中央に縊れ目あり長徑三分餘ありて土色を呈し蛹は全体黒色にして雌の腹部第三四節は黄色を呈す体長二分五厘(雄)乃至二分七八厘(雌)に達す

飼育

本年五月大邱より數十個の繭を取り寄せ飼育に充つ

	第一化	第二化	第三化
産卵	五月七日	七月三日	八月四日
孵化	五月二十五日	七月十二日	八月十四日
一回脱皮	五月二十八日	七月十五日	八月十七日
二回脱皮	六月一日	七月十九日	八月二十一日
三回脱皮	六月三日	七月二十一日	八月二十三日
結繭	六月五日	七月二十三日	八月二十五日

苹果の綿蟲



一、無翅成蟲

二、有翅成蟲

三、蛹

四、幼蟲

五、被害枝

餘に達し綿毛を欠き翅は透明にして開張二分餘を計り大なる複眼を具へ觸角は六節よりなり絲狀を呈し長さ一耗に達し何れも蜜管を有せず

幼蟲 幼蟲は赤褐色にして其生るゝや常に体の後端より出で始めは匍匐活動するも樹皮に吸着したる後は動くことなく綿毛を生し体長一厘七八毛を計り觸角は六節よりなり口吻は能く發達して体の後端より

飼育

綿蟲は一疋宛分飼するにあらざれば各齡の日數を詳にする能はざるが故に同時に十數疋を分飼し其經過の正確なるものに就き之れを調査せり

第

一

號

第

二

號

第

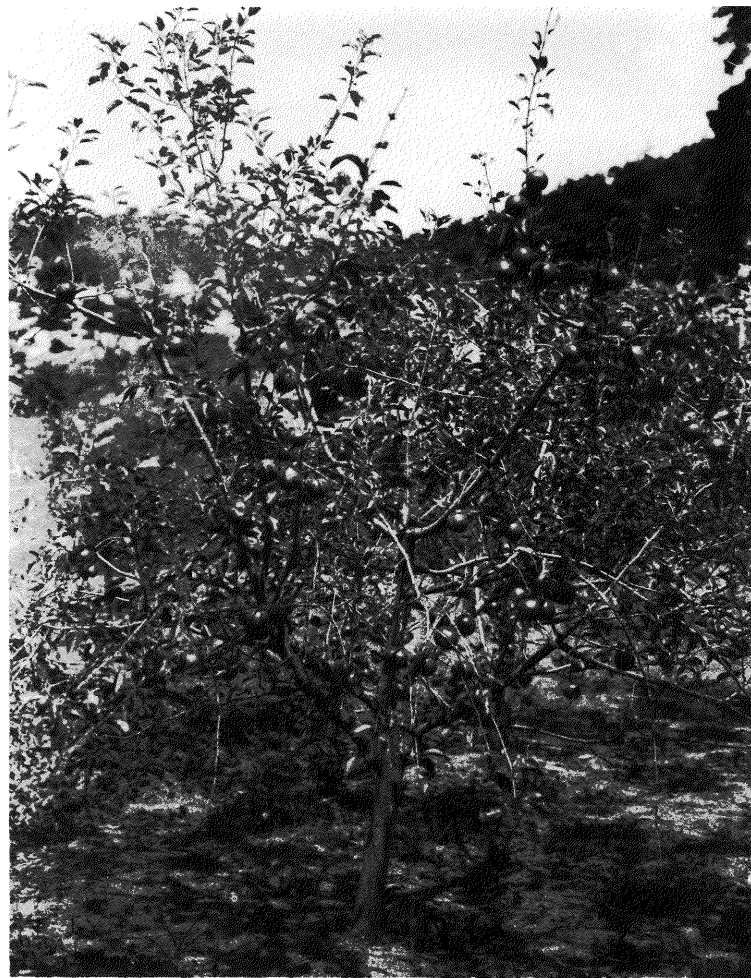
三

號

綿蟲驅除ヲ行ハザルガ被害枝



發芽後石油乳劑ヲ以テ綿蟲驅除ヲ行ヒタル果樹ノ結實狀況



發	一	二	三	四	五	計
一回	一回	一回	一回	一回	一回	
脫皮	脫皮	脫皮	脫皮	脫皮	脫皮	
六月十五日	六月十九日	六月二十二日	六月二十四日	六月二十五日	六月二十六日	十一月十一日
六月十六日	六月二十日	六月二十四日	六月二十六日	六月二十七日	六月二十八日	十二月十二日
六月十六日	六月二十日	六月二十三日	六月二十五日	六月二十六日	六月二十七日	十一月十一日

右表に依れば一齡に四日、二齡に三日、三齡に二日、四齡に一日、五齡に一日、計十一日を経て成蟲となるものゝ如し
又別に一晝夜間に於ける母蟲一疋の生殖力を調査し左の數を得たり

月	日	第一號	第二號	第三號
六月十七日	六月十八日	六月十九日	六月二十日	六月二十一日
一疋	一	二	四	四、二、五
三疋	八	〇	三	三、五
四疋	九	〇	三	四、〇

經過習性

一年十餘回の繁殖を営むものにして専ら幼蟲態にて越年し翌春に至りて脱皮成長し無翅の成蟲となり一晝夜に十疋以内(平均四疋)の胎子を産み一疋の母蟲が一ヶ月に千四百六十六疋となり又一疋の仔蟲(二齡蟲)が一ヶ月に三百二疋に殖へ氣候適當なる場合には一ヶ月に三回の繁殖を営むものなるを認めたり

幼蟲は生後十一日間に五回の脱皮を終へ無翅の成蟲となり直ちに繁殖を始め其体内に十餘疋の胎蟲と三十餘個の胎卵とを數へ(一疋の無翅母蟲の藏する胎蟲及胎卵の平均數は四十四疋)秋季までに十餘回の繁殖を営み九月下旬に有翅の成蟲を出す有翅蟲は羽化後四五日を経て胎子を産し夫れより三四日の間に五六疋を胎生し無翅成蟲の如く樹皮に吸着することなく園内を飛翔し新梢又は傷口等を探ねて胎子を産み付け直ちに死するも夫れより出でたる幼蟲は十五六日を経て無翅の成蟲となり樹皮に吸着し二十餘疋の胎子を産み其儘越年す本年飼育の結果に依れば綿蟲は常に單爲生殖を營み卵生期なく又隨時移動することなし即ち他樹に蔓延するは専ら有翅期にして無翅期にありては發生當時未だ樹皮に吸着せざるに當り風に依り綿毛と共に吹き飛さるゝを多しとす其土中に入るは大抵粘芽の地下二寸以内の處にして有翅の母蟲か産みたる無翅の母蟲より出てたるものにして枝幹に吸着せるものが秋季土中に下れるの形跡あることなし

驅除豫防法

一、發芽前には石油乳劑(石油一升、水五合、石鹼十二匁、乃至十五匁の割合にて調製するもの)とす

以下同じ)の五倍乃至十倍液を枝幹に塗抹し發芽後には石油乳劑の十倍乃至十五倍液を被害部に塗抹又は灌注すべし但し綿蟲は發生後十日内外を経て成蟲となるが故に發芽後には十日隔て位毎に苹果園を一巡し綿蟲の存否を検し石油乳劑を塗抹するを最も有効とす

二、根部被害の場合には堀取焼却し其跡には苹果樹を栽植すべからず

三、被害甚しき樹は之れを堀り取り焼却するか或は其枝を剪取焼却し又は發芽前に青酸瓦斯燻蒸を行ふべし

驅除成蹟

技師 向坂 幾三郎

一、餌料誘殺

稻の根喰葉蟲

稻の根喰葉蟲は羽化して蛭藻(鮮名カレー草)を食し其幼蟲は稻の根を害し専ら濕畚に發生し被害連續するものなるが故に之れが驅除を行ふに當り其畚中に越冬せる幼蟲は早く稻苗を植へて蟲を其根に誘ひ被害の狀を案して株を抜き蟲を殺して本植を行ふを可とするは第七號報告の示す處によりて明なりと雖も稻苗は生長稍遅く早植の場合に於ける生育は稗を優れりとするが故に稗を植付け幼蟲を其根に誘致し得るや否やを検せんと欲し六月八日稻苗の移植と同時に稗苗を其株間に植付け三週間を経て同二十九日に株を抜き其根を調査し左の成蹟を得たり

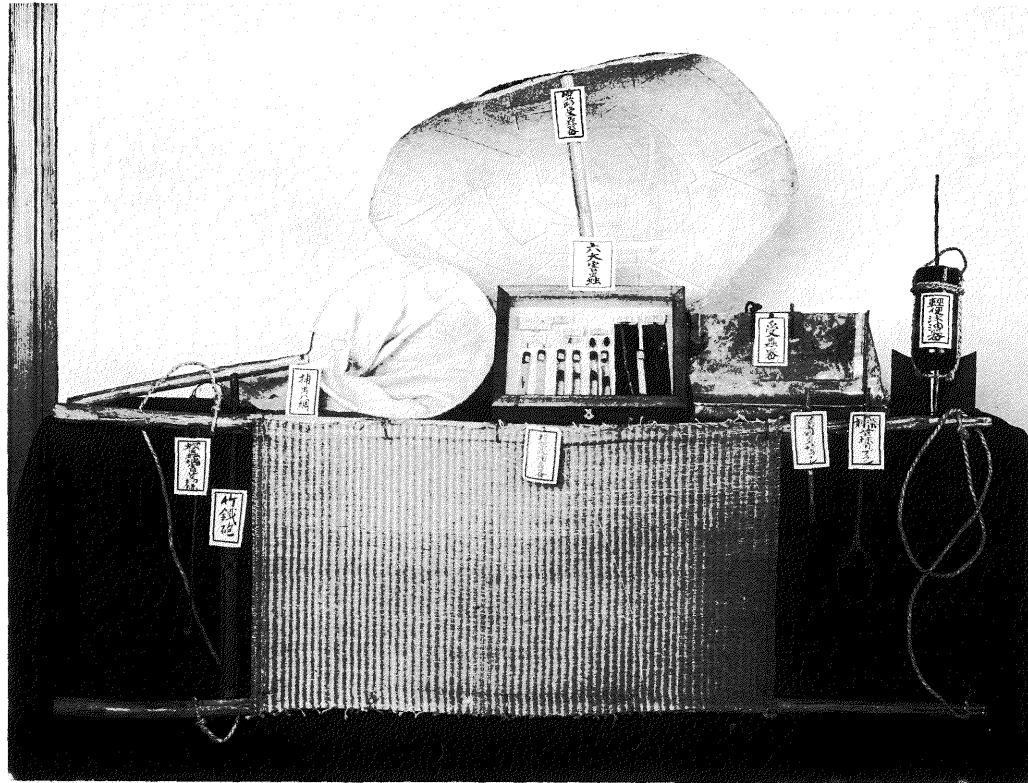
番	號	幼	蟲	稻	蛹	出	殼	計	株	幼	蟲	稻	蛹	出	殼	計	株
第	一	五	足	二	六	六	〇	八	六	〇	〇	三	同	〇	二	三	一
第	二	三	足	〇	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三	三	〇	〇	三	二
第	三	〇	足	〇	〇	〇	一	〇	〇	一	〇	五	五	〇	〇	三	三
第	四	八	足	〇	三	〇	〇	四	〇	〇	〇	六	六	〇	〇	六	三
第	五	二	足	〇	一	〇	〇	二	〇	〇	〇	二	二	四	〇	二	五
第	六	五	足	〇	五	〇	〇	五	〇	〇	〇	三	三	〇	〇	三	三
第	七	五	足	一	三	〇	一	一	〇	一	〇	二	二	六	一	一	四
平	計	七	五	〇	七	四	〇	二	五	一	〇	二	〇	〇	二	二	一

右表に依れば蟲の集中は稻株に稍多く蟲の生育は稗株に稍進めり是れ蟲は稻を喜ぶものなるも稗は發根旺盛にして早く蟲を誘ふの効あるを示せり要するに水稻の本植は早きに利あるが故に可成早く稗を植付け蟲を誘ひ之れを抜きて稻の本植を行ふべし即ち稻の根喰葉蟲の驅除法として左の一項を加ふるを可とす

- 一、被害畝には可成早く稗を植付け蟲を其根に集めて之れを抜き後ち本植を行ふべし
- 二、害虫驅除用具

大正二年一月四日府令第一號を以て害虫驅除豫防規則を發布せられ同二十三日告示第九號

六 大 害 蟲 驅 除 用 具



を以て驅除豫防を行ふべき六種の害蟲を指定せられたり今當場に於て案出せる此等害蟲の驅除用具を擧ぐれば左の如し

輕便注油器 浮塵子を驅除するに當り稻畚に石油其他の油類を滴下するに用ゆるものなり從來鐵葉製のものを用ひ來りしも價格不廉なるのみならず僻地に在りては之れを製する能はざるの不便あるを以て茲に一種の空罎製注油器を案出せり其法は毀損せる鎌(在來鎌の如き厚鎌を可とす)或は鉏の尖端を以て靜かに罎底の中央を敲



木栓

き孔を明け(急ぎ且強く敲く時は罎を破

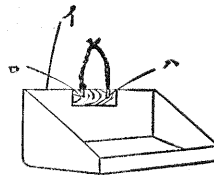
るの虞れあり)次第に廣げて適當の大きさに至らしめ更に直徑七八分位の松枝を伐採し皮を剥ぎ罎口に嵌めて適當に削り斷面を剔りて摺鉢形となし髓部を貫通し七八分の長さに切りて栓となし別に萩杆又はポプラー枝を以て長さ一尺五六寸の挿杆を作り先端を尖らし栓孔に挿して栓口の開閉に便し罎は莞草蕊又は麻糸にて捻りたる細繩にて吊縛し携帶に便ならしむ名けて輕便注油器と云ふ麥酒空罎を使用する時は一罎四合を入るゝが故に一斗落の畚用に適すべし

注意 本栓乾燥する時は罎口を密塞する能はざるが故に木栓は本器使用の際紙片にて巻き罎口に挿入し先づ少量の水を入れて栓を濕ふし後ら油を充たすを要す若し之れを怠る時は木栓離脱し油を漏出するの虞ありとす

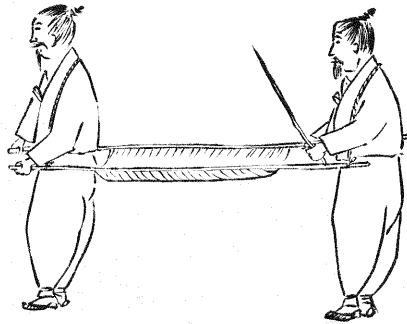
受蟲器 受蟲器は害蟲の種類により構造を異にするの要あり當場は浮塵子驅除用には鐵葉製受蟲器、粟夜盜蟲驅除用には擔架形受蟲器、黒金龜子驅除用には笠形受蟲器を案出せり今其構造を略述せん

鐵葉製受蟲器 鐵葉製受蟲器を製するには石油空罐を用ふるを可とす即ち罐の側より其對側に向ひ隅角より一寸位残して斜に切り開き(イ)邊の上縁(ロハ)の二

點に穴を明け紐を通し別に木片を其間に打ち付け把持に便ならしむ本器を使用するには先づ其内に少量の石油を入れ左の手首を紐に通し木片を握み右手にて浮塵子の蝸集せる稻株を本器の上に翳し蟲を拂ひ落し驅殺するものにして早朝蟲の舉動活潑ならざる時に行ふを利とす



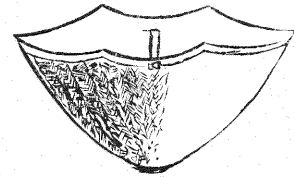
擔架形受蟲器



擔架形受蟲器 直徑一寸内外の二本の直杆をとり長さ五尺位に切り幅一尺七八寸長さ三尺位の疊表又は布片を圖の如く綴ぢ付け杆の兩端には長さ三尺五六寸の細繩を結び付け頸に掛け二人にて畦間に入り後位のもの長一尺位の細杆を左右の手に持ち蟲を擔架上に拂ひ落しつゝ前進するものにして夜中蟲の莖上に在る時に行ふを効多しとす

笠形受蟲器 芦製の笠を用ひて之れを製す其構造は圖に示すが如く徑八九分長さ一尺五寸位の把柄を以て笠の兩縁を連釘し内側は全面に紙を張り澁を塗りたるものなり把柄を釘止す

笠形受蟲器



るには幅五分長さ一寸位の鐵葉片をとり把柄の断面との間に笠縁を挟み打ち付くるを要す若し鐵葉片を用ひざる時は釘は笠縁を穿破し把柄と共に離脱し用をなさざるに至るべし

塗抹用刷毛 石油乳劑を塗抹して綿蟲及介殼蟲を驅除するには硬毛製刷毛を用ふるを可とす即ち枝梢塗抹用として竹製齒磨き楊子を用ひ枝幹塗抹用として履刷毛又はタワシに把柄を付けたるものを便とす之れを製するには

直徑四五分位の桑又は白楊類の枝條を伐り柄の長さを七八寸とし圖の如く整枝し(イ)部を撓めてタワシを巻き締め麻糸又は鐵線の類にて結束するを可とす

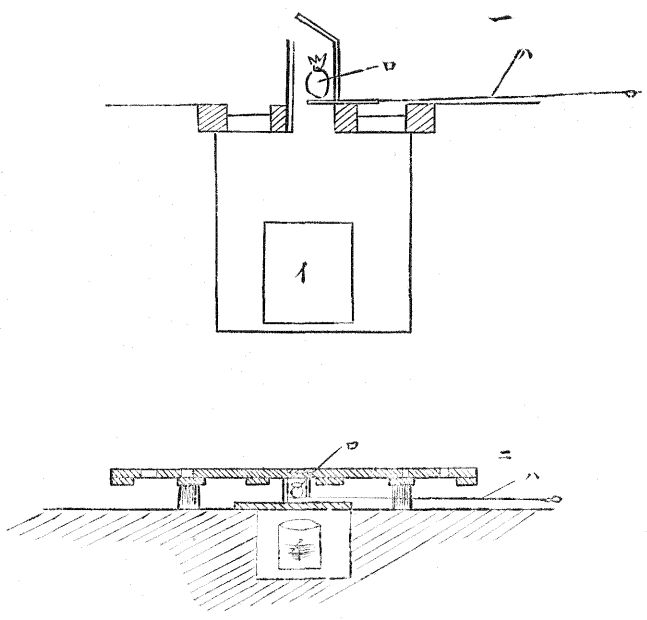
一、齒磨揚子



二、刷毛



來何處も彈機式を襲用し來り時に誤落を生じ非難を免れざりしを以て當場は之れを漏斗式に改めたり即ち漏斗の上には覆ひ蓋下口には差し板を嵌め差し板の一端に絲又は鐵線を結び置き青酸加里の一定量を漏斗内に入れ蓋を覆ひ下口の



一、ト設漏斗
 二、下設漏斗

イ、燻蒸室

ロ、青酸加里

ハ、引絲

直下には稀硫酸を入れたる燻蒸器を
 安置し用意整ひたる後絲を引きて漏
 斗の底板を開き青酸加里を燻蒸器中
 に落下せしむる装置にして實行の成
 績極めて良好なり

右の外捕蟲網(螟蟲捕蛾用)吉野式莖切器
 (螟蟲被害莖切取用)藁箒浮塵子拂ひ落し
 用(青酸瓦斯燻蒸用天幕)介殼蟲及綿蟲驅
 除用(竹鐵砲)石油乳劑製造用等は特に改
 良を加へず何れも普通器を用ゆること
 せり

蠶業
 種類試驗

第一 春蠶種類試驗

一、目的

本試験は前年來繼續施行するところにして内地及朝鮮に於て有望と認められたる蠶種を蒐

技師 宮原忠正
 技手 岩崎行高

集し飼育の上之を比較考査し以て朝鮮に適する良種を選定せんとするにあり

二、方 法

催青飼育桑葉等は成るべく之を一様にし其の他の状態をも努めて等しからしめたり

給桑回数、給桑量、除沙分箔及室内の温湿度等は農商務省蠶業講習所の春蠶飼育標準表に準したるも種類及氣象状態により多少の斟酌を加へ之を定めたり

三、供試の蠶種

試験供用蠶種は昨春飼養せる種類中にて有望と認めたるもの若くは繭絲質の特に優良なりしものを採用し他は之を省き又昔水原産卵形又昔小石丸(水原産)青熟伊太利白繭及伊太利黄繭の六種となし別に新に本年農商務省原蠶種製造所より送致せるジアロヅアロ及ポリデアロ種及慶尙北道産無錫種を加へたり

四、蠶種の保護

(一) 貯 藏

蠶種中又昔卵形又昔小石丸青熟伊太利白繭及伊太利黄繭の六種は昨年六月廿三日乃至同月廿五日採種以後ジアロヅアロ及ポリデアロは一月廿二日朝無錫は一月廿九日朝龍山支場に到着後二月三日迄蠶室内に貯藏し其の後蠶種貯藏庫中に移し四月廿四日出庫翌廿五日當場に送致せり

貯藏中の温湿度を示せば左の如し

蠶種貯藏庫内の温湿度表

目次	目標	貯藏庫中			貯藏庫中		
		最高	最低	平均	最高	最低	平均
二月(三日より)		四〇・〇 <small>度</small>	三二・〇 <small>度</small>	三七・〇 <small>度</small>	九二・〇 <small>度</small>	八五・〇 <small>度</small>	八八・九 <small>度</small>
三月		四一・〇	三三・〇	三八・五	九二・〇	七八・〇	八九・四
四月(廿四日迄)		四七・〇	三九・〇	四四・七	一〇〇・〇	九二・〇	九六・一

(二) 催 青

蠶種は四月廿五日以後當場蠶室内に於て天然温度に放置すること六日間にして五月一日に至り催青室に移し爾後平均七十度前後の温度六十九度前後の湿度を保たしめたるに又昔卵形又昔小石丸青熟の四種は四月十三日無錫は同月十四日ジャロヴァロ及ポリチアロ種は同月十六日伊太利白繭及伊太利黄繭種は同月十七日に發生せり今催青中の温湿度を表示すれば左の如し

出庫より補温に至る温湿度表

月 日	平均温度	平均湿度	月 日	平均温度	平均湿度
四月廿五日	五七・八 <small>度</small>	八九・三 <small>度</small>	四月廿八日	五〇・八 <small>度</small>	八五・八 <small>度</small>
廿六日	五八・六	八五・三	廿九日	五〇・八	八五・八
廿七日	五三・三	八七・一	卅日	五七・〇	八五・〇

催青中の温湿度表

月日	目標		室內		內		濕	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
五月一日	七二	六七	六〇	五四	六〇	八	六	八
二日	七二	六七	六〇	五四	六〇	八	六	八
三日	七〇	六五	六〇	五三	六〇	七	五	七
四日	七〇	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
五日	七二	六七	六〇	五三	六〇	七	五	七
六日	七二	六九	六〇	五三	六〇	七	五	七
七日	七三	六九	六〇	五三	六〇	七	五	七
八日	七三	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
九日	七二	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十日	七二	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十一日	七二	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十二日	七二	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十三日	七五	六九	六〇	五三	六〇	七	五	七
十四日	七三	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十五日	七三	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十六日	七三	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七
十七日	七三	六八	六〇	五三	六〇	六	五	七

五 發 生

發生は五月十二日に始まり同月廿日に終れり其の狀況左の如し

發生調査表 (其一) (三 蛾 分)

種別	目標	發 生							計	不發生 卵數	發生歩合 %
		初日	二日目	三日目	四日目	五日目	六日目	七日目			
又昔	昔	一、二七六 ^頭	六九三 ^頭	三三 ^頭	四 ^頭	三 ^頭	三 ^頭	二、〇〇八 ^頭	二七 ^枚	九八・七	
卵形又昔	昔	八六	七九	四三	八	二	一三	一、六一	五九	九六・五	
小石丸	丸	三三三	一、三〇〇	九八	一七	一	二	一、七五四	一七三	九一・二	
青 熟	熟	二九	一、一八四	二七九	一八	四	一	一、六〇五	一〇一	九四・一	
伊太利白繭	繭	一四〇	四四四	一五九	五四六	一四五	二七	一、四六七	六二	九六・〇	
伊太利黃繭	繭	三四	七七七	三三〇	七七	二六	六	一、三八四	二一	九二・六	
シアログアロ	アロ	八二	三六三	一四九	九	一		六〇四	九三	八六・七	
ポリデアアロ	アロ	二九	五五三	四二七	五五	二六	四	一、〇九五	一四四	八八・四	
無 錫	錫	三	五六一	二六三	二	二	七	八九七	一三三	八七・二	

備考 本調査は毎日正午より午後二時迄の間に於て行へり

發生調査表 (其二) (三 蛾 分)

種別	目標	發生初日	發生終日	發生日數	卵數	不發生卵數	計	發生歩合	最多發生及歩合
又昔	昔	五月十二日	五月廿一日	10日	693	27	720	96.7%	98.7%
卵形又昔	昔	五月十二日	五月廿一日	10日	79	2	81	96.5%	96.5%
小石丸	丸	五月十二日	五月廿一日	10日	1300	173	1477	91.2%	91.2%
青 熟	熟	五月十二日	五月廿一日	10日	1184	101	1285	94.1%	94.1%
伊太利白繭	繭	五月十二日	五月廿一日	10日	444	62	506	96.0%	96.0%
伊太利黃繭	繭	五月十二日	五月廿一日	10日	330	21	351	92.6%	92.6%
シアログアロ	アロ	五月十二日	五月廿一日	10日	149	93	242	86.7%	86.7%
ポリデアアロ	アロ	五月十二日	五月廿一日	10日	427	144	571	88.4%	88.4%
無 錫	錫	五月十二日	五月廿一日	10日	263	133	396	87.2%	87.2%

又	昔	五月十三日	五月十七日	五日	二、〇〇八	二七	二〇三五	九八・七	六三・五
卵形	又昔	五月十三日	五月十八日	六	一、六二二	五九	一、六七〇	九六・五	五〇・七
小石	丸	五月十二日	五月十八日	七	一、七五四	一七三	一、九二七	九一・一	七三・七
青	熟	五月十二日	五月十七日	六	一、六〇五	一〇一	一、七〇六	九四・一	七三・七
伊太利	白繭	五月十四日	五月廿日	七	一、四六七	六二	一、五三八	九六・〇	三七・二
伊太利	黄繭	五月十六日	五月廿日	五	一、三八四	二二	一、四九五	九二・六	五三・三
シアロ	ヴァロ	五月十五日	五月十九日	五	六〇四	九三	六九七	八六・七	六〇・一
ポリ	デアロ	五月十五日	五月廿日	六	一、〇九五	二四四	一、二三九	八八・四	五〇・四
無錫		五月十三日	五月十九日	七	八九七	三三	一、〇一九	八七・二	六二・五

備考 最多發生日の發生歩合は發生總卵數に對する割合なり

前表に依れば發生歩合最も多きは又昔にして伊太利白繭及青熟之に次ぎ最も少きは無錫及シアロヴァロとす最多發生日の發生歩合最も多きは小石丸にして青熟之に次ぎ伊太利白繭最少し即ち發生狀態の最も良好なるは小石丸及青熟にして又昔之に次ぎ伊太利白繭最も劣れり其の他の種類は其の中間にあり

六、飼育

(一) 飼育概況

各蠶種は終始同一蠶室内に於て飼育したるに無錫は微粒子病發生の徴現はれし爲め第三齡

以後別室に移せり(但し室内温度は畧同一状態となせり)蠶箔上下の挿し換は一日二回朝夕に之を行ひ勉めて蠶兒の感受状態を均等ならしめんことを圖れり
然れども各種發生の時日を異にせると第一齡及第五齡中天候稍や不良なりし爲め各種の感受状態幾分不均一を免かれざりしならんも常に周到の注意を拂ひたれば比較試験の結果には大なる影響なかりしは各齡經過狀況の明らかに示すところなりとす

(二) 第一齡經過表

種別	目標		收蟻月日	催眠月日	停食月日	竣蛻月日	齡中		室內平均
	食桑中	經食中					合計	日數	
又昔	五月十三日午後	五月十八日午前	五月十八日午後	五月十八日午後	五月廿六日午後	五日十時	一日十八時	七日四時	七〇・七度 六〇・六度
卵形又昔	同	同	同	同	同	同	同	同	同
小石丸	同	同	同	同	同	同	同	同	同
青熟	同	同	同	同	同	同	同	同	同
伊太利白繭	五月十七日午後	五月廿三日午前	五月廿三日午後	五月廿三日午後	五月廿四日午前	六日一時	一日六時	七日七時	七〇・七度 六三・五度
伊太利黃繭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
シアロヴァアロ	五月十六日午後	五月廿二日午前	五月廿二日午後	五月廿二日午後	五月廿四日午前	同	一日十三時	七日十四時	七〇・一度 六〇・〇度
ポリチアアロ	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無錫	五月十四日午後	五月十九日午前	五月十九日午後	五月十九日午後	五月廿一日午後	五日七時	一日廿一時	七日四時	七〇・二度 六四・七度

本齡中は晴曇相半し天候は飼育に適當ならざりしも臨機の措置を施したる結果蠶兒をして

良好なる経過をなさしむるを得たり
 歐洲種中伊太利白繭及伊太利黃繭は五月廿四日に於て室外の最高氣温八十二度に達せし
 め當時眠中に在りし蠶兒の経過は之が爲め著しく促進せられたり
 本齡間の室内平均温濕度を示せば左の如し

第一齡間室内平均温濕度表

月 日	温 度	濕 度	月 日	温 度	濕 度
五月十三日	七〇・五 ^度	六六・七 ^度	五月十九日	七〇・七 ^度	六五・八 ^度
十四日	七〇・五	六六・七	廿一日	六九・八	六三・〇
十五日	七〇・二	六七・二	廿二日	六九・八	六三・八
十六日	七〇・三	六五・八	廿三日	七〇・三	六二・三
十七日	七〇・五	六五・〇	廿四日	七〇・三	六二・七
十八日	七〇・二	六三・七			

(三) 第二齡経過表

種別	目標	齡 中		日 數	室内平均			
		飼食月日	催眠月日		停食月日	竣蛻月日	温 度	濕 度
又 昔	五月廿六日午後六時	五月廿四日午後十一時	五月廿九日午後十二時	五月廿六日四時	四月六時	五月廿二時	七〇・〇 ^度	六四・四 ^度
卵形又昔	同	同	同	同	同	同	同	同

廿三日	七〇・三	六四・三	廿九日	六九・五	六五・三
廿四日	七三・三	六一・七	卅日	七一・〇	六六・〇
廿五日	七二・〇	六五・八			

(四) 第三齡經過表

種別	目標	飼食月日		催眠月日		停食月日		竣蛻月日		齡中		室內平均	
		飼食月日	催眠月日	停食月日	竣蛻月日	食桑中	絶食中	合計	溫度	湿度			
又昔	昔	午五月廿六日	後四月五日	後五月三日	午五月五日	前五月十二日	後六月六日	前五月五日	四日二十時	一日十七時	六日十三時	七〇・六	六三・六
卵形又昔	昔	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
小石丸	丸	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
青熟	熟	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
伊太利白繭	白繭	午五月廿五日	後五月廿六日	後五月廿二日	午五月廿六日	前五月九日	後六月六日	後五月十一日	四日四時	一日十四時	五日十八時	七〇・五	六七・三
伊太利黃繭	黃繭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
シアロヅアロ	アロ	午五月廿九日	前五月廿六日	前五月二日	午五月六日	後五月十二日	前六月六日	前五月九日	四日十一時	一日十時	五日二十時	七〇・四	六六・三
ボリデアロ	デアロ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無錫	錫	午五月廿八日	前五月九日	前五月九日	午五月九日	前五月九日	後五月十一日	前五月十一日	四日十三時	一日十四時	六日三時	七〇・六	六三・五

本齡中の天候は概ね晴天なりしかば飼育容易にして蠶兒をして完全なる發育を遂げしむるを得たり

青熟	伊太利白繭	伊太利黃繭	シアロヅアロ	ボリチアロ	無錫
同	同	同	同	同	同
六月十一日午後四時	六月十一日午後四時	六月十一日午後四時	六月九日午前九時	六月十一日午後四時	六月十一日午後四時
同	同	同	同	同	同
六月九日午前四時	六月九日午前四時	六月九日午前四時	六月八日午前九時	六月五日午前四時	六月五日午前四時
同	同	同	同	同	同
六月九日午後七時	六月九日午後七時	六月九日午後七時	六月九日午前九時	六月十一日午後五時	六月十一日午後五時
同	同	同	同	同	同
六月十二日午前四時	六月十二日午前四時	六月十二日午前四時	六月十一日午後五時	六月十八日午前四時	六月十八日午前四時
同	同	同	同	同	同
六月二十時	六月二十時	六月二十時	六月二日五時	六月三日五時	六月三日五時
同	同	同	同	同	同
六月十日	六月十日	六月十日	六月七日五時	六月七日五時	六月七日五時
同	同	同	同	同	同
六月六時	六月六時	六月六時	六月五日五時	六月五日五時	六月五日五時
同	同	同	同	同	同
七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇一	同	七〇〇
同	同	同	同	同	同
七五三	七五三	七五三	七五六	同	七五〇

本齡中の天候は時に曇天を見しも過乾過濕なく蠶兒の發育に適せり只無錫種の本齡に至り他種に比し著しく發育不良に陥りしも他種は一般に發育良好にして著しき優劣を認めざり

き

本齡間の室内平均温濕度を示せば左の如し

第四齡間室内平均温濕度表

月日	温 度	濕 度	月日	温 度	濕 度
六月二日	七〇・八度	六六・三度	六月八日	七〇・二度	七六・五度
三日	七〇・二	七三・三	九日	六九・七	八〇・五
四日	七〇・〇	七五・五	十日	七四・八	七三・八
五日	七〇・二	七〇・〇	十一日	七三・二	八五・二

六日	七日
七〇〇	六九五
六三三	七〇三
十二日	
六九七	
八三三	

(六) 第五齡經過表

種別	目標	餉食月日	催熟月日	終熟月日	齡中日數		室內平均	
					食桑中	合計	溫度	濕度
又昔	昔	午六月五時	午六月十五時	午六月十六時	七日一時	七日一時	七〇二	八〇三
卵形又昔	昔	同	同	同	同	同	同	同
小石丸	丸	同	同	同	同	同	同	同
青熟	熟	同	同	同	同	同	同	同
伊太利白繭	白繭	午六月十二時	午六月十九時	午六月廿二時	八日九時	八日九時	七〇三	七〇九
伊太利黃繭	黃繭	同	同	同	同	同	同	同
シアロヴァアロ	アロ	午六月十二時	午六月十九時	同	九日〇時	九日〇時	同	七〇三
ホリデアアロ	アロ	同	同	同	同	同	同	同
無錫	錫	午六月十一時	午六月十五時	午六月十六時	七日七時	七日七時	七〇三	八〇三

本齡の前半は概ね晴曇相半し後半は概ね曇天にして時々降雨あり天候は飼育に適せざりしも臨機の措置を施したる結果蠶兒をして良好なる經過をなさしむるを得たり只無錫種のみは發育益々不良なりき

本齡間の室内平均温湿度を示せば左の如し

第五齡間室内平均温湿度表

月	日	温	度	湿	度	月	日	温	度	湿	度
六月	八日	七〇・二	度	六八・五	度	六月	十五日	七〇・三	度	六八・八	度
九日	六九・七	度	八〇・五	度	六月	十六日	七〇・七	度	七四・八	度	七〇・三
十日	七四・八	度	七〇・八	度	六月	十七日	七〇・七	度	七二・二	度	七四・〇
十一日	七二・二	度	八五・二	度	六月	十八日	七〇・三	度	七二・二	度	七三・三
十二日	六九・七	度	八二・二	度	六月	十九日	六九・二	度	七〇・七	度	七三・三
十三日	七〇・五	度	八〇・七	度	六月	廿日	七〇・〇	度	七〇・七	度	七四・七
十四日	七〇・三	度	八三・八	度							

(七) 全齡經過表

種別	目標	收蟻月日	終熟月日	飼育日數	室内平均
又昔	午五月十三日	午後十二時	六月十六日	二五日二〇時	七〇・九
卵形又昔	同	同	同	七日二〇時	同
小石丸	同	同	同	三日一六時	同
青熟	同	同	同	同	同

伊太利白繭	五月後十七日	午後十二時	二七日六時六分	一八時三四日〇時	七〇・四	六九・五
伊太利黃繭	同	同	同	同	同	同
ジアロヴァアロ	五月後十六日	午後十二時	二八日一時六分	二三時三五日〇時	七〇・〇	六九・四
ホリデアアロ	同	同	同	同	同	同
無錫	六月十四日	午後十二時	二四日十三時八分	三二日十六時	七〇・八	六九・〇

右の成績に依れば経過日数の最も長きはジアロヴァアロ及ホリデアアロにして伊太利白繭及伊太利黃繭之に次ぎ無錫は最も短かしとす

(八) 發育の齊否

蠶兒發育の齊否を食桑及眠起の状態に依り調査せるに左の如し

各齡發育の齊否

種別	目標		第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	概評
	又昔	卵形又昔						
伊太利黃繭	稍齊	稍齊	稍齊	稍齊	稍齊	同	稍齊	稍齊
伊太利白繭	同	同	同	同	同	同	同	同
青熟	齊	同	最齊	同	同	極めて齊	最齊	齊
小石丸	同	稍齊	同	同	同	同	同	同
卵形又昔	稍齊	同	同	同	同	齊	齊	齊
又昔	齊	齊	齊	齊	齊	極めて齊	最齊	齊

シアロヅアロ	同	同	同	同	同	同	同
ポリデアロ	齊	齊	齊	同	齊	同	齊
無錫	不齊	不齊	不齊	不齊	極めて不齊	不齊	不齊

發育の最も齊一なりしは又昔及青熟にして其の他の内地種伊太利白繭及ポリデアロ之に次ぎ伊太利黄繭及シアロヅアロは稍齊無錫に至りては最も不齊なりき

(九) 減蠶數

減蠶とは飼育中及上簇中の遺失蠶、病斃蠶及遲蠶を云ひ減蠶の多少は蠶兒の強弱健否の度を知るの標準なりとす今各齡及上簇中の減蠶數(表其二)並に各齡より上簇中に至る減蠶數(表其二)を表示せば左の如し

減蠶頭數表 (其二) (對掃立蠶一萬頭)

種別	目標						上簇中	合計
	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	合計		
又昔	四三頭	一八三頭	二七頭	五九頭	二三頭	六頭	九二頭	
卵形又昔	六〇六	一六二	八二	二四	三八	七四	九六六	
小石丸	五二七	二九	一〇五	五七	三一	八六	九三五	
青熟	四四四	一六四	七六	四三	一九	五三	七九九	
伊太利白繭	一、二四四	一四六	一三〇	七六	六六	一一三	一、七六五	
伊太利黄繭	二、〇七二	七八三	三三三	一一二	八三	一三〇	三、五〇二	

減蠶頭數表 (其二) (對掃立蠶一萬頭)

種別	目標	減蠶頭數			
		減蠶總數	第二齡後減蠶	第三齡後減蠶	第四齡後減蠶
又昔	昔	九二 <small>頭</small>	二六五 <small>頭</small>	一四八 <small>頭</small>	八九 <small>頭</small>
卵形又昔	昔	九八六	二二八	一三六	一一二
小石丸	丸	九三五	二七九	一七四	一一七
青熟	熟	七九九	一九二	一一五	七三
伊太利白繭	繭	一、七八五	三九五	二六五	一八九
伊太利黃繭	繭	三、五〇二	六四七	三三五	二二三
シアロヴァロ	アロ	三、七八〇	一、二六三	六二四	三〇二
ポリデアロ	アロ	二、四四九	五七一	三五二	二二九
無錫	錫	六、八六四	三、八九四	三、三三四	二、九二三

上記減蠶總數及齡別減蠶數の多少を稽へて順次列記せば左の如し

青熟 又昔 卵形又昔 小石丸 伊太利白繭 ポリデアロ 伊太利黃繭

ジアロヅアロ 無錫

減蠶數の少なきは蟲質強健なるを示すものなれば青熟最も強健にして他の内地種之に次ぎ外國種は一般に強健ならざるを見る外國種中には伊太利白繭最も強健にして無錫最も虚弱なりとす

(十) 給桑量

給桑は前回の給桑が次回の給桑迄に適宜に乾燥するを度とせるも其の量は氣候の關係上内地に於ける給桑量よりも二三割多きを要せり給桑量の著しく少きは支那種にして内地種之に次ぎ歐州種は著しく多し而して最も多きはポリデアロなりとす

備考 支那種の給桑量著しく少なりしは減蠶の多かりしこと主因をなせるものの如し
各齡給桑表 (對掃立蠶一萬頭)

種別	目標					合計						
	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡							
	回数	量	回数	量	回数	量						
又昔	四 _回	三七〇・一 _匁	三 _回	九八・八 _匁	三 _回	二、三六・八 _匁	二七 _回	七、六〇五・〇 _匁	三六 _回	三、八三九 _匁	一六七 _回	四九、九七〇・七 _匁
卵形又昔	同	三六二・二	同	九〇六・〇	同	二、一七二・〇	同	七、四一八・〇	同	三、七八四	同	四八、七四二・二
小石丸	同	三七〇・一	同	九二八・八	同	二、二二六・八	同	七、六〇五・〇	同	三、八三九	同	四九、九七〇・七
青熟	同	三八〇・一	同	九五一・五	同	二、二八一・〇	同	七、七九〇・〇	同	三、九、六六	同	五一、一八八・六
伊太利白繭	同	五〇九・四	同	九九九・五	同	二、二、六三・七	同	九、七九七・〇	同	五、八、六三	同	七二、〇九一・六
伊太利黃繭	同	五九二・一	同	九二二・一	同	二、〇八二・七	同	九、四三一・〇	同	四、七、〇六	同	六〇、〇三三・〇

無錫	四三	三六・八	二五	六四〇・一	二六	一、六四二・九	二五	四、二六四・〇	三七	一八、五九六	一五八	二五、五〇五・八
ジアロヴァロ	五四	五〇・八	二六	八九四・四	二六	二、六七二・九	三二	一、八一七・〇	四六	五三、三〇〇	一八五	六九、二四五・一
ポリヂアロ	同	五五・〇	同	九〇八・六	同	二、七五・三	同	三、〇〇四・〇	同	六四、六八六	同	八〇、八六五・九

七 發生及飼育概評

前記の諸項を通覽するに發生良好發育齊一にして蟲質強健なるは青熟にして之に次ぐを又昔とす小石丸及卵形又昔は前兩者に比し幾分遜色ありと雖甚しき徑庭なし外國種中發生良好發育齊一にして蟲質強健なるは伊太利白繭にしてポリヂアロ之に次ぐジアロヴァロ及伊太利黃繭に至りては發育前者に比し著しく不齊一なるのみならず蟲質強健ならず無錫に至りては發育甚しく不良にして蟲質極めて虛弱なりき然れ共本種は民間所産の蠶種にして卵検査の成績は三十三の有毒歩合を示めせるものなれば本回の試験のみを以て其の特徴を論定するを得ず更に試験を重ねて之を確むべし

八、收繭

收繭は六月廿二日乃至六月廿七日に之を行ひたり收繭の容量及重量の著しく多きは伊太利白繭にしてポリヂアロは稍劣れども殆ど之と伯仲し伊太利黃繭青熟、ジアロヴァロ、又昔卵形又昔小石丸順次之に亞ぎ無錫は他種に比し著しく劣れるを見る即ち左の如し

收繭成績表 (對掃立蠶一萬頭)

種別	上繭		中繭		下繭		同功繭		合計	
	顆數	容量	顆數	容量	顆數	容量	顆數	容量	顆數	容量

又昔	八、三六〇	三〇七・六	三、一七八・〇	九二	四一	三三・八	二九	一〇〇	一一・三	三〇	二〇・五	二〇・五	八、七八八	三三三・二	三、四二七・一
卵形又昔	七、九三二	二九六・〇	二、八五四・〇	七八	三三	二六・〇	一一〇	五〇	四六・〇	四四二	三三・〇	三二六・〇	八、五七三	三三七・二	三、三三二・〇
小石丸	八、〇九五	二八七・一	二、八九七・〇	一二	四一	三九・〇	三九	二一	一四・四	四一〇	三五・九	三三八・〇	八、六六五	三三九・二	三、二八八・四
青熟	八、〇六六	三〇七・〇	三、〇七七・〇	一七〇	七四	五六・七	五七	二一	二〇・〇	四五四	三一・五	三五・六	八、七四七	三四八・〇	三、四七九・三
伊太利白繭	七、六六一	四七〇・〇	四、二二四・七	一四六	一〇八	七八・五	二〇八	一〇三	一三三・〇	一〇〇	一一二	八六・四	八、一一五	五〇三・四	四、五一二・四
伊太利黃繭	六、三九九	三四三・二	三、五五四・三	七五	三三	三五・七	三六	一・八	二二・〇	二九	一一八	三〇〇・〇	六、四六九	三五〇・〇	三、六四一・〇
ジアロウアラ	六、〇八〇	三五〇・〇	三、四九九・七	二九	一一	一三〇・〇	七五	四・七	四五・五	二三	一一六	二七・二	六、二〇七	三四二・五	三、五八五・四
ポリヂアロ	七、二七一	四四八・八	四、四一七・〇	二四	一三	一〇一・一	一六四	一三三	一〇二・〇	四六	三・九	五〇〇・〇	七、五〇五	四六七・三	四、五七九・一
無錫	二、八六四	九八〇・〇	一、〇一七・五	五五	一八	一九・四	七五	二〇	二三・一	七二	四・六	五〇〇・〇	三、〇六五	一〇六・四	一、一一〇・〇

九、繭 質

繭肉眼査定

生繭に就きて肉眼査定を行ひたる成績左表の如し

繭質調査表 (其一)

種別	目標	色	澤	形	状	縮	皺	繭	層	緊	緩
又昔	卵形又昔に次いで白色清美にして僅に黄赤色を帯ぶるもの卵形又昔より稍多し	固有の形状を有し最も齊一なり	密にして齊一なり	厚くして齊一なり	極めて緊にして齊一なり						

無錫	ポリヂアロ	ジアロヴァロ	伊太利黃蘭	伊太利白蘭	青熟	小石丸	卵形又昔
光澤極めて可良なるも色澤齊一ならず約六割以上を薄き緑色を帯ぶ	大體ジアロヴァロ種に同じ	光澤可良なり色澤は一定せず肉色のもの及肉色黄色を帯ぶるものありて其間には互に關係的に順次濃淡あり	光澤稍不良なり色澤ポリヂアロと同様なり	光澤可良にして色澤一定せず最も純白なるものは卵形又昔無錫に譲らざるも其の數極めて少し一般に微に帶黄綠色を存する感あり	又昔に次で白色清美にして微に赤黄色を帯ぶ	青熟に次いで色澤清美なれども純白ならず	白色清美なり微に黄赤色を帯ぶるものを混す
卵圓形にして齊一ならず大小不同あり	同	益を有するものと稍深き益を有するものと混す	著しく大小ありて不齊なり伊太利白蘭に同じ	淺き益を有し長大なり内地種に比し稍齊一を缺く	固有の形狀を有し齊一なり	短形にして固有の形狀を有すれども大小不同あり	同
粗にして横ちりりを有し齊一なり	同	粗にして齊一なり	稍粗にして齊一なり	粗にして齊一なり	稍粗にして齊一なり	同	稍密にして齊一なり
薄くして齊一なり	同	厚くして齊一なり	厚くして齊一なり	稍薄くして齊一なり	同	同	同
稍緩にして齊一なり	同	緊にして齊一なり	緊にして齊一なり	緩にして齊一なり	同	緊にして齊一なり	同

右の成蹟に依れば内地種は一般に色澤及形狀齊一にして縮皺繭層及緊緩宜しきを得たるに反して外國種は一般に色澤形狀齊一を缺き其の他の諸點に於ても幾分内地種に比し遜色あるを認めたり

尙各種上繭五十顆に就き繭層及繭層歩合を調査せるに其の成蹟左の如し

繭質調査表 (其二)

繭形比較

種別	目標	長	幅	縮	對		割	合
					幅	長		
又	昔	105 ^寸	048 ^寸	044 ^寸		46 ^割		42 ^割
卵形	又昔	107	051	049		47		48
小石丸		100	049	044		90		40
青熟		105	049	045		67		29
伊太利白繭		126	062	060		92		76
伊太利黃繭		115	061	058		30		04
ジアロヴァロ		110	059	056		92		67
ポリデアロ		111	065	063		37		21
無錫		094	052	049		55		21

繭質調査表 (其三)

繭層歩合

種別	目標	繭層量	蛹量	蛻皮量	計	對全量繭層歩合
又昔	昔	0.070	0.311	0.001	0.383	1.83
卵形又昔	昔	0.060	0.311	0.001	0.372	1.57
小石丸	丸	0.060	0.311	0.001	0.372	1.61
青熟	熟	0.070	0.311	0.001	0.382	1.79
伊太利白繭	白繭	0.078	0.500	0.003	0.581	1.34
伊太利黃繭	黃繭	0.080	0.510	0.003	0.593	1.35
ジアロッパ	アロ	0.090	0.510	0.003	0.603	1.47
ボリデア	アロ	0.100	0.510	0.003	0.613	1.47
無錫	錫	0.060	0.310	0.001	0.371	1.66

備考 本調査は上簇後九日目に之を行へり

前掲の成績に基き上繭一升に對する繭層量掃立蠶一萬頭に對する繭層量及給桑百貫々に對する繭層量を示せば左の如し

繭質調査表 (其四)

繭層量 (上繭三升平均)

種別	目標	一升の顆數	一升の重量	一升の繭層量	對掃立蠶一萬頭 繭層量	對給桑百貫 繭層量
又昔		二七 _四	九九 _九	一九〇 _〇	五八五 _七	一、一九一 _九
卵形又昔		二六 _八	九七	一六一	四七五 _九	九七六 _四
小石丸		二八 _二	一〇〇	一六〇 _九	四八五 _七	九七一 _〇
青熟		二六 _三	一〇〇	一八〇 _四	五六四 _六	一、一〇三 _〇
伊太利白繭		一六 _三	八六	二二 _七	五九七 _五	八二八 _九
伊太利黃繭		一九 _三	一〇五	一五〇 _四	五〇六 _二	八四三 _三
ジアロヅアロ		一八 _七	一〇三	二六〇 _八	五四七 _一	七九〇 _二
ポリヂアロ		一六 _三	九五	一六〇 _二	七二七 _四	八九九 _一
無錫		二九 _二	一〇一	一七五 _五	一七一 _九	六七三 _三

前各表を通覽するに繭の全量に對する繭層量の割合最も多きは又昔にして青熟之に次ぎ伊太利白繭最も劣れり

給桑百貫毎に對する繭層量も又昔に於て最も多く青熟之に次ぎ無錫に於て最も少なし而して内地種は繭形齊一なれども卵形又昔種を除きては形狀は外國種に比し優れりと云ふ能はず然れども色澤の良好且齊一なることは遙に外國種に優れりとす

十、絲質

各種類の上繭に就き一粒線試験を行へるに其の成績は左の如し

絲質試驗成績表 (其二) (五十顆平均)

種別	目標	一 顆 糸 長				一 顆 糸 量	對 四 百 回 纖 度				對 四 百 回	
		最 長	最 短	平 均	最 細		最 太	最 細	平 均	類 節	切 斷	
又 昔	六九〇 ^四	三七六 ^四	五二五 ^四	四〇六七	四〇〇四 ^四	二〇〇八 ^四	二〇七三 ^四	〇〇七七 ^四	〇〇三〇 ^四			
卵形又昔	七二五	四三〇	五八四	四七五	三〇五三	一六三	二〇二〇	〇〇七九	〇〇二七			
小石丸	五九〇	三七〇	四九七	四三七	三〇五二	一八三	二〇二四	〇〇七九	〇〇二七			
青 熟	六八〇	四〇〇	五二六	四六七	四〇〇〇	一七六	二〇七一	一〇〇〇	〇〇二九			
伊太利白繭	八四〇	五二五	六二六	五九五	三〇九五	二二五	二〇八五	〇〇一〇	〇〇一四			
伊太利黃繭	一、一四〇	四七五	七五五	六六九	三〇四八	一八五	二〇五九	〇〇六八	〇〇一〇			
シアロヅアロ	一、〇六二	五八〇	七九五	七一五	三〇六九	一五四	二〇七〇	〇〇五八	〇〇一三			
ポリヂアロ	一、〇三二	五一〇	七九三	七五二	四〇一一	一九〇	二〇八五	一〇七	〇〇一三			
無 錫	七七五	四〇五	五五六	四二七	三〇九三	一七八	二〇二七	一〇八	〇〇八二			

絲質試驗成績表 (其二) (二十顆平均)

種別	目標	最 太 部 五 十 回				最 初 五 十 回				最 終 五 十 回				絲 綉 兩 端 纖 度 の 割 合	
		最 太	最 細	平 均	最 太	最 細	平 均	最 太	最 細	平 均	最 初 五 十 回	最 終 五 十 回	%	%	
又 昔	六二一 ^ル	四〇四 ^ル	三〇二〇	三〇九二	三〇六八	一〇二二	二〇三六	三〇八四	一〇〇七	二〇〇一	六〇〇二〇	五二〇二八			
卵形又昔	四〇三	二二四	三〇二六	二〇五六	一〇二二	一〇八四	三〇〇四	〇〇六四	一〇四三	五六〇一〇	四三〇二九				
小石丸	四〇四 ^ル	二〇八八	三〇七	三〇六八	二〇〇八	二〇五二	二〇八八	〇〇八〇	一〇五八	六八〇二二	四二七〇				

青熟	四・八〇	三・〇四	三・九〇	三・八四	一・二八	二・一八	三・二〇	一・〇〇	一・七二	五五・九〇	四四・一〇
伊太利白繭	六・五五	三・〇四	三・九二	三・六八	一・七六	二・八〇	二・四〇	一・二二	一・八三	七一・四三	四六・六八
伊太利黃繭	四・〇〇	二・七二	三・二三	三・二〇	一・二八	二・二三	二・八八	〇・八〇	一・三八	六八・九四	四二・八六
シアロツアロ	四・一六	二・五六	三・四七	三・二〇	一・六〇	二・三五	二・五一	〇・七〇	一・五七	六七・七三	四五・二四
ポリデアロ	四・八〇	二・七二	四・〇九	三・三六	一・六〇	二・六三	二・四〇	〇・八〇	一・五二	六四・三〇	三七・一六
無錫	四・八〇	二・二四	三・三二	三・二〇	一・六〇	二・五八	二・五六	〇・六四	一・一九	七七・九五	三五・九五

右の成績に依り左の事實を認め得可し

一、絲縷の最も長きは歐洲種(七百回以上)にして卵形又昔之に次ぎ無錫、青熟及又昔五百回前後順次之に次ぐ

二、絲量の最も多きは歐洲種(五九五乃至七五)にして卵形又昔、青熟及又昔四・七〇内外之に次ぎ小石丸無錫(四・三〇内外)は更に劣れり

三、織度の最も太きは伊太利白繭及ポリデアロにして最も細きは小石丸、卵形又昔及無錫種なりとす

四、類節の最も多きは小石丸種にして無錫、ポリデアロ及青熟之に次ぎ最も少きは伊太利白繭なり

五、切斷の最も多きは無錫にして又昔、青熟及卵形又昔順次之に亞ぎ最も少きは伊太利黃繭なり

六、絲縷の兩端と其の最太部との織度の差の大なるは青熟及卵形又昔にして最も小なるは外國種なり

十一、結 論

甲 飼育最も容易なるもの

一、收繭多く且繭絲質良好なるもの
又昔

一、收繭多く且繭絲質中等なるもの
青熟

乙 飼育容易なるもの

一、收繭多く繭絲質の良好なるもの
卵形又昔

一、收繭量及繭絲質中等なるもの
小石丸

丙 飼育稍困難なるもの

一、收繭多く繭絲質の優良なるもの
伊太利白繭 ポリデアロ 伊太利黃繭

丁 飼育困難なるもの

一、收繭少なからず繭絲質の優良なるもの

シアロヅアロ

一、收繭最も少なく繭絲質中等なるもの

無錫

附

飼育期間の氣象概況表

月	日	天候	室		外		平均	室		外		平均
			最高	最低	最高	最低		最高	最低			
五月	十三日	晴	七〇	五八	八六	四八	七〇	八六	四八	七〇		
	十四日	曇後雨	六六	五四	八七	五九	六六	八七	五九	七〇		
	十五日	曇	六五	五四	九三	七〇	六五	九三	七〇	八〇		
	十六日	曇後晴	六七	五三	八六	六二	六七	八六	六二	七四		
	十七日	曇	六五	四九	八五	四五	六五	八五	四五	六九		
	十八日	曇又は雨	五九	四九	九二	七四	五九	九二	七四	八七		
	十九日	曇後晴	五六	五三	一〇〇	六六	五六	一〇〇	六六	七九		
	二十日	晴	五九	四六	八四	六八	五九	八四	六八	七七		
	二十一日	晴	五八	四七	八五	七〇	五八	八五	七〇	八一		
	二十二日	晴	七〇	四七	八八	四八	七〇	八八	四八	七三		
	二十三日	同	六六	五五	八六	四五	六六	八六	四五	六二		

二十四日	同	八三	五二	六九・六	八	五三	六二・六
二十五日	同	八〇	四七	六六・二	七五	四五	六二・五
二十六日	曇後晴	七三	五八	六四・二	七四	六〇	六六・七
二十七日	曇又は晴	七三	五五	六二・八	九三	四八	七二・八
二十八日	晴	七九	五三	六四・七	八五	三二	六〇・二
二十九日	曇後晴	七五	五三	六〇・七	九二	八五	八七・七
三十日	晴	七六	五〇	六一・六	九一	五三	七四・六
三十一日	同	七七	五二	六五・五	七七	四七	六三・八
六月一日	同	八四	五一	六六・五	八五	三六	六〇・五
二日	曇	八〇	六九	七三・一	七三	五二	六五・七
三日	雨後曇	七三	六八	七〇・二	八八	七二	七七・〇
四日	曇	七四	六二	六六・二	九三	七三	八五・三
五日	曇後晴	七九	六二	七〇・三	九三	三九	七一・四
六日	晴	七六	六一	七〇・三	八一	三八	六二・三
七日	晴後曇	七七	六三	六九・八	八九	六九	七二・八
八日	晴後曇	八〇	六〇	七一・〇	八七	三九	六七・三
九日	雨	六六	六三	六六・七	九三	八八	九一・三
十日	晴	八三	六三	七三・〇	九三	六四	七七・五

二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日
曇後晴	曇	曇又は晴	晴又は曇	雨後曇	曇	晴	曇又は晴	曇後晴	曇後雨
八二	七五	七九	七六	六九	七九	八六	八五	八〇	八一
六一	六三	六三	六三	六五	六三	六三	六三	六六	六五
六九・一	六八・八	六八・六	六九・〇	六六・七	六八・二	七二・三	七三・五	七〇・三	七〇・六
八八	八八	九三	八七	八八	八八	九三	八八	九三	八八
五五	七四	六六	六六	八二	五八	五五	六一	五九	六七
七六・五	八三・二	七八・九	七八・〇	八五・〇	七八・三	七五・八	七八・七	七六・〇	八〇・三

第二 秋蠶種類試験

本試験は前年來繼續試験するところにして有望種と認めたる冷蔵越年秋蠶種なる青熟種及白龍種に加ふるに新たに農商務省原蠶種製造所松本支所より得たる二化性生種秋蠶種青熟二號及大和錦種を以てし比較試験を行へり其の目的方法及調査事項は春蠶種類試験に同じ原種の製造月日製造者及貯藏風穴名等を記せば次の如し

青熟	大正元年九月二十日	朝鮮總督府勸業模範場龍山支場	慶尙北道冰山風穴
名稱	産卵月日	製造者	貯藏風穴

白龍	同	年九月十一日	同	同
青熟二號	大正二年七月二十三日	農商務省原蠶種製造所松本支所		
大和錦	同	年七月二十三日	同	

一、發生

供試蠶種中青熟及白龍は七月二十日風穴より取り出し二日間風穴所在地にて稍低き溫度にて保護したる後發送せしめ七月廿三日當場に到着せしもの青熟二號及大和錦は七月廿五日松本發送七月廿七日當場へ到着したるものにして何れも爾後蠶室内に安置したるに青熟及白龍は七月三十一日青熟二號及大和錦は八月一日發生したり今各種の肉眼鑑定上比較的良好にして産卵數の中庸を得たるもの各三蛾に就き日々發生卵を調査したる成績を示せば次の如し

發生調査表 其の一 (三蛾分)

種別	目標		發生					不發生卵數	發生歩合
	初日	終日	一日目	二日目	三日目	四日目	五日目		
青熟	一、二〇〇	一、三三〇	一四二	一六	二	一、五四	二四	九三・二	
白龍	五	七七六	四六七	三三	九	一、二八〇	四九	九六・三	
青熟二號	一、五六九	四七	九	一、六五	四三	一、六五	四三	九七・五	
大和錦	一、〇七六	九	四	一、〇八九	七五	一、〇八九	七五	九三・六	

發生調査表 其二

(三蛾分)

種別	目標	發生初日	發生終日	發生日數	卵數	不發生數	計	發生歩合	最多發生日
青熟	青熟	七月三十日	八月三日	五日	一、五九四粒	二四粒	一、六五八粒	九三・二%	八・九%
白龍	白龍	七月二十九日	八月二日	五日	一、二八〇	四九	一、三三九	九六・三%	六・〇%
青熟二號	青熟二號	八月一日	八月三日	三日	一、六三五	四三	一、六六七	九七・五%	九六・六%
大和錦	大和錦	八月一日	八月三日	三日	一、〇八九	七五	一、一六四	九三・六%	九八・八%

右の成績に依れば發生の最も齊一にして發生歩合亦良好なりしは大和錦にして青熟二號之に次ぎ青熟は兩者に比し稍劣り白龍は最も劣れり

二、蠶兒飼育概況

青熟及白龍は七月三十一日他は八月一日掃立て爾後各齡の經過左の如し

(一) 第一齡經過表

種別	目標	收蟻月日	催眠月日	停食月日	竣蛻月日	齡中	日數	室內平均
青熟	青熟	七月三十一日	八月三日	八月七日	八月十四日	食桑中 一日十時	三日三時	七五・〇度
白龍	白龍	七月三十一日	八月三日	八月七日	八月十四日	食桑中 一日十時	三日三時	七五・〇度
青熟二號	青熟二號	八月一日	八月四日	八月十二日	八月十五日	食桑中 一日〇時	三日三時	七五・〇度
大和錦	大和錦	八月一日	八月四日	八月十二日	八月十五日	食桑中 一日〇時	三日三時	七五・〇度

本齡中は天候概ね曇天にして時に蒸熱を醸し或は驟雨襲來し爲めに飼育上大なる苦心を要したれども幸に蠶兒は何等の障害なく發育せしも只大和錦は他種に比し幾分遜色を呈せり本齡中青熟二號は他種に比し眠中期間特に長かりき

第三齡間室内平均温濕度表

月 日	温 度	濕 度	月 日	温 度	濕 度
八月八日	八七・八度		八月十二日	七〇・七度	八六・二度
八月九日	七六・八度		八月十三日	六九・二度	八七・七度
八月十日	七六・八度		八月十四日	七六・二度	八三・二度
八月十一日	七六・七度				

(四) 第四齡經過表

種別	目標	飼食月日				飼食中				室内平均	
		飼食月日	催眠月日	停食月日	竣曉月日	絶食中	絶食中	合計	温 度	濕 度	
青 熟		午後九時	午前十一時	午後五時	八月十七日	一日七時	五日三時	七六・二度	八〇・八度		
白 龍		午後十二時	午後十五時	午後一時	八月十七日	一日五時	四日廿三時	七七・八度	八〇・八度		
青熟二號		午前十四時	午後四時	午後十一時	八月十九日	一日七時	五日三時	七六・二度	八〇・六度		
大和錦		午後十三時	午後十二時	午後六時	八月十八日	一日六時	五日	七六・三度	八〇・三度		

本齡中の天候は概ね晴曇相半し時に豪雨を齎せしかど飼育比較的容易なりき
 蠶兒は發育經過良好にして各種優劣の差を認めず殊に盛食期に於て晴天續き氣温高く蠶座
 良く乾燥せしかば舉動頗る活潑となり食欲大に増進し充分飽食せしむることを得たり而し
 て大和錦は從來他種に比し其の發育稍遜色ありしも本齡間に於ては齊一に發育せり
 各種中大和錦及白龍は經過早く青熟及青熟二號種は稍遅延せり
 本齡間室内平均温濕度を示せば左の如し

第四齡間平均室内温濕度表

月 日	温 度	濕 度	月 日	温 度	濕 度
八月十二日	七六・七	六六・二	八月十六日	七六・八	七二・八
八月十三日	七六・二	八七・七	八月十七日	八二・〇	八四・二
八月十四日	七六・二	八二・三	八月十八日	七六・七	八六・〇
八月十五日	七五・七	七〇・七	八月十九日	七六・八	八二・二

(五) 第五齡經過表

種別	目標		齡 中 日 數		室 内 平 均	
	餉食月日	催熟月日	食桑中一合計	温 度	濕 度	
青 熟	八月十七日 午後十二時	八月二十三日 午後一時	六日十時	七六・三	七九・七	
白 龍	八月十七日 午後六時	八月二十二日 午後三時	五日十九時	七〇・〇	八〇・八	
	終熟月日					
	八月二十四日 午前十一時		六日十時			
	八月二十三日 午後一時		五日十九時			

青熟二號	八月十九日 午前六時	八月二十四日 午後二時	八月二十五日 午前十二時	六日六時	六日六時	七五・七	七六・三
大和錦	八月十八日 午後十二時	八月二十四日 午前九時	八月二十五日 午前八時	六日八時	六日八時	七六・七	七六・七

本齡中は概ね晴天にして気温高く乾濕其の宜しきを得て飼育容易なりき
 蠶兒は完全なる發育を遂げ經過良好にして各種殆ど優劣の差を認め難し且つ從來不齊勝な
 りし大和錦も前齡と同じく齊一に發育を爲せり
 本齡に於ては白龍種は他種に比し著しく經過遅延せり
 本齡間室内平均温濕度を示せば左の如し

第五齡間室内平均温濕度表

月 日	温 度	濕 度	月 日	温 度	濕 度
八月十七日	八二・〇 ^度	八四・二 ^度	八月二十二日	七五・〇 ^度	七四・二 ^度
八月十八日	七六・七	八六・〇	八月二十三日	七四・三	七三・三
八月十九日	七六・八	八二・二	八月二十四日	七四・七	八〇・五
八月二十日	七三・八	八四・八	八月二十五日	七三・〇	七三・八
八月二十一日	七六・〇	七六・〇			

(六) 全齡經過

各齡經過の項に示せるが如く大和錦は稚蠶期には發育稍々不良の傾ありしも壯蠶期に至り

齊一なる發育を遂げ其の他の三種は何れも全齡を通じて發育極めて齊一にして飼育容易なりき特に青熟種は最も齊一なる發育を爲せり今各齡經過の狀況を一括して其の概要を示さん

全齡經過表

種別	目標	收蟻月日	終熟月日	飼育日數			室內平均				
				食桑中	絶食中	合計	溫度	濕度			
青熟		七月三十一日 午前九時	八月二十四日 午前四時	十九日	十四時	四日	十一時	二十四日	一時	七〇・三度	七六・二度
白龍		七月三十一日 午前九時	八月二十三日 午後一時	十八日	十八時	四日	十時	二十三日	四時	七〇・三度	七六・四度
青熟二號		八月一日 午前九時	八月二十五日 午前十二時	十九日	十一時	四日	十六時	二十四日	三時	七〇・〇度	七六・三度
大和錦		八月九日 午前九時	八月二十五日 午前八時	十九日	八時	四日	十五時	廿三日	廿三時	七〇・〇度	七六・二度

(七) 減蠶數

各種中減蠶頭數の最も多かりしは大和錦にして青熟二號及白龍之に次ぎ青熟は著しく少かりき

減蠶頭數表 (其二) (對掃立蠶一萬頭)

種別	目標	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	上簇中	合計
青熟		一、三三元頭	三六頭	二三元頭	五二頭	三二頭	三三頭	一、七九〇頭
白龍		一、四六頭	四〇三頭	一七三頭	三七頭	五五頭	六八頭	二、二七四頭

青熟二號	一、三六六	五七三	三八四	三二	四一	三	二四四
大和錦	一、五七三	六〇六	四三	六六	七六	三七	二八〇〇

(八) 給桑量

給桑量の最も少なきは大和錦にして青熟二號白龍之に次ぎ青熟最も多し
即ち左の如し

各齡給桑表 (對掃立蠶一萬頭)

種別	目標					合計
	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	
	回数	回数	回数	回数	回数	回数
青熟	四三	三三	三三	四〇	五七	二〇四
白龍	四二	三三	三三	三九	四九	一九四
青熟二號	四六	三三	三六	三九	五五	二〇九
大和錦	四六	三三	三五	三八	五七	二〇八
	量	量	量	量	量	量
青熟	三七・三	八三・四七	三二、三二・四〇	七・八一五・六	五七・五、九九二・〇	二〇四六三、三四三・六
白龍	三六・六	七九・〇	三二、二四・五〇	六、七一・〇	四九・六、二三〇・〇	一九四五六、三四二・六
青熟二號	三七・八	八七・四	三二、二四・〇	七、七三・六	五六・四、四七八・〇	二〇九五五、七五五・八
大和錦	四四・〇	八四・一	三二、二四・〇	七、八四・〇	五七・三、五六二・〇	二〇八五四、九四二・一

三、飼育概評

前記飼育の成績を通覽するに蟲質著しく強健にして發育齊一なりしは青熟にして白龍青熟二號之に次ぎ大和錦は蟲質幾分虚弱の傾ありしのみならず稚蠶期に於ては發育不齊にして飼育稍困難なりしを見たり

四、收繭

收繭は八月廿八日より同卅一日の間に之を行へり收繭成蹟の最も良好なるは青熟にして白龍及青熟二號之に次ぎ大和錦最も劣れりと雖青熟二號に比し大なる差ありとせず

收繭成蹟表 (對掃立蠶一萬頭)

種別	目標		上繭		中繭		下繭		同功繭		合計				
	顆數	容量	重量	顆數	容量	重量	顆數	容量	重量	顆數	容量	重量			
青熟	七、七三 ^顆	三、四七 ^合	三、一〇〇 ^匁	二、七五 ^顆	九、〇三 ^合	九、七〇 ^匁	一、三三 ^顆	四、〇七 ^合	五、二〇 ^匁	五、六 ^顆	四、七〇 ^合	八、二一〇 ^顆	四、〇八〇 ^合	三、六九五 ^匁	
白龍	六、九三六 ^顆	三、〇二〇 ^合	二、九七〇 ^匁	一、六二	六、〇〇	六、〇〇	九六	四、〇〇	三、四〇	六、三一	四、九〇	五、三三〇	七、八五三 ^顆	三、五九六 ^匁	
青熟二號	六、七三 ^顆	二、九五 ^合	三、〇〇七 ^匁	五三	三、〇〇	二、〇〇	六三	三、七	二、五〇	七、二	六、三一	六、三三〇	七、五八三 ^顆	三、六八四 ^匁	
大和錦	六、七五 ^顆	二、九八〇 ^合	二、五七〇 ^匁	三五	八、〇〇	二、二〇	二三	〇、四	八、〇〇	四、三八	三、二一六	三、三七〇	七、二〇三 ^顆	三、三九〇 ^合	二、九三七 ^匁

五、繭質

各種上繭五十個に就きて調査せる成蹟は次の如し

繭質調査表 (其一)

種別	目標		形	狀	縮	皺	繭層	緊	緩
	色	澤							
青熟	白龍に次いで白色にして稍黄色を帯び齊一なり	白龍に比し短く稍不齊一なり	四種中最粗にして縦縮なり	四種中最も厚し	生種青熟に次ぐ				
白龍	光澤最も佳良白色にして清美なり	長形にして稍不齊一なり	右に次いで粗にして縮緬様縮皺を呈す	繭層最も薄し	最も緊密ならず				

青熟二號	黒種青熟に次いで白色にして微かに綠色を帯び齊一なり	形状風穴種青熟に等しくして稍大なり少しく齊一を缺く	縮皺疎にして一定の方向を有せず	風穴種青熟に次いで厚し	四種中最も緊密なり
大和錦	白色にして微かに綠色を帯び齊一なり	四種中最も齊一なりれども形稍小なり	最も密にして縦横の皺を有す	白龍に次いで厚し	青熟黒種に次いで稍緊密なり

繭質調査表 (其二)

繭形比較

種別	目標	長	幅	縷	對	
					幅	長
青熟	熟	1.100	0.530	0.51	4.11	4.17
白龍	熟	1.180	0.530	0.49	4.49	4.15
青熟二號	熟	1.160	0.550	0.51	4.70	4.40
大和錦	熟	1.100	0.520	0.49	4.64	4.45

繭質調査表 (其三)

繭層歩合

種別	目標	繭層量	蛹量	蛻皮量	計	對全量繭層歩合
白龍	熟	0.053	0.360	0.003	0.416	1.35

青熟二號	0.026	0.030	0.002	0.010	1.61
大和錦	0.056	0.032	0.004	0.032	1.43

繭質調査表 (其四)

繭層量 (上繭三升平均)

種別	目標	一升の顆數	一升の重量	一升の繭層量	對掃立蠶一萬頭繭層量	對給桑百貫繭層量
青熟	熟	二三 ^顆	九七 ^々 〇	一四 ^々 三	四六五 ^々 五	七三四 ^々 九
白龍	龍	二三	九四 ^〇	一一 ^五	三六〇 ^七	六四〇 ^二
青熟二號	號	二六	九八 ^〇	一四 ^〇 九	五一 ^〇	九一六 ^五
大和錦	錦	三七	九四 ^〇 五	一三 ^三	三七五 ^〇 五	六八三 ^〇 六

右の成績を通覽するに各種共色澤齊一にして殆んど優劣なしと雖も白龍は最も佳良なるもの、如し形狀の最も齊一なるは大和錦にして青熟二號之に次ぎ青熟及白龍最も劣れり其の他の性質は各種共大同小異なるも青熟種の繭層最も厚きと青熟二號の繭層緊密なるとは他に異なるの點なりとす

六、絲質

各種類の上繭に就き一粒繰試験を行へるに其の成績左の如し

絲質試験成績表 (其二) (五十顆平均)

種別	目標	一類糸長			一類糸量	對四百回			對四百回
		最長	最短	平均		最太	最細	平均	
青熟	青熟	六六二	三六二	五〇六	四六二	三〇八	二七四	一〇一	〇〇八
白龍	白龍	六六五	四〇〇	五五七	五三三	三〇三	二五四	一六六	〇〇四
青熟二號	青熟二號	七五〇	三五〇	五二六	四九三	三七一	二八〇	〇八九	〇〇三
大和錦	大和錦	六五二	三七五	四八二	四〇五	三二三	二五三	一四九	〇〇二

絲質試驗成績表 (其二) (二十顆平均)

種別	目標	最太部五十回			最初五十回			最終五十回			絲綉兩端織度の割合
		最太	最細	平均	最太	最細	平均	最太	最細	平均	
青熟	青熟	四〇〇	二八八	三〇二	三三六	一六〇	二九七	〇五三	一三七	九一〇	四二〇
白龍	白龍	四一六	二八八	三二六	四一六	二五六	三二八	〇六七	一六二	九六九五	四九三九
青熟二號	青熟二號	四〇八	二五六	三〇七	四〇八	二五六	三四五	一三八	一八四	九一三七	四八六八
大和錦	大和錦	三六八	二五六	三二四	三六八	二五六	二九三	〇八〇	一四四	九〇四三	四四四四

右の成績より左の事實を認め得可し

- (一) 絲綉の最も長きは白龍にして青熟二號之に次ぎ青熟大和錦は僅少の差を以て順次之に亞ぐ
- (二) 絲量の最も多きは白龍にして青熟二號之に次ぎ青熟僅少の差を以て之に次ぎ大和錦種最

も少し

- (三) 織度の最も太きは青熟二號にして青熟之に次ぎ最細なるは白龍及大和錦なりとす
 - (四) 類節の最も多きは白龍にして大和錦及青熟之れに次ぎ最も少なきは青熟二號なり
 - (五) 切斷の最も多きは青熟にして白龍青熟二號及大和錦僅少の差を以て互に相次ぐ
 - (六) 絲縷の兩端と其の最太部との織度の差大なるは白龍にして最も小なるは大和錦なり
- 七、結 論

以上の成績を綜合して結論すること左の如し

一、青 熟

本種は蟲質強健にして飼育易く收繭最も多く繭絲質良好なり供試蠶種中第二位を占むるものと云ふを得べし

一、白 龍

本種は蟲質強健にして飼育容易なり收繭量は青熟より稍々劣れりと雖も絲長短かゝらず絲量多く絲質一般に前者に比し優れり蓋し供試蠶種中第三位を占むるものなりとす

一、青 熟 二 號

本種は前二者に比すれば蟲質強健ならざれ共飼育比較的容易にして且つ收繭多く繭絲質前二者より優れり供試蠶種中第一位を占むるものなりとす

一、大 和 錦

本種は蟲質虛弱にして飼育容易ならず繭絲質は他種に比し劣れるを以て供試蠶種中第四位

を占むるものなりとす

今各種を其の成績順に列記すれば次の如し

青熟二號 白龍 青熟 大和錦

附

飼育期間の氣象概況表

月	日	天候	最室内最高	最室内最低	平均	最室内最高	最室内最低	平均
七月	卅一日	晴	九〇度	七四度	八二度	一〇〇度	六六度	八二度
八月	一日	同	九二	七五	八二〇	九四	五三	七二
	二日	同	九三	七四	八〇三	八三	四二	六五
	三日	同	八七	六二	七三三	七四	三七	六〇
	四日	同	八五	六三	七四〇	九三	四二	六八
	五日	同	八三	六六	七三一	九三	三三	七一
	六日	同	七六	六四	七二五	九三	四九	七二
	七日	同	八九	六六	七六二	九三	四四	六八
	八日	曇後晴	八七	六六	七六七	九四	四三	七三
	九日	晴	八五	六五	七五五	九三	五五	七五
	十日	曇	八五	六四	七九八	九四	五七	七六

原蠶種製造事業

廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	廿日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日
晴	曇又は晴	同	同	晴	晴後曇	曇後晴	曇雨	曇	同	同	晴	同	同	同
八二	八六	八〇	八五	八六	八五	八四	八五	八五	九一	八八	八四	八三	八一	八五
六五	六四	六五	六四	七四	七〇	七四	七四	七九	六七	六五	七二	七六	七六	七四
七二・五	七五・三	七五・二	七四・七	七八・八	七六・八	七七・五	七九・二	八一・五	七七・二	七五・七	七七・二	七六・三	七八・二	七九・二
八八	九三	八八	七八	八九	九四	九四	九四	九四	八三	一〇〇	九四	九四	九四	九四
五二	五一	五一	四七	五四	六八	五七	六五	八一	四六	四三	五七	八四	八九	六一
六七・八	七二・五	六七・八	六五・八	六九・二	八二・五	八〇・〇	八三・七	八六・三	七〇・五	七七・三	七六・八	九〇・〇	九〇・八	八一・二

第一 蠶

技師	宮原忠正
技手	長岡哲三
技手	木上恒藏

春蠶は桑葉の都合上之を本場及龍山支場の二箇所に於て飼育したるを以て其成績自ら多少の差異なき能はずと雖も便宜上兩所の成績を一括して記述することとせり

一、供用蠶種

供用蠶種は總て昨年龍山支場にて生産せる又昔小石丸及青熟の三種にして其系統は左の如し

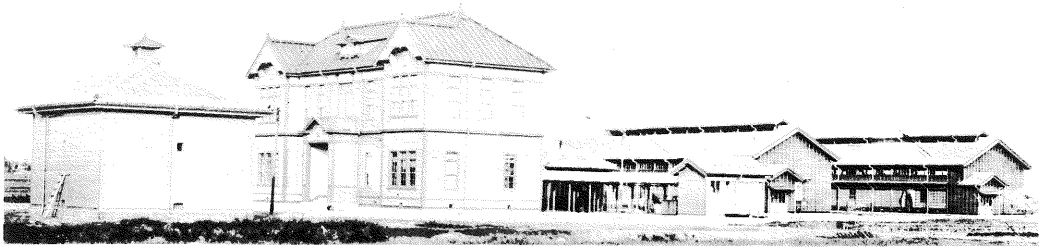
又昔 愛知縣中島郡一ノ宮町金城蠶種改良組合の生産に係る金城又昔にして明治四十四年本場に於て飼育複製したるものを昨年龍山支場に於て原々蠶種として採用したるものなり

小石丸 明治四十年東京蠶業講習所より原種を得爾來本場に於て飼育複製したるものを昨年龍山支場に於て原々蠶種として採用したるものなり

青熟 明治四十五年龍山支場に於て東京蠶業講習所より原種を得飼育複製したるものなり
本場にては右三種ともに飼育せしも龍山支場にては又昔のみを飼育せり其掃立蟻量左の如し

原々種掃立蟻量表

朝鮮總督府勸業模範場蠶種製所



春蠶種貯藏庫

廳舍

室

蠶

同 上 普 通 桑 園



大正二年新年植市平

水原	又	三六 ^度	小石丸	二 ^度	青	二 ^度	熟	二 ^度	合計	四〇 ^度
龍山		二三								二三
合計		五九								六三

備考 以下記述上便宜の爲め又昔には掃立地の名稱を冠し水原又昔及龍山又昔と稱する
ことゝす

二、貯藏及催青中の概況

供用蠶種は何れも龍山支場に於て保管したるものにして大正元年十二月十三日蠶種の水洗
を行ひ翌年一月二十三日之を蠶種貯藏庫に納めたり貯藏庫中の温度は左表の如し

貯藏庫内温度表

温度	目次		月	月	月	月
	最高	最低				
最高	三六 ^度	三三 ^度	一	二	三	四
最低	三〇	三二	一	二	三	四
平均	三五	三五	一	二	三	四

水原又昔小石丸及青熟は四月二十五日龍山又昔は四月二十二日蠶種貯藏庫より取り出し蠶

室内に移し爾後數日間天然温度に放任し水原又昔は四月三十日小石丸及青熟は五月一日龍山又昔は四月二十五日より火力を加へて催青を行ひたり

催青期間の天候は水原にありては晴曇相半し時として小雨あり温湿度の調節常に其當を得龍山にありては前半は概ね曇天後半は連日快晴晝夜温度の變化甚しく往々過乾の嫌ひありたりしも室内に於ては能く之を調節し得たるを以て兩者共に發生頗る齊一にして且つ桑葉の伸長と權衡を保つことを得たり今催青期間の温湿度を表示すれば左の如し

催青中温湿度表

種別	室外温湿度			室内温湿度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均
水原	七二、〇度	四二、〇度	五九、〇度	一〇〇、〇度	三六、〇度	七〇、〇度
龍山	六九、〇度	四四、〇度	五五、二度	九三、〇度	三五、〇度	七五、一度

三、飼育中の概況

水原にては五月十一日及十二日の兩日龍山にては五月七日掃立を行ひ水原は六月十三十四日の兩日に龍山は六月八日に上簇を了したり而して飼育期間の天候は兩地掃立の日時を異にせるため各齡の状態一致せざりしと雖も之を概説すれば稚蠶期には曇天又は雨天多く氣温常に低く平均六十度以下の場合多かりしのみならず一日中數回天候の變化あり第三齡に入り天候稍々恢復したりと雖も第五齡に至り晴雨常なく風向不定にして或は高温乾燥或は低温多濕時としては蒸熱を醸したる等終始不順なりしこと當場創立以來未だ嘗て遭遇せざ

るところなり是を以て桑葉の伸長動もすれば蠶兒の發育と伴はずして飼育上亦困難を感じたること多かりしも常に周到なる注意を加へたる結果蠶兒の發育頗る良好且齊一なりき今各齡に於ける温湿度蠶兒發育經過並に收繭量繭の品質及製種等の成績を記すれば左の如し

第一齡温湿度表

種別	目標			室內			室外		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
水原又昔	七、〇 ^度	四、〇	五、五 ^度	一〇、〇 ^度	四、〇 ^度	七、〇 ^度	七、〇 ^度	六、五 ^度	六、九 ^度
小石丸	七、〇	四、〇	五、五	一〇、〇	五、〇	七、三	七、〇	六、七	六、九
青熟	七、〇	四、〇	五、五	一〇、〇	五、〇	七、三	七、〇	六、七	六、九
龍山又昔	六、九、〇	四、〇	五、七、八	八、七、〇	三、〇	六、六、九	七、五、〇	六、〇	七、〇、一

第一齡經過表

種別	目標	掃立		停食		竣蛻		給桑				
		日	時間	日	時間	日	時間	回数	量			
水原又昔	五月十一日	正午	五月十六日	午後八時	五月十八日	午前八時	五日	八時間	一日十二時間	六日二十時間	四回	三三
小石丸	五月十二日	正午	五月十七日	午後八時	五月十八日	午後十一時	同日	右	一日三時間	六日十一時間	四回	三三
青熟	同	右	五月十七日	午後一時	同日	右	五日	一時間	一日十時間	同日	四回	三〇
龍山又昔	五月十七日	午前七時	五月十二日	午後五時	五月十四日	午前四時	五日	七時間	一日十一時間	六日十八時間	四回	四三

備考 給桑量は蟻量壹々に對する量なり(以下倣之)

水原又昔	八四、〇 ^度	五二、〇 ^度	六七、〇 ^度	九二、〇 ^度	三三、〇 ^度	六六、四 ^度	七七、〇 ^度	六六、〇 ^度	七〇、三 ^度	八八、〇 ^度	五、〇 ^度	六九、九 ^度
小石丸	八四、〇	五、〇	六七、五	一〇〇、〇	三三、〇	六八、二	七〇	六四、〇	七〇、三	八二、〇	六三、〇	七一、七
青熟	八四、〇	五、〇	六七、五	一〇〇、〇	三三、〇	六九、二	七〇、〇	六四、〇	七〇、三	八二、〇	六三、〇	七一、七
龍山又昔	八〇、〇	四七、〇	六二、四	九一、〇	四三、〇	六四、三	八〇、〇	六六、〇	七一、一	七三、〇	五二、〇	六五、六

第三齡經過表

種別	目標	飼食		停食		竣食		齡中		日數		給桑量	
		食	停	食	停	食	中	計	回	數	量		
水原又昔	五廿三日 午後十一時	五廿八日 午後七時	五卅三日 午後三時	四日二十時間 一日二十時間	六日十六時間	三	二、六八						
小石丸	五廿四日 午後三時	五廿九日 正午	五卅一日 午前九時	四日廿一時間 一日廿一時間	六日十八時間	三	二、五七六						
青熟	同右	五廿九日 午前九時	五卅一日 午前五時	四日十八時間 一日二十時間	六日十四時間	三	二、五五六						
龍山又昔	五十九日 午後三時	五廿四日 午前九時	五廿五日 午後七時	同右	六日四時間	三	二、六六八						

第四齡溫濕度表

種別	室外		室內		室外		室內		室外		室內	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
水原又昔	八四、〇 ^度	五、〇 ^度	七二、九 ^度	一〇〇、〇 ^度	三六、〇 ^度	六三、一 ^度	七六、〇 ^度	六〇、〇 ^度	七二、二 ^度	八八、〇 ^度	六〇、〇 ^度	七四、八 ^度

種別	目標	室外溫度			室外濕度			室內溫度			室內濕度		
		最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
小石丸	八四、〇	五、〇	七二、〇	一〇〇、〇	三六、〇	六九、六	七六、〇	六五、〇	七二、三	八三、〇	六三、〇	七五、八	
青熟	八四、〇	五、〇	七二、八	一〇〇、〇	三六、〇	六七、三	七六、〇	六五、〇	七二、五	八三、〇	六三、〇	七五、八	
龍山又昔	七九、〇	五、〇	六六、三	九二、〇	三九、〇	六〇、四	七〇、〇	六七、〇	七三、二	七七、〇	五二、〇	六六、四	

第四齡經過表

種別	目標	飼食			齡中停食日	計數	回数	給量
		飼食	停食	飼食				
水原又昔	五月三十日午後三時	六月四日正	六月六日午	五日	間一日二十一時間	六日二十一時間	三回	七、九〇五
小石丸	五月三十一日午前九時	六月四日午前六時	六月七日午	同日	間二日六時間	六日二十時間	二元	七、六八〇
青熟	五月三十一日午後五時	六月四日午後四時	六月六日午後十二時	同日	右二日四時間	六日十八時間	二元	七、九二五
龍山又昔	五月二十五日午後七時	五月三十日正	六月一日午	同日	間一日二十一時間	六日十七時間	二元	八、三〇〇

第五齡溫濕度表

種別	目標	室外溫度			室外濕度			室內溫度			室內濕度		
		最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
水原又昔	八四、〇	五、〇	七二、七	一〇〇、〇	三六、〇	七二、七	七九、〇	六七、〇	七二、七	八四、〇	六三、〇	七四、九	
小石丸	八四、〇	三、〇	七二、二	一〇〇、〇	三八、〇	七〇、二	七六、〇	六六、〇	七三、五	八九、〇	六六、〇	七九、四	
青熟	八四、〇	三、〇	七二、四	一〇〇、〇	三八、〇	七〇、六	七六、〇	六六、〇	七三、三	八九、〇	六六、〇	七九、二	
龍山又昔	八三、〇	六、〇	七二、八	八八、〇	三九、〇	六二、六	八二、〇	六二、〇	七三、八	八七、〇	四九、〇	六五、八	

第五齡經過表

種別	目標	飼食		催熟	終熟	齡中日數	給回数	給量
		飼	食					
水原又昔	正六月六日	正六月六日	午六月六日	午六月十二日	午六月十三日	七日十時間	三回	三五、四八 <small>分</small>
小石丸	午六月七日	午六月五日	午六月十三日	午六月十四日	午六月十四日	七日五時間	三回	三四、七五〇
青熟	午六月十一日	午六月十一日	午六月十二日	午六月十四日	午六月十四日	七日九時間	三回	三六、一〇五
龍山又昔	正六月一日	午六月一日	午六月七日	午六月八日	午六月八日	七日四時間	三回	三六、二六〇

全齡溫濕度表

種別	目標	室外溫度			室外濕度			室內溫度			室內濕度		
		最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
水原又昔	八四、〇度	四四、〇度	六六、一	一〇〇、〇度	三三、〇度	七〇、四度	七九、〇度	六四、〇度	七〇、七度	九〇、〇度	五六、〇度	七三、一	
小石丸	八四、〇度	四四、〇度	六六、〇	一〇〇、〇度	三三、〇度	七三、〇度	七六、〇度	五五、〇度	七〇、七度	八九、〇度	五四、〇度	七三、一	
青熟	八四、〇度	四四、〇度	六六、〇	一〇〇、〇度	三三、〇度	七二、二度	七六、〇度	五五、〇度	七〇、七度	八九、〇度	五四、〇度	七三、一	
龍山又昔	八三、〇度	四三、〇度	六三、三	九二、〇度	三四、〇度	六五、三度	八二、〇度	六二、〇度	七一、五度	八七、〇度	四九、〇度	六六、三	

全齡經過表

種別	目標	掃立	上簇	齡		中日	計數	給回数	給量
				食桑	中停食				
水原又昔	五月十一日	五月十一日	六月十三日	二十六日二十時間	六日十四時間	三十三日十時間	一七回	四七、二五 <small>分</small>	

小石丸	五月十二日 午前	六月十四日 午前	二十六日九時	六月十三時	三十二日二十二時	一七三	四六、一七四
青熟	五月七日 午前	六月十四日 午前	二十六日三時	六月十七時	三十二日二十時	一七〇	四七、七四〇
龍山又昔	五月十日 午前	六月八日 午後	二十六日五時	六月一日一時	三十二日六時	一七三	四八、八二一

四、收繭調査表

其一 總收繭量

種別	目標		繭		繭		繭		繭		繭		繭		繭		繭		
	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	
水原又昔	10,296 <small>合</small>	105,156 <small>匁</small>	26 <small>合</small>	1,298 <small>匁</small>	36 <small>合</small>	426 <small>匁</small>	1,630 <small>合</small>	16,686 <small>匁</small>	23 <small>合</small>	2,078 <small>匁</small>	2,078 <small>匁</small>	133,556 <small>匁</small>							
小石丸	600	6,200	10	100	2	20	100	1,010	72	72	72	7,260							
青熟	552	5,520	6	70	3	26	108	1,200	69	69	69	6,826							
龍山又昔	7,560	79,238	65	676	20	206	990	11,287	8	8	8	91,277							

其二 對蟻量一匁收繭量

種別	目標		繭		繭		繭		繭		繭		繭		繭		繭	
	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重	容	重
水原又昔	286 <small>合</small>	2,920 <small>匁</small>	3 <small>合</small>	36 <small>匁</small>	1 <small>合</small>	11 <small>匁</small>	45 <small>合</small>	463 <small>匁</small>	3 <small>合</small>	35 <small>匁</small>	3	33	3	33	3	33	3	33
小石丸	300	3,060	5	50	1	10	50	510	5	50	5	50	5	50	5	50	5	50
青熟	260	2,600	3	35	1	15	35	350	3	35	3	35	3	35	3	35	3	35

龍山又昔	三九、六三、四三、八	二、八	二九、四	〇、九	九、〇	四三、〇	四八六、四	三七六、三	三、九六八、六
------	------------	-----	------	-----	-----	------	-------	-------	---------

其三 對收繭總量上中下同功繭步合

種別	上		中		下		同	
	容	重	容	重	容	重	容	重
水原又昔	八五、四	八五、一	〇、九	一、一	〇、三	〇、三	一三、四	一三、五
小石丸	八四、三	八四、三	一、四	一、四	〇、三	〇、三	一三、〇	一四、〇
青熟	八二、五	八一、〇	〇、九	一、〇	〇、五	〇、四	一六、一	一七、六
龍山又昔	八七、六	八六、八	〇、八	〇、七	〇、二	〇、二	一一、四	一二、三

其四 對給桑量收繭量

種別	目標	對收繭一舛給桑量	對給桑百貫收繭量	
			容	重
水原又昔		一、四〇六	七二	七、二七六
小石丸		一、二九七	七七	七、八六二
青熟		一、四二七	七〇	七、三三九
龍山又昔		一、二九七	七二	八、一三二

五、蠶種製造成績表

蠶業 原蠶種製造事業

八、絲質調査表 (一粒絲)

種別	目標	最長	最短	平均	最太	最細	平均	類節	切斷
水原又昔		一一 ^寸 二	〇五 ^寸 二	〇四 ^寸 六	一、五 ^分 四	〇、六 ^分 二	〇、九 ^分 二	四〇、三 [%]	五九、七 [%]
小石丸		一、〇 ^寸 六	〇、五 ^寸 二	〇、四 ^寸 七	一、五 ^分 五	〇、六 ^分 〇	〇、九 ^分 五	三八、七 [%]	六一、三 [%]
青熟		一、一 ^寸 五	〇、五 ^寸 二	〇、四 ^寸 六	一、四 ^分 八	〇、六 ^分 〇	〇、八 ^分 八	四〇、五 [%]	五九、五 [%]
龍山又昔		一、一 ^寸 二	〇、五 ^寸 二	〇、四 ^寸 六	一、五 ^分 二	〇、五 ^分 八	〇、九 ^分 三	三八、四 [%]	六一、六 [%]

九、各種の特性

尙は各種の特性を概言すれば左の如し

又昔 蟲質強健食欲旺盛にして能く肥大し發育齊一なり斑紋稍々濃く壯蠶期に至り皮膚赤味を帯ぶ成繭齊一にして一鉢の顆數二百五六十縮皺及縊目中庸にして收繭量多し織度は稍々太き傾向あり

小石丸 蟲質強健發育齊一にして飼育容易なり斑紋普通にして繭は前者より稍々小にして

短く縮皺普通にして縊目深き傾きあれども絲長長く收繭量豊富なり

青熟 蟲質強健發育最も齊一にして飼育容易なれども比較的功繭多し斑紋は前二者の中間に位し繭の大小又昔と伯仲し縮皺稍々粗にして縊目中庸收繭量少なからず

第二夏蠶

夏蠶種は二化性新屋にして明治四十年東京蠶業講習所より原種を得爾後連年當場に於て複製したるものにして昨年龍山支場に於て原々蠶種として採用したるものなり而して本年其第一化は龍山支場に於て第二化は當場に於て飼育せり

第一化

一、貯藏及催青中の概況

蠶種貯藏中の状態及之れを貯藏庫より取出したる時日は共に前記春蠶種と全然同一なりしも出庫後七日間天然温度に放任し四月三十日より火力を用ひて補温し五月十一日蟻量二匁を掃立たり

催青期間の気温は春蠶種と大同小異にして晴雨不定且つ気温の變動甚しかりしも周到なる注意を以て温度の加減に勉めたるを以て蠶兒の發生頗る齊一なりき

貯藏中の温湿度は春蠶と等しきが故に今之を省き催青中の温湿度のみを示せば左表の如し

催青中温湿度表

項目	温湿度
最 高	室外 温度 六九 ^度 室外 湿度 九三 ^度 室内 温度 七五 ^度 室内 湿度 八七 ^度

最 低	四二、〇
最 高	五五、〇
平 均	五九、〇
最 低	六〇、〇
最 高	六七、三
平 均	七〇、〇

二、飼育中の概況

上記の如く本種の掃立は春蠶より後ること四日なりしも爾後の發育齊一佳良にして比較的迅速なりしが故に上簇は僅に十八時間の差を生せしのみ従つて飼育中の氣象狀況は春蠶と大差なし今各齡に於ける温濕度及蠶兒發育經過並に收繭量其他の成績を詳記すれば左の如し

各齡温濕度表

齡別	室外温度			室外濕度			室内温度			室内濕度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
第一齡	六九、 ^度 〇	四九、 ^度 〇	五八、 ^度 七	八七、 ^度 〇	三九、 ^度 〇	七〇、 ^度 一	七三、 ^度 〇	六七、 ^度 〇	七〇、 ^度 四	七三、 ^度 〇	五一、 ^度 〇	六六、 ^度 三
第二齡	七〇、 ^度 〇	四七、 ^度 〇	五八、 ^度 九	九二、 ^度 〇	四五、 ^度 〇	六九、 ^度 二	七三、 ^度 〇	六六、 ^度 〇	七〇、 ^度 四	七三、 ^度 〇	五九、 ^度 〇	六七、 ^度 一
第三齡	八〇、 ^度 〇	四七、 ^度 〇	六六、 ^度 二	八六、 ^度 〇	四三、 ^度 〇	六一、 ^度 九	八〇、 ^度 〇	六七、 ^度 〇	七二、 ^度 三	七七、 ^度 〇	五三、 ^度 〇	六五、 ^度 〇
第四齡	八一、 ^度 〇	五一、 ^度 〇	六七、 ^度 九	九二、 ^度 〇	三九、 ^度 〇	五九、 ^度 一	七九、 ^度 〇	六三、 ^度 〇	七二、 ^度 一	七五、 ^度 〇	五一、 ^度 〇	六〇、 ^度 三
第五齡	八三、 ^度 〇	六二、 ^度 〇	七三、 ^度 三	八八、 ^度 〇	四一、 ^度 〇	六三、 ^度 七	七六、 ^度 〇	六四、 ^度 〇	七二、 ^度 九	七七、 ^度 〇	五〇、 ^度 〇	六四、 ^度 二
全齡	八三、 ^度 〇	四七、 ^度 〇	六四、 ^度 八	九二、 ^度 〇	三四、 ^度 〇	六四、 ^度 六	八〇、 ^度 〇	六二、 ^度 〇	七二、 ^度 六	七七、 ^度 〇	五〇、 ^度 〇	六四、 ^度 六

其三 對收繭總量上中下同功繭步合

上		中		下		同	
容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量
四八二八	八二、六	一、四二	一、三四	〇、四八	〇、四八	二、三、九五	一、五、二〇

其四 對給桑量收繭量

對收繭一舛給桑量	對生繭百舛給桑量	對給桑百貫收繭量
一、三、三〇 _々	一、二、七九 _々	八〇 _合
		七、八、二八 _々

四、蠶種製造成績表

種繭量	對種繭一舛		製種額		種額		對種繭一舛額
	重	量	額	數	種	額	
四九〇 _合	九六 _々	二六五	一三 _枚	一八九 _枚	二〇二 _枚	四、一〇	

五、蠶種檢查成績表

檢 查		成 績	
無毒蛾數	有毒蛾數	其 他	病 毒 步 合
五六四八 _枚	一 _枚	七 _枚	五、六、五六 _枚
			〇、〇、二七

第二化

各齡經過表

齡別	目標	各齡經過				給桑量
		掃立餉食	停食上簇	竣	蛻	
第一齡		七月六日 午前十時	七月十日 午後六時	七月十一日 午後五時	食桑中 四日 八時間 二十三日 間五日 七時間	四 一 六 〇
第二齡		七月十一日 午後五時	七月十四日 午後八時	七月十五日 午後六時	三日 三時間 二十二日 間四日 一時間	二 六 六 四
第三齡		七月十五日 午後六時	七月十九日 午前十時	七月二十日 午前十時	三日 十六時間 一日 間四日 十六時間	三 一 、 三 九
第四齡		七月二十日 午前八時	七月廿三日 午後十一時	七月廿五日 午前八時	三日 十三時間 一日 九時間 四日 二十二時間	二 六 、 九 五 三
第五齡		七月廿五日 午前八時	七月三十日 午後二時		五日 六時間 一日 五時間 六時間	七 〇 、 八 二 〇
全齡		七月六日 午前十時	七月三十日 午後二時		十九日 廿二時間 四日 六時間 二十四日 四時間	一 三 七 、 一 八 五

二、收繭調查表

其一 總收繭量

上		中		下		同		合	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
一、二四〇 <small>合</small>	一、二七五 <small>克</small>	110 <small>合</small>	100 <small>克</small>	二二五 <small>合</small>	二二〇 <small>克</small>	二八七、〇 <small>合</small>	三、三三五 <small>克</small>	一、六〇三、五 <small>合</small>	一六、三五〇 <small>克</small>

其二 對蟻量一夕收繭量

上		中		下		同		合	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
二五六、八 <small>合</small>	二、五四三 <small>克</small>	二二 <small>合</small>	二〇 <small>克</small>	四、三 <small>合</small>	四 <small>克</small>	五七四 <small>合</small>	六、五 <small>克</small>	三二〇、七 <small>合</small>	三、二七〇 <small>克</small>

其三 對收繭總量上中下同功繭步合

上繭		中繭		下繭		同功繭	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
80.0%	77.7%	80.6%	80.2%	1.3%	1.2%	17.9%	20.3%

其四 對給桑量收繭量

對收繭一舛給桑量	對生繭百舛給桑量	對給桑百貫收繭量
1,259 <small>々</small>	1,237 <small>々</small>	822 <small>合</small>
		8,794 <small>々</small>

三、蠶種製造成績表

種繭量	對種繭一舛		蠶種製造額(二十八蛾付)	對種繭一舛製造額
	重	額		
400 <small>合</small>	96 <small>々</small>	246	123 <small>枚</small>	41 <small>枚</small>

四、蠶種檢查成績表

檢查		其他		病毒步合
無毒蛾數	有毒蛾數	其數	計	
4,912 <small>枚</small>	33 <small>枚</small>	5 <small>枚</small>	4,564 <small>枚</small>	0.4875%

五、繭質調查表

繭	形	乾	繭	十	顆	平	均	對	繭	層	量	百	分	率
長	幅	縮	繭	量	繭	層	蛹及	繭	層	量	蛹及	皮	量	
1.0元	0.51	0.45	繭	1.3	繭	0.56	0.87	繭	3.2	繭	60.8			

六、絲質調査表（一粒繰）

最	最	短	平	均	最	太	最	細	平	均	類	節	切	斷
長	長	短	平	均	最	太	最	細	平	均	類	節	切	斷
六七五	五〇〇	五九七	二八四	二二八	二四七	三七	〇二							

七、新屋種の特性

本種の特性を概言すれば左の如し

蟲質強健にして眠起齊一なり斑紋は稍々淡く成繭一舛二百四十八顆内外縮皺及溢目中庸にして收繭量多く絲長甚だ長く織度は稍々細し

第三秋 蠶

原種は長崎縣南高來郡島原村松本善太郎の製造に係り昨年龍山支場に於て飼育採種せる二化性白龍同支場第三回報告中白龍丙と稱せるものにして九月八日産卵せしものを春蠶種と同様の取扱をなし本年二月二十三日慶尙北道冰山風穴に發送同月二十七日入穴し七月二十日出穴したり

一、貯藏及催青中の概況

蠶種入穴前及風穴貯藏中の温度は左表の如し

貯藏中温度表

風穴貯藏中	入 穴			平均	最低	最高	平均	最低	最高	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	
	平	最	最														
平均	均	低	高	均	低	高	均	低	高	三六〇 ^度	四〇〇 ^度	三〇〇	二〇〇	一〇七 ^度	一〇七 ^度	一〇七 ^度	一〇七 ^度
最低	低	低	低	低	低	低	低	低	低	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	二、七	一、〇	〇、六	一、二
最高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	三、五、二	三、六、六 (二十三日迄)	三、〇	二、〇	〇、七	一、七	二、六	二、六
平均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
平均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	(廿七日より)	三、三、五	三、〇	三、〇	一、八、三	〇、七	〇、六	一、六

蠶種は七月二十日出穴同二十二日當場へ到着直ちに蠶室に移し爾後適當なる保護を加へ七月三十一日蠶量十二匁を掃立たり

二、飼育中の概況

七月三十一日掃立八月二十三日上簇せり而して第三第四齡中曇天又は雨天の爲め稍々蒸暑を覺へたる外概ね晴天にして西北の和風吹き常に乾燥なりしを以て育蠶容易なりしも夜間温度の急下すること多く屢々炭火を以て補温するの必要ありき斯の如き天候の下にありしを以て發育稍々遅延せしと雖も蠶兒の舉動頗る活潑食欲旺盛にして眠起齊一體軀能く肥大したり今飼育中の温湿度及蠶兒發育經過收繭量繭品質製種等の成績を記すれば左の如し

各齡温湿度表

各齡經過表

齡別	目標	室內溫度			室內濕度			給桑量				
		最高	最低	平均	最高	最低	平均					
第一齡	九三、〇	六二、〇	八〇、七	九四、〇	三七、〇	六九、〇	八五、〇	六六、〇	七九、四	九〇、〇	六〇、〇	七七、八
第二齡	八九、〇	六三、〇	七四、八	一〇〇、〇	三六、〇	七一、八	八四、〇	六八、〇	七六、〇	九三、〇	五五、〇	七五、八
第三齡	八八、〇	六五、〇	七六、八	九四、〇	四五、〇	七六、九	八二、〇	七一、〇	七六、六	九四、〇	六〇、〇	七九、三
第四齡	九二、〇	六七、〇	七九、三	一〇〇、〇	四三、〇	七九、二	八六、〇	六七、〇	七八、八	九〇、〇	五六、〇	八一、六
第五齡	八七、〇	六五、〇	七六、〇	九四、〇	四七、〇	七四、八	八三、〇	六六、〇	七七、一	九四、〇	六三、〇	七九、五
全齡	九三、〇	六二、〇	七八、三	一〇〇、〇	三六、〇	七四、三	八六、〇	六六、〇	七八、〇	九四、〇	五五、〇	七八、八

齡別	目標	掃立餉食		停食上簇		竣	齡	中		計數	給回數	桑量	
		開始	終了	開始	終了			停食中	食中				
第一齡	七三十一日	午前十一時	午後八時	午後六時半	午後八時	八日	三日	八時間半	一日	一時間半	四日	十時間	三三、八
第二齡	八月四日	午後八時	午後五時	午後五時	午後八時	八日	二日	廿一時間	一日	間	三日	廿一時間	七九、四
第三齡	八月八日	午後五時	午後四時	午後四時	午後五時	十二日	二日	廿三時間	一日	一時間	四日	間	二、一五〇
第四齡	八月十二日	午後五時	正午	八月十六日	午後六時	十七日	三日	十九時間	一日	六時間	五日	一時間	七、九六一
第五齡	八月十七日	午後六時	午後四時	午後四時	午後四時	廿三日	五日	廿二時間	一日	五時間	廿五日	二時間	三六、八三〇
全齡	七月三十一日	午前十一時	午後四時	午後四時	午後四時	廿三日	六日	廿七時間半	四日	八時間半	廿三日	六時間	四六、〇七三

三、收繭調查表

其一 總收繭量

上		中		下		同		功		繭		合		計	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克
三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克	三、三〇〇 _合	三、九六八 _克

其二 對蟻量一勿收繭量

上		中		下		同		功		繭		合		計	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克
二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克	二七、五 _合	二、六四四 _克

其三 對收繭總量上中下同功繭步合

上		中		下		同		功		繭		合		計	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
八六、一八 _%	八四、九八 _%	一、六五 _%	一、五六 _%	一、〇五 _%	一、〇一 _%	一一、三三 _%	一一、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%
八六、一八 _%	八四、九八 _%	一、六五 _%	一、五六 _%	一、〇五 _%	一、〇一 _%	一一、三三 _%	一一、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%	三、三三 _%

其四 對給桑量收繭量

對收繭一舛給桑量		對生繭百勿給桑量		對給桑量收繭量		對給桑量百貫收繭量	
容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
一、四三 _克	一、四七〇 _克	一、四三 _克	一、四七〇 _克	一、四三 _克	一、四七〇 _克	一、四三 _克	一、四七〇 _克
一、四三 _克	一、四七〇 _克	一、四三 _克	一、四七〇 _克	一、四三 _克	一、四七〇 _克	一、四三 _克	一、四七〇 _克

四、蠶種製造成績表

種繭量	重	對種繭一件量	類	數	原蠶種	種	額	(二十八蛾付)	計	對種繭一件
二、五〇 _合	九 _分			二五〇	一、〇一三 _枚		二五 _枚	一、〇三九 _枚		四 _枚

五、蠶種檢查成績表

無毒蛾數	檢	有毒蛾數	查	其	成	他	蹟	計	病毒步合
二、二八 _枚		七 _枚		二〇〇 _枚		二九、〇九 _枚		二、五四 _枚	二、五四 _枚

六、繭質調査表

繭	長	幅	形	繭	乾	繭	十	顆	平	均	對種繭百分率
一、一四	〇、五 _寸	〇、四 _寸	繭	繭	量	繭	層	量	蛹及蛻皮量	繭層量	繭及蛻皮量
					一、五 _分	〇、五 _分			一、〇〇 _分	三、二 _%	五、八 _%

七、絲質調査表 (一粒繰)

最長	最	短	平	均	最	太	最	細	平	度	均	類	節	切	斷
六三 _回		四六 _回		五二 _回		二、七 _分		二、三 _分		二、四 _分			二、四 _回		

八、白龍種の特性

蠶業 原蠶種製造事業

本種の特性を概言すれば左の如し

り 蟲質強健發育齊一にして飼育容易なり而して斑紋稍々濃く繭形長くして縮皺稍々粗なり

附冰山及金烏山風穴

冰山及金烏山風穴は本年五月以來慶尙北道の所管に屬せりと雖も蠶種冷蔵に關する事務の過半は龍山支場及當場に於て取扱ひたるを以て左に其梗概を記し參考に供せん

第一 冰山風穴

本年の夏秋蠶種貯藏枚數は四千二百七十六枚にして全部二月二十七日に入穴したり而して貯藏其他取扱の方法は従前に異なることなし今入穴前に於ける蠶種の保護及貯藏中の温度並に出穴時期又は飼育成績を擧ぐれば左表の如し

入穴前保護中温度表 (攝氏)

月次	温度			最	高	最	低	平	均
	最	高	低						
一月	下旬	中旬	上旬	二、三	四、四	(一)	〇、五六	二、三	一、七
二月	下旬	中旬	上旬	三、八九	三、八九	二、七六	〇、五五	二、七	三、四

貯藏中温度表 (攝氏)

貯藏蠶種出穴一覽表

月次	二月		三月		四月		五月		六月		七月	
	下	上	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中
溫度	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬
最	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
高	三、〇〇	三、一〇	三、二〇	二、〇〇	一、九〇	一、五〇	〇、七〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、七〇	〇、二〇	二、六七
最	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
低	三、五〇	四、四〇	四、〇〇	三、八〇	二、九〇	二、三〇	一、九〇	一、〇〇	〇、六〇	〇、〇〇	〇、三〇	一、六一
平	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
均	三、二五	三、五四	三、三九	二、八三	二、三九	一、八八	一、二三	〇、五五	〇、一八	〇、三三	〇、六五	二、〇四

道別	出穴月日	
	六月十五日	六月三十日
京畿道	二	一、三二
忠清北道	二	一四
忠清南道	一	三
全羅北道	一	五〇〇
全羅南道	一	一
慶尙北道	一	九七
慶尙南道	五	六五
黃海道	一	六
平安南道	一	四
平安北道	一	二〇
江原道	四	四
咸鏡南道	一	五
咸鏡北道	一	一
合計	三三	三、〇八七
		二、三七
		一、〇
		一、六
		四、一五九
		一、五七
		一、三
		三、七
		三、四
		五
		二、〇
		八
		五
		四、一五九
		計

備考 本表には當場の原種及試験用蠶種を含まず入穴したる蠶種の枚数と一致せざるは之が爲めなり

蠶種飼育成績表

道別	目標	發生	齊	否	發生	步合	飼育	難	易	對蟻量一匁收爾量
京畿道			否			三%		普		三六
忠清北道	稍			齊		七五		易		三六
忠清南道		齊				七		易		三〇〇
全羅北道	稍			否		五		易		二五〇
全羅南道										
慶尙北道		齊				九五		易		二六五
慶尙南道		齊				八七		最	易	三三七
黃海道	稍			齊		八〇			易	二〇〇
平安南道		齊				九〇		易		二二八
平安北道		齊				九五		易		二八五
江原道		齊				八三		易		三〇六
咸鏡南道	稍			否		五		難		二三八
咸鏡北道										
平均						七六				二五〇

第二 金烏山風穴

本風穴は本年尙試験中に屬し未だ當業者の蠶種を貯藏するの域に達せずと雖も前年同様蠶種出穴の時日を異にし其の發生の狀況を調査したるを以て左に其概況を記さん

貯藏蠶種成蹟表

入穴月日	種類	枚數	出穴月日	貯藏日數	發生齊否	發生歩合
三月一日	乙號白龍	二 ^枚	六月十五日	一〇 ^日	齊	九八、九%
同	同	二	六月二十日	二	齊	八九、六
同	同	二	六月二十五日	二	齊	九七、八
同	同	二	六月三十日	三	齊	九九、六
同	同	二	七月五日	三	齊	九八、九
同	同	二	七月十日	三	齊	九一、一
同	同	二	七月十五日	三	齊	九四、四
同	同	二	七月二十日	四	齊	九六、四

畜産

技師 菊池 爲行

當場飼養家畜は牛、豚、羊、山羊及家禽水禽等にして其の狀況の梗概を擧ぐれば左の如し

牛

當場に飼養する牛の種類は「シンメンタール」「エーアシャー」「朝鮮在來種」及「雜種」の四種となす其の牝牡頭數左の如し

牛現在數

種類	成牝		牝牛		牝		牝		計
	頭數	平均体重	頭數	平均体重	頭數	平均体重	頭數	平均体重	
シンメンタール種	八	一四〇	三	一〇〇	二	一〇〇	二	一四〇	
エーアシャー種	四	一四〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一四〇	
雜種	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	
朝鮮在來種	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	
計	一四	一四〇	六	一〇〇	六	一〇〇	六	一四〇	

當場産犢は孰れも健全にして佳良の生育をなしつつあり今其の發育表を示せば左の如し

シンメンタール種犢發育表

月次	牝		牝		牝		總頭數	牝牡犢平均体重及毎月増量	
	頭數	平均体重	頭數	平均体重	頭數	平均体重		平均体重	毎月増量
生時	四	九、二〇〇	四	一一、〇〇〇	八	一〇、一〇〇	四	九、二〇〇	—
第一月	四	一六、四八〇	四	一八、〇五〇	八	一七、二六五	四	一六、四八〇	七、一六五
第二月	四	二二、六三〇	四	二三、六五〇	八	二三、六四〇	四	二二、六三〇	五、三七五
第三月	四	二五、七八〇	三	三二、六〇〇	七	二八、六九〇	四	二五、七八〇	六、〇五〇
計	一六	一四〇	一六	一四〇	三二	一四〇	一六	一四〇	—

第四月	四	三一、六五〇	五、八七〇	三	三七、〇七〇	五、四七〇	七	三四、三六〇	五、六七〇
第五月	四	三六、〇八〇	四、四三〇	三	四一、三三〇	四、二六〇	七	三八、七〇五	四、三四五
第六月	三	四〇、五〇〇	四、四二〇	三	四六、三三〇	五、〇〇〇	六	四三、四五五	四、七一〇
第七月	三	四五、五七〇	五、〇七〇	三	四九、〇七〇	二、七四〇	六	四七、三三〇	三、九〇五
第八月	三	五〇、五三〇	四、九六〇	二	五二、七七〇	三、七〇〇	五	五一、六〇五	四、三三〇
第九月	三	五六、六〇〇	六、〇七〇	二	五七、二〇〇	四、四三〇	五	五六、九〇〇	五、二五〇
第十月	三	六一、九六〇	五、三六〇	二	六二、八五〇	五、六五〇	五	六二、四〇五	五、五〇五
第十一月	三	六七、一〇〇	五、一四〇	一	六八、八五〇	五、六五〇	四	六七、八〇〇	五、三九五
第十二月	三	七三、〇七〇	五、九七〇	一	七三、〇〇〇	四、五〇〇	四	七三、〇三五	五、二三五
第十三月	三	七八、五〇〇	五、四三〇	一	七八、〇〇〇	五、〇〇〇	四	七八、二五〇	五、二二五
第十四月	三	八五、九三〇	七、四三〇	一	八三、〇〇〇	五、〇〇〇	四	八四、四六五	六、二二五
第十五月	三	九二、九〇〇	六、九七〇	一	八八、四〇〇	五、四〇〇	四	九〇、〇六五	五、六〇〇
第十六月	三	九六、六七〇	三、七七〇	一	九三、一五〇	四、七五〇	四	九四、九一〇	四、八四五
第十七月	三	九八、八七〇	二、二〇〇	一	九七、六〇〇	四、四五〇	四	九八、二三五	三、三三五
第十八月	三	一〇一、九七〇	三、一〇〇	一	一〇一、五〇〇	三、九〇〇	四	一〇一、七三五	三、五〇〇
第十九月	三	一〇五、五〇〇	三、五三〇	一	一〇三、五〇〇	三、〇〇〇	四	一〇五、〇〇〇	三、二六五
第二十月	三	一〇七、九〇〇	二、四〇〇	一	一〇八、七〇〇	四、二〇〇	四	一〇八、三〇〇	三、三〇〇
第二十一月	三	一〇九、九三〇	二、〇七〇	一	一一二、三〇〇	三、六〇〇	四	一一一、二一五	二、八一五

次に犢の在胎日数は左表の如し

種別	牝			牡			牝牡平均
	頭數	在胎日數	平均	頭數	在胎日數	平均	
生時	五	八、〇七〇	—	四	四四、〇五〇	三、四〇〇	三、七〇〇、八三三
第一月	五	二、七六〇	四、六九〇	四	四六、九〇〇	二、八五〇	三、七二、四三三
第二月	五	一七、三二〇	四、五八〇	四	五〇、一七五	三、二七五	三、七四、〇六七
第三月	四	三、六〇〇	五、二八〇	三	五五、三〇〇	五、二三五	三、七五、七〇〇
第四月	四	二、二五〇	三、六五〇	三	五九、一六七	三、八六五	三、七七、五三三
第五月	四	二九、九九五	三、六七五	三	六三、二六七	四、一〇〇	三、七九、六三三
第六月	四	三、八三五	二、九〇〇	三	六五、五〇〇	二、二三三	三、八二、五三三
第七月	四	五、九五五	三、一〇〇	三	六七、六三三	二、一三三	三、八二、五三三
第八月	四	四〇、六五〇	四、七五五	三	六九、〇〇〇	一、三六七	三、八二、五三三
			第九月				一、八三三
			第十月				一、六〇〇
			第十一月				一、六三四
			第十二月				一、七三三
			第十三月				一、八三三
			第十四月				二、一〇〇
			第十五月				二、九〇〇
			第十六月				
			第十七月				

エーアシャー種牝犢發育表

第二十二月	三	一三、四〇〇	二、四七〇	一	一六、五〇〇	三、一〇〇	一、四、四五〇	三、三三五
第二十三月	三	一四、三〇〇	一、七〇〇	一	一八、五〇〇	二、〇〇〇	一、二六、八一五	二、三六五
第二十四月	三	一五、六〇〇	一、二七〇	一	一九、九〇〇	一、四〇〇	一、二七、六五〇	〇、八三五

今各種牛産次別搾乳量及搾乳期間を表示すれば左の如し

種 類	事 項	産 次 別			
		第 一 産	第 二 産	第 三 産	第 四 産
シンメンタール種	頭 數	三	二	一	
	一頭平均搾乳日數	二八八	二五三	三三三	
	一頭平均搾乳量	三、五〇二、四 ^{ポンド}	三、八一九、五 ^{ポンド}	五、〇二二、九 ^{ポンド}	
	一頭一日平均乳量	一一、二	一一、六	一五、一	
	一頭一日最多乳量	一九、二	一九、八	三三、〇	
	頭 數	三	二		
	一頭平均搾乳日數	三五八	三九〇		
	一頭平均搾乳量	三、八五九、四	四、五〇一、三		
	一頭一日平均乳量	一〇、八	一一、七		
	一頭一日最多乳量	二〇、〇	二四、七		
エーアシャー種	頭 數	一	一		
	一頭平均搾乳日數	一九七	一五三	二五四	
	一頭平均搾乳量				
	一頭一日平均乳量				
	一頭一日最多乳量				
	頭 數				
	一頭平均搾乳日數				
	一頭平均搾乳量				
	一頭一日平均乳量				
	一頭一日最多乳量				
朝鮮在來種	頭 數	三	一		
	一頭平均搾乳日數	二八六	二七七	二七七	
	一頭平均搾乳量	二六〇	二六四	二七七	
	一頭一日平均乳量	二五五	二七六	二七六	
	一頭一日最多乳量	二八七	二七六	二八三	
	頭 數	七	一		
	一頭平均搾乳日數	三〇〇	二八二	二七六	
	一頭平均搾乳量	二八〇	二八九	二八三	
	一頭一日平均乳量	二六六	二七六	二七六	
	一頭一日最多乳量	二八七	二七六	二八三	

朝鮮在來種

一頭平均搾乳量
一頭一日平均乳量
一頭一日最多乳量

一、二七八、二
六、五
二、二

五八、八
六、一
二、五

一、九二六、六
七、六
一三、七

四七、二
三、八
七、六

備考 乳量はすべて「ポンド」を以て計算す其の四「ポンド」は約我が一坪に相當す

朝鮮在來種牛産次別並に毎月搾乳表

月次	事項	第一産	第二産	第三産	第四産
第一月	頭數	一	一	一	一
	搾乳日數	一九	五	一九	三〇
第一月	搾乳全量	九五、一	七八	二三七、二	一八六、一
	一日平均乳量	五、〇	一、六	二、五	六、二
第二月	頭數	一	同上	同上	同上
	搾乳日數	一	同上	同上	同上
第二月	搾乳全量	三三、〇	二七〇、一	四〇〇、〇	一七三、六
	一日平均乳量	七、七	八、七	九、七	五、六

槽に哺乳せしめたる
を以て全量を搾取せ
ず

第 五 月				第 四 月				第 三 月									
一日平均乳量	搾乳全量	搾乳日數	頭數	備考	一日最多乳量	一日平均乳量	搾乳全量	搾乳日數	頭數	備考	一日最多乳量	一日平均乳量	搾乳全量	搾乳日數	頭數	備考	
七、三	二八、三	三〇	一		九三	八、二	二四五、七	三〇	一		一〇、五	八、九	一五一、九	一七	一		一一、二
三、九	一一六、二	三〇	一		七、五	六、七	二〇六、五	三二	一		九、四	八、二	二四五、九	三〇	一		一一、五
八、七	二六〇、〇	三〇	一		九、九	八、八	二七二、八	三二	一		一〇、〇	八、六	二五九、一	三〇	一		一二、六
二、九	一一〇、三	三八	二		六、八	三、五	二二四、一	六二	二	一頭は分娩第三月より搾乳せり	六、〇	三、九	一九五、五	四九	二		七、〇

第八月					第七月					第六月				
一日平均乳量	搾乳全量	搾乳日數	頭數	備考	一日平均乳量	搾乳全量	搾乳日數	頭數	備考	一日平均乳量	搾乳全量	搾乳日數	頭數	備考
二、二	三、〇	一〇	一		六、六	四、五	一三九、七	三	一	七、〇	五、八	一七四、四	三〇	一
										四、八	三、六	九三、三	二六	一
四、三	二八、三	三〇	一		七、八	五、六	一七三、〇	三	一	八、八	七、一	二〇、二	三二	一
				涸乳期	一、〇	〇、七	五、五	八	一	三、八	一、八	五七、七	三二	一

第六月は涸乳期

内一頭は涸乳期にして八日間搾乳す

備考 乳脂含量の多少は直接乳質の良否を判定するの標準にして酪農上最も重要なものなれば牛の選擇淘汰に關する唯一の資料たり左れば斯業に従事するものは決して脂肪の檢定を忽かにすべからず

豚

豚現在數

種 類	成 豚		仔 豚		計
	牝	雄	牝	雄	
バークシャー種	八頭	一頭	五頭	三頭	一六頭
ヨークシャー種	二	一	一	一	三
朝鮮在來種	二	一	五	三	二
計	一二	二	一六	四	二二

當場は「バークシャー」及朝鮮在來種に就き仔豚の在胎日數を調査せるに其の成績左の如し

種 類	最長在胎日數	最短在胎日數	平均在胎日數	分娩回數
バークシャー種	一三六日	一〇六日	一二五日	三六回
朝鮮在來種	一五三	一二七	一三三	三

羊

羊現在數

種	類	成		仔		計
		牝	牡	牝	牡	
メ ヲ ノ ー 種		〇	〇	〇	〇	〇
シ ユ ロ ブ シ ヤ ー 種		四	一	〇	〇	五
蒙 古 種		六	二	九	九	一六
雜 種		〇	二	〇	六	二
計		〇	二	九	六	一六

山羊

山羊現在數

種	類	成		仔		計
		牝	牡	牝	牡	
褐 色 マ ル タ 種		一	一	一	一	二
マ ル タ 雜 種		三	一	一	一	六
計		四	二	二	二	八

備考 褐色マルタ種は本年五月東京帝國大學農科大學の寄贈に係れり

家禽及水禽

家禽及水禽現在數

種	類	成		雛		計	
		雌	雄	雌	雄	雌	雄
名古屋コーチン種		二九羽	三羽	二六羽	四羽	五二羽	
バーレット		八羽	三羽	二六羽	一八羽	二五羽	
プリマスロツク種		七羽	一羽	二二羽	一八羽	二二羽	
黑色ミノルカ種		五羽	一羽	二二羽	三羽	二〇羽	
白色レグホーン種		四羽	一羽	二二羽	三羽	二〇羽	
アングルシアン種		一〇羽	一羽	一〇羽	二羽	一二羽	
雜種		一羽	一羽	一羽	一羽	二羽	
吐綬雞		七羽	二羽	五羽	四羽	二一羽	
北京鶯		六羽	五羽	一羽	四羽	二一羽	
鶯		七羽	七羽	四羽	三羽	一五羽	
計		一〇九羽	一七羽	一四七羽	一〇七羽	二五四羽	

各種家禽及水禽に就き其の産卵數を調査せるに左の結果を得たり

種	類	雌羽數	一箇年總産卵數	一羽平均産卵數	一箇平均重量
名古屋コーチン種		一五羽	一七六個	一二七個	一四々
バーレット		五羽	五八個	一二七個	一四
プリマスロツク種					

黒色ミノルカ種	三	三〇一	一〇〇	一五
白色レグホーン種	三	三〇五	一〇一	一六
アングルシアン種	一	三六	一三	一六
吐綾雞	一	二六	二六	二三
北京鶯	八	六六	七	一九
鶯	三	五	六	三七

當場は從來飼育の結果と農家の現状とに鑑み卵肉兼用種中朝鮮の氣候風土に適する「ブリマ
スロツク」及名古屋「コーチン」種を選定し其の種禽及種卵を配付し以て雞種の改良増殖を奨勵
しつつあり

疾 病

本場創立以來各家畜家禽の最も多く侵襲せらるるは内外寄生蟲とす内寄生にありては殊に
羊に於ける胃蟲ストロンギルス、コントルタス (Strongylus Contortus) 家禽の蛔蟲、縲蟲、豚の氣管
枝に寄生するストロンギルス、バラドクサス (Strongylus Paradoxus) 等なり外寄生にありては殊
に牛、豚、家禽に寄生する蟲を多しとす
就中豚に寄生するストロンギルス、バラドクサスは種豚の増殖に著しき影響を及ぼすが故に
年々其の發育習性等に注意して豫防撲滅の法を施しつつありと雖未だ充分なる効果を奏す
ること能はず往々悪液質に陥り斃死するを免れず今左に其の病原、症狀、豫防驅除の方法を記

述し農家の参考に供せんごす

豚の寄生性氣管枝肺炎

病原 豚の寄生性氣管枝肺炎は主としてストロンギルス、パラドクサス Strongylus Paradoxus

Mellis (S. St. Longevaghnatus Ralliet, S. St. Elongatus Duj) の寄生により發するものなり而してス

トロングルス、パラドクサスは白色或は帶褐色を呈し口部は六唇を繞らし其の兩側唇は最も

大なり雄蟲は長さ二〇乃

至四〇ミリメートルにし

て尾端は深く二葉に別れ

各葉は五肋によりて支持

せられ交接刺は細小にし

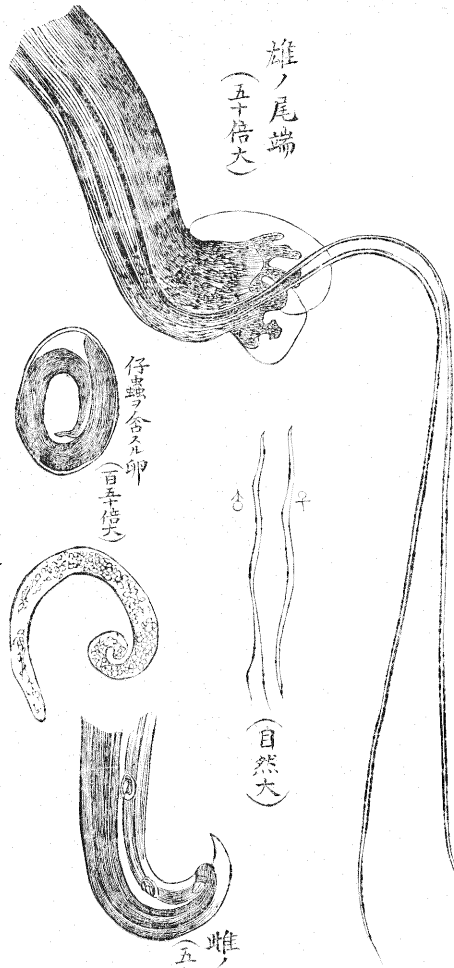
て甚だ長し雌蟲は長さ二

〇乃至四〇ミリメートル

にして尾端は屈曲し微に

凸隆す陰門は肛門の前隆

起上にあり卵生なるもの



熟卵生なるものあり

症候 氣管枝炎及肺の寄生性炎症の發顯は通常前記のストロンギルスに原因す本病の症候は常に一定せず例之生活時何等の症狀を認識せざりしものも解檢に際し屢々患部を發見す

ること少なからず或は肥育に抵抗し次第に羸瘦して死に至るもの或は濕性の疼痛ある咳嗽を頻發し諸種の對症療法に抵抗し惡液質に陥り斃死するものあり然れども侵襲の初期にありては概ね輕微緩慢にして主徴を認めず其の氣管枝の侵害せらるゝときは著明の症候を現はし患畜は激甚なる氣管枝加多兒の徴候を呈し苦悶呼吸困難疼痛性の咳嗽を發す殊に早朝黄昏に甚しく劇しき運動によりて窒息を招くことあり鼻漏は濃厚夥多にして咳嗽の度毎に著しく粘液塊を咯出せらる是等の物質中には無數のストロンギルスの仔蟲及卵を發見するを常とす前記症狀急性炎に轉すれば全く食欲を失し羸瘦貧血に陥り皮膚及可視粘膜蒼白色となり腹式呼吸を營み肺癆の徴を呈す死の原因は窒息又は心臟の合併症による本病は概ね死の轉歸をとる

病理解剖 寄生性氣管枝炎に於ては氣管枝は囊狀變廣し此部に膿樣粘液を混せる線蟲の聚束を認む此聚束は小氣管枝に栓塞を發し爲めに肺は處々に楔狀の梗塞を發し肺の呼吸面を縮小せしむ又屢々氣管枝粘膜の表面に痲衝を發し氣管枝擴張の近圍に於ては肺の實質は壓迫閉塞せられて貧血蒼白となり且つ炎性滲出物により屢々肋膜縱隔膜、心囊等は交互に癒着し心機を妨ぐるを實見すべし寄生性肺炎は屢々寄生性氣管枝炎に併發す其の變狀は結節性肺炎にして外觀結核病に酷似し粟粒大乃至豌豆大の半透明帶黃灰白色或は暗赤色をなせる病竈より成る其の新舊により硬軟濃淡の差あれども概して乾酪樣變性にして周圍に石灰鹽類を沈着す或は膿樣粘液を含むものあり是等の内容中には仔蟲若くは蟲卵を含有するを常とす氣管枝、氣管、喉頭等は一般に出血性の肥厚性炎症を伴ふ

豫防及驅除法 發育の經過及習性未だ明かならざれども其の体外發育上仔蟲は暫時水中に棲息するものの如きにより放牧地に卑濕沮洳の地あらば宜しく排水を施し以て後難を防ぐべし且つ夏季の放牧に注意し尙此期間は常に食鹽、硫酸鐵、菖蒲根等を飼料に加味して與ふる時は傍ら驅除の効を奏すべし

本蟲の寄生を確めたるときは驅蟲藥を投すべしと雖豚は頑癯にして投藥し難きにより燻烟法を施すに如かず其の法先づ病豚を一小室に收容し煙氣の漏洩を防ぐ爲め舍内の間隙を塞ぎ紅熾せる鋤鍬上に襤褸、角羽毛、蓼兒、クレオソート等を燻蒸し漸次慣るゝに従つて燻煙の程度、時間及回数を選加すべし即ち初期に於ては一日一回中等度にして約十分間之を施し次て一日二回終に一日三回となし十五分乃至二十分間繼續するものとす

又滋養に富める消化し易き飼料を與へ強壯藥及鐵劑等を與ふべし治療の見込なきものは速かに屠殺するに如かず

尙本寄生蟲はストロンギルス、フヒラリヤ (*Strongylus Filaria*)、ストロンギルス、ルフエセンス (*St. Rufescens*) と共に牛、羊、山羊等の如き反芻獸を侵し慘害を被らしむることあるを以て隔離豫防消毒には最も意を用ふべきものなり

洗浦牧羊場

朝鮮の野草豊富なる地方に於て放牧の方法により羊を育成し廣く之を民間に配付すると共に斯業の模範を示し且つ其の經濟狀態を明かにせんが爲め江原道平康郡に於ける國有未墾地を相し本年四月洗浦土城里に假事務所を置きて事務の經營を開始し蒙古種羊を試育する

ことゝせり

蒙古種は毛質優良ならざるも體質頗る強健にして粗悪の飼料と放漫なる管理とに堪ゆるを以て朝鮮の現狀に適すべく當場は前年來滿洲鐵嶺より蒙古種羊を輸入試育せるに其の結果良好なるものゝ如し

蒙古種羊剪毛量と体量との比較表を示せば次の如し

種	類	頭數	体量				毛量				平均体量對平均毛量百分率
			總体量	最大	最小	平均	總毛量	最多	最少	平均	
蒙古種	牝	二	一八、三〇〇	九、五〇〇	八、八〇〇	九、一五〇	〇、八七〇	〇、四五〇	〇、四二〇	〇、四三五	四、七五%
同	牝	七	五、八三	九、二〇〇	六、三〇〇	七、八八三	一、六七〇	〇、三四〇	〇、二〇〇	〇、二三九	三、〇三%
平均	均					八、五二七				〇、三三七	三、九五七%

位置及交通

洗浦牧羊場は江原道平康郡高插面洗浦土城里にありて北緯三十八度三十九分東經百二十七度二十分に位し海拔二千尺とす而して京元鐵道線路は南より北に縦貫し洗浦停車場は京城を距る北九十六哩元山を距る南四十四哩の位置にあり

地勢及境界

地勢は起伏ある草生未墾地にして其の區域は南北に長く東西に短し南は劔拂浪より北秋哥嶺に亘り東西は此原野の兩側を走れる山脈の分水嶺を以て境界とす

氣象

（牝 牝） 羊 種 古 蒙



今年五月以降に於ける氣象の概要を示せば左表の如し

月次	氣			天			候			備考		
	最高	最低	平均	晴	曇	雨	風向	結霜日數	濃霧日數		雨量	平均湿度
五月	二五、六 ^度	〇、六 ^度	一三、一 ^度	一三日	三日	七日	北	四日	四日	七〇、〇 ^{ミリメートル}	七、六 ^度	雨量は一日より温度、湿度は九日より検測せり
六月	二七、八	六、七	一八、九	九日	七日	一四日	南	一	二	二三、五	六、二 ^度	二十四日降霰
七月	三三、九	八、九	二〇、五	三日	四日	一四日	南	一	四	三二、二	九、三 ^度	
八月	三三、一	六、一	二二、七	一八日	六日	七日	北	一	四	二九、五	八、〇 ^度	十八日豪雨二十四日暴風あり
九月	二八、九 ^度	〇、六 ^度	一八、二	二〇日	八日	二日	南	二	一	一九、五	九、〇 ^度	二十日凝霜、二十三日薄氷
十月	二八、三	六、七	一六、六	三日	三日	六日	南	二	一	一五、九	八、八 ^度	
十一月	一五、〇 ^度	一三、二	〇、五	一八日	八日	三日	南	二	二	一	七、三 ^度	湿度は十三日迄雨量は全部測定せず十三日初雪
十二月	五、六 ^度	三〇、〇 ^度	二、八	二六日	三日	一日	南	二	一	一	一	雨量湿度は測定せず

勸業模範場支場

大邱支場

種 藝

水 稻

技 師 岸 秀 次

水稻作各項を通して耕種梗概次の如し

勸業模範場支場 大邱支場 種藝

苗代

選種 無芒種は比重一、一二の鹽水を有芒種は比重一、〇九の鹽水を以て糯種は比重一、〇八の鹽水を以て選種せり

浸種 四月二十六日より七晝夜清水に浸漬し毎日換水せり

整地 稻刈取後牛耕し四月二十九日之れを鋤返し土塊を碎き灌水して畦畔を塗り再び鋤返し馬鍬にて土塊を碎き鍬にて高低を均し肥料を施し更に鍬を以て均平にし綱を張り幅四尺長適宜の苗代を設けたり

肥料 一步に付堆肥一貫目人糞尿二升一貫目荏粕三十五匁及木炭一升約百匁を四月三十日施す

播種 五月三日一步に付種子量五合の割合にて厚薄なく撒播す

播種後の管理 發芽する迄は晝夜共一寸五分位灌水し發芽後は晝は淺水とし夜間は二寸位の深さに灌水し八日より三日間及十七日より四日間午前十時頃より午後三時頃迄排水し芽干を行ひ五月二十二日除草五月二十四日藻、驅除の爲め松葉を水口に沈む五月廿七日藻を除き廿九日藻除きの爲山土を撒布する等勉めて苗の强健に生育することを計れり

本 番

整地 麥收穫後直に牛耕し灌水し畦畔を塗り堆肥を施し之を鋤込馬鍬にて土塊を碎き尙荏粕及過磷酸石灰を施し之を攪拌しつゝ均平にす

肥料 一反歩に付堆肥百五十貫荏粕十二貫過磷酸石灰三貫を原肥とす

株數及本數 一株七本とし一步に付五十六株

各區の成蹟左の如し

品種比較 十一種

本比較の目的は各品種を蒐集し生育收量及品質の優劣を比較し以て當地方に於ける適種を選出せんとするにあり

播秧期 六月二十九日 但糯は六月三十日

作付步數 七步半

除草 七月十日蟹爪打七月十一日蟹爪直し八月九日

本年度成蹟 (一反步改算量)

番號	種	類	出穂期	成熟期	收量		一升重量		糶	藁量	糶摺歩合	玄米收量位次
					玄米	糶米	玄米	糶米				
一	石	白	九月五日	十月廿二日	一、八八五	三、四二八	三、八三	二、六二	〇、二四	一四九、四	五、五	七(二四)
二	鍋	島	同	十月廿二日	一、七七四	三、二八五	三、八五	二、六一	〇、二四	一四〇、〇	五、四	八(二五)
三	早	神	九月八日	十月廿五日	二、一九四	四、〇六三	三、八三	二、六〇	〇、二五	一四四、〇	五、四	一(八)
四	穀	良	九月五日	十月廿五日	二、一五六	三、九三三	三、八八	二、六八	〇、一三	一七三、九	五、五	二(九)
五	高	千	九月八日	十月廿五日	二、〇八	三、六六七	三、六二	二、六一	〇、〇九	一七〇、六	五、四	三(二)
六	明	治	九月十一日	十月廿七日	一、九八九	三、六八三	三、六五	二、六三	〇、一三	一七三、二	五、四	六(二七)

累年成績

七 ポ リ ベ ー	九月九日	十月廿六日	二、〇三三	三、九六七	三七六	二五六	〇、二四四	一三三、二	五、二	四(一四)
八 關 取	九月十一日	十月廿七日	一、九七九	三、四七三	三八四	二七〇	〇、二三三	一六六、〇	五、七	五(一六)

番號	品 種 名	早、中、晚	五年平均收量	大正二年收量	備 考
一	石 白	早	二、六二七	一、八八五	
二	鍋 島	早	二、四二四	一、七七四	
三	早 神 力	中	二、七二九	二、一九四	
四	穀 良 都	中	二、九四一	二、一五八	
五	高 千 穂	中	二、六七六	二、〇八八	
六	明 治 錦	中	二、五二〇	一、九八九	四ヶ年平均收量
七	ポ リ ベ ー	中	二、二九八	二、〇六三	
八	關 取	晚	二、五四四	一、九七九	

前表に依る本年の成績はポリベ一第一位を占め早神力穀良都及高千穂之に次ぎ累年の成績にては穀良都第一位にあり早神力之に次ぎ高千穂更に之に次ぐ故に當地方に最も適すべき品種は穀良都にして早神力之に次ぐもの、如し

●●●●●
肥料大豆用法比較●●●●●

本比較は肥料大豆の用法が稻の成熟及收量に如何なる關係を及ぼすかを知らんとするにあり

區名	大豆肥料名及用量		摘	要
	大	肥		
新鮮甲區	一五、〇〇〰	一五、〇〇〰	整地前撒布	
新鮮乙區	一五、〇〇〰	一五、〇〇〰	荒代整地後撒布	
腐熟區	一五、〇〇〰	一五、〇〇〰	同	

但腐熟區は大豆の堆肥に混じ腐熟せしめたるものなり

肥料用量 大豆十五貫 堆肥百五十貫

插秧期 六月十九日 穀良都

作付步數 五步

除草 七月九日蟹爪打及同直し七月二十四日

本年度成績 (一反步改算量)

番號	種別	出穂期	成熟期	收量		糶	藁量	歩合	立米收
				玄米	一升重量				
一	新鮮甲區	八月三十日	十月廿四日	二、八四〇 _石	三八四 _升	〇、一〇三	一八一、五 _貫	五、四	二
二	新鮮乙區	同	同	二、八九六 _石	三八三 _升	〇、二四	一八五、五 _貫	五、八	一
三	腐熟區	同	同	二、七七一 _石	三八二 _升	〇、一〇四	一六四、〇 _貫	五、六	三

前表によれば新鮮乙區の收量最も多く新鮮甲區之に次ぎ腐熟區最劣り前年の成績と一致

せり

三要素比較

- 一、完全肥料
- 二、無加里
- 三、無磷
- 四、無窒素
- 五、無肥料

硫酸安母尼亞

過磷酸石灰

炭酸加里

七、三七

六、六七

二、〇〇〇

七、三七

六、六七

二、〇〇〇

七、三七

六、六七

二、〇〇〇

—

—

—

備考 窒素は一貫五百匁磷酸加里一貫の割

作付歩數 方三尺の木框三個づゝ

插秧 七月五日苗の同一なるものを撰び一株五本づゝ方七寸五分に插秧せり穀良都

收穫量 (一反歩改算量)

種別	出穂期	成熟期	粗		粗一升	糶重量	藁重量
			容	重			
完全肥料區	九月七日	十月廿六日	250 ^石	105 ^貫 、六七	240 ^匁	1,000 ^貫	156,200 ^貫
無加里區	同	同	4、43	110、八〇〇	250	1,000	154、八〇〇
無磷酸區	同	同	4、201	105、六六七	250	1,000	138、000
無窒素區	九月六日	同	3、八〇八	九五、三〇〇	250	1,000	114、八四〇
無肥料區	同	同	3、六五〇	八七、六〇〇	220	1,000	107、200

前表によれば窒素の必要尤も多く、磷酸及加里の施用は著しき効果を奏せざるが如し
 莞 草

苗床の土質は壤土にして四月下旬鋤にて耕起し土塊を碎き幅二尺長二間の高壟を設け肥料には一步に付人糞尿三升荏粕五合及藁灰五合を以て原肥とし一寸位に成長したる時追肥として人糞尿一升を施用せり種子には適宜の細砂を混合し五月一日之を撒播し薄く藁を被ひたり其所要種子量苗床一步に付一勺とし一反歩に付四坪を要す床面の乾燥を防ぐ爲めには苗床の四周に灌水し始終濕氣を保たしめたり本畚の土質は壤土にして六月二十一日耕起し鋤にて土塊を碎き灌水し畦畔を塗り肥料を施し鋤にて攪拌しつゝ土塊を碎きて均平す肥料は一反歩に付堆肥二百貫荏粕二十貫過磷酸石灰三貫として之を原肥とせり而して六月二十四日方五寸に一株一本の割合を以て葉先約三分の一を剪除して移植せり本年栽培せる品種は前年に等しく義興、善山、江華の三種にして移植後生育良好なりしも七月下旬より八月中旬に亘る早魃により畚面龜裂を生し著しく乾燥に失し充分なる生長を遂ぐる能はざりき其成績左の如し（一反歩改算量）

番號	試驗別	收穫期	三尺五寸以上		三尺以上		三尺以下		合計	收量順
			生莖量	乾莖量	生莖量	乾莖量	生莖量	乾莖量		
一	義興	八月二十七日	七四、〇〇〇 ^貫	一四、八〇〇 ^貫	二二、〇〇〇 ^貫	三、五〇〇 ^貫	三八、五〇〇 ^貫	二、〇〇〇 ^貫	七六、六〇〇 ^貫	一
二	善山	同	九〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	二二、〇〇〇	四、〇〇〇	三二、八〇〇	三、四〇〇	七五、二〇〇	二
三	江華	同	六八、〇〇〇	一三、〇〇〇	二二、〇〇〇	一、七〇〇	二二、六〇〇	二、五〇〇	五一、八〇〇	三

前表によれば前年に等しく義興種最佳良にして善山之に次ぎ江華最も劣れり故に當支場地方に適すべき品種は義興なりと認むるを得べし尙参考として前年來の收量を示せば次の如し

番號	試驗別	收量			平均收量	收量順
		四十三年	四十四年	(乾莖)		
一	義興	五、五〇〇	五、六〇〇	六、八〇〇	七、六〇〇	一
二	善山	五、四〇〇	四、〇〇〇	五、六八〇	七、五、二〇〇	二
三	江華	三、五〇〇	四、一〇〇〇	四、九、六八〇	五、三、八七〇	三

昨春苗を移植し本春刈取期の試験を行ひたるに其成績左の如し

區別	第一回刈					第二回刈					第三回刈					第四回刈					第五回刈					收量計
	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量	月日	收量				
五回刈區	五月一日	乾生 三、三〇〇	六月十九日	乾生 一、七、三〇〇	八月二日	乾生 九、八、五〇〇	九月二日	乾生 三、〇〇〇	八月十日	乾生 七、五〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	八月十日	乾生 二、八〇〇	二、一、六〇〇	
四回刈區	五月廿七日	乾生 三、〇〇〇	七月十五日	乾生 一、五〇〇	八月廿八日	乾生 四、三、五〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	八月廿八日	乾生 三、〇〇〇	二、〇、七、五〇〇	
四回刈區	五月廿七日	乾生 三、〇〇〇	六月廿九日	乾生 一、八、五〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	二、〇、八、五〇〇	
採種跡	五月廿七日	乾生 一、七〇〇	六月廿九日	乾生 一、七〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	八月二日	乾生 三、〇〇〇	一、八、五〇〇	

本成績によれば刈取の回数多きを利ありとし年五回の刈取最好績を示せり

畜産

種・牡・牛・種・付・成・蹟

本年の種付數は總計八百六十五頭にして朝鮮種を以てせるもの八百五十六頭シンメンター
ル種を以てせるもの九頭なり

而して種付の方法によりて之を分つときは巡回種付數六百九十四頭市場種付數八十七頭牽
付種付數八十四頭なりとす

今前年及本年の種付數を地方別に示せば左の如し

種牡牛種付地方別表

府郡名	種付數		計	府郡名	種付數		計	郡名	種付數		計
	大正元年	大正二年			大正元年	大正二年			大正元年	大正二年	
大邱府	二六六	一七五	四四一	星州郡	四	二	六	高靈郡	七	二	三
金山郡	二五	二七	三九	義興郡	九	一七	二六	義城郡	六	三	九
軍威郡	二九	九	二四	新寧郡	六	一六	二二	慶州郡	二	六	八
漆谷郡	二二	一七	三九	開寧郡	六	八	一四	尙州郡	二	二	四
仁同郡	五	五	一〇	玄風郡	三	二	五	慶尙南道	二	二	四
慶山郡	五	一六	二一	永川郡	三	二	五	安義郡	二	一	三
清道郡	五	三	八	慈仁郡	八	一七	一五	居昌郡	一	一	二
河陽郡	四	三	七	善山郡	五	二	七	合計	一一七	八五	一九二
				總計	二七	二	二九				一、九八二

産・犢・成・蹟

大正元年中種付せる牝牛に就き其の産犢四十八頭を調査し之を平均し産犢各部の測尺を算出せるに左の結果を得たり

生後日數	体高	体長	胸圍	十字部高	頭長	顔幅	額幅	鉗齒	第一中間齒	第二中間齒	隅齒	管骨周圍
三十日	二、一五	二、〇七	二、二四	二、二二	七、五〇	、三六	、三三	八、八〇	八、七七	六、六二	十五日以 後發生	、三二
六十日	二、二〇	二、一〇	二、七〇	二、四六	八、九〇	、四四	、四二	一三、三七	一、〇三	九、三〇	八、一三	、三四
九十日	二、五四	二、六〇	二、八三	二、六三	九、一〇	、四七	、四二	二、四〇	一、四〇	九、七二	六、九七	、三四
百二十日	二、六六	二、七六	三、〇五	二、六六	一、〇〇	、四七	、四三	二、四〇	一、七三	一〇、三六	八、四六	、三七
百四十日	二、七六	二、九八	三、二六	二、八九	一、〇〇	、五〇	、四六	二、三五	二、九四	一〇、八六	七、九八	、三九
百七十日	二、七六	三、一三	三、五九	三、一五	一、一七	、五三	、四九	二、六七	一、六三	九、八八	八、五〇	、四〇
二百日	二、八八	三、〇九	三、四一	二、九四	一、一〇	、五三	、四八	二、一〇	一、〇八〇	九、八〇	七、二五	、三八
二百三十日	二、九三	三、三一	三、五三	三、〇九	一、一五	、五〇	、五〇	二、四〇	一、三、三五	一〇、〇〇	七、五〇	、四〇

備考 齒の長さは齒齦縁より齒縁に至る長さを齒の中央に於て耗にて測れり而して左右鉗齒中間齒隅齒を測定の上平均せり
 顔幅は兩外眥間の幅額幅は前頭骨上部左右兩凹彎縁の幅を測れり而して測尺中前後するものあるは平均數中優良産犢の多寡に起因す

牝牛青草消費量調査

平壤地方産優良牝牛が青草期に於て消費する芻草量を算定せん爲當支場種牝牛に就きて本

調査を行へり其の要項左の如し
供試牡牛左の如し

番	號	年	齡	試 驗 前 體 量	體	高
第 三	號	六	歲	一六九、五 ^斤		四、七三 ^尺
第 九	號	九	歲	一六六、五		四、八一
第 十 三	號	八	歲	一四八、五		四、五〇
第 十 四	號	六	歲	一六〇、〇		四、六〇
第 十 五	號	八	歲	一六〇、〇		四、七七

し
本調査を行ふに先ち前食の影響を避けむ爲め豫備飼育を行へり其の各飼料給與割合左の如し

豫備試験飼料給與割合表 (二頭一日分)

月日	飼料名	藁	大 麥	大 豆	米	糠	青	草
八月 六 日		一、六〇 ^斤	八、 ^斤	五、 ^斤		八、 ^斤		五、六三 ^斤
七 日		一、三〇	六、	四、		六、		九、八〇
八 日		一、〇〇	四、	三、		四、		一〇、五〇
九 日		七、	三、	二、		三、		一〇、四〇

十日	、四〇	、一	、一	、一	10、20
----	-----	----	----	----	-------

此間消費せる青草量及體重表左の如し

豫備飼育中青草消費量表 (五頭分)

月日	項目	青草給與量	殘食量	所要量	一頭平均所要量
八月六日		二六、五 ^貫	四〇 ^貫	二四、五 ^貫	四、九 ^貫
七日		五二、〇	二、〇	四九、〇	九、八
八日		五四、五	二、〇	五三、五	一〇、五
九日		五五、〇	三、〇	五二、〇	一〇、四
十日		六〇、〇	八、〇	五三、〇	一〇、四

豫備飼育中體重増減表

番號	體重	豫備飼育前體重	同上後體重	増減
第三號		一六九、五 ^貫	一七二、九 ^貫	増 二、四〇 ^貫
第九號		一六六、五	一七一、一	増 五、六〇
第十三號		一四八、五	一四三、四	減 五、一〇
第十四號		一六〇、〇	一六二、〇	増 二、〇〇

第十五號

100.0

164.4

増

4.70

豫備飼育終了後引繼き本飼育を行へり其結果左の如し

青草給與表

月日	項目	青草給與量	殘食量	所要量	一頭平均所要量
八月十一日		76.0 ^計	5.5 ^計	7.5 ^計	14.5 ^計
十二日		74.0	6.0	68.0	13.6
十三日		81.5	4.5	77.0	15.4
十四日		75.0	8.0	67.0	13.4
十五日		77.0	7.0	70.0	14.0
十六日		74.0	7.0	67.0	13.4
十七日		71.0	4.5	66.5	13.3
十八日		69.5	9.0	60.5	12.1
十九日		76.0	8.0	68.0	13.6
二十日		74.0	4.5	69.5	13.9
二十一日		83.0	1.3	70.7	14.14
二十二日		71.5	1.7	59.8	11.96
二十三日		76.0	6.5	71.5	14.3

勸業模範場支場 大邱支場 畜産

蓐藁給與表

平	均	均	均	均	均	均	均	均	均
二十四日	七六、〇	一三、〇	六三、〇	一二、六					
二十五日	七四、〇	九、七	六四、三	一二、八六					
二十六日	七九、〇	六、〇	七三、〇	一四、六					
二十七日	七五、〇	一〇、〇	六五、〇	一三、〇					
二十八日	八四、〇	一一、五	七二、五	一四、五					
二十九日	七三、〇	六、五	六六、五	一三、三					
三十日	七五、〇	一一、五	六三、五	一二、七					
三十一日	七二、〇	一〇、五	六〇、五	一二、一					
均	七五、六九〇	八、二四七	六七、四四三	一三、四八六					

月日	項目	蓐藁給與量	殘	量	平均一日所要量	備	考
八月十一日		二一〇 ^貫					
十二日		三、五			三、一七〇 ^貫		
十三日		四、〇		九〇 ^貫		第三日に蓐藁残量の内四貫五百匁 廢棄す以下蓐藁中の糞は除き尿に より汚浸せるものは乾燥の上再び 使用し蓐藁は廢棄せず而して残量	
十四日		九、〇					
十五日		五、〇			三、五〇〇 ^貫		
十六日		四、〇		一三、〇			

牡牛体重増減表

平 均	三十一日	三十日	二十九日	二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日	二十三日	二十二日	二十一日	二十日	十九日	十八日	十七日
五、二二五	三、〇	四、〇	五、〇	四、〇	三、〇	二、〇	一、〇	三、〇	三、〇	一、〇	五、〇	四、〇	五、〇	五、〇	四、〇
	一〇、五			九、二			一九、〇			一五、〇			三、〇		
	四、五〇〇	三、五〇〇		六、二五〇			四、〇〇〇			六、〇〇〇			四、六七〇		
															は常に次の三日間所要量中に併算せり

番號	月日	八月十一日	十七日	二十四日	三十一日	體重増減
第三號		一七二 ^貫 ・九	一六六 ^貫 ・〇	一七二 ^貫 ・八	一六四 ^貫 ・五	減 七 ^貫 ・四
第九號		一七二 ^貫 ・一	一六四 ^貫 ・一	一六七 ^貫 ・七	一六〇 ^貫 ・六	減 二 ^貫 ・五
第十三號		一四一 ^貫 ・四	一四七 ^貫 ・三	一四七 ^貫 ・二	一四二 ^貫 ・三	減 二 ^貫 ・二
第十四號		一六二 ^貫 ・〇	一六七 ^貫 ・〇	一六三 ^貫 ・三	一五五 ^貫 ・〇	減 七 ^貫 ・〇
第十五號		一六四 ^貫 ・四	一五七 ^貫 ・三	一六三 ^貫 ・三	一五三 ^貫 ・五	減 一〇 ^貫 ・九
平均		一六二 ^貫 ・七六〇	一六〇 ^貫 ・七〇〇	一六三 ^貫 ・七四〇	一五四 ^貫 ・九六〇	減 七 ^貫 ・八

而して對照牛の體重増減を見るに左の如し

番號	月日	八月十一日	三十一日	體重増減
第十號		一五三 ^貫 ・〇	一四五 ^貫 ・〇	減 八 ^貫 ・〇
第四號		一三七 ^貫 ・六	一三三 ^貫 ・五	減 五 ^貫 ・一
平均		一四五 ^貫 ・三	一三六 ^貫 ・七五	減 六 ^貫 ・五五

之に據りて見るときは一般に体重の減したるは飼料の關係に依るにあらずして氣候の影響せるに依るものゝ如し

前各表に據り體重百五十八貫内外の優良牡牛は青草期に於て一頭一日に付青草は十三貫五

百斤内外投棄は四貫五百斤内外を要するものなることを知るべし

牝牛乾草消費量調査

青草は之を乾草となすときは養分減少し味變化し畜牛の嗜好青草に比すれば差異なき能はず從て青草所要量によりて乾草所要量を算出すること能はざるが故に乾草所要量を知らむ爲め本調査を行へり

供試牝牛は年齢五歳體高四尺二寸にして先づ豫備飼育を行ひ次に本飼育を行へり其の結果左の如し

豫備試験成績表

日次	名目	青草	乾草	飼料混與 水	乾燥殘量	藁	草	藁草殘量	飲水量
九月二十八日		四 ^貫 〇	一 ^貫 〇〇	四 ^貫 三〇	〇 ^貫 四〇	四 ^貫 五〇			三 ^貫 八〇
二十九日		三 ^貫 五	一 ^貫 二〇	四 ^貫 七〇		一 ^貫 五〇			三 ^貫 九〇
三十日		三 ^貫 〇	一 ^貫 五〇	五 ^貫 六〇	〇 ^貫 五〇	一 ^貫 五〇			二 ^貫 三〇
十月一日		二 ^貫 〇	一 ^貫 五〇	五 ^貫 二〇	〇 ^貫 五〇	二 ^貫 〇〇		二 ^貫 三〇	
二日		一 ^貫 〇	二 ^貫 〇〇	六 ^貫 〇〇	一 ^貫 一〇	一 ^貫 〇〇			三 ^貫 七〇
三日			二 ^貫 〇〇	六 ^貫 二〇	〇 ^貫 三〇	一 ^貫 〇〇		二 ^貫 〇〇	
四日			二 ^貫 〇〇	五 ^貫 六〇	〇 ^貫 五〇	二 ^貫 〇〇			三 ^貫 三〇
合計		一三 ^貫 五	一二 ^貫 〇	三七 ^貫 六〇	三 ^貫 三〇	一三 ^貫 五〇		四 ^貫 三〇	一七 ^貫 〇〇

平均一日所要量	一、九七 ^貫	一、三三	五、三七	—	一、三三	—	二、四三
---------	-------------------	------	------	---	------	---	------

備考 乾草は之を切り水に浸して與へ藁草は乾草を投與せり乾燥殘量とは水に浸して與へたる乾草の殘量を乾して衡りたる量なり

豫備飼育前即ち九月二十七日午後体重八十四貫五百匁なりしも豫備飼育後十月五日午前六時には体重八十三貫九百匁となり六百匁の減量を示せり而して牝牛は切乾草を好まず僅かに好んで藁草として與へたる乾草を食するも一般に食欲不振の狀あり依て乾草のみを以てしては營養を保持すること難きを推知し當地方農民の普く行ふの方法により一日麥糠六升を給與することゝせり引續き本試験を行へり

本飼育の成績左表の如し

本試験成績表

月日	名稱	乾草		藁草		所		摘要		
		給水量	殘量	給水量	殘量	乾草	藁草	計	飲水量	
十月五日	二、〇 ^貫	五、七 ^貫	〇、七 ^貫	三、〇 ^貫	二、〇 ^貫	—	一、三 ^貫	二、三 ^貫	五、七 ^貫	体重 八三、九
六日	二、〇	五、九	一、二	三、五	二、三	—	〇、八	二、〇	八、四	体重 八二、六
七日	二、〇	五、八	一、三	三、五	二、二	—	〇、八	二、一	五、八	体重 八二、六
八日	一、〇	五、七	〇、三	四、八	二、二	三、三	〇、七	二、三	八、九	
九日	一、〇	五、四	〇、四	四、二	二、七	一、七	〇、六	二、二	七、一	
十日	一、〇	五、四	〇、四	四、二	二、四	—	〇、六	二、四	七、四	

平均	計	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日
一、四二	二四、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
五、八二四	二二、一	四、九	五、六	五、五	五、九	五、六	六、〇	六、二	六、〇	六、〇	六、四	六、〇	五、八	六、三	六、四	五、六
四、四七	九、四	〇、五	〇、二	〇、四	〇、三	〇、三	〇、四	〇、五	〇、四	〇、五	〇、二	〇、六	〇、一	〇、三	〇、一	〇、四
四、三三	九、〇	四、九	四、四	四、五	四、一	四、〇	四、二	五、七	三、七	四、五	四、四	四、七	四、〇	四、五	五、五	九、〇
二、二四	四六、五	二、二	二、一	二、〇	二、二	二、七	一、四	二、〇	一、九	二、二	二、七	二、〇	二、五	二、五	一、六	二、七
一、二四三	二六、一	二、七	三、五	二、六	一、七	一、七	一、一	〇、九	一、一	二、八	二、八	一、一	二、八	一、一	一、七	二六、一
六、九五	一四、六	〇、五	〇、八	〇、六	〇、七	〇、七	〇、六	〇、五	〇、五	〇、八	〇、六	〇、四	〇、九	〇、七	〇、九	〇、六
二、二九	四四、五	二、七	二、三	二、五	一、九	一、三	二、八	三、七	一、八	二、三	一、七	二、七	二、二	一、五	二、九	二、八
二、八二四	五九、一	三、二	三、一	三、一	二、〇	二、〇	三、四	四、二	二、三	二、九	二、五	三、一	三、一	二、二	三、八	三、四
七、一五三	一五〇、二	七、六	九、一	八、一	七、三	六、〇	六、〇	六、二	六、九	六、〇	九、二	六、〇	五、八	九、一	六、四	七、三
			体重						体重							八五、一〇
			八四、七						八四、六							

備考 乾燥殘量とは水に浸して與へたる乾草の殘量を乾燥して衡りたる量なり
 以上成蹟の示す如く牝牛は切乾草を好まずして多くは投乾草を食せり今調査前の体重と調
 査後の体重とを比するに一貫二百匁を増量し豫備飼育前に比するときは六百匁の増量とな
 る故に營養状態は不良ならざりき故に當地方牝牛の一日乾草所要量は二貫八百匁内外なる
 ことを知るべし

●●●●●
 南●●●●●
 鮮●●●●●
 牛●●●●●
 の●●●●●
 調●●●●●
 査●●●●●

當地方畜牛の角間距離頭長顔幅額幅腰角の幅骨盤の長さ座骨結節の距離及管骨周圍を調査
 せるに左の結果を得たり

牝牛角間距離表 (尺測)

年	齡	頭	數	最	大	最	小	平	均
三	歲		二		、四、三		、四、三		、三、六
四	歲		八		、四、六		、三、六		、四、二
五	歲		一〇		、四、六		、三、五		、四、一
六	歲		二		、四、九		、三、五		、四、一
七	歲		一〇		、五、〇		、三、六		、四、一
八	歲		一〇		、四、九		、三、七		、四、二
九	歲		九		、四、四		、三、三		、四、二

十歳以上	八	、五〇	、三七	、四三
------	---	-----	-----	-----

牝牛角間距離表 (尺測)

年	三	四	五	六	七	八	年	三	四	五	六	七	八
齡	歳	歳	歳	歳	歳	歳	齡	歳	歳	歳	歳	歳	歳
頭							頭						
數	三	九	六	六	二	四	數	三	九	六	六	二	四
最							最						
大	、四	、五〇	、四八	、五	、五	、五	大	、四	、五〇	、四八	、五	、五	、五
最							最						
小	、四	、三	、四	、四	、五	、四	小	、四	、三	、四	、四	、五	、四
平							平						
均	、四三	、四三	、四三	、四三	、四三	、四三	均	、四三	、四三	、四三	、四三	、四三	、四三

備考 角間の距離は角根内側の距離を測れり

牝牛頭長表 (尺測)

年	三	四	五	六	年	三	四	五	六
齡	歳	歳	歳	歳	齡	歳	歳	歳	歳
頭					頭				
數	三	六	六	二〇	數	三	六	六	二〇
最					最				
大	、一、四	、一、五	、一、六	、一、六〇	大	、一、四	、一、五	、一、六	、一、六〇
最					最				
小	、一、三六	、一、四三	、一、四七	、一、四	小	、一、三六	、一、四三	、一、四七	、一、四
平					平				
均	、一、四二	、一、四八	、一、五三	、一、五	均	、一、四二	、一、四八	、一、五三	、一、五

七 歲	八 歲	九 歲	十 歲 以 上
三	二	四	九
一、六六	一、六四	一、六七	一、六九
一、四〇	一、四六	一、四三	一、五〇
一、五六	一、五七	一、五七	一、五七

牡牛頭長表 (尺測)

三 歲	四 歲	五 歲	六 歲	七 歲	八 歲
二	三	四	五	五	三
一、五八	一、六七	一、五五	一、六六	一、六六	一、五五
一、四八	一、五二	一、四五	一、五七	一、六二	一、七二
一、五三	一、五七	一、五五	一、六六	一、六五	一、七四

備考 頭長は前頭骨後縁より鼻鏡端に至る長さを測れり

牝牛顔幅表 (尺測)

三 歲	年 齡	頭 數	最 大	最 小	平 均
三			、六七	、六六	、六六

備考 顔幅は兩外背間の幅を測れり

年	齡	頭	數	最	大	最	小	平	均
三	歲		二		七、 六		七、 六		七、 六
四	歲		三		八、 七		八、 七		八、 七
五	歲		四		九、 八		九、 八		九、 八
六	歲		五		九、 八		九、 八		九、 八
七	歲		五		八、 七		八、 七		八、 七
八	歲		三		八、 七		八、 七		八、 七

牡牛顔幅表 (尺測)

四	五	六	七	八	九	十
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲
六	六	六	六	六	六	九
六	七	七	七	七	七	七
六	五	六	六	六	六	六
六	六	七	七	七	七	七

牝牛額幅表 (尺測)

十歲以上	九歲	八歲	七歲	六歲	五歲	四歲	三歲	年
九	四	一〇	三	一〇	一八	六	三	齡
								頭
								數
								最
、七	、三	、七	、六	、九	、五	、二	、五	大
								最
、五	、五	、五	、五	、五	、五	、五	、五	小
								平
、五	、五	、六	、六	、五	、七	、七	、五	均

牡牛額幅表 (尺測)

六歲	五歲	四歲	三歲	年
五	四	三	二	齡
				頭
				數
				最
、八	、九	、八	、九	大
				最
、七	、六	、六	、六	小
				平
、七	、六	、七	、六	均

八	七
歳	歳
三	五
、六	、九
、七	、七
、七	、七

備考 額幅は前頭骨上部左右凹彎線の幅を測れり

牝牛腸骨外角の幅表 (尺測)

年	三	四	五	六	七	八	九	十
齡	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳以上
頭	二	八	一〇	一〇	二	一〇	九	八
數								
最	一、三三	一、三七	一、四三	一、五〇	一、五〇	一、五六	一、四七	一、五三
大								
最	一、三三	一、二九	一、二八	一、三〇	一、三〇	一、三五	一、三五	一、四〇
小								
平								
均	一、二五	一、二六	一、三三	一、三七	一、三九	一、四三	一、四二	一、四二

牡牛腸骨外角の幅表 (尺測)

年	三
齡	歳
頭	三
數	
最	一、二七
大	
最	一、二六
小	
平	
均	一、〇〇

牝牛骨盤の長表 (尺測)

年	齡	頭	數	最	大	最	小	平	均
三	歲		二		一、五〇		一、二七		一、三五
四	歲		八		一、五九		一、三六		一、四五
五	歲		一〇		一、五三		一、四〇		一、四六
六	歲		二		一、六〇		一、四七		一、五二
七	歲		〇		一、五八		一、四〇		一、五二
八	歲		〇		一、六七		一、四六		一、五四
九	歲		九		一、六四		一、四六		一、五六
十	歲	以上	八		一、六三		一、四九		一、五六

牝牛骨盤の長表 (尺測)

年	齡	頭	數	最	大	最	小	平	均
四	歲		六		一、四三		一、一九		一、三〇
五	歲		六		一、四五		一、二三		一、三〇
六	歲		六		一、五〇		一、三六		一、四二
七	歲		二		一、五二		一、三八		一、四四
八	歲		四		一、五二		一、五二		一、五三

備考 腸骨外角より座骨結節端に至る距離を測れり
 牝牛座骨結節の距離表 (尺測)

年	三	四	五	六	七	八
齡	歲	歲	歲	歲	歲	歲
頭	二	八	一〇	二	〇	〇
數						
最						
大	四、〇	五、六	五、三	四、七	五、三	五、四
最						
小	三、六	四、〇	四、一	三、八	四、〇	四、一
平						
均	四、二	四、五	四、五	四、四	四、六	四、七

年	三	四	五	六	七	八
齡	歲	歲	歲	歲	歲	歲
頭	三	九	六	六	二	四
數						
最						
大	一、五〇	一、三三	一、五九	一、七〇	一、八二	一、八二
最						
小	一、三六	一、四三	一、四四	一、四七	一、六六	一、六六
平						
均	一、四五	一、五四	一、五三	一、六四	一、六三	一、七二

十歲以上	九歲	八	九	、五	、五	、四	、四	、四	、五
------	----	---	---	----	----	----	----	----	----

牡牛座骨結節の距離表 (尺測)

年	三	四	五	六	七	八	年	三	四	五	六	七	八
齡	歲	歲	歲	歲	歲	歲	齡	歲	歲	歲	歲	歲	歲
頭數	三	九	六	六	二	四	頭數	三	九	六	六	二	四
最大	、四	、四	、四	、四	、四	、四	最大	、四	、四	、四	、四	、四	、四
最小	、三	、三	、三	、三	、三	、三	最小	、三	、三	、三	、三	、三	、三
平均	、三	、三	、三	、三	、三	、三	平均	、三	、三	、三	、三	、三	、三

牝牛管骨周圍表 (尺測)

年	三	四	五	六	年	三	四	五	六
齡	歲	歲	歲	歲	齡	歲	歲	歲	歲
頭數	二	八	一〇	二	頭數	二	八	一〇	二
最大	、五	、五	、六	、五	最大	、五	、五	、六	、五
最小	、四	、四	、四	、四	最小	、四	、四	、四	、四
平均	、四	、五	、五	、五	平均	、四	、五	、五	、五

以上調査せる牛體諸部分の測尺に就き五歳以上の平均數を示せば左の如し

性	角間の距離	頭長	頭幅	額幅	角の幅	肋骨の外幅	骨盤の長	産骨結節の距離	管骨の周圍
牝	、四六	、一五	、八二	、七	、一四三	、一六三	、四〇	、六〇	
牝	、四三 ^尺	、一五 ^尺	、七二 ^尺	、五 ^尺	、一三三 ^尺	、一五三 ^尺	、四七 ^尺	、五三 ^尺	

年	齡	頭數	最	大	最	小	平	均
八	歲	四	、六	、六	、六	、四	、六	、六
七	歲	二	、六	、六	、四	、四	、五	、五
六	歲	六	、六	、六	、五	、五	、六	、六
五	歲	六	、六	、六	、五	、五	、五	、五
四	歲	九	、六	、六	、五	、五	、五	、五
三	歲	三	、五	、五	、五	、五	、四	、四

牡牛管骨周圍表 (尺測)

十歲以上	九歲	八歲	七歲
八	九	一〇	一〇
、五	、五	、六	、五
、四	、五	、四	、五
、五	、五	、五	、五

平壤支場

技師 三宅 鏗 吉

種 藝

水 稻

一、苗代 四月上旬起耕同下旬第二回の耕鋤をなし灌水の後四圍の畦畔を塗り馬鍬にて縦横に耕耙し四月三十日に至り幅四尺の短冊形に整地を了す、基肥として一坪に付人糞尿一貫五百匁過磷酸石灰二十匁木灰五十匁を施し五月一日一坪五合の割にて播種し常に淺水を湛へ發芽後は稗、馬鹿苗等の拔取りをなす

一、本畚 本畚の整地は苗代と同様なり肥料は肥料比較區の外堆肥二百貫大豆粕十貫過磷酸石灰三貫木灰五貫を原肥とせり挿秧は灌溉水缺乏の爲め適期を失し七月に入り着手し一坪五十六株一株七八本植とせり除草は七月十四日より八月十五日までに四回之を行へり

品 種 比 較

本比較の目的は西鮮地方に適すべき稻の品種を選定せんとするにあり今供試品種及其の特性を擧ぐれば左の如し

品 種 名	種子取寄先	稈の剛柔	莖 長	穂 長	一粒の粒數	粒付の粗密	芒の有無	粒の大小	稈の多少
大 場	石川縣	剛	二、七 ^尺	五、八 ^寸	七五	粗	無	大	少
高 宮	新瀉縣	同	三、六	六、一〇	九六	同	同	中	同

豊後宮城縣	日新瀉縣	チユンチヨンの出	金子	八頭	常豐	下田輕子	太郎兵衛橋
剛	剛	同	剛	剛	剛	同	同
三、三六	二、九〇	三、一〇	三、〇八	二、七二	二、七二	三、〇八	三、一〇
六、九〇	六、五八	六、一〇	六、〇一	五、九二	五、九二	六、〇一	六、一〇
一、三三	一、〇三	一、〇七	一、二六	一、〇三	一、〇三	一、二六	一、〇七
密	中	中	粗	粗	粗	中	中
無	無	同	無	無	無	有	無
小	小	小	極小	極小	極小	小	小
少	少	少	多	多	多	少	少

備考 右の外各地より輸移入せる品種十數種を栽培せるも僅かに一回試作せるに過ぎざるを以て其の成績は他日之を發表することとせり

各品種の成績(一反歩改算量左の如し)

品種名	出	穂	收	穫	收量			批	藁量	糶摺	前年々米收量		
					支	米	量						
大場	八月二十五日		十月二十四日		石	一、六五	二、七六	三、六八	二、八二	四、八〇	五、四〇〇〇	六、〇三	二、一八七
高宮	同		同			一、二二	二、二六	三、五六	二、七三	七、五〇	六、三三〇〇	五、〇〇	一、八八一
豊後	八月二十一日		十月十四日			一、五五	二、四六	三、七六	二、八〇	五、一〇	七、六、五〇〇	六、三三	二、〇六二五
日の出	八月二十二日		十月十二日			一、三七八	二、三七〇	三、六四	二、七	四、二〇	六、九〇〇	五、八二	二、三三四

チュンチョンモツペー	八月二十四日	十月十四日	一、七八九三	三、三三〇	三六三	二四二	五、六〇	九六、〇〇〇	五、四〇	二、一〇三三
金子	同	十月十日	一、六四九	二、九四〇	三六三	二七六	三、三〇	八一、〇〇〇	五、五九	一、九九二
八頭	同	十月十三日	一、九六六	三、三九〇	三七二	二五六	八、一〇	八七、六〇〇	五、八〇	一、八四〇二
常豊	八月二十五日	十月二十七日	一、三二八	二、七六三	三六三	二四六	五、四〇	九九、九〇〇	四、八〇	二、〇五四四
下田輕子	八月二十二日	十月二十日	一、七二三	三、七三〇	三七三	二四九	四、八〇	二〇〇、〇〇〇	四、六〇	二、一七五六
太郎兵衛糯	同 二十三日	十月十五日	一、三五〇	二、七六〇	三六二	二六四	三、九〇	九九、九〇〇	四、八九	二、一六〇六

右の成績に依るに藁收量は八ッ頭第一位を占めチュンチョンモツペー及下田輕子之に次げり日の出は本年の收量意外に少なかりしも前數箇年來の成績は常に優良なるのみならず黄海道及平安南道の南西部には適良の品種なる事既に明かなるを以て之を排斥すべきにあらず今既往三ヶ年の平均收量を示せば左の如し

品 種	明治四十三年	同 四十四年	大正元年	三ヶ年平均	三ヶ年平均に依る收量順
	(ㄍ 米)	(ㄍ 米)	(ㄍ 米)		
大 場	二、一四五〇	一、七六三	二、一八七	二、〇六一	六
高 宮	一、九八九〇	一、五四二	一、八八〇	一、八一三	二
豐 後	一、九八〇〇	一、五八七三	二、〇二五	一、八七六六	一〇
日 の 出	二、二〇二	二、四一九	二、三二四	二、三三〇	一
チュンチョンモツペー	一、九〇七〇	一、八一六三	二、一〇三三	一、九七五五	八
金 子	一、七二八四	一、九四三九	一、九九一〇	一、八四七	九

八ツ頭	二、七八四〇	二、一六八五	一、八三〇一	二、一六三二	二
常豊	二、五六〇	一、六九四〇	二、〇五四四	二、〇八六六	五
下田輕子	二、五六〇〇	一、八〇五四	二、一七五六	二、一八〇三	三
タイコシネ	二、〇三六〇	二、四八八五	一、七七四	二、一〇三九	四
太郎兵衛糯	一、九二一〇	一、九五四四	二、一六〇六	二、〇〇八七	七

各種肥料の効驗比較

本試験の目的は各種肥料の効驗を比較せんとするにあり供用品種は日の出種とす其の方法左の如し

區別	肥料	用量	補助肥料		水量
			過磷酸灰	石灰	
一	荏油粕	三、二〇〇 ^貫	〇 ^貫	九八四	一七、二八〇 ^貫
二	大豆粕	一五、五九五	三、三〇〇	三、三〇〇	一六、六八〇
三	大豆	三、四七〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一五、九三〇
四	青刈大豆	二〇六、八八〇	五、五五〇	—	—
五	野草	二、三三、二一〇	四、四〇〇	—	—
六	硫酸アンモニア	五、八八五〇	三、五八〇	—	三、二一〇〇

備考 各肥料共含有成分は窒素一、二〇〇^貫 磷酸及加里を一、〇〇〇^貫とす

一	移植 (坪五十六株)	八月二十三日	十月十六日	二、四五三	三、九二五	三、六四七	二七〇	一、〇八〇	二〇九、〇二〇	六、二五	六
二	直播點播 (坪五十六株)	八月十五日	同	四、一三五	六、七五六	三、七五	二七一	〇、四八〇	一七〇、〇四〇	六、二二	一
三	同撒播	八月十八日	十月十四日	三、九六八	六、三三〇	三、七六	二七一	一、三三〇	九九、三〇〇	六、三六	二
四	同一條播	八月十六日	十月十五日	三、五六四	五、九五四	三、六五	二六九	一、三三〇	一四一、六〇〇	五、九六	四
五	同	八月十八日	同	三、五六四	五、五六六	三、七一	二七〇	〇、四五〇	二七、二〇〇	六、三六	五
六	同	八月二十一日	十月十七日	三、六四三	五、六九七	三、七七	二六四	〇、八四〇	一三八、六〇〇	六、四八	三

前表に據れば直播にして點播のもの最も優り撒播區條播二尺區之に次ぎ移植區最も劣れること前年の成績と一致せり蓋當地方の如き春寒秋冷の地方にありては移植よりも直播に利あるものゝ如し

田作

小● 麥●

耕種梗概

土質 砂質壤土

前作 煙草、罌粟、甜菜等

整地 九月下旬圃地を耕起し土塊を均整す

播種 九月三十日より十月二日まで四日間に畦幅二尺に條播す一反步播種量は六升とす

肥料 一反步當堆肥二百五十貫人糞尿百貫過磷酸石灰五貫炭酸加里二貫とし人糞は元肥に

六拾貫四月上旬追肥に四拾貫を施し其他はすべて元肥に施せり
 中耕 四月七日及五月十四日の二回之を行ひ除草は其の都度之を行ふ

一、品種比較

本比較の目的は西鮮地方に適すべき小麦の品種を選定せんとするにあり其の品種及成績(一反歩改算量)左の如し

品 種	子 實 量	稈 量	一 升 重 量	收 量 比 例	優 劣 比 較		前 年 收 量
					收 量 順	品 質 順	
マーチンスアンバー	九六〇 ^五	八四〇〇〇 ^四	三五三 ^九	五、〇	七	三	一、三六〇
カリホルニヤ二號	一、一七六	五八、八〇〇	三五九	六、四	四	一	一、三三三
フ ル ツ	七六六	四八、〇〇〇	三四七	三、五	八	六	一、四三三
相 州	六九六	四六、八〇〇	三三九	三、九	九	八	一、七四〇
レッドゼロチカル	一、〇六八	四八、〇〇〇	三五九	五、七	六	二	一、四八五
海 州	一、八八四	九一、六〇〇	三五八	一〇、〇	一	五	一、二〇六
ヌ ル ミ リ	一、七二六	一四、〇〇〇	三五二	九、八	二	七	一、二一九
義 州	一、五七二	九〇、〇〇〇	三六四	八、四	三	九	一、二三七
ウキンターホワイト	一、二二〇	一六、四〇〇	三五八	五、九	五	四	、九六〇

備考 右の外二十有餘種を試作せるも一回の成績に過ぎざるを以て発表を見合せたり

前表に依れば收量の最も多きは海州にしてヌルミリ義州之に次ぎ在來種の收量佳良なり然

れども品質に至りては在來種は遙かに劣れり殊に其の品質の上位を占むるはカリフォルニア種にして有望の品種といふを得べきも本年は冬季の寒氣異常なりしかば收量甚だ少かりきされど他の外國種に比すれば寒傷程度輕微なりしに鑑むるときは永く當地の氣候に馴化せしめなば北鮮に適良の品種たらしむるを得るの望なきにあらざるべし

二、窒素質肥料比較

本比較の目的は如何なる窒素質肥料の小麥作に適するやを知らんとするにあり供用品種はマーチンスアンバー種にして十月二日播種す其の方法及成績左の如し

一、方法

番 號	肥 料	用 量	補助肥料		用 量
			過 機 酸 石 灰	炭 酸 加 里	
一	無窒素	—	六、六六七 ^實	—	一、七六六 ^實
二	堆肥	二五八、六二〇 ^實	一、四九四	—	—
三	人糞尿	二六三、一五六	四、三七七	—	五、一八
四	大豆粕	一九、四八〇	五、三三六	—	一、一九〇
五	硫酸アンモニア	七、三二七	六、六六七	—	一、七六六
六	智利硝石	九、六七八	六、六六七	—	一、七六六
七	無肥料	—	—	—	—

備考 肥料の成分は窒素一貫五百、多磷酸一貫加里一貫とす
 二收 穫 量一反歩改算量

番 號	區 別	子 實 量	稈 量	一 升 重 量	收 量 比 例	前 年 收 量	平 均 收 量
一	無 窒 素	石、六六四	五、六〇〇	三五、 _タ	五、八	石、九八四	石、八三五
二	堆 肥	一、〇〇一	七三、〇〇〇	三五、 _タ	七五、九	一、七九〇	一、〇三三
三	人 糞 尿	一、〇九二	七六、〇〇〇	三五、 _タ	八二、七	—	—
四	大 豆 粕	一、〇八〇	一〇二、〇〇〇	三五、〇	八二、八	一、〇〇一	一、〇一八
五	硫酸アンモニア	一、三三〇	一〇三、 _タ 一〇〇	三五、 _タ	一〇〇、〇	一、三三四	一、三一九
六	智 利 硝 石	九八四	九六、〇〇〇	三三、 _タ	七四、五	一、〇三二	一、〇四一
七	無 肥 料	六六六	七三、 _タ 一〇〇	三五、 _タ	五〇、四	九六〇	七五三

右の成績に依るに硫酸アンモニア區第一位を占め人糞尿大豆粕堆肥之に次ぐ故に硫酸アンモニアは當地方麥作に對する窒素肥料中其の肥効の最も著しきものなること明かなり然れども朝鮮の如き有機質に缺乏せるの地にありては堆肥の如き有機質に富みたる肥料を施すこと地力保存に肝要なるべし

大・麥

大麥作に於ける耕種の梗概は大體に於て小麥に同じ但し前作は甜菜及蔬菜類にして三月二十七日之を播種せり

一品種比較

本比較の目的は西鮮地方に適すべき大麥の品種を選定せんとするにあり其の品種及成績收穫量一反歩改算量左の如し

品 種 名	子 實 量	稈 量	一 升 重 量	收 量 比 例	優 劣 比 較		前 年 收 量
					收 量 順	品 質 順	
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン	一、五九六 ^石	六二、二〇〇 ^石	二八五 ^匁	七、七	二	一	六二五 ^石
三 角 シ バ リ	八三四	四二、〇〇〇	三〇七	三七、九	五	四	七〇二
獨 逸 春 蒔	八九四	四二、〇〇〇	二七二	四〇、七	四	三	一、五六六
ハ ン ナ	一、二二六	四六、八〇〇	三〇三	五、四	三	五	八七一
六 角 シ バ リ	二、一九六	四三、二〇〇	二七九	一〇〇、〇	一	二	一、五四五

備考 右の外數種を試作せるも一回の成績に過ぎざるを以て發表を見合せたり
右表を見るに六角シバリは收量品質共に優良にして前年來の成績亦之に同じ故に本種を以て西鮮地方に適する良種なりと認むるを得べし

二、播種期比較

本比較の目的は大麥播種の適期を知らんとするにあり其の方法及成績一反歩改算量左の如し

番 號	播 種 期	子 實 量	稈 量	一 升 重 量	收 量 比 例

一	三月二十日	一、三三三	五八、二〇〇	三〇八 <small>分</small>	一〇〇、〇
二	三月二十五日	一、三三三	五四、〇〇〇	三〇五	九三、二
三	三月三十日	九三三	六四、二〇〇	三二	七〇、五
四	四月五日	六四六	六六、〇〇〇	二九三	四八、九

三月二十日播種したるもの其收量最も多く以下播種の後るゝに従ひて其收量を減ずること
 前年の成蹟と相一致す故に大麥の播種期は早きに利あること明かにして土地の融解を待ち
 て直ちに播種すること肝要なりとす

●高● 梁●

其の耕種梗概左の如し

土質 砂質壤土

前作 蘿蔔

整地 犁耕の後土塊を碎き均整す

播種 畦幅二尺五寸の條播とし發芽後適期數回間引をなし一本立約一尺五寸の距離となす

反當種子量を二升とし四月二十九日播種す

肥料 堆肥二五〇貫油粕一五貫過磷酸石灰五貫を播種の際施す

中耕 五月二十四日六月十七日の二回之を行ふ

除草 七月十日九月十六日の二回之を行ひ同時に除藁を兼ね

一、品種比較

本比較の目的は西鮮地方に適すべき高粱の品種を選定せんとするにあり供試品種及其の成績(一反歩改算量)左の如し

品 種	子 實 量	稈 量	一 升 重 量	收 量 比 例	前 年 收 量	四ヶ年 平均 收 量
モン トン シュ	一、八三三 ^石	二〇七、七〇〇 ^貫	三四〇 ^匁	四五、二	—	—
滿 州	二、七七六	四三三、〇〇〇	三三九	六八、九	一、〇五四五 ^石	一、八二三八 ^石
全 州 赤	二、三三四	二四六、〇〇〇	三六一	五七、五	一、三二七	一、六五七九
江 東	二、一一六	二四六、八〇〇	三四六	五三、五	一、二二六	一、七四六一
平 壤	三、〇九二	三九六、〇〇〇	三四四	七六、八	一、二七一	一、七九一〇
咸 興	二、〇一六	二六四、〇〇〇	三五五	五〇、〇	一、三七一〇	—
水 原	二、三二六	二九、四〇〇〇	三四三	五七、五	一、二四二五	一、七〇四三

備考 右の外數種を試作せるも一回の成績に過ぎざるを以て發表を見合せたり
 前表を通覽するに本年の成績は平壤第一位を占め滿州之に次ぎ前年の成績は咸興第一位を占め全州赤平壤之に次がり而して四ヶ年平均收量の最も多きは滿州にして平壤之に次ぐ故に滿州平壤等は當地方に適する品種たるものゝ如し

大● 豆●

其の耕種梗概左の如し

土質 砂質壤土

前作 休閒

整地 播種前一回犁耕を行ひ能く土塊を碎き牛糞にて均整す

播種 畦幅二尺株間八寸の距離に三粒づゝ點播を行ひ後間引きて二本立となす一反歩の種

子量は大粒五升小粒四升五合とし五月十六日播種す

肥料 過磷酸石灰五貫木灰一五貫を播種の際施す

中耕 六月十八日七月九日の二回之を行ひ除草は其の都度兼ね行ふ

一、品種比較

本比較の目的は西鮮に適すべき大豆の品種を選定せんとするにあり

供試品種及其の成績(一反歩改算量)左の如し

品種	特		徴		子質量	稈量	一升一粒數	一升重量	收量比例	前年收量	累年平均均收量	優劣比較	
	花色	粒形	色澤	臍着色								品質順	收量順
會津	淡紫紅	小	黄色光澤あり	濃茶	一、八七五 ^石	一三、〇〇〇 ^貫	四、四五〇 ^粒	三五五 ^匁	七二、三	八〇、〇 ^石	一、三〇三 ^石	八	四
江東	淡紫紅	小	同	なし	一、二二〇〇	六三、〇〇〇	五、六〇〇	三六〇	四七、四	六七、五	一、三八一 ^石	五	八
赤殻	薄紅	小	帶白黄色光澤あり	暗色	一、二五〇〇	八五、〇〇〇	五、一五〇	三五九	四八、二	六〇、二五	一、三三八 ^石	七	七
平壤	同	小	黄色光澤あり	なし	一、七五〇	七五、〇〇〇	五、六〇〇	三六〇	六六、八	六三、〇〇	一、一八四〇 ^石	二	五

達磨	白	小同	紫褐	二、三、五〇〇	二、五、〇〇〇	七、〇〇〇	三六一	九〇、五一一、二五〇	三、三二五	六	二
谷起	紫	小同	灰褐	二、二、〇〇〇	九、五、〇〇〇	五、一五〇	三五〇	八五、二八五、九五	一、五二七六	一	三
北海道	白	小同	同	一、三、四〇〇	一、四、一五〇	五、〇五〇	三五九	五二、六一、〇四五	一、三〇九六	三	六
滿州	同	小同	淡褐	二、五、五〇〇	九、五、〇〇〇	六、四八〇	三五四	一〇〇、〇一、二七四	一、五五九	四	一
										四ヶ年	一、五五九

備考 右の外十數種を試作せるも一回の成績に過ぎざるを以て發表を見合せたり

本年の成績は收量に於て滿州第一を占め達磨谷起順次之に次ぎ品質の最も優秀なるは谷起にして平壤之に次ぎ前年成績良好なりしもの滿州にして達磨北海道及谷起之れに次ぎ而して四ヶ年繼續平均收量の最も多きは滿州にして谷起之に次ぎ達磨北海道會津は第三位を示せり故に滿州谷起達磨の三種は西鮮地方に適すべき有望種と認むるを得べし

以上記述せるは數年繼續試作の結果成績確實なりと認むべきものにして他に本年度施行せる比較栽培尠なからず其の成績は未だ確實なりと認むる能はざるも左に稍確實なりと認むるを得べき事項を摘叙し他日の参考に資せんとす其の詳細は繼續試作の上更に報告せんとす

品種に關する事項

稻● 從來比較栽培を行ひ來りたる品種の外に各地より取寄せたる十五種を栽培せるにタコペー、ダイコンシネの收穫佳良なるを認めたり然れども從來好成绩を示したる日の出、八頭等の良種に優る能はざるなり

小麥 從來比較栽培を行ひ來りたる品種の外に各地より取寄せたる二十一種を栽培せるに白坊主、白皮の兩種收量稍多きを認めたり然れども從來良種と認めたる海州、ヌルミリ等に基づ故に未だ獎勵の價値ありとなす能はず

大麥 從來比較栽培を行ひ來りたる品種の外に本年新たに六種を試作せるに關取、鏡城の兩種は收量頗る多きを認めたり然れども六角シユバリエーに比すれば收量品質共に劣れり

稈麥 コピンカタギ及平壤の兩種に就き比較栽培を行ひたるにコピンカタギは收量に於ては平壤種に勝れりと云ふ能はざるも品質に於ては頗る優良なるを示せり

燕麥 寧邊、レースホース、ブラツクキング、ナイヤガラの四種につき比較せるに收量の多かりしは「ナイヤガラ」にして「レースホース」之に次がり而して「ナイヤガラ」の收量は一反歩當三石三升九合に及べり故に有望種たるべきの見込ありとす

陸稻 本年試作せる陸稻十三種中淺賀、金光坊、尾張糯、龍川の四種は收穫多きを示せり而して淺賀は從來試作の成績に徴するに收量品質共に優良なり而して本年に於ける粃收量は四石二斗の多きを示せりされば本種は有望の品種として認むべき價値あるものゝ如し

粟 平壤附近の重なる品種と各地より得たる品種とを合し二十六種に就き比較栽培を行へるに收量の最も多かりしは「ツチユンダリ」にして實に一反歩當四石四斗以上に上り「オーチヨ」陽徳の兩種之に次がり此の三種は將來有望種たるべき見込ありとす

高粱 從來比較栽培を行ひ來りたる品種の外に本年新たに六種を試作せるに芝罘種は甚優良なる成績を示し子實收量四石以上に達し從來試作せる品種中優良なりと認められたる滿

州平壤等は之に對して遜色あるものゝ如し

大豆 從來比較栽培を行ひ來りたる品種の外に十二種を試作せるに瀧谷大豆は其の收量二石以上に達し滿州達摩谷起等に比すれば多少遜色あるも一良種たるを失はず

小豆 在來種内地種を合し十二種を試作せるに大納言は收量品質共に優良にして劍先之に次ぎ在來種中には良種を認めざりき

馬鈴薯 七品種を試作し其の優劣を比較せるに收量の多きは長崎亦にして此の種は適良種たるを失はざるものゝ如し

甘藷 元氣種を栽培せるに前年本年共に三百貫以上の藷を生産せり故に當地方亦甘藷作に望なきにあらざるが如し

耕種栽培に關する事項

小麥在來肥料と當場肥料との効力比較 當地方農民は麥作に對しては甚多量に施肥するの慣例あり而して其肥料は一反歩當堆肥四百五十貫内外を普通とす此の肥料と當場の標準肥料たる一反歩當堆肥二百五十貫、人糞百貫、過燐酸石灰五貫、炭酸加里二貫との肥効を比較したるに在來肥料區は其の收量遙かに當場肥料區に及ばざるを認めたり

小麥播種期比較 小麥播種の適期を知らん爲め九月十六日、九月二十六日、十月六日、十月十六日の四回に播種せるに九月二十六日播のもの收量最も多く且子實の充實良しきを認めこれより早きは莖葉徒長して軟弱となり寒傷を受くること甚だしく遅るれば幼弱にして亦害を被ること大なりき故に當地方にては九月下旬に播種するを適當なりとなすものゝ如し

陸●稻●播●種●期●比●較● 陸稻播種の適期を知らん爲め四月二十六日、五月六日、五月十六日、五月二十六日の四回に播種せるに五月十六日播のもの收量最も多く五月六日播之に次ぎ四月二十一日播最も劣れり然れども四月二十六日播及五月六日播の成績不良なりしは播種當時氣候甚だしく乾燥せし結果と認むるを以て五月中旬を以て最適と斷定する能はず

粟●畦●幅●狭●比●較● 畦幅の粟收量に及ぼす關係を知らん爲め一尺、一尺五寸、二尺、二尺五寸の四區を設け收量を比較せるに一尺區のもの最も多く一尺五寸區之に次ぎ二尺區及二尺五寸區更に之に次ぐ故に單に收量の多少より言へば畦幅は狭きに利あるものゝ如し

大●豆●播●種●法●比●較● 大豆株間距離及一株本數の適否を知らん爲め條播及點播を行ひ點播の株間距離は七寸、八寸、九寸、一尺の四種とし且之を一本立、二本立、三本立の三様となし收量を比較せるに條播區の收量最も多く點播區中には株間距離の大小に係はらず一本立は常に成績不良にして三本立は概して佳良なりき而して三本立中收量多かりしは株間距離一尺のものなりき

龍山支場

技師 宮原忠正

蠶室里桑園

一部は桑苗圃にして一部は養蠶用桑園なり而して養蠶用桑園は原蠶種製造用蠶兒の飼育に用ひたる桑葉を採收せしに止まるを以て左に桑苗圃の成績のみを記述せん

桑苗親木圃成績

本圃の桑樹は明治四十二年及同四十三年の栽植に係り本年に於ける管理の方法は前年に異ならざるも前年七月浸水の結果として成分の枯損せるものあると衰弱の爲め枝條の發生數を減じたるものあるとにより採苗の成績佳良なる能はざりき今其の成績を示せば左の如し

樹齡	時 壓	條			面積	
		對一反歩人夫	對一株壓條數	對一反歩苗生産數		
市平 四年生	自四月廿六日 至六月廿二日	三回	九、九	一四	八、四〇〇	一、四六五
市平 五年生	同	同	九、九	一九	一一、四〇〇	四、三四三
魯桑 四年生	同	同	九、九	八	四、八〇〇	五、八一七

備考 各區とも親木栽植距離は畦幅四尺五寸株間四尺なり

除草は五月七日同二十四日、六月十一日、七月十日、八月五日の五回之を行ふ

土地肥沃なるを以て五年生市平の一部瘠薄なる砂質土壤に對し壓條の際一反歩に付堆肥六百貫を施せるのみ

代出桑苗圃成績

代出桑苗圃の成績左の如し

市平	植付苗數		裁 別		畦幅	株間
	代出苗	同上二年生	反	時 期		
二〇四、七〇〇 _本	二四、二九五 _本	計	町反歩市	自三月廿三日 至四月廿四日	一、八、〇〇〇 _本	一、五 _尺
						〇、四 _尺

魯桑	二六〇、二八八	四六、一八四	三〇六、四七三	二、一四三	同	一四、五〇〇	同	〇、五
島ノ内	—	三三、二二五	三三、二二五	〇、〇七三	同	八、〇〇〇	同	〇、四
計	四六四、九八八	七三、五四四	五八、五八三	三、四五〇七	—	—	—	—

整芽及覆土は五月十二日及同二十五日の二回之を行ひ除草は六月十四日七月十二日及八月六日の三回之を行ひ剪枝は六月二十四日及八月九日の二回に之を行へり

肥料は肥沃なる壤土にありては堆肥五百貫を瘠薄なる砂土にありては堆肥五百貫及大豆粕十貫乃至二十貫を基肥として施し又瘠薄なる砂土には發育不良なる株に補肥として八月九日硫酸アンモニアを一反歩に就き一貫四十匁乃至一貫八百匁の割合にて水に稀釋せるものを施せり

栽植後の天候は順を得て苗の發育極めて良好なりしも八月十九日漢江氾濫して桑圃の一部浸水せり然れども浸水深からざりしと其の時間の短かゝりしとにより幸に被害輕微なるを得たり然れども八月中旬より九月中旬に亘り旱害を被り發育遲滞し其の被害尠ならず其の甚だしきに至りては九月中旬葉色黄變し梢端數葉を留めて盡く落葉せるものあり従て其の活着歩合佳良なる能はざりき

木浦支場

棉作

技師 三原新三

氣象

本年棉作期間に於ける氣象は生育の初期及開絮盛期に於て降雨稍過量なりし外概して適順なりき即ち五六月なる生育の初期中降雨多きに係はらず氣温高く日照時數多く七月は氣温の上昇捗々しからず日照時數極めて少なかりしも其の後快晴の日多く氣温も亦著しく上昇し極めて適順なる天候を持続せり十月中旬稍多量の降雨あり十一月三日に初霜を見たるも殆んど被害を認めず
今棉作期間に於ける各月の氣象を左に表示す

氣象	月次	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
平均氣温 (攝氏)		一五、四	二〇、〇	二三、八	二五、六	二〇、七	二六、〇	九、三
日照時間 (時)		二七、四	六、四	二〇、四	二七、三	三三、五	二四、一	一六、一
蒸發量 (耗)		一三、二	九、五	一四、五	一七、九	一四、〇	一一、七	七、三
降水量 (耗)		九、七	二〇、四	八、七	五、一	五、六	五、一	三、四
降雨日數 (日)		九、〇	一五、〇	一一、〇	七、〇	七、〇	六、〇	一〇、〇

備考 本表は木浦測候所の觀測に據る

作況

播種に際し土壤中濕氣豊かなりしに加へ播種後數回の降雨ありて陸地棉在來棉共に發芽頗る良好にして其の後の生育亦佳良草丈伸長例年に優り作柄頗る良好なりき七月は曇天多く

氣温低かりし爲め多少發育の支障を興へたるが如きも八月には快晴の日多く氣温亦著しく上昇し發育佳良却て稍其度に過ぎたるの感ありき従て陸地棉は前年に比し開花始は六日開絮始は十一日遅るゝに至れり即陸地棉は七月三十一日に在來棉は七月二十五日に何れも開花を始め前者は八月下旬に後者は八月中旬に盛花期に入り陸地棉は九月十五日在來棉は九月一日に開絮始を見たり九月は天候概して適順日照時數多く且十月に於ける氣温の降下も頗る緩温なりしかば開絮の狀況は頗る佳良なりき只十月中旬稍多量の降雨ありし爲め汚棉を生じたるも其被害輕微なりき

左に平均收量を表示す

供試種類

反當收量

輸入年度別キングスインブルード七種平均

二四九・八斤

在來棉 二十七種平均

二〇〇・二

病・蟲・害

炭疽病 五月下旬發生し子葉其の害を被れり而して其後に於ける多雨濕潤の天候は之か蔓延を促すの虞ありしも苗の生長旺盛なりしを以て被害大なるに至らず八月中下旬には幼葉の本病に犯さるゝもの稍多く被害葉は健全葉に先ち病的開絮を來し汚棉を生ぜり其後開絮期を通じて常に多少本病の被害ありき

蚜蟲 五月下旬頃點々發生したるも降雨屢々到り苗の生長著しかりしを以て被害輕微なり

赤壁蝨 八月下旬頃點々被害を發見し寡雨乾燥なる天候の下に次第に蔓延せるも棉莖老熟後なりしかば被害輕微なりき

棉赤實蝨 七月中旬頃成蟲發生し盛に産卵を開始し孵化せる幼蟲は先づ花蕾を犯して緊要器官部を蝕害し幼莖に侵入せるものは種子の内容を犯し九月上旬後其の多くは完全に發育せり被害莖は汚棉を生ずるの外種子を傷ひ被害輕視すべからざるものありき

所管地に於ける新輸入陸地棉種子馴化事業

本年も陸地棉キングスイムブルード種の種子を原産地米國より輸入し全羅南道珍島郡府内面同海南郡門内面木浦府二老面に於ける所管地に於て場員の指導監督の下に之を小作せしめ其の生産實棉は朝鮮棉業株式會社をして繰棉せしめ以て種子の散逸を防ぎ所要各道に配布するの用に供す本年の成績次の如し

所管地所在地	所管地面積	本年度棉作反別	本年度産馴化種子量
木浦府二老面	八六、二〇七 <small>反</small>	五〇、〇〇〇 <small>反</small>	五、八五〇 <small>斤</small>
海南郡門内面	一五五、三四	九四、七二	一一〇八一
珍島郡府内面	一七七、九九	九〇、六一	一〇、〇〇〇
合計	四一九、五二〇	二三五、三二	二七、五二

各道生産陸地棉販路紹介及價格通知

朝鮮に於ける陸地棉は其生産額の増加に伴ひ繰棉業者各地に勃興し各道共に其販路に苦しまざるに至れり即慶尙南北道は釜山鎮田中善支店繰綿工場を、忠清北道は永同朝鮮物産株式會社を、全羅北道は群山藤本合資會社を各指定して買受人たらしめたり其指定に先ち當支場は各道と各指定商人との間に立ちて其契約に斡旋し又各道に於ける賣買價格は皆全羅南道の指定價格に準據することとなりたるを以て當場は木浦に於ける棉相場の變動を各道に通知するの勞に任したり

蠶 島 支 場

技 師 久 次 米 邦 藏

果 樹

昨年七月に於ける漢江氾濫の爲め各種果樹の發育を害し又花芽の腐敗せるもの夥しく加ふるに冬期の嚴寒最極度は零下二十八度に下降せりにより葡萄、苹果、桃李類の果枝花芽の枯死するもの極めて多きを以て春季以來發育不良にして其の勢力例年に比し著しく劣りしかば其の成績も亦豫期に副ふこと能はざるに至れり今主要なる果樹に就き成績の概要を述べれば左の如し

●● 苹果 水害と寒傷を蒙りたるを以て豫期の成績を得ずと雖他の果樹に比すれば比較的良好に經過しつゝありしが八九月頃に至り褐斑病の發生するあり不時の落葉を來し落果するもの多かりき殊に紅玉は其の害最も強く柳玉、鳳凰、卵蝦夷衣之れに次げり思ふに春季氣候の比較的濕潤なりしと昨年浸水の餘弊を享け土壤の乾燥甚だ不良にして發育を害したるもの發

病の誘因をなせるもの、如し故に實收は豫期の減收より一層減少するの止むを得ざるに出
でたり而して種類試験區に於て各種五本に就き其の結果狀況を調査せるに四十年に一年苗
を植付たる倭錦は一樹最多結實五百五十三個平均一樹收果三百八十二個紅綾は最多三百七
十四個平均二百十三個紅玉は最多三百三十個平均二百三個にして四十二年に一年苗を植付
けたる紅魁は最多二百二十三個平均百五十五個祝は最多二百個平均百四十一個なりき而し
て同年植付模範栽培倭錦四十二本に於ける平均一樹の收果二百五十五個なりき

梨● 水害の爲め一般に花芽の枯死を招きたり西洋梨は其の害殊に強く且つ細根の腐敗した
る爲め發育不良となりしのみならず腐爛病の侵す所となり枝梢の枯死するもの亦尠からざ
りき就中「ビーバリー」「シードロンデガロム」「ラフランス」「スーセットデバビエ」最も慘狀を呈せ
り而して此等被害樹には濃厚なる石灰乳を塗抹し防遏に努めたりしを以て結果數は一般に
著しく減せり種類試験區に於ける各種五本の成績を見るに四十年に一年苗を植付けたる今
村秋梨は一樹結果數最多六百三十四個平均百六十七個泰平は最多五百八十九個平均百九十
一個長十郎は最多三百八十八個平均百七十八個又同齡洋梨「ローレンス」は最多五百三十一個
平均三百四十二個「ホワイトデエンチ」は最多三百二十九個平均三百二個「セツケル」は最多三百
九個平均百六十四個なりき

葡萄● 水害の爲め發育を害せられたること尠からず加ふに寒傷慘狀を極め四十年以來覆土
防寒なくして能く越年せる米國種「レデーワシントン」の如きも殆んど全部枯死し「トライアン
プ」「キャンベルスアーリー」「ブライイトン」の如きも瀕死の状態に陥れり従つて歐洲種の如きは覆

士防寒を行ひたるも寒傷甚しく枯死せざるものと雖も發芽不揃ひを來せり故に葡萄は樹齡既に盛域に達せるに係はらず豫期の成績を得るに至らざりき今其主なるものに付一反歩收量を示せば生食用種にありては「トイケーオーゲーション」二百貫七百七十二匁を最多とし「グロイコルマン」百八十四貫二百七十五匁「ヴェルデルホ」百七十八貫五百六十匁順次之に次ぎ醸造用種にありては「ポルドーノアール」三百四貫二百匁を最多とし「メルロー」二百九十九貫五百二十匁「ビノーノアール」二百八十貫八百匁「マタロー」二百六十七貫三百匁「ヨハニスベルグリー」スリング」二百五十七貫「デンフアンデル」二百五十二貫七百二十匁「ビノーブラン」二百二十八貫八百匁「ワキツセルスタインシルレル」二百二十七貫七百匁等順次之に亞げり

桃。寒傷の爲め花芽の全部殆んど凍死し五月上旬に至り枝梢に少數の開花を見たるも結實するもの少く四十年に於て一年苗を植付けたる上海水蜜桃の平均一樹の收果二十三個にして同齡「サルウエー」は平均十三個に過ぎざりき

杏。浸水の爲め花芽の腐敗するもの夥しく且寒傷の爲め枝梢の枯死するもの多くして開花結實するもの極めて尠く殊に山田米桃の如きは幹の枯死するもの多く株によりては殆んど半死の状態となれり就中「ウイックウオースインペラトリス」の五株平均收果數僅かに四百三十三個にして前年の六割八分作を最良とし毎年豊産なりし寺田巴且杏の如きも僅かに百零三個に過ぎず

杏。昨年浸水の爲め非常に衰弱を來たし殆んど結果せず

蔬 菜

馬鈴薯 四月十五日下種し「スローンレーキ」「ノーザンスター」の二種は發芽稍遅延したるも其他は一般に良好にして順當なる發育を遂げ成績極めて佳良なりき一反歩收量は「ニュークキン」の九百九貫餘を最多とし「レビースローズ」「ルーラルニューヨーカー」の兩種之に次ぎ共に八百三十貫餘に達せり而して品質最優良なるも收量の極めて少き「ミヨットアスリーフキドニー」も三百四十餘貫を産せり要するに前年に比すれば何れも好成績を得たり

甘藷 四月二日下種し同十一日より十六日に亘り發芽し五月十六日より同二十六日に迄に順次挿植を行ひ八月六日及同三十日の二回に蔓返を行ひたり而して本年は充實期に至り乾燥甚だしく土地固結せしかば根は深く地中に入り塊根の肥大を妨げたるを以て採收に困難を感じたるのみならず前年に比し一般に收量を減せり即ち一反歩の收量は四十日の九百六十八貫を最多とし二十日元氣種等順次之に次げり

薯蕷 五月四日下種し十月二十四日收穫せり一反歩の收量伊勢「イチヨ」薯の三百五十二貫五百匁最大一個重量百二十五匁を最多とし兵庫薯の二百六十七貫八百四十匁最大一個重量百二十匁之に次ぎ平年作を得たり

胡蘿蔔 五月八日に條播し六月四日同十八日及八月二日の三回に間引を行ひ九月五日より十月二十九日に亘り收穫を行ひたり一反歩收量「サットンスアーリーゼム」九百九十七貫八百匁を最多とし三寸札幌大長の六百五十貫餘之に次ぎ札幌太「サットンスチャピンオンスカールットホーン」の四百餘貫最も劣れりと雖も前年に比すれば何れも成績佳良なり

牛蒡 四月十九日下種五月十四日及六月三日の二回に間引を行ひ十月二十六日より十一月

四日に亘り收穫せり成蹟は極めて佳良にして一反歩の收量梅田の千三百八十九貫九百九十九匁を最多とし東京赤莖七百九十七貫四百九十匁之に次ぎ札幌の七百七十三貫四百九十匁最も劣れり梅田種の如きは一本重量四百匁以上のもの少からず

蘿荷 聖護院は七月二十日練馬は同二十九日宮重は同三十一日下種せり發芽は何れも良好にして其後の發育も旺盛なりしが八月下旬より九月に亘り乾燥甚だしく爲に發育衰へたるに際し蚜蟲發生して生育不良となり一反歩收量聖護院の七百九十九貫餘を最良とし練馬宮重順次之に次ぎ甚だしき不成蹟を來せり

リキ 四月八日冷床に下種し六月二十一日日本田に移植し十一月二十二日收穫せり一反歩收量「モンストロ」ズカラランター」の八百五十二貫を最多とし「リオネスト」サットンズブライステーカー」順次之に次がり而して「リオネスト」及び「モンストロ」ズカラランター」は二十株に付平均白莖長何れも九寸に達し「サットンズブライステーカー」の最大一本重量百二十匁に達し何れも好成績を得たり

葱 四月八日冷床に下種し六月二十日本田に移植せり移植後の發育良好にして旺盛なりしが八九月の乾燥は一時莖葉の發育をして遅緩ならしめたり然れども根深種は漸次恢復して豫期の成績を擧ぐる事を得たり一反歩の收量根深種の九百貫二十株に付平均白莖長一尺三寸五分最大一本重量百九十二匁を最良とし下仁田の三百二十二貫之に次がり

セルリー 四月八日冷床に下種し六月二十六日本田に移植を行ひ十月二十七日收穫せり一反歩收量は「サットンズホワイトゼム」の二千六十一貫餘第一位を占め「シユパーピンク」ホワ

イトブルームの一千貫餘之に次ぎ、ゴールドデンセルフブランディング亦八百八貫四百餘にし
て殆んど稀有の好成績を得たり

支那白菜 七月二十五日點播し發芽後の發育佳良なりしが八九月の乾燥に際し蚜蟲發生し

稍衰頽を來せるを以て極力之が驅除に努め又灌水を臨機に行ひたるを以て漸く勢力を恢復
し一反歩收量千六百餘貫に達し最大一株一貫五百餘のもの少からず

甘藍 種子到着の都合により三月六日より四月七日に亘り溫床に下種し苗の發育するに従
ひ五月三日より同二十九日に順次本畑に移植を行ひ七月六日より八月二十一日迄に收穫せ
り一反歩の收量は「バンダゴ」の三千百十一貫餘第一位を占め「サットンスオールハート」「サツ
トンステンダーアンドツル」之に次ぎ「サットンスドラムヘット」「レットダッチ」六百貫餘最も
劣れり而して「サクセツション」は八百六十七貫にして一株の重量一貫五百餘以上のもの少か
らず

元山出張所

果 樹

技 手 小 森 園 清 治

果樹には模範栽培區と品種比較區とを設け模範栽培區は有望と認むべき品種を比較的廣き
面積に栽培して栽培方法を示すを目的とし其の既に栽培せるは苹果にありては紅玉(千二百
歩)柳玉(百六十歩)倭錦(五百三十歩)鳳凰卵(六百四十歩)國光(三百歩)祝(百八十歩)の六種にして梨に
ありては「バートレット」(六百歩)「ビーバリー」(六百歩)「ドワイアネド」(二百歩)「晚三吉」(二百六十

歩)の七種桃にありては上海水蜜桃(百六十歩)離核水蜜桃(四十歩)「サルウエー」(百六十歩)の三種、葡萄にありては「ブラツグ」ハンプルグ「三百坪」マスカット、ハンプルグ「三百歩」の二種なりとす而して本年生育の佳良なりしは苹果紅玉種梨晚三吉種「ビーバリー」種桃「サルウエー」種なりき品種比較區は内外各地の優良品種を集めて試作し當地方に適するや否を試みんとするにあり而して本年中植栽したる品種名は左の如し

苹
果

紅玉 柳玉 倭錦 鳳凰卵 國光 旭 祝 「アレキサンドラ」 「クーパー」 「スアーリー」

梨

「ビーバリー」 「バートレット」 「ウキンター」 「バートレット」 「ドワイアネド」 「コムス」 「ローレンス」 「ラフランス」 「フレミツシユ」 「ビュチイ」 「ヴールヂツファイル」 「ヂェンネ」 「ダレンコン」 「ロスネー」 「晚三吉」 今村秋 泰平 太白 明月 早生赤 長十郎

櫻
桃

「エルトン」 「エロー」 「スバニツシユ」 「ガハーナー」 「ウード」

蔬 菜

當出張所にては本年諸種の蔬菜を栽培したりと雖僅に一回の試作に過ぎざるを以て其の適否を斷定すること能はず故に唯其の成績の概要を記述し他日の参考に資せんとす

甘藍 「サクセツシヨン」 「バンダーゴ」 「ラージ」 「レッド」 「ドラムヘッド」 「ラプトン」 「チンダー」 「エンド」 「ツル」 の五種に就き品種比較を行へり而して收量の最多なりしは「ラプトン」 「一反歩改算量千七

百九十九貫餘)にして「サクセツション」(一反歩改算量千四百八十二貫餘)之に次ぎ其の他は收量大に劣れり

白菜 芝罘、直隸、開城の三種に就き品種比較を行ひたるに收量の最多なりしは直隸(一反歩改算量七百八十八貫餘)にして芝罘(一反歩改算量六百六十六貫餘)之に次ぎ開城(一反歩改算量五百四十貫餘)最も劣れり

葱頭 白、黄、赤の三品種に就き品種比較を行ひたるに白葱頭は收量一反歩改算量二百七十二貫餘)多く品質亦優良なりと雖貯藏に耐へざるの失あり黄葱頭は白葱頭に比し收量一反歩改算量百九十九貫餘)及品質共に劣れども能く貯藏に耐ゆるを以て市場の需用多きを認めたり而して赤葱頭は收量一反歩改算量百八十貫餘)最も劣れりとす

馬鈴薯 「アールービユチーオブヘブロン」グリーン、マウンテンシカゴマーケット]及「スノーフレキ」の三種に就き品種比較を行ひたり各區の收量一反歩改算量は「アールービユチー、オブヘブロン」五百六十八貫餘)「スノーフレキ」五百三貫餘)グリーンマウンテン、シカゴマーケット]四百六十八貫餘)なりき

蘿蔔 聖護院、宮重、方領、練馬、尻留、練馬尻長の五種に就き收量(一反歩改算量)と比較せるに練馬尻留最多(二千二百三十六貫餘)にして宮重(千七百五十五貫餘)及練馬尻長(千六百八十二貫餘)之に次ぎ聖護院(千四百五十九貫餘)及方領(千三百四十七貫餘)は大に劣れり
又別に聖護院、練馬尻留の兩種を用ひて播種期比較を行ひたるに各區の收量左の如し

一反歩改算收量

七月廿六日播	聖護院	一、五三〇、七二二
練馬尻留	聖護院	一、八二五、三〇〇
八月一日播	聖護院	一、八八五、八四二
練馬尻留	聖護院	一、九〇四、八一八
八月五日播	聖護院	一、八四七、八九一
練馬尻留	聖護院	一、五五六、〇二四
八月十日播	聖護院	一、七七四、六九八
練馬尻留	聖護院	一、五〇九、九三九
八月十五日播	聖護院	一、五六五、〇六〇
練馬尻留	聖護院	一、二九七、五九〇
八月二十日播	聖護院	一、一六〇、二四〇
練馬尻留	聖護院	一、〇二一、〇八四

七月二十六日播は腐敗病に罹りたるもの多かりしを以て收量を減じたるも其他は播種期の早き程收量多かりき然れども練馬尻留は播種期早きに過ぐるときは過大となりて漬物用に適せざるを以て八月十日前後を適期となすものゝ如し

蕪菁 聖護院、天王寺、近江の三種に就き收量一反歩改算量を比較せるに天王寺(五百七十九貫餘)最多にして近江(五百五十一貫餘)之に次ぎ聖護院(三百四十四貫餘)最も劣れり

胡蘿荷。東京大長、札幌大長、札幌太の三種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに札幌太(四百八十四貫餘)最多にして東京大長(四百三十八貫)之に次ぎ札幌大長(三百八十四貫)最も劣れり
 牛蒡。砂川、梅田、東京、赤莖、札幌、白長の四種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに梅田(五百三十四貫)最多にして砂川(五百十三貫餘)、札幌、白長(四百四十四貫餘)順次之に亞ぎ東京、赤莖(三百六十八貫餘)最も劣れり
 西瓜。「アイスクリーム」「マウンテンスキート」黒皮の三種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに黒皮(九百四十五個)此重量五百七貫餘最多にして他の二種は稍之れに劣り「アイスクリーム」は個數五百八十五、此重量四百二十二貫餘「マウンテンスキート」は個數六百七十五個、此重量四百二十貫餘なりき
 甜瓜。梨甜瓜、銀甜瓜の兩種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに梨甜瓜は(二千九百七十六個)此重量四百二貫餘、銀甜瓜は三千二百七十個、此重量三百八十貫餘なりき
 南瓜。縮緬、西京、三毛門、内藤「ハッパード」の五種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに縮緬(八百三十四貫餘)最多にして三毛門(六百四十八貫餘)及内藤(六百五十三貫餘)之に次ぎ「ハッパード」(六百七貫餘)更に之れに次ぎ西京(二百七十一貫餘)最も劣れり
 胡瓜。晩生青大、清國三尺、三枚目節成の三種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに三枚目節成(四百七十一貫餘)最多にして清國青大(四百五十三貫餘)之に次ぎ清國三尺(二百十九貫餘)最も劣れり
 茄子。晩生山茄、早生蔓細千成、清國大長、佐土原長、米國大茄の五種に就き收量(一反歩改算量)を比較せるに米國大茄(千三十六貫餘)最多にして晩生山茄(八百九貫餘)之に次ぎ佐土原長(六百六

十七貫餘更に之に次ぎ清國大長(六百四貫餘)及早生蔓細千成(五百九十三貫餘)最も劣れり
 蕃茄「エローブラム」ミカド」ボンテローザ」の三種に就き收量(一反歩改算量)と比較せるに「ミカ
 ド」八百八十八貫餘最多にして「エローブラム」七百三十貫餘之に次ぎ「ボンテローザ」最も劣れり
 葱及リーキ 東京根深太葱、札幌太葱、及リーキ「ブライステーカー」の三種に就き收量(一反歩改
 算量)を比較せるに「ブライステーカー」(四百七十三貫餘)最多にして東京根深太葱(三百八十二貫
 餘)之に次ぎ札幌太葱(二百六十二貫餘)最も劣れり
 里芋 土垂及九面の兩種の收量(一反歩改算量)を比較するに前者は三百五十一貫餘、後者は百
 五十一貫餘なりき
 セルリー「サットン」スサルハム「ブライス」サットン「ホワイトゼム」及「ホワイトブルーム」に就
 き收量(一反歩改算量)を比較せるに「ホワイトゼム」(九百五十三貫餘)最多にして「ホワイトブル
 ム」(六百十五貫餘)之に次ぎ「サルハム」(五百八十二貫餘)最も劣れり
 甘藷 挿植の適期を知らんが爲めに挿植期比較を行へり供試品種は元氣種にして挿植の方
 法は船底植なりとす而して收量(一反歩改算量)は挿植期の早き程大なるを示したり即ち左の
 如し

五月二十五日植	三九〇、七六九 ^貫
六月四日植	三五〇、七四四
六月十一日植	三四二、八五七
六月二十一日植	三二三、八二〇
六月二十五日植	三〇八、三二三

大正三年三月二十日印刷

大正三年三月廿五日發行

(非賣品)

朝鮮總督府勸業模範場

(朝鮮京畿道水原)

京城旭町二丁目百十四番戶

印刷者 宗 像 い つ

京城旭町二丁目百十四番戶

印刷所 京城印刷所